

静岡県 富士市

富士市内遺跡発掘調査報告書

—令和5年度—

2025年3月

富士市教育委員会

例　　言

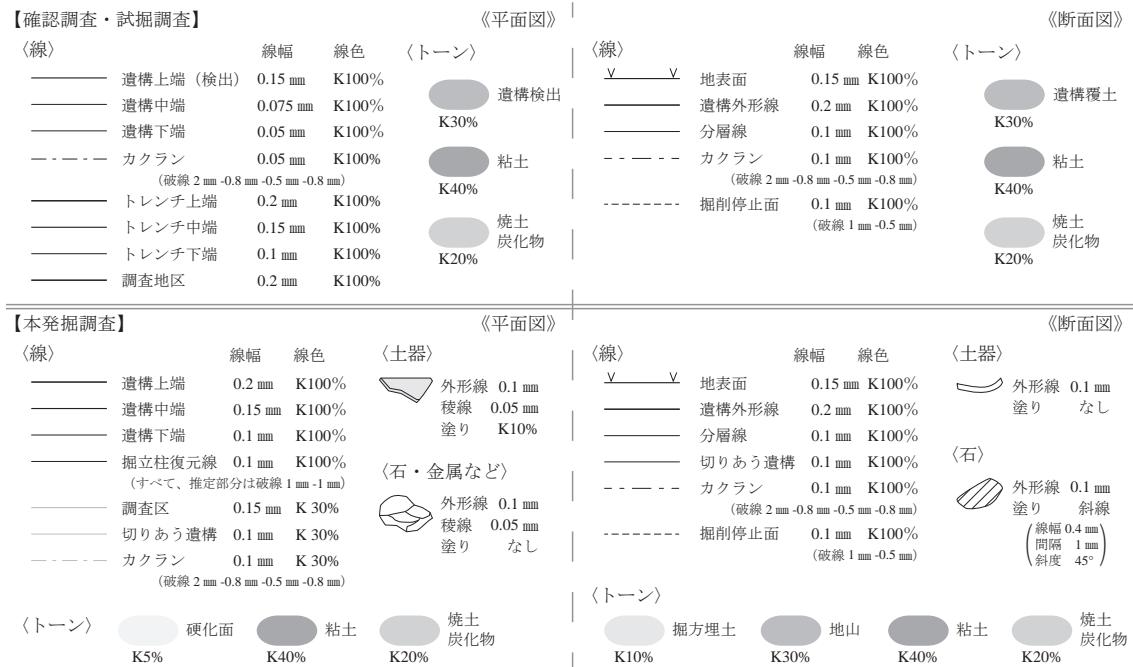
- 1 本書は、富士市教育委員会が令和5年度に静岡県富士市内において実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
ただし、一部には令和5年度以前に実施された天間沢遺跡の調査成果の報告も含んでいる。
- 2 令和5年度の発掘調査は、富士市教育委員会教育長を主体者として実施し、実務は富士市教育委員会文化財課職員がこれにあたった。調査体制、担当者は第1章第1節に譲る。
令和5年度の調査の一部は『国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金』及び『静岡県文化財保存費補助金』を得て実施した。
- 3 本書の編集は、佐藤祐樹（富士市教育委員会文化財課主幹）による。第1章は調査を担当した佐藤・藤村　翔（富士市教育委員会文化財課主査）による調査所見をもとに佐藤・若林美希（富士市教育委員会文化財課文化財調査員）、第2章は第1節および第2～8節の遺物部分を笛原芳郎（富士市教育委員会文化財課文化財調査員）、第2～8節の遺構部分を若林が執筆した。
第3章は村井咲月氏（南山大学大学院人間文化研究科修士課程）から玉稿を賜った。
- 4 令和5年度の現地調査における記録写真は佐藤、藤村が撮影した。天間沢遺跡の記録写真は各調査担当者による。
整理作業における遺物写真は佐藤が撮影した。第3章の遺物写真は村井氏による。
- 5 本書の作成にあたり、多くの皆様からの御指導、御協力を賜りました。記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）
池谷初恵　　上峯篤史　　滝沢　誠　　若狭　徹
- 6 本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会（富士市埋蔵文化財調査室・富士市伝法79-2）で保管している。今後、富士山かぐや姫ミュージアム（富士市立博物館・富士市伝法66-2）に移管する予定である。



静岡県富士市の位置

凡 例

- 1 本書で示す座標は、平面直角座標第VII系を用いた国土座標、世界測地系（平成14年4月施行）を使用している。
令和5年度の調査では、国土地理院による都市再生街区基本調査成果を用いた。
天間沢遺跡の調査は、任意の座標で測量し、世界測地系に合成した。
- 2 挿図の縮尺は、各図に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺はすべて任意である。
- 3 土器の実測図では、断面を以下のように表現することで種類の違いを示した。
 縄文土器・弥生土器・土師器 [] 須恵器 [] 灰釉陶器・陶器 []
- 4 土層・遺物の色調は『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修）に準拠した。
- 5 遺構・遺物とともに、法量の（ ）は残存値、〔 〕は推定値である。また、土器の残存率は図示中での残存率を示した。
- 6 遺構の略記号は以下の通りである。
 SB：竪穴建物 SD：溝状遺構 SK：土坑 Pit：小穴 SX：不明遺構 FP：炉穴 SU：埋甕
 SS：配石 Tr：トレンチ L：水準高
- 7 遺構図は、以下の基準に則り記載した。



8 第1章で報告する出土遺物の評価については、主として次の文献に基づいて検討した。

佐藤祐樹 2021「東駿河における古墳時代の土器様相」『地域と考古学』II 向坂鋼二先生米寿記念論集

鈴木敏則 2004 「静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』浜松市教育委員会

藤村 翔 2021「駿河国富士郡域における土師器の変遷」『地域と考古学』II 向坂鋼二先生米寿記念論集

9 第2章天間沢遺跡出土の縄文土器は以下のように分類した。

I群土器

縄文時代早期の土器をI群とした。時期としては早期後葉の条痕文系土器群のみである。

I群A類は、胎土に纖維および石英や青灰色の砂粒を多く含み、黒灰褐色を呈す。その多くは内面に条痕を施し、口唇近くの口縁部に1段、さらに弱く2段の段をもつ。この段部分を文様帶とし、爪形の連続刺突文で三角および斜行文を施文する。口唇の刻みと、口縁内部にも口唇に並行して連続刺突を行うものがほとんどで、波状口縁や二対の注口のような酒杯状把手をもつものがある。出土地点もほぼQ地区に限定される。茅山下層式並行の東海系土器であるハッ崎I式に比定した。

I群B類は、A類より厚めで纖維を含むが量は少なく、全体として赤みを帯びA類に比べて明るい胎土の土器である。棒状工具による斜め刺突と、平行押引き文による直線と弧線文が施文される。この土器にはまだ型式名は付与されていないが、愛鷹山山麓のいくつかの遺跡にて検出例が知られており、茅山下層式並行の土器と考えられている。

II群土器

縄文時代前期の土器をII群とした。

II群A類は、器壁が非常に薄く、細線を地文とする土器をあてた。木島式に比定した。

III群土器

縄文時代中期の土器をIII群とした。中期中葉から後葉まで、ほぼ連続して続いている。天間沢遺跡の主体となる時期で、特に中期後葉が量・質ともに充実している。

III群A-1類は、隆帶による立体的な造形を特徴とする、勝坂式の範疇の土器をあてた。時期的には新道式から井戸尻式まで出土している。完形品は無く、把手等の部分的なものが目立つ。

III群A-2類は、隆帶と条線文によって文様を構成する土器群をあてた。天間沢遺跡で最も多く出土し、その主体となる土器群である。曾利式土器に比定したが、曾利IV・V式が大半を占める。

III群B-2類は、隆帶と縄文で文様が構成される土器群を充てた。縄文が施文されても文様構成がA-2類にあたるものはA-2類としている。加曾利E式に比定した。

III群C-2類は、薄手で灰白色系の色調を持ち、撚糸文を地文に、並行沈線による弧線文と渦巻文を組み合わせた文様をもつ。咲煙式に比定した。

III群D-2類は、薄手で灰白色系の色調を持ち、口縁部文様帶に隅丸長方形の橢円文を施文する。北白川C式に比定した。

IV群土器

縄文時代後期の土器をIV群とした。III群から断続なく続いていると考えられるが、多くはE地区に集中している。

IV群A-1類は、器面全体を、並行沈線による弧線や直線で描画し、磨消縄文、あるいは並行沈線内を列点文で

充填するものをあてた。称名寺式に比定した。

IV群 A-2 類は、小型巻貝の殻頂かと思われる刺突と沈線、および細かい縄文で文様を構成し、磨消縄文による帶縄文を多用して、器面を精緻な研磨で整形するものをあてた。堀之内式に比定した。

IV群 B-2 類は、やや厚めの器壁をもち、太い縄文原体を用いた付加条縄文を表面全体に施文した粗製の深鉢土器およびそれに類似する土器をあてた。

IV群 A-3 類は、磨消縄文と「の」字文で文様を描き、裏面口縁部に沈線を施文、器面を精緻な研磨で整形する土器をあてた。加曾利 B 式に比定した。

IV群 C 類は、胎土が灰白色傾向で、器厚が薄く砂粒が多く含む、西日本系と思われるものをあてた。

10 縄文土器の編年は、以下の文献を参考基準とした。(年代順)

戸沢充則 編 1994 『縄文時代研究事典』東京堂出版

今福利恵 ほか 1999 「2 縄文時代の編年」『山梨県史 資料編2 原始古代2 考古（遺構・遺物）』山梨県

縄文時代文化研究会 編 1999 『縄文時代文化研究の100年 -21世紀における縄文時代文化研究の深化に向けて- 縄文時代 第10号』縄文時代文化研究会

小林達雄 編 2008 『総覧 縄文土器』アム・プロモーション

目 次

例 言

凡 例

目 次

第 1 章 令和 5 年度の調査

第 1 節	調査体制と調査概要	1
第 2 節	確認調査の報告	5
第 3 節	埋蔵文化財包蔵地の内容変更	63

第 2 章 天間沢遺跡の調査

第 1 節	天間沢遺跡の概要	65
第 2 節	Q 地区（第 17 地区）の調査	71
第 3 節	R 地区・V 地区（第 18 地区・第 22 地区）の調査	93
第 4 節	S 地区（第 19 地区）の調査	96
第 5 節	T 地区（第 20 地区）の調査	101
第 6 節	U 地区（第 21 地区）の調査	103
第 7 節	横道下地区（第 23 地区）の調査	106
第 8 節	表面採集資料等の報告	124

第 3 章 資料報告

静岡県富士市破魔射場遺跡出土の黒曜岩製尖頭器	（村井 咲月）	127
------------------------	---------	-----

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1章 令和5年度の調査		
第1節 調査体制と調査概要		
第1図 令和5年度 調査地の位置と地形区分図	2	
第2節 確認調査の報告		
第2図 中野沖田遺跡第4地区 位置図	5	
第3図 中野沖田遺跡第4地区 トレンチ配置図、セクション図	5	
第4図 滝下遺跡Q地区 位置図	6	
第5図 滝下遺跡Q地区 トレンチ配置図、セクション図	6	
第6図 東平遺跡第156地区 位置図	7	
第7図 東平遺跡第156地区 トレンチ配置図、セクション図	7	
第8図 中原遺跡第33地区 位置図	8	
第9図 中原遺跡第33地区 トレンチ配置図	8	
第10図 中原遺跡第33地区 セクション図	9	
第11図 三新田遺跡Q地区 位置図	9	
第12図 三新田遺跡Q地区 トレンチ配置図、セクション図	10	
第13図 舟久保遺跡第77地区 位置図	10	
第14図 舟久保遺跡第77地区 トレンチ配置図、セクション図	10	
第15図 天間沢遺跡第72地区 位置図	11	
第16図 天間沢遺跡第72地区 トレンチ配置図、セクション図	11	
第17図 亀窪遺跡第1地区 位置図	12	
第18図 亀窪遺跡第1地区 トレンチ配置図	12	
第19図 亀窪遺跡第1地区 トレンチ平面図、セクション図	13	
第20図 善得寺廃寺跡第9地区 位置図	13	
第21図 善得寺廃寺跡第9地区 トレンチ配置図、セクション図	13	
第22図 川窪遺跡第7地区 位置図	14	
第23図 川窪遺跡第7地区 トレンチ配置図	14	
第24図 川窪遺跡第7地区 トレンチ平面図、セクション図	15	
第25図 児森遺跡第4地区 位置図	15	
第26図 児森遺跡第4地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	16	
第27図 東平遺跡第158地区 位置図	17	
第28図 東平遺跡第158地区 トレンチ配置図、セクション図	17	
第29図 富士岡1古墳群第20地区 位置図	17	
第30図 富士岡1古墳群第20地区 トレンチ配置図	18	
第31図 富士岡1古墳群第20地区 トレンチ平面図、セクション図	18	
第32図 比奈1古墳群第12地区 位置図	19	
第33図 比奈1古墳群第12地区 トレンチ配置図	19	
第34図 比奈1古墳群第12地区 セクション図	20	
第35図 沖田遺跡第170次調査地点 位置図	20	
第36図 沖田遺跡第170次調査地点 トレンチ配置図、セクション図	21	
第37図 川坂遺跡第14地区 位置図	21	
第38図 川坂遺跡第14地区 トレンチ配置図、セクション図	22	
第39図 東平遺跡第121地区 位置図	22	
第40図 東平遺跡第121地区 トレンチ配置図、セクション図	23	
第41図 国久保遺跡第13地区 位置図	23	
第42図 国久保遺跡第13地区 出土遺物実測図	23	
第43図 国久保遺跡第13地区 トレンチ配置図、セクション図	24	
第44図 国久保遺跡第14地区 位置図	24	
第45図 国久保遺跡第14地区 トレンチ配置図、セクション図	24	
第46図 神谷古墳群第13地区 位置図	25	
第47図 神谷古墳群第13地区 出土遺物実測図	25	
第48図 神谷古墳群第13地区 トレンチ配置図、セクション図	26	
第49図 神谷古墳群第13地区 SZJ12平面図、セクション図	27	
第50図 沢東A遺跡第31次調査地点 位置図	28	
第51図 沢東A遺跡第31次調査地点 トレンチ配置図、セクション図	28	
第52図 厚原横道下遺跡第7地区 位置図	29	
第53図 厚原横道下遺跡第7地区 トレンチ配置図、セクション図	29	
第54図 柏原遺跡第22地区 位置図	29	
第55図 柏原遺跡第22地区 トレンチ配置図、セクション図	30	
第56図 天間沢遺跡第73地区 位置図	30	
第57図 天間沢遺跡第73地区 トレンチ配置図、セクション図	30	
第58図 宇東川遺跡第34地区 位置図	31	
第59図 宇東川遺跡第34地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図	31	
第60図 宇東川遺跡第34地区 セクション図	32	
第61図 宇東川遺跡第34地区 出土遺物実測図	32	
第62図 外原遺跡第1地区 位置図	33	
第63図 外原遺跡第1地区 トレンチ配置図、セクション図	33	
第64図 富士岡1古墳群第21地区 位置図	33	
第65図 富士岡1古墳群第21地区 トレンチ配置図、セクション図	34	
第66図 東平遺跡第159地区 位置図	34	
第67図 東平遺跡第159地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	34	
第68図 舟久保遺跡第78地区 位置図	35	
第69図 舟久保遺跡第78地区 トレンチ配置図、セクション図	35	
第70図 善得寺城跡・東泉院跡第10地区 位置図	35	
第71図 善得寺城跡・東泉院跡第10地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	36	
第72図 善得寺城跡・東泉院跡第10地区 出土遺物実測図	37	
第73図 沖田遺跡第171次調査地点 位置図	37	
第74図 沖田遺跡第171次調査地点 トレンチ配置図、セクション図	37	
第75図 国久保遺跡第6地区 位置図	38	
第76図 国久保遺跡第6地区 出土遺物実測図	38	
第77図 国久保遺跡第6地区 トレンチ配置図	38	
第78図 国久保遺跡第6地区 トレンチ平面図、セクション図	39	
第79図 中野遺跡第2地区 位置図	39	
第80図 中野遺跡第2地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	40	
第81図 中野遺跡第2地区 出土遺物実測図	41	
第82図 花守遺跡第10地区 位置図	41	
第83図 花守遺跡第10地区 トレンチ配置図、セクション図	42	
第84図 東平遺跡第160地区 位置図	42	
第85図 東平遺跡第160地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図	43	
第86図 東平遺跡第160地区 2Tr遺構平面図、セクション図	44	
第87図 東平遺跡第160地区 出土遺物実測図	45	
第88図 椅宜ノ前遺跡第8地区 位置図	46	
第89図 椅宜ノ前遺跡第8地区 トレンチ配置図、セクション図	46	
第90図 東平遺跡第161地区 位置図	47	
第91図 東平遺跡第161地区 トレンチ配置図、セクション図	47	
第92図 東下天間古墳群第1地区 位置図	47	
第93図 東下天間古墳群第1地区 トレンチ配置図	48	
第94図 東下天間古墳群第1地区 セクション図	49	
第95図 天間沢遺跡第74地区 位置図	50	
第96図 天間沢遺跡第74地区 トレンチ配置図、セクション図	50	
第97図 天間沢遺跡第75地区 位置図	51	
第98図 天間沢遺跡第75地区 トレンチ配置図、セクション図	51	
第99図 三新田遺跡R地区 位置図	52	

第 100 図	三新田遺跡 R 地区 トレンチ配置図、セクション図	52	第 141 図	天間沢遺跡 Q 地区 出土遺物実測図 ①	84
第 101 図	富士岡 1 古墳群第 22 地区 位置図	53	第 142 図	天間沢遺跡 Q 地区 出土遺物実測図 ②	85
第 102 図	富士岡 1 古墳群第 22 地区 トレンチ配置図、セクション図	53	第 143 図	天間沢遺跡 Q 地区 出土遺物実測図 ③	86
第 103 図	厚原遺跡第 11 地区 位置図	54	第 144 図	天間沢遺跡 Q 地区 出土遺物実測図 ④	87
第 104 図	厚原遺跡第 11 地区 トレンチ配置図、セクション図	54	第 145 図	天間沢遺跡 Q 地区 出土遺物実測図 ⑤	88
第 105 図	東平遺跡第 143 地区 位置図	55	第 146 図	天間沢遺跡 Q 地区 出土遺物実測図 ⑥	89
第 106 図	東平遺跡第 143 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	55	第 3 節	R 地区・V 地区（第 18 地区・第 22 地区）の調査	
第 107 図	沢上遺跡第 7 次調査地点 位置図	56	第 147 図	天間沢遺跡 R 地区・V 地区 位置図	93
第 108 図	沢上遺跡第 7 次調査地点 トレンチ配置図、セクション図	56	第 148 図	天間沢遺跡 R 地区 トレンチ配置図、セクション図	94
第 109 図	東平遺跡第 162 地区 位置図	56	第 149 図	天間沢遺跡 V 地区 トレンチ配置図、セクション図	95
第 110 図	東平遺跡第 162 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	57	第 4 節	S 地区（第 19 地区）の調査	
第 111 図	中桁・中ノ坪遺跡第 24 地区 位置図	57	第 150 図	天間沢遺跡 S 地区 位置図	96
第 112 図	中桁・中ノ坪遺跡第 24 地区 トレンチ配置図、セクション図	58	第 151 図	天間沢遺跡 S 地区 トレンチ配置図、セクション図	97
第 113 図	東平遺跡第 163 地区 位置図	58	第 152 図	天間沢遺跡 S 地区 出土遺物実測図 ①	98
第 114 図	東平遺跡第 163 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図	59	第 153 図	天間沢遺跡 S 地区 出土遺物実測図 ②	99
第 115 図	舟久保遺跡第 79 地区 位置図	60	第 154 図	天間沢遺跡 S 地区 出土遺物実測図 ③	99
第 116 図	舟久保遺跡第 79 地区 トレンチ配置図、セクション図	60	第 5 節	T 地区（第 20 地区）の調査	
第 117 図	中島遺跡第 17 地区 位置図	60	第 155 図	天間沢遺跡 T 地区 位置図	101
第 118 図	中島遺跡第 17 地区 トレンチ配置図、セクション図	61	第 156 図	天間沢遺跡 T 地区 トレンチ配置図、セクション図	102
第 119 図	水神堂遺跡第 4 地区 位置図	61	第 6 節	U 地区（第 21 地区）の調査	
第 120 図	水神堂遺跡第 4 地区 トレンチ配置図、セクション図	62	第 157 図	天間沢遺跡 U 地区 位置図	103
第 3 節	埋蔵文化財包蔵地の内容変更		第 158 図	天間沢遺跡 U 地区 トレンチ配置図	104
第 121 図	神谷古墳群の内容変更	63	第 159 図	天間沢遺跡 U 地区 セクション図	105
第 122 図	富士岡 3 古墳群・富士岡 4 古墳群の内容変更	64	第 7 節	横道下地区（第 23 地区）の調査	
第 2 章	天間沢遺跡の調査		第 160 図	天間沢遺跡横道下地区 位置図	106
第 1 節	天間沢遺跡の概要		第 161 図	天間沢遺跡横道下地区 全体図、セクション図	107
第 123 図	天間沢遺跡 標準土層	65	第 162 図	天間沢遺跡横道下地区 セクション図	108
第 124 図	天間沢遺跡の位置	65	第 163 図	天間沢遺跡横道下地区 b 地区全体図、セクション図	109
第 125 図	天間沢遺跡 調査履歴図	66	第 164 図	天間沢遺跡横道下地区 b 地区遺構平面図、セクション図 ①	110
第 126 図	天間沢遺跡 遺構分布状況図	67	第 165 図	天間沢遺跡横道下地区 b 地区遺構平面図、セクション図 ②	111
第 2 節	Q 地区（第 17 地区）の調査		第 166 図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ①	112
第 127 図	天間沢遺跡 Q 地区 位置図	71	第 167 図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ②	113
第 128 図	天間沢遺跡 Q 地区 トレンチおよび本調査区配置図	72	第 168 図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ③	114
第 129 図	天間沢遺跡 Q 地区 トレンチ全体図	73	第 169 図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ④	115
第 130 図	天間沢遺跡 Q 地区 トレンチセクション図	74	第 170 図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑤	116
第 131 図	天間沢遺跡 Q 地区 1Tr 遺構平面図、セクション図	76	第 171 図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑥	117
第 132 図	天間沢遺跡 Q 地区 2Tr 遺構平面図、セクション図	77	第 172 図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑦	118
第 133 図	天間沢遺跡 Q 地区 4Tr 遺構平面図、セクション図	77	第 173 図	天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑧	119
第 134 図	天間沢遺跡 Q 地区 3Tr 遺構平面図、セクション図	78	第 8 節	表面採集資料等の報告	
第 135 図	天間沢遺跡 Q 地区 7Tr 遺構平面図、セクション図 ①	78	第 174 図	天間沢遺跡表面採集資料等 実測図	125
第 136 図	天間沢遺跡 Q 地区 7Tr 遺構平面図、セクション図 ②	79	第 3 章	資料報告	
第 137 図	天間沢遺跡 Q 地区 本調査区セクション図	79	静岡県富士市破魔射場遺跡出土の黒曜岩製尖頭器（村井 咲月）		
第 138 図	天間沢遺跡 Q 地区 本調査区全体図	80	第 1 図	破魔射場遺跡の位置	127
第 139 図	天間沢遺跡 Q 地区 本調査区 遺構平面図、セクション図 ①	81	第 2 図	破魔射場遺跡の基本土層図	127
第 140 図	天間沢遺跡 Q 地区 本調査区 遺構平面図、セクション図 ②	82	第 3 図	割れ速度と剥離方法の関係	128
			第 4 図	ガルウイングの開き角と割れ速度の関係	128
			第 5 図	破魔射場遺跡出土尖頭器の 金属顕微鏡による観察箇所	129
			第 6 図	破魔射場遺跡出土尖頭器の 被熱痕跡が確認された剥離痕	130
			図版 1		133
			図版 2		134

挿表目次

第1章 令和5年度の調査

第1節 調査体制と調査概要

第1表 文化財保護法に基づく各届出の件数一覧表	1
第2表 令和5年度 発掘調査一覧表	3
第2節 確認調査の報告	
第3表 国久保遺跡第13地区 出土遺物観察表	24
第4表 神谷古墳群第13地区 出土遺物観察表	25
第5表 宇東川遺跡第34地区 出土遺物観察表	32
第6表 善得寺城跡・東泉院跡第10地区 出土遺物観察表	37
第7表 国久保遺跡第6地区 出土遺物観察表	39
第8表 中野遺跡第2地区 出土遺物観察表	41
第9表 東平遺跡第160地区 出土遺物観察表	45
第3節 埋蔵文化財包蔵地の内容変更	
第10表 埋蔵文化財包蔵地 登録内容の変更	63

第2章 天間沢遺跡の調査

第1節 天間沢遺跡の概要

第11表 天間沢遺跡調査履歴	68
第2節 Q地区（第17地区）の調査	
第12表 天間沢遺跡Q地区 遺構一覧表	82
第13表 天間沢遺跡Q地区 出土土器観察表	89
第14表 天間沢遺跡Q地区 出土石器観察表	92
第15表 天間沢遺跡Q地区 出土金属製品観察表	92
第4節 S地区（第19地区）の調査	
第16表 天間沢遺跡S地区 出土土器観察表	100
第17表 天間沢遺跡S地区 出土石器観察表	100
第7節 横道下地区（第23地区）の調査	
第18表 天間沢遺跡横道下地区（第23地区） 出土土器観察表	120
第19表 天間沢遺跡横道下地区（第23地区） 出土石器観察表	122
第8節 表面採集資料等の報告	
第20表 天間沢遺跡表面採集資料等 土器観察表	124
第21表 天間沢遺跡表面採集資料等 石器観察表	124

写真図版目次

PL.1～19 第1章 令和5年度確認調査

- PL.1 1. 中野沖田遺跡 第4地区1次調査
- 2. 滝下遺跡 Q地区1次調査
- 3. 東平遺跡第156地区1次調査
- 4. 中原遺跡 第33地区1次調査

- PL.2 5. 三新田遺跡 Q地区1次調査
- 6. 舟久保遺跡 第77地区1次調査
- 7. 天間沢遺跡 第72地区1次調査
- 8. 亀窪遺跡 第1地区1次調査

- PL.3 9. 善得寺廃寺跡 第9地区1次調査
- 10. 川窪遺跡 第7地区2次調査・3次調査
- 12. 東平遺跡 第158地区1次調査

- PL.4 11. 児森遺跡 第4地区1次調査
- 13. 富士岡1古墳群 第20地区1次調査

- PL.5 14. 比奈1古墳群 第12地区1次調査・2次調査
- 15. 沖田遺跡 第170次調査地点1次調査

- PL.6 16. 川坂遺跡 第14地区1次調査
- 17. 東平遺跡 第121地区2次調査
- 18. 国久保遺跡 第13地区1次調査
- 19. 国久保遺跡 第14地区1次調査

- PL.7 20. 神谷古墳群 第13地区1次調査・2次調査

- PL.8 20. 神谷古墳群 第13地区1次調査・2次調査

- PL.9 20. 神谷古墳群 第13地区1次調査・2次調査
- 21. 沢東A遺跡 第31次調査地点1次調査
- 22. 厚原横道下遺跡 第7地区1次調査

- PL.10 23. 柏原遺跡 第22地区1次調査
- 24. 天間沢遺跡 第73地区1次調査
- 25. 宇東川遺跡 第34地区1次調査

- PL.11 26. 外原遺跡 第1地区1次調査
- 27. 富士岡1古墳群 第21地区1次調査
- 28. 東平遺跡 第159地区1次調査
- 29. 舟久保遺跡 第78地区1次調査

- PL.12 30. 善得寺城跡・東泉院跡 第10地区1次調査・2次調査

- PL.13 31. 沖田遺跡 第171次調査地点1次調査
- 32. 国久保遺跡 第6地区2次調査
- 34. 花守遺跡 第10地区1次調査

- PL.14 33. 中野遺跡 第2地区1次調査
- 36. 祢宜ノ前遺跡 第8地区1次調査

- PL.15 35. 東平遺跡 第160地区1次調査

- PL.16 37. 東平遺跡 第161地区1次調査
- 38. 東下天間古墳群 第1地区1次調査
- 39. 天間沢遺跡 第74地区1次調査

- PL.17 40. 天間沢遺跡 第75地区1次調査
- 41. 三新田遺跡 R地区1次調査
- 42. 富士岡1古墳群 第22地区1次調査
- 43. 厚原遺跡 第11地区1次調査

- PL.18 44. 東平遺跡 第143地区2次調査
- 45. 沢上遺跡 第7次調査地点1次調査
- 46. 東平遺跡 第162地区1次調査
- 47. 中杼・中ノ坪遺跡 第24地区1次調査

- PL.19 48. 東平遺跡 第163地区1次調査
- 49. 舟久保遺跡 第79地区1次調査
- 50. 中島遺跡 第17地区1次調査
- 51. 水神堂遺跡 第4地区1次調査

PL.20～40 第2章 天間沢遺跡

- PL.20～27 天間沢遺跡 Q地区

- PL.28 天間沢遺跡 R地区
- 天間沢遺跡 V地区
- 天間沢遺跡 S地区

- PL.29 天間沢遺跡 S地区

- PL.30 天間沢遺跡 T地区
- 天間沢遺跡 U地区

- PL.31～39 天間沢遺跡 横道下地区

- PL.40 天間沢遺跡 表面採集資料等

第1章 令和5年度の調査

第1節 調査体制と調査概要

1 調査体制

令和5年度の埋蔵文化財発掘調査は、以下の体制で実施した。

[調査主体]

富士市教育委員会 教育長	森田 嘉幸
文化財課課長	久保田 伸彦
文化財活用担当 統括主幹	石川 武男
文化財活用担当 主幹	瀧浪 和美

[調査担当]

文化財活用担当 主幹	佐藤 祐樹
文化財活用担当 主査	藤村 翔
文化財調査員	笹原 芳郎 小島 利史 若林 美希
発掘調査作業員	渡辺 美規子

2 発掘調査の概要

縄文時代 令和5年度に調査した中では、特に注目すべき調査はないが、次章で報告する昭和57年に実施した天間沢遺跡Q地区（17地区）の調査が注目される。調査では、縄文時代早期後葉の土器型式で、東海地方を中心に関東から関西まで分布しているハッ崎I式の土器がまとまって出土している。特に器形のわかる個体は近隣でも、例が少なく貴重な調査例と言える。

弥生時代 中野遺跡ではこれまでにも弥生時代後期の方形周溝墓やガラス勾玉などが出土しており、隣接地での試掘調査を実施した（39頁）。その結果、弥生時代後期の遺物・炉跡が検出されたため、令和5年12月に中野遺跡の包蔵地範囲の追加および滅失をおこなった。

第1表 文化財保護法に基づく各届出の件数一覧表

			道路	鉄道	空港	河川	港湾	ダム	学校	住宅	個人住宅	工場	店舗	住宅兼	その他	宅地造成	土地区画整理	公園造成	ゴルフ場	観光開発	ガス等	農業基盤	農業関係	土砂採取	その他開発	自然崩壊	遺跡地図作製等	保存目的	学術	遺跡整備	計
工事の届等	93条	現状保存																													
		発掘調査																													
		工事立会								1	91	2	2	1	4	4				88				1					194		
		慎重工事									3									43									46		
		注意																													
		未指示																													
	94条	計	0	0	0	0	0	0	0	1	94	2	2	1	4	4	0	0	0	0	131	0	0	0	1	0	0	0	240		
		現状保存																													
		発掘調査																						1					1		
		工事立会	4																1		19								24		
		慎重工事																		2									2		
		注意																													
		未指示																													
		計	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	21	0	0	0	1	0	0	27		
		合計	4	0	0	0	0	0	0	0	1	94	2	2	1	4	4	0	1	0	0	152	0	0	0	2	0	0	0	267	
発掘届等	92条	確認調査																													
		本発掘調査																													
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	99条	確認調査														2	24	1	3	4	4	3			2		13			56	
		本発掘調査																				1							1		
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	2	24	1	3	0	4	4	0	3	0	0	3	0	0	0	13	0	0	57		
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	2	24	1	3	0	4	4	0	3	0	0	3	0	0	0	13	0	0	57		

古墳時代 令和5年度から継続的に確認調査を実施してきた比奈1古墳群第11地区の調査において、現地保存ができないため、記録保存を目的とした本発掘調査を実施した。調査は令和5年度に新規発見した横穴式石室墳である石切平第2号墳を対象に実施し、大刀や鉄鏃、馬具などが出土した。報告は今年度刊行する別冊による。

富士岡1古墳群第20地区の確認調査を実施し、横穴式石室墳の一部とみられる遺構を検出した(17頁)。古墳であれば、過去の分布調査で存在が確認されていた富士岡F-第66号墳の奥壁部分とみられる。検出された石室の一部は現在も現地に保存されている。

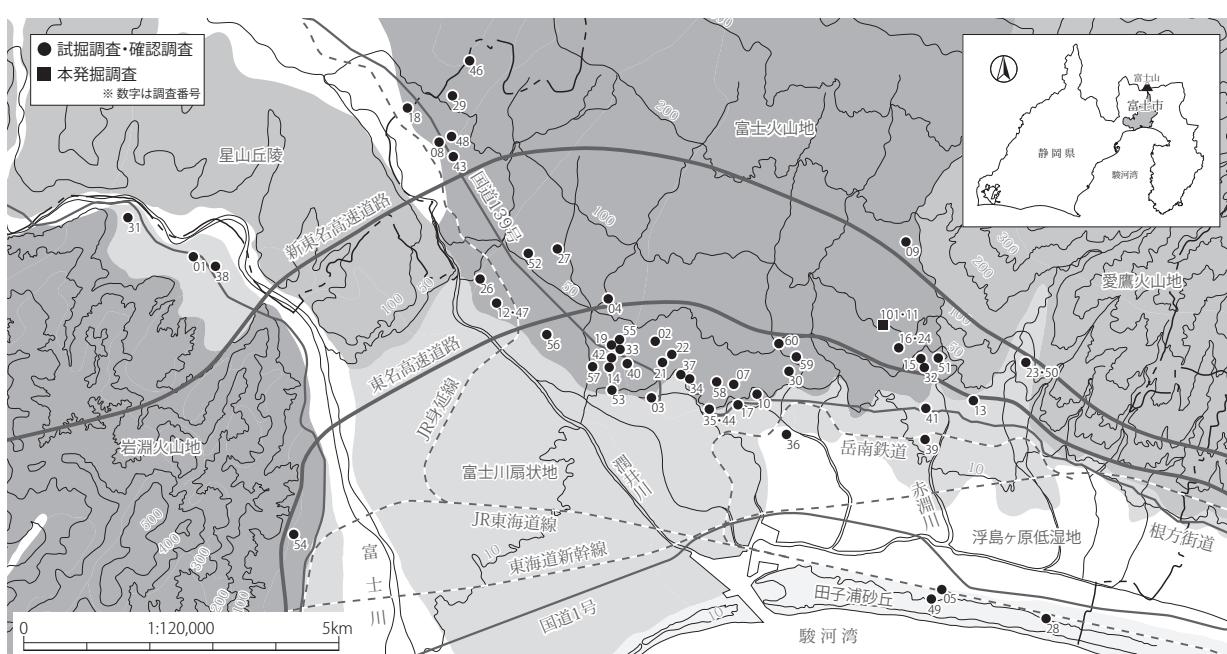
市指定史跡千人塚古墳及びその一帯において実施する古墳整備工事に伴って、あらためて千人塚古墳の周溝幅などを確認するための調査をおこない、直径約21.0m、周溝幅約3.0mの円墳であることが確定した。また、南西部分に所在している集石の性格を把握するための調査を実施し、横穴式石室墳(SZJ-12／須津J-第12号墳)を検出した(25頁)。なお、千人塚古墳は昭和51年に市の史跡に指定されているが、令和6年6月19日に内容変更され、千人塚古墳を含めた周辺3基の古墳も市の史跡に指定され、指定名称を「千人塚古墳(須津J-第10号墳)

附 須津J-第7・9・12号墳」となった。

古代 富士郡家である東平遺跡では第160地区において奈良時代から平安時代(10世紀まで)の遺構が濃密に分布する状況を確認した(42頁)。

中世 善得寺城跡・東泉院跡第10地区において、出土した土器のうち、土師器の内耳壺(37頁第72図3)は中世後期に遠江や西三河で多くみられる「くの字形」のものであり、富士市域では極めて希少な器種である。今川氏親の命で東泉坊が日吉宮(現日吉浅間神社)の造営を始めたのが15世紀末～16世紀初頭とみられており、今回の成果が当該地周辺の隆盛の一端を示す資料となる可能性がある。

史跡の保存・管理 令和5年度から2年間の計画で史跡浅間古墳保存活用計画の策定作業をおこなっている。浅間古墳を将来に渡って確実に継承していくためにも、墳丘上に存在する樹木を適切にコントロールすることが必要であり、そのためにはまず、浅間古墳に存在する樹木の基本的な情報である位置、樹種、高さ、太さなどを一覧で管理する必要があることから、令和6年3月20日に富士市教育委員会文化財課職員、公募で集まった市民総勢32名が、古墳上の樹木の樹種や高さなどの基本情報の取得を行った。これについては、令和7年度に刊行する浅間古墳保存活用計画書の中で詳細を報告する予定である。



第2表 令和5年度 発掘調査一覧表

調査番号	所収番号	遺跡名 地区名	調査種類	調査期間	所在地 原因・目的	対象面積 調査面積 (m²)	時代	遺構	遺物	調査担当者
R05 -101	別途 本報告	比奈1古墳群 第11地区4次調査 【石切平第2号墳】	本 発掘	20240112 ~ 20240329	原田 1980-1 配水池築造	224.450	古墳	古墳(横穴式石室墳) ・土坑	土器・金属製品 ・ガラス製品 (古墳時代)	藤村
R05 -01	1章 2節 1	中野沖田遺跡 第4地区1次調査	確認	20230405 ~ 20230406	北松野 1883-1 外 店舗建設	11,024.000 79.727	古墳	なし	土器(古墳時代)	藤村・小島
R05 -02	1章 2節 2	滝下遺跡 Q地区1次調査	確認	20230404	伝法 1944-1 不動産売買	1,310.000 16.782	なし	なし	佐藤・若林	
R05 -03	1章 2節 3	三日市庵寺跡 東平第156地区1次調査	確認	20230417	浅間本町 3423-3 外 共同住宅建設	1,072.900 3.345	なし	なし	藤村・小島	
R05 -04	1章 2節 4	中原遺跡 第33地区1次調査	確認	20230410 ~ 20230412	伝法 444-1 外 工場建設	3,000.000 243.868	なし	なし	藤村・小島 ・若林	
R05 -05	1章 2節 5	三新田遺跡 Q地区1次調査	確認	20230406	三新田 4-11 個人住宅建設	338.230 7.392	なし	なし	藤村・若林	
R05 -07	1章 2節 6	舟久保遺跡 第77地区1次調査	確認	20230412	今泉六丁目 662-19 個人住宅建設	104.000 2.128	なし	なし	佐藤・若林	
R05 -08	1章 2節 7	天間沢遺跡 第72地区1次調査	確認	20230419	天間 1327-14 個人住宅建設	163.720 4.971	平安	なし	土器(平安時代)	佐藤・若林
R05 -09	1章 2節 8	亀窪遺跡 隣接地【第1地区1次調査】	試掘	20230414	鵜無ヶ淵 43 外 不動産売買	1,310.000 23.396	なし	なし	佐藤・小島	
R05 -10	1章 2節 9	善得寺庵寺跡 第9地区1次調査	確認	20230509	今泉三丁目 1067-1 個人住宅建設	370.530 3.636	なし	なし	佐藤・若林	
R05 -11	別途 本報告	比奈1古墳群 第11地区3次調査	確認	20230418 ~ 20230419	原田 1980-1、1979 配水池整備事業	2,604.000 116.316	なし	なし	藤村・小島	
R05 -12	1章 2節 10	川窪遺跡 第7地区2次調査	確認	20230426	厚原 185-1 不動産売買	1,316.000 6.821	なし	なし	藤村・小島	
R05 -13	1章 2節 11	児森遺跡 第4地区1次調査	確認	20230427	中里 1379-2 宅地造成	353.000 22.930	古墳	溝・土坑・ピット	土器(古墳時代)	佐藤・若林
R05 -14	1章 2節 12	東平遺跡 東平第158地区1次調査	確認	20230628	伝法 2795-4 外 個人住宅建設	87.150 7.048	なし	なし	佐藤・若林	
R05 -15	1章 2節 13	富士岡1古墳群 第20地区1次調査	確認	20230525 ~ 20230526	比奈 2819-1 個人住宅建設	318.410 6.165	古墳	古墳(横穴式石室墳)	なし	藤村・小島
R05 -16	1章 2節 14	比奈1古墳群 第12地区1次調査	確認	20230605 ~ 20230607	比奈 2359-1 外 店舗建設	2,998.280 156.969	なし	なし	藤村・小島 ・若林	
R05 -17	1章 2節 15	沖田遺跡 第170次調査地点1次調査	確認	20230608	今泉二丁目 124-5 外 不動産売買	1,066.250 9.279	なし	なし	佐藤・若林	
R05 -18	1章 2節 16	川坂遺跡 第14地区1次調査	確認	20230621	天間 845-6 外 不動産売買	380.050 17.983	なし	なし	佐藤・若林	
R05 -19	1章 2節 7	東平遺跡 東平第121地区2次調査	確認	20230613	伝法 2502-1 外 個人住宅建設	178.620 9.233	なし	なし	佐藤・若林	
R05 -21	1章 2節 18	国久保遺跡 第13地区1次調査	確認	20230614 ~ 20230615	国久保三丁目 2245-23 外 不動産売買	135.000 5.982	奈良・平安	なし	土器(奈良時代・平安時代)	藤村・小島
R05 -22	1章 2節 19	国久保遺跡 第14地区1次調査	確認	20230724	国久保二丁目 2003-6 外 個人住宅建設	198.000 5.247	なし	なし	佐藤・若林	
R05 -23	1章 2節 20	神谷古墳群 第13地区1次調査	確認	20230628 ~ 20230719	神谷 846-4 外 公園整備	1,231.000 33.563	古墳	古墳(横穴式石室墳)	土器(古墳時代)	藤村・小島
R05 -24	1章 2節 14	比奈1古墳群 第12地区2次調査	確認	20230712 ~ 20230718	比奈 2359-1 外 店舗建設	2,998.280 58.430	なし	なし	藤村・小島 ・若林	
R05 -26	1章 2節 21	沢東A遺跡 第31次調査地点1次調査	確認	20230817	久沢 180-2 不動産売買	618.450 14.555	なし	なし	佐藤・若林	
R05 -27	1章 2節 15	厚原横道下遺跡 第7地区1次調査	確認	20230728	厚原 1200-4 外 事務所建設	167.650 4.721	なし	なし	佐藤・小島	
R05 -28	1章 2節 23	柏原遺跡 第22地区1次調査	確認	20230817 ~ 20230818	中柏原新田 187-1 外 不動産売買	493.210 13.340	古墳	なし	土器(古墳時代)	藤村・小島
R05 -29	1章 2節 24	天間沢遺跡 第73地区1次調査	確認	20230828	天間 1022-1 個人住宅建設	473.570 14.221	なし	なし	佐藤・若林	
R05 -30	1章 2節 25	宇東川遺跡 第34地区1次調査	確認	20230824 ~ 20230825	原田 691-4 外 公園整備	1,731.000 50.484	縄文・古墳・ 奈良・平安	堅穴建物、土坑	土器(縄文時代・古墳時代 ・奈良時代・平安時代)	藤村・小島
R05 -31	1章 2節 26	外原遺跡 第1地区1次調査	確認	20230824	北松野 616-1 外 個人住宅建設	298.000 1.200	なし	なし	佐藤・若林	
R05 -32	1章 2節 27	富士岡1古墳群 第21地区1次調査	確認	20230830 ~ 20230831	比奈 1704-1 個人住宅建設	299.470 23.903	なし	なし	藤村・小島	
R05 -33	1章 2節 28	東平遺跡 東平第159地区1次調査	確認	20230904	伝法 2505-1 個人住宅建設	128.900 10.449	なし	なし	佐藤	
R05 -34	1章 2節 29	舟久保遺跡 第78地区1次調査	確認	20230829	今泉九丁目 1510-2 不動産売買	519.000 9.456	なし	なし	佐藤・若林	

調査番号	所収番号	遺跡名 地区名	調査種類	調査期間	所在地 原因・目的	対象面積 調査面積 (m ²)	時代	遺構	遺物	調査担当者
R05 -35	1章 2節 30	善得寺城跡・東泉院跡 第 10 地区 1 次調査	確認	20230911	今泉八丁目 1370-6 外 個人住宅建設	494.660 4.438	奈良・平安	なし	土器 (奈良時代・平安時代)	藤村・小島
R05 -36	1章 2節 31	沖田遺跡 第 171 次調査地点 1 次調査	確認	20231113	今泉 495-3 外 営業所建設	2,167.380 5.490		なし	なし	藤村・小島
R05 -37	1章 2節 32	国久保遺跡 第 6 地区 2 次調査	確認	20230914	国久保一丁目 2120-6 外 不動産売買	561.450 17.958	奈良・平安	堅穴建物	土器 (奈良時代・平安時代)	佐藤・若林
R05 -38	1章 2節 33	中野遺跡 隣接地【第 2 地区 1 次調査】	試掘	20231101	南松野 2465-1 不動産売買	784.000 56.347	弥生	炉	土器 (弥生時代)	藤村・小島
R05 -39	1章 2節 34	花守遺跡 第 10 地区 1 次調査	確認	20231010	富士岡 225-1 外 集合住宅建設	496.370 18.036		なし	なし	藤村・小島
R05 -40	1章 2節 35	東平遺跡 東平第 160 地区 1 次調査	確認	20231010 ～ 20231011	伝法 2452-1 外 個人住宅建設	775.160 84.650	奈良・平安	堅穴建物・土坑・ピット	土器・陶磁器 ・金属製品 (奈良時代・平安時代)	佐藤・笛原 ・若林
R05 -41	1章 2節 36	祢宜ノ前遺跡 第 8 地区 1 次調査	確認	20231005	比奈 1619 個人住宅建設	496.370 3.203		なし	なし	藤村・若林
R05 -42	1章 2節 37	東平遺跡 東平第 161 地区 1 次調査	確認	20231106	伝法 2542-3 個人住宅建設	157.280 15.046		なし	なし	佐藤・若林
R05 -43	1章 2節 38	東下天間古墳群 第 1 地区 1 次調査	確認	20231107 ～ 20231108	天間 1408-4 外 店舗建設	3,104.290 74.149	縄文	なし	土器 (縄文時代)	藤村・小島
R05 -44	1章 2節 30	善得寺城跡・東泉院跡 第 10 地区 2 次調査	確認	20231023 ～ 20231025	今泉八丁目 1370-6 外 個人住宅建設	494.660 7.525	平安～中世	なし	土器 (平安時代～中世)	藤村・若林
R05 -46	1章 2節 39	天間沢遺跡 第 74 地区 1 次調査	確認	20231102	天間 1942-5 個人住宅建設	731.780 5.893		なし	なし	佐藤・若林
R05 -47	1章 2節 10	川窪遺跡 第 7 地区 3 次調査	確認	20231121	厚原 185-1 事務所建設	1,378.540 10.567	古墳	溝・ピット	土器 (古墳時代)	佐藤・若林
R05 -48	1章 2節 40	天間沢遺跡 第 75 地区 1 次調査	確認	20231129 ～ 20231130	天間 1296-6 宅地分譲	2,259.000 28.269		なし	なし	佐藤・小島 ・若林
R05 -49	1章 2節 41	三新田遺跡 R 地区 1 次調査	確認	20231120	田中新田 275-15 外 不動産売買	495.000 17.691		なし	なし	藤村・小島
R05 -50	1章 2節 20	神谷古墳群 第 13 地区 2 次調査	確認	20231121 ～ 20231122	神谷 846-4 外 公園整備	1,231.000 5.512	古墳	なし	土器 (古墳時代)	藤村・小島
R05 -51	1章 2節 42	富士岡 1 古墳群 第 22 地区 1 次調査	確認	20231225	富士岡 1610-1 浄化槽設置	496.440 10.337		なし	なし	藤村・小島
R05 -52	1章 2節 43	厚原遺跡 第 11 地区 1 次調査	確認	20240111	厚原 741-1、-7 建売住宅建設	763.410 16.134		なし	なし	佐藤・小島
R05 -53	1章 2節 44	東平遺跡 東平第 143 地区 2 次調査	確認	20240111	伝法 3091-1 個人住宅建設	361.380 10.644		なし	なし	佐藤・若林
R05 -54	1章 2節 45	沢上遺跡 第 7 次調査地点 1 次調査	確認	20240214	中之郷 4056-13 個人住宅建設	266.590 4.203		なし	なし	佐藤・小島
R05 -55	1章 2節 46	東平遺跡 東平第 162 地区 1 次調査	確認	20240118	伝法 2502-5 外 個人住宅建設	393.640 4.935	奈良・平安	ピット	土器 (奈良時代・平安時代)	佐藤・小島
R05 -56	1章 2節 47	中柄・中ノ坪遺跡 第 24 地区 1 次調査	確認	20240313	厚原 429-9 不動産売買	717.350 5.469		なし	土器 (奈良時代・平安時代)	佐藤・小島
R05 -57	1章 2節 48	東平遺跡 東平第 163 地区 1 次調査	確認	20240304 ～ 20240306	伝法 2736-1 外 宅地分譲	611.640 18.023	奈良・平安	ピット・溝	土器 (奈良時代・平安時代)	佐藤・小島
R05 -58	1章 2節 49	舟久保遺跡 第 79 地区 1 次調査	確認	20240227	今泉六丁目 1598-12 外 個人住宅建設	323.560 6.255		なし	なし	佐藤・小島
R05 -59	1章 2節 50	中島遺跡 第 17 地区 1 次調査	確認	20240313 ～ 20240315	原田 774-4 個人住宅建設	182.620 4.365		なし	なし	佐藤・小島
R05 -60	1章 2節 51	水神堂遺跡 第 4 地区 1 次調査	確認	20240313	原田 810 宅地分譲	1,368.000 16.250	奈良・平安	なし	土器 (奈良時代・平安時代)	佐藤・小島

第2節 確認調査の報告

1. 中野沖田遺跡 第4地区1次調査

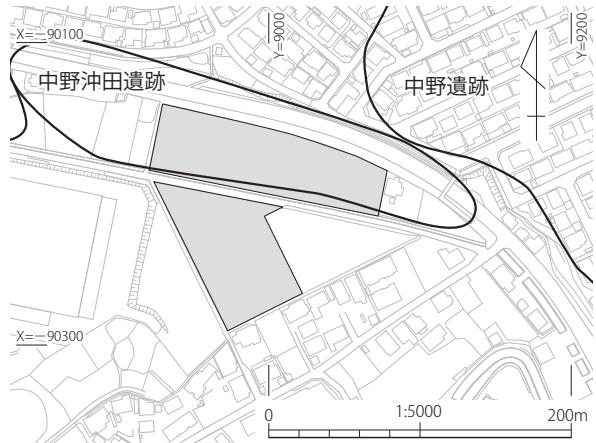
所 在 地 北松野 1883-1 外

調査面積 79.727 m² (対象面積 11,024 m²)

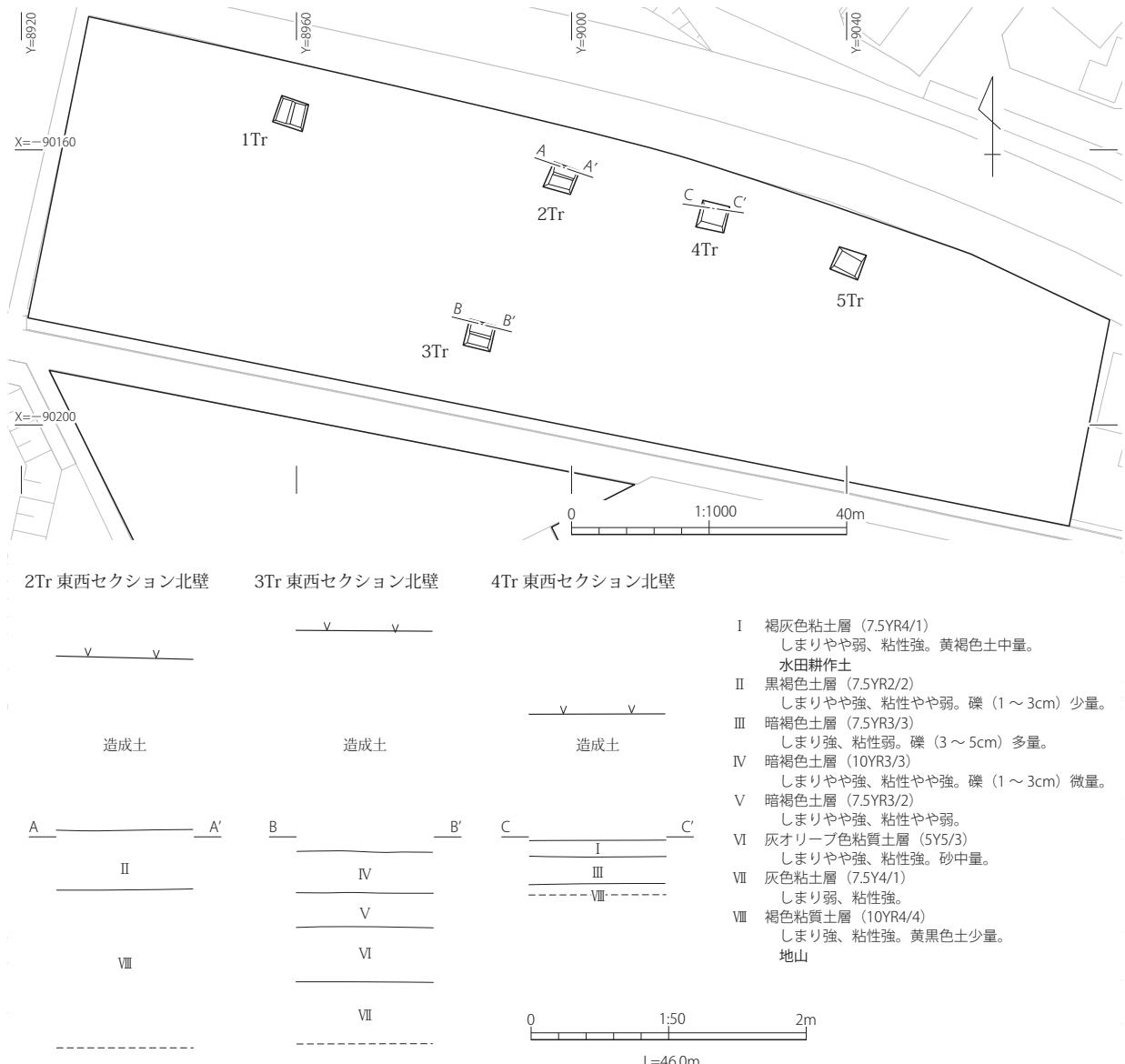
調査期間 令和5年4月5日～4月6日

調査の原因 店舗建設

調査の概要 中野沖田遺跡の包蔵地範囲内に位置する敷地内北部分に5箇所のトレンチ (1～5Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。



第2図 中野沖田遺跡第4地区 位置図



第3図 中野沖田遺跡第4地区 トレンチ配置図、セクション図

調査の結果 地表下約1.2～2.5mで基盤層（VIII層）を確認し、4Trではその直上から古墳時代の土師器小片を検出したものの、遺物包含層を形成しているとは判断できず、遺構も検出されなかった。

調査地北半部はかろうじて有無瀬川扇状地の河岸段丘上に位置するが、南半部は湿地帯にかかっており、居住に適さない環境であったと考えられる。

2. 滝下遺跡 Q 地区 1次調査

所 在 地 伝法1944-1

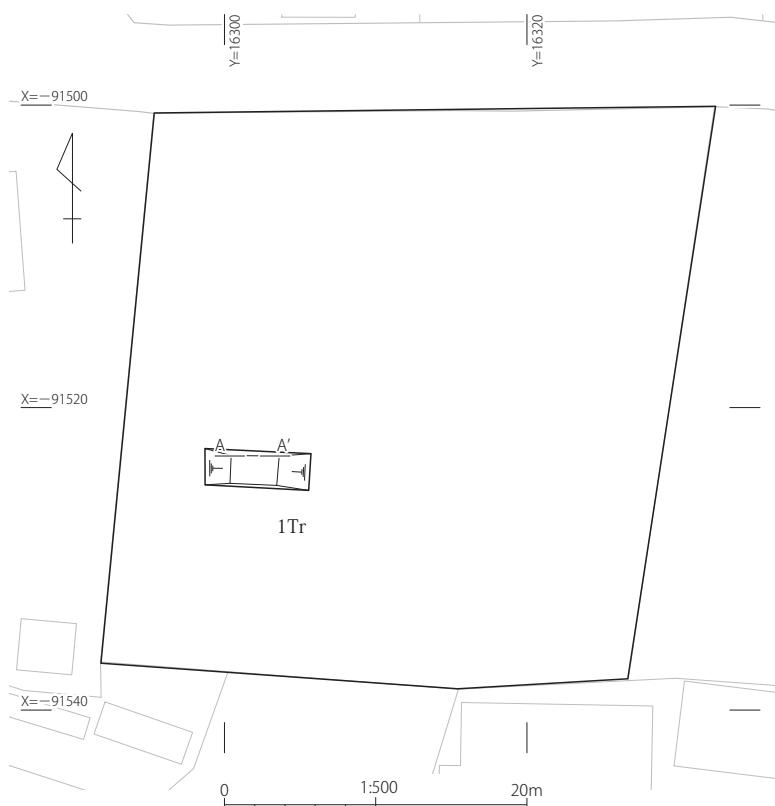
調査面積 16.782 m² (対象面積 1,310 m²)

調査期間 令和5年4月4日

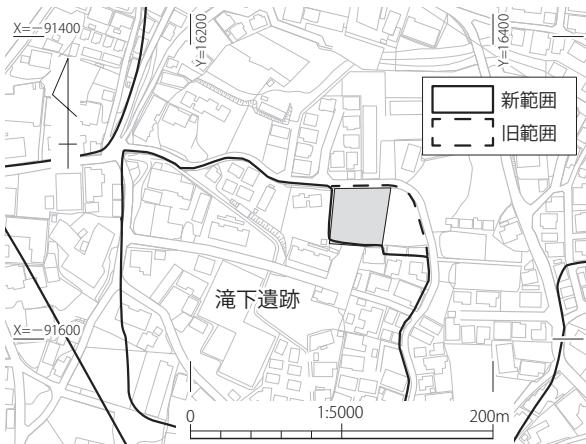
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。隣接するM地区(平成26年度調査)・O地区(令和3年度調査)の調査結果を踏まえ、令和5年10月、包蔵地範囲を削減した。

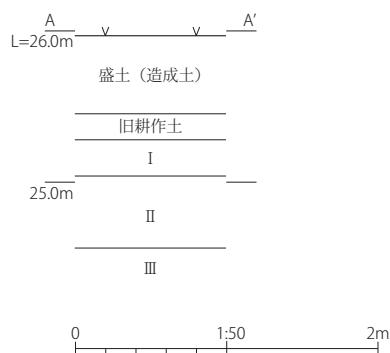


第5図 滝下遺跡Q地区 トレンチ配置図、セクション図



第4図 滝下遺跡Q地区 位置図

1Tr 東西セクション北壁



- I 黒褐色土層 (7.5YR3/1)
しまりややあり、粘性ややあり。
自然堆積層
- II 黒褐色土層 (7.5YR3/1)
しまりややあり、粘性ややあり。
下部に溶岩を多く含む。
自然堆積層
- III 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
しまりややあり、粘性ややあり。
溶岩を多量に含む。
基盤層

3. 三日市廃寺跡（東平遺跡第 156 地区 1 次調査）

所 在 地 浅間本町 3423-3 外

調査面積 3.345 m² (対象面積 1,072.90 m²)

調査期間 令和 5 年 4 月 17 日

調査の原因 共同住宅建設

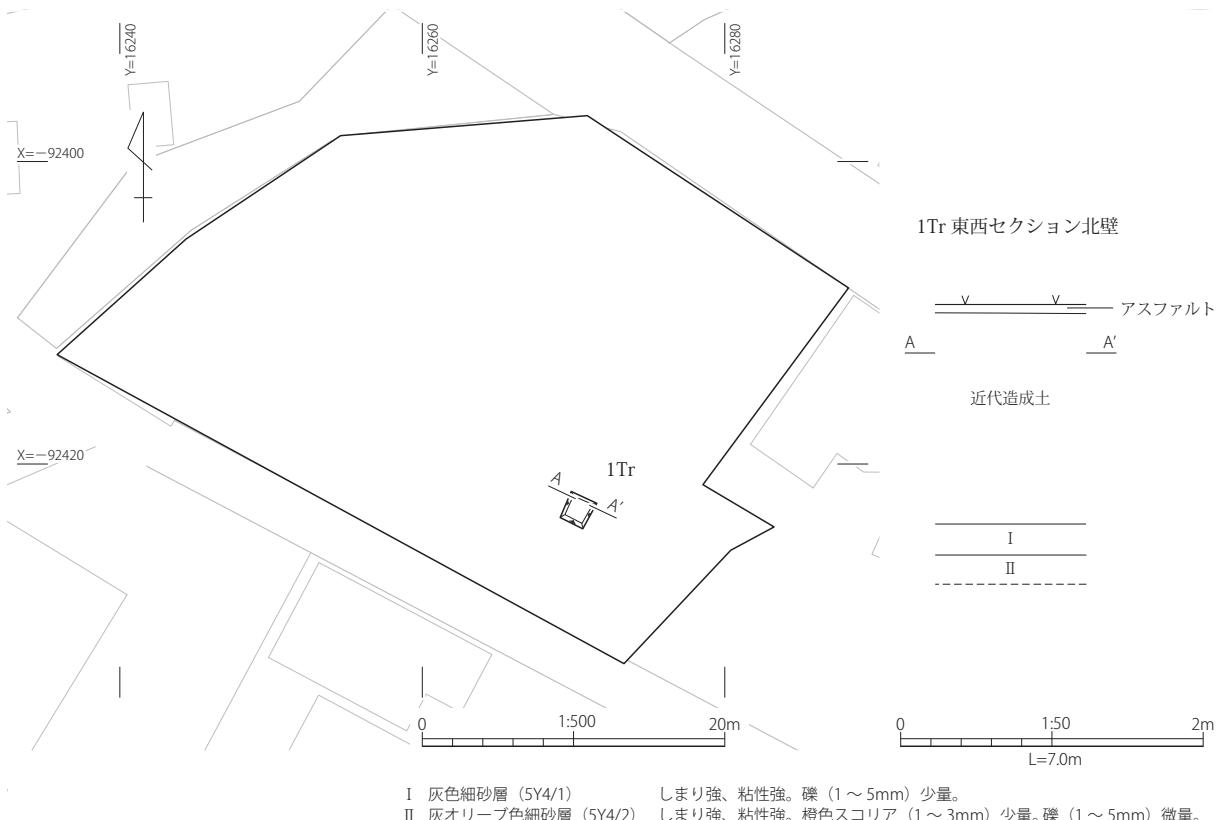
調査の概要 敷地内に 1 箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下約 1.7m で大淵スコリアを含む細砂層 (II 層) を確認し、その前後の層を中心に精査したものの、遺構・遺物は検出されなかった。

調査地は、すぐ北側を流れる和田川の影響により、I 層上面における湧水量が極めて多く、埋蔵文化財は存在しないものと判断できる。



第 6 図 東平遺跡第 156 地区 位置図



第 7 図 東平遺跡第 156 地区 トレンチ配置図、セクション図

4. 中原遺跡 第33地区 1次調査

所在 地 伝法444-1外

調査面積 243.868 m² (対象面積 3,000 m²)

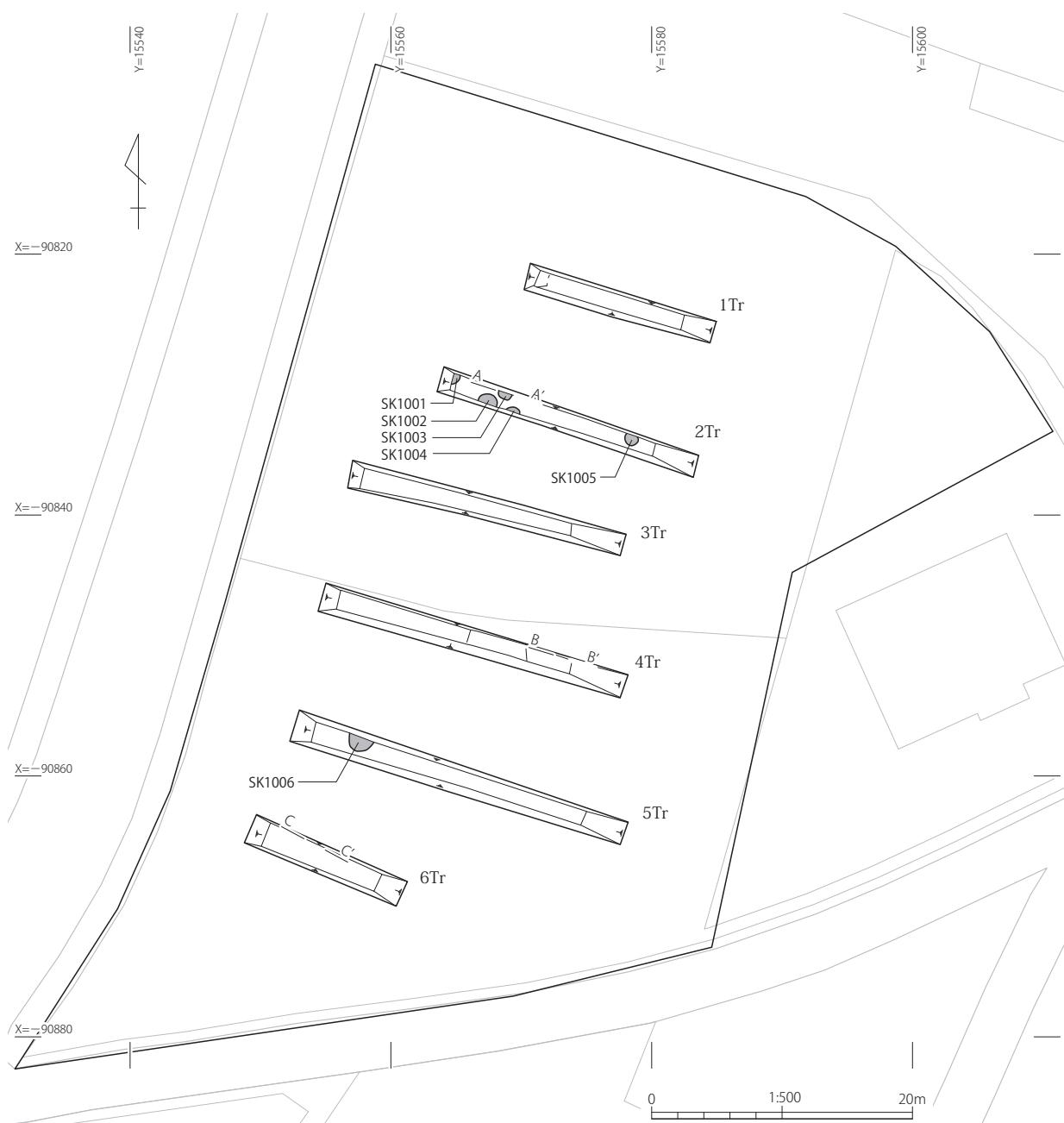
調査期間 令和5年4月10日～4月12日

調査の原因 工場建設

調査の概要 敷地内に6箇所のトレンチ (1～6Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。



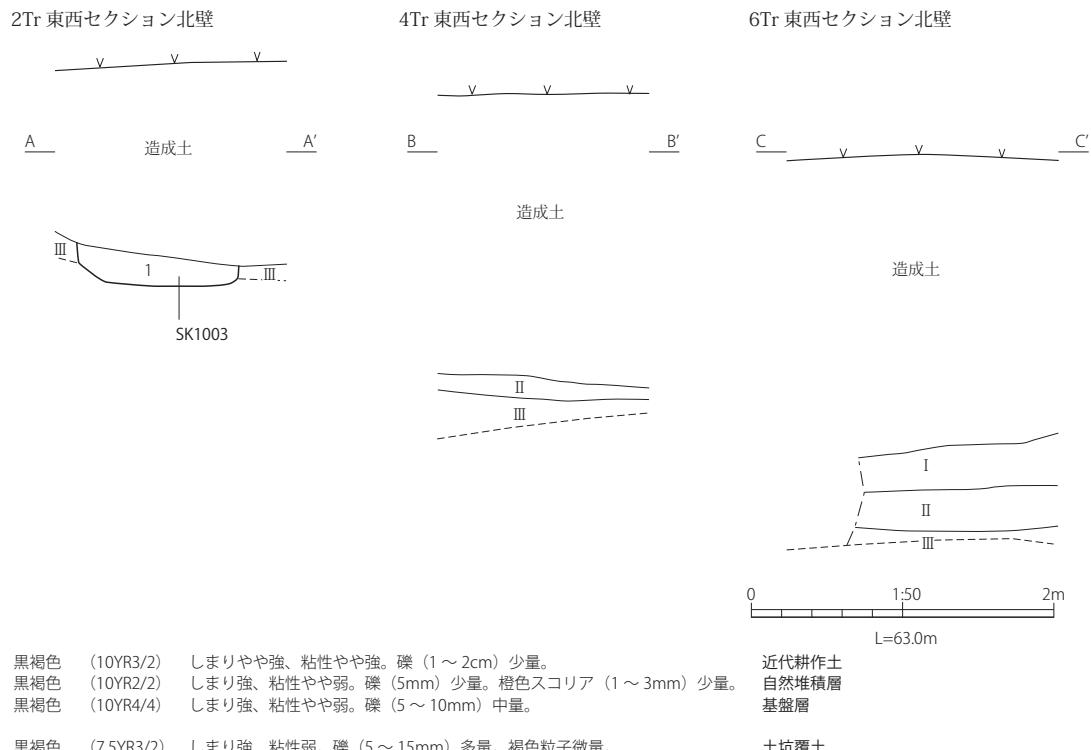
第8図 中原遺跡第33地区 位置図



第9図 中原遺跡第33地区 トレンチ配置図

調査の結果 地表下約1.2～2.5mで基盤層（Ⅲ層）を確認し、2Tr・5Trではその上面において近世以降とみられる土坑を検出したが、大淵スコリアを内包した自然堆積層が良好に遺存する6Trを含めて、中世以前に遡る遺構や遺物は検出されなかった。

以上のことから、調査地内に埋蔵文化財は存在しないものと判断できる。



第10図 中原遺跡第33地区 セクション図

5. 三新田遺跡 Q地区 1次調査

所 在 地 三新田4-11

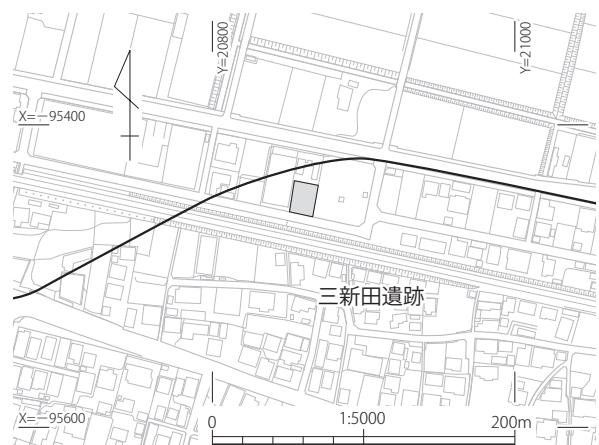
調査面積 7.392 m² (対象面積 338.23 m²)

調査期間 令和5年4月6日

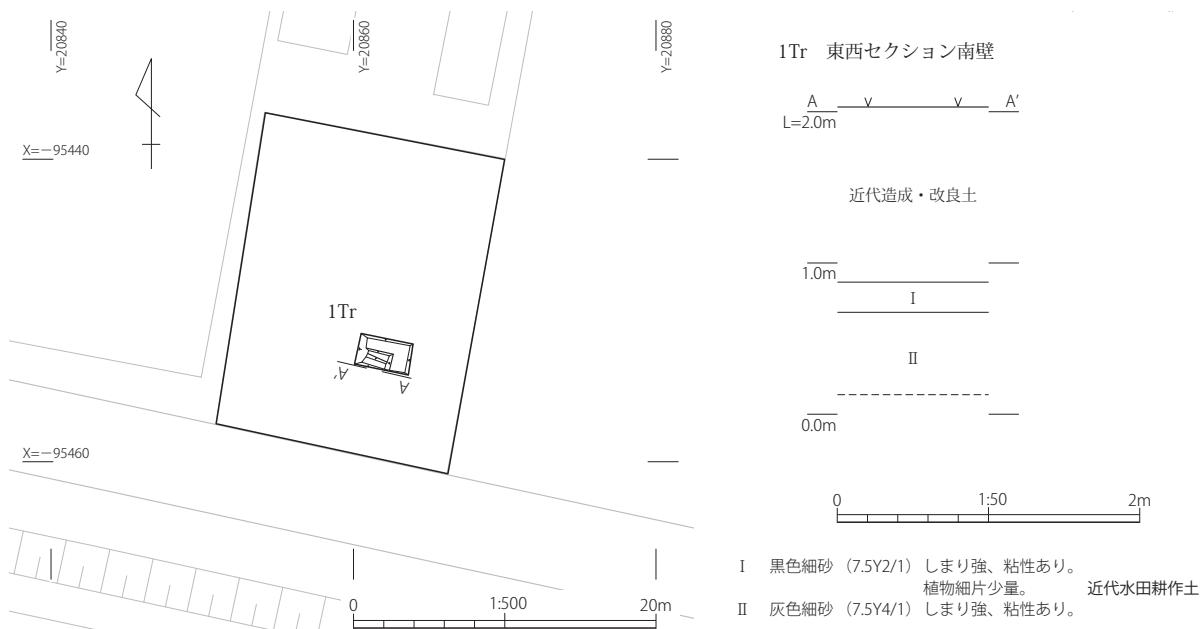
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下1.1m～1.9mにおいて旧水田耕作土や湿地性の砂層が認められたが、遺構や遺物は検出されなかった。調査地は旧浮島沼の縁辺部にあたり、居住に適さない環境であったと考えられる。



第11図 三新田遺跡Q地区 位置図



第12図 三新田遺跡Q地区 トレングチ配置図、セクション図

6. 舟久保遺跡 第77地区 1次調査

所 在 地 今泉六丁目 662-19

調査面積 2.128 m² (対象面積 104 m²)

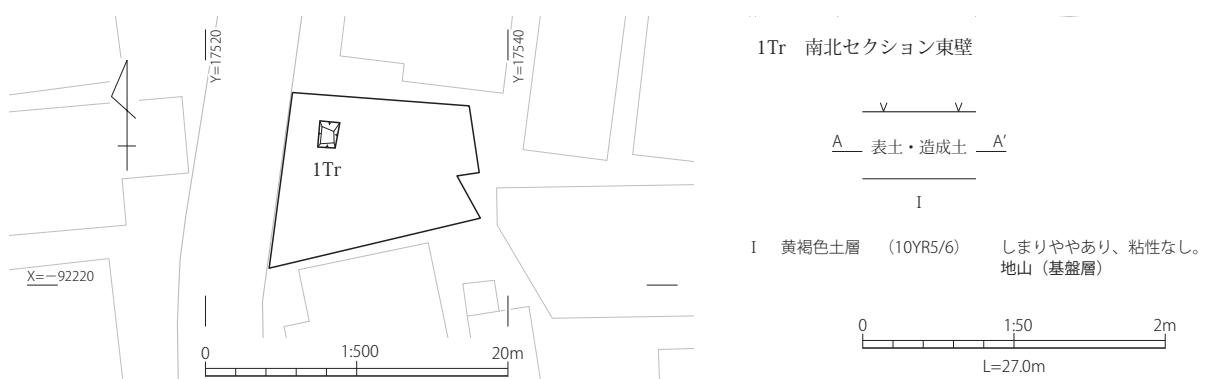
調査期間 令和5年4月12日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレングチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

調査地内では溶岩が露頭しており、表土直下30~40cmで溶岩が検出されたことから、古代の居住域としては適していなかったと推測される。そのため、埋蔵文化財は存在しないと結論付けられる。



第14図 舟久保遺跡第77地区 トレングチ配置図、セクション図



第13図 舟久保遺跡第77地区 位置図

7. 天間沢遺跡 第72地区1次調査

所 在 地 天間 1327-14

調査面積 4.971 m² (対象面積 163.72 m²)

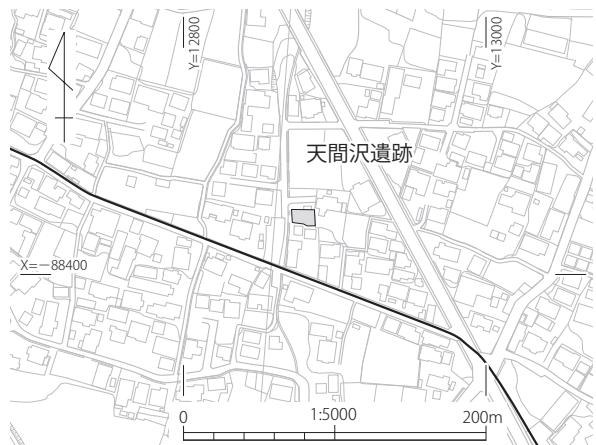
調査期間 令和5年4月19日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構は検出されなかった。

地表下1.5mで10~30cmの石で構成される旧河道を検出した。その上面から、平安時代の土器小片1点が出土したものの、遺物包含層は形成されず、河川の影響により上流から流れ込んだものと判断される。そのため、敷地内に埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第15図 天間沢遺跡第72地区 位置図



第16図 天間沢遺跡第72地区 トレンチ配置図、セクション図

8. 包蔵地外 亀窪遺跡隣接地（第1地区1次調査）

所 在 地 鵜無ヶ淵43外

調査面積 23.396 m² (対象面積 1,310 m²)

調査期間 令和5年4月14日

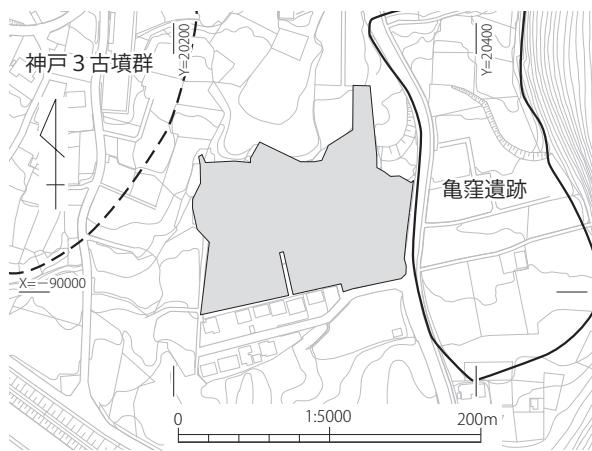
調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象地は包蔵地範囲外であるが、周知の埋蔵文化財包蔵地「亀窪遺跡」の西側に近接するため、試掘調査を行った。

包蔵地範囲に近い敷地内東側に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 大淵スコリアを含む土層は確認されたものの、その下層に遺物包含層は残存せず、溶岩が検出された。

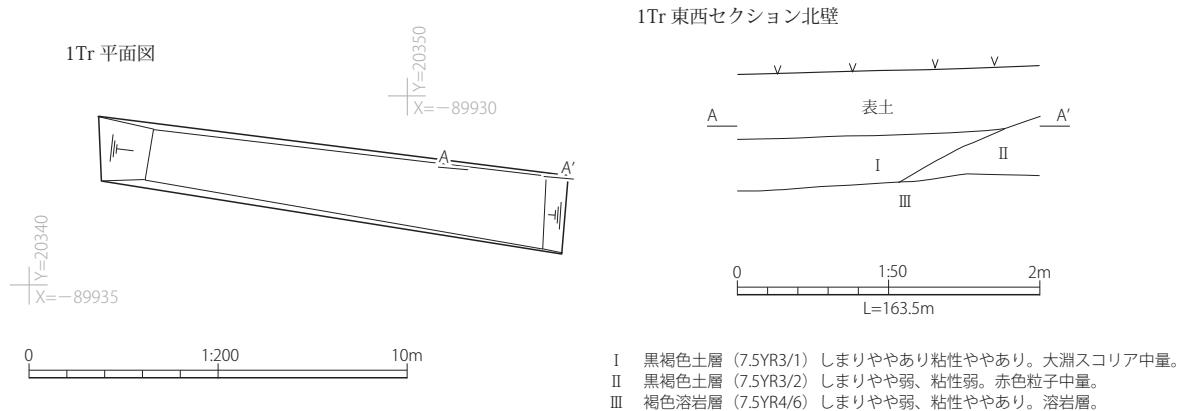
敷地内には埋蔵文化財は確認されなかった。



第17図 亀窪遺跡第1地区 位置図



第18図 亀窪遺跡第1地区 トレンチ配置図



第19図 龜窪遺跡第1地区 トレンチ平面図、セクション図

9. 善得寺廃寺跡 第9地区 1次調査

所在地 今泉三丁目 1067-1

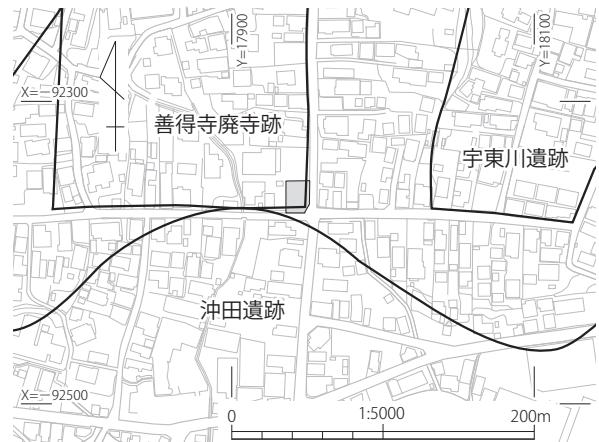
調査面積 3.636 m² (対象面積 370.53 m²)

調査期間 令和5年5月10日

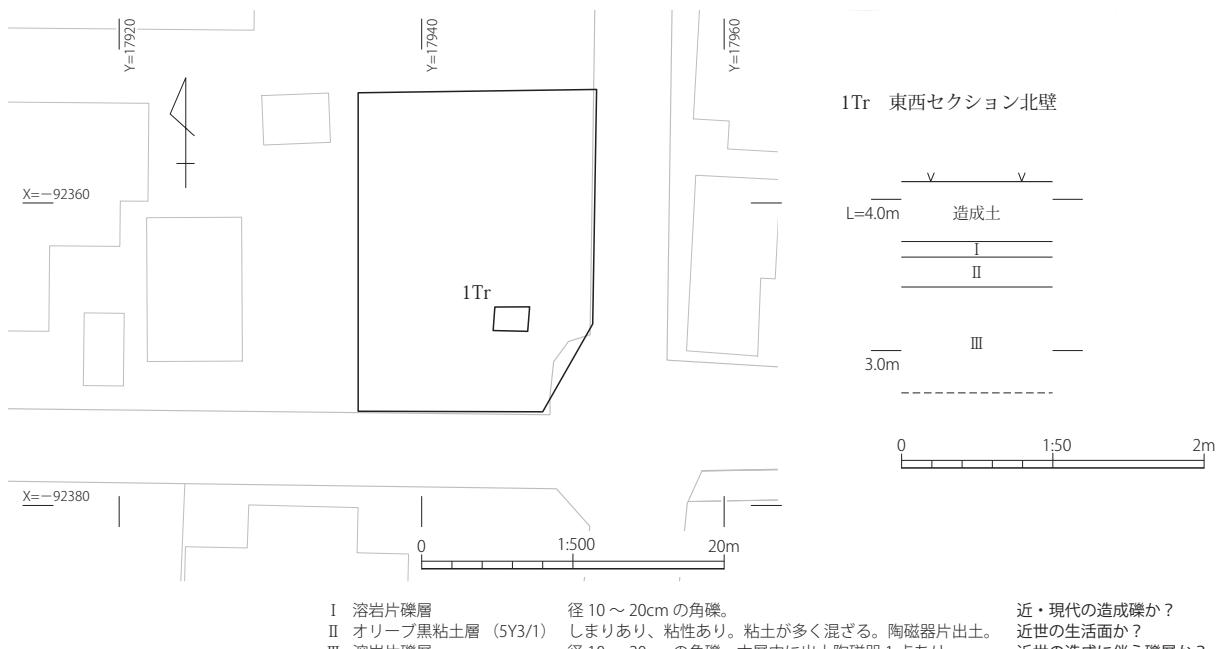
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 近世（幕末）と考えられる土地造成の痕跡が明らかとなったものの、中世に遡る遺構・遺物は発見されなかった。



第20図 善得寺廃寺跡第9地区 位置図



第21図 善得寺廃寺跡第9地区 トレンチ配置図、セクション図

10. 川窪遺跡 第7地区 2次調査・3次調査

所在 地 厚原 185-1

調査面積 2次 : 6.821 m² 3次 : 10.567 m²
(対象面積 1,378.54 m²)

調査期間 2次 : 令和5年4月26日

3次 : 令和5年11月21日

調査の原因 2次 : 不動産売買 3次 : 事務所建設

調査の概要 対象地では令和4年度に確認調査(1次調査)を実施し、古墳時代とみられる少量の土器片が出土している。

2次調査では敷地東側に2箇所(2~3Tr)、3次調査では南側に1箇所(4Tr)のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 2次調査では、3Trにおいて1次調査で土器片を検出した遺物包含層(IV層)の広がりを確認したが、遺構・遺物は見つからなかった。また、2Trでは旧地形が高くなり、遺物包含層が既に削平されている状況も判明した。



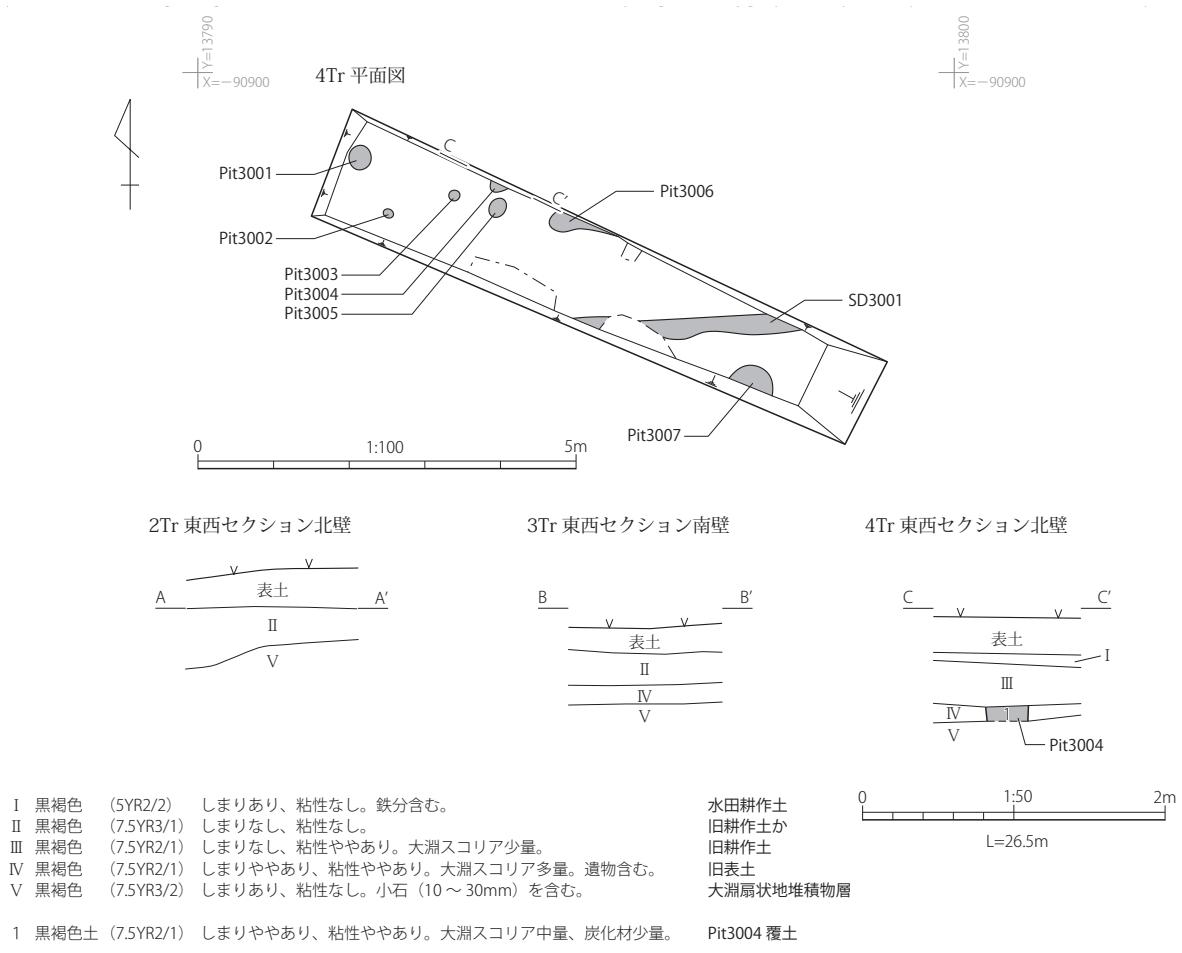
第22図 川窪遺跡第7地区 位置図

3次調査では、散漫な状況ではあるものの、古墳時代とみられる溝(SD3001)とピット(Pit3001~3007)を検出し、土師器が出土した。

これまでの調査結果から、敷地の北東部分を除いて、埋蔵文化財が残存すると結論付けられる。



第23図 川窪遺跡第7地区 トレンチ配置図



第24図 川窪遺跡第7地区 トレンチ平面図、セクション図

11. 児森遺跡 第4地区 1次調査

所 在 地 中里 1379-2

調査面積 22.930 m² (対象面積 353 m²)

調査期間 令和5年4月27日

調査の原因 宅地造成

調査の概要 敷地南半に2箇所のトレンチ (1~2Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

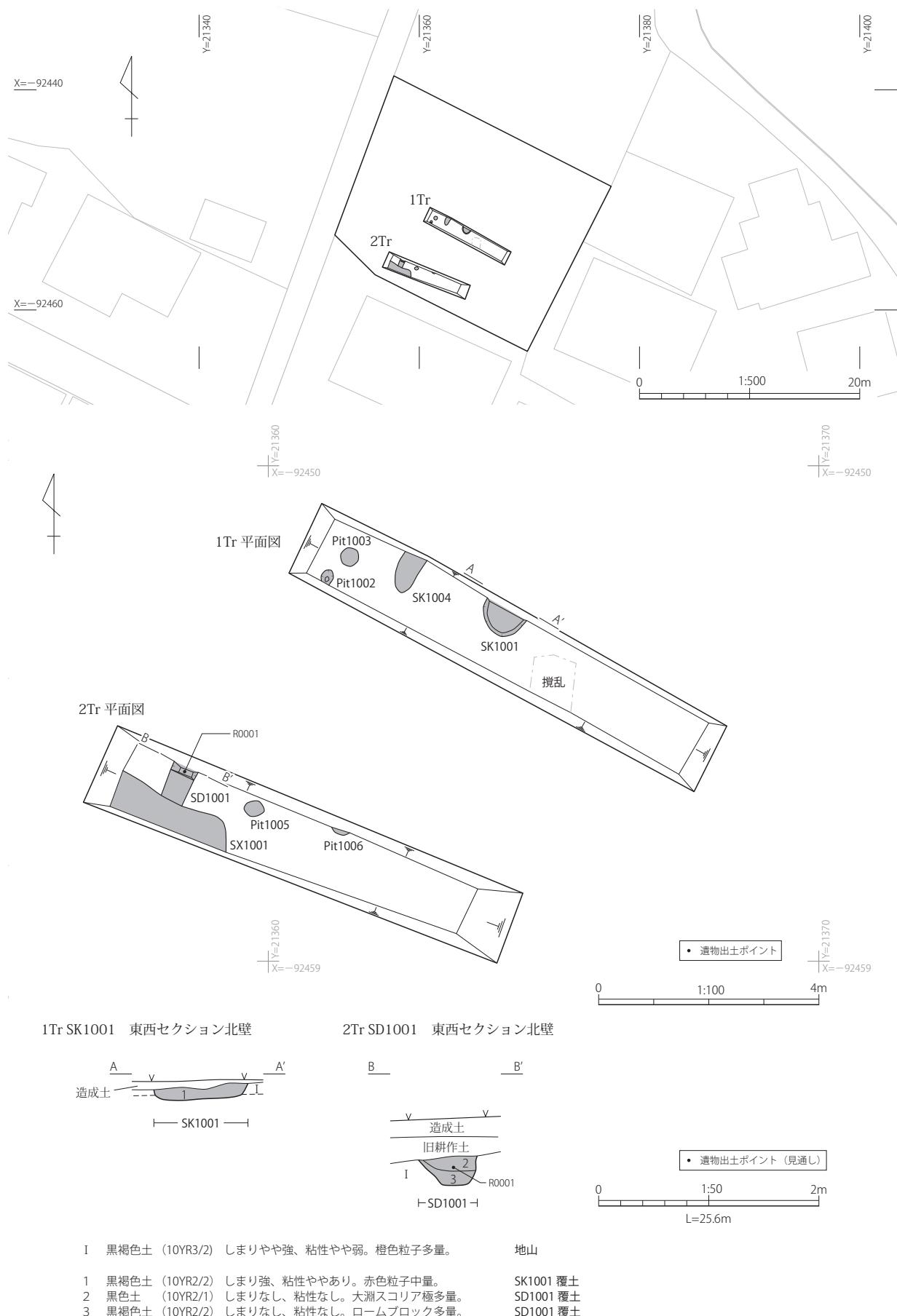
調査の結果 溝 (SD1001)、土坑・ピット (SK1001 ~ Pit1006)、不明遺構 (SX1001) などを検出した。

敷地中央に設定した1Trで検出された遺構は、覆土に大淵スコリアを含まないことや色調から、縄文時代の可能性も想定される。一方、敷地南側に設定した2Trの遺構は覆土に大淵スコリアを極多量に含むことから、古墳時代中期末頃の遺構と想定される。

遺物は古墳時代の土師器片が出土した。



第25図 児森遺跡第4地区 位置図



第26図 児森遺跡第4地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

12. 東平遺跡 第158地区1次調査

所 在 地 伝法2795-4外

調査面積 7.048 m² (対象面積 87.15 m²)

調査期間 令和5年6月28日

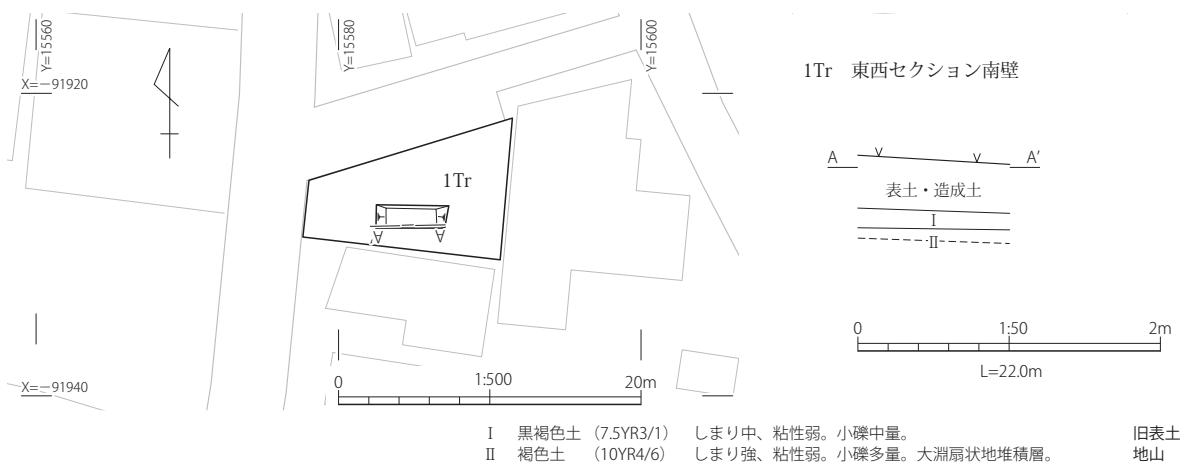
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 旧表土は残存するものの遺構・遺物は確認されなかった。埋蔵文化財が希薄なエリアと結論付けられる。



第27図 東平遺跡第158地区 位置図



第28図 東平遺跡第158地区 トレンチ配置図、セクション図

13. 富士岡1古墳群 第20地区1次調査

所 在 地 比奈2819-1

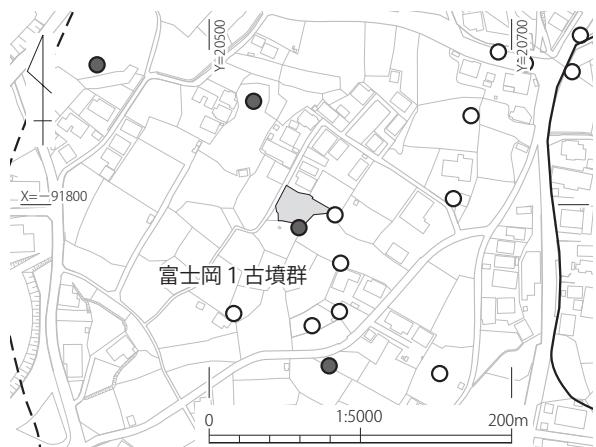
調査面積 6.165 m² (対象面積 318.41 m²)

調査期間 令和5年5月25日～5月26日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 敷地南東隅に設定した1Trの地表下約0.1mにおいて、横穴式石室墳の一部とみられる遺構(SZ1001)を検出した。古墳であれば、過去の分布調査で存在が確認されていた富士岡F-第66号墳の奥壁部分とみられ、南東に位置する敷地境界の石垣面まで石室が遺存する可能性が高い。遺物は出土しなかった。



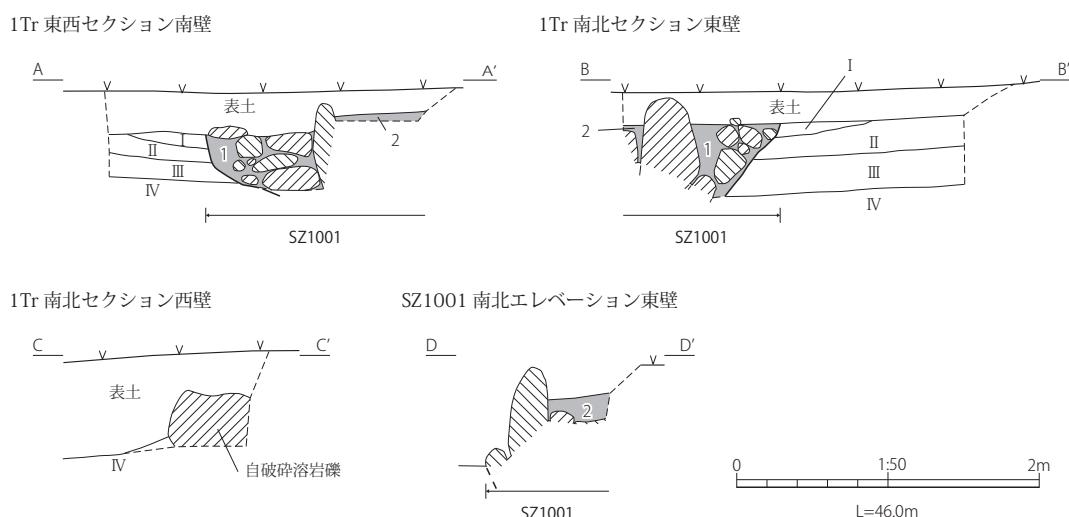
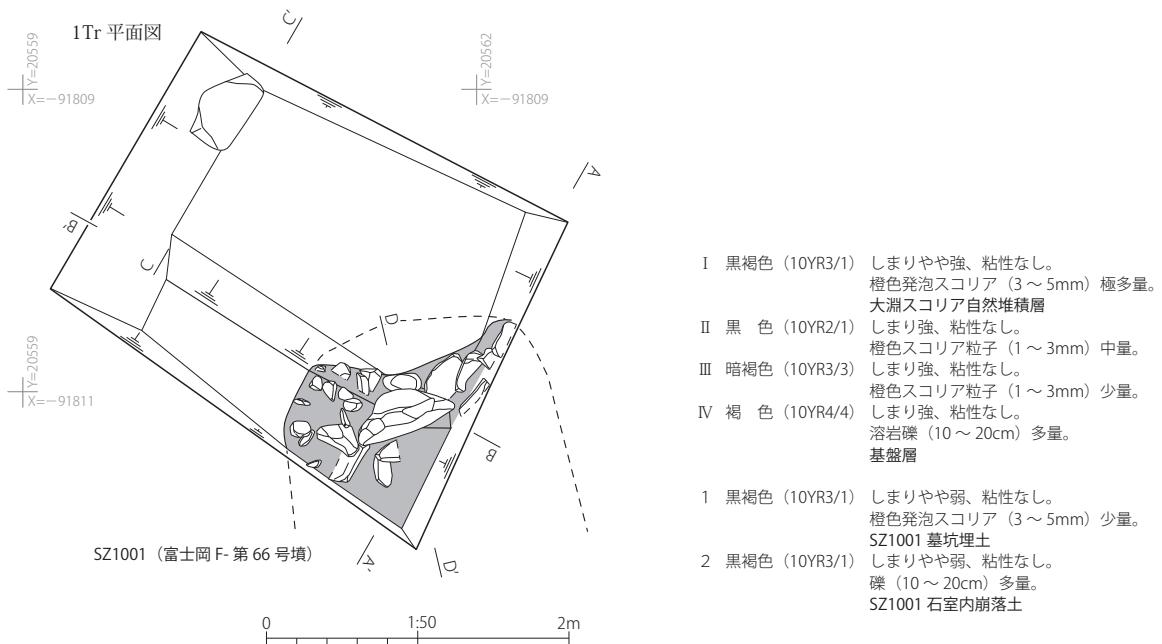
第29図 富士岡1古墳群第20地区 位置図

その他の敷地部分については、1Trの北西隅部で基盤層まで削平が及ぶことが確認できる点、敷地西側で溶岩の露頭がみられる点から、大部分が基盤層まで削平されていることが窺える。

以上の状況から、南東隅部の古墳を除いた敷地部分については、埋蔵文化財が存在しないものと判断できる。



第30図 富士岡1古墳群第20地区 トレンチ配置図



第31図 富士岡1古墳群第20地区 トレンチ平面図、セクション図

14. 比奈1古墳群 第12地区 1次調査・2次調査

所 在 地 比奈 2359-1 外

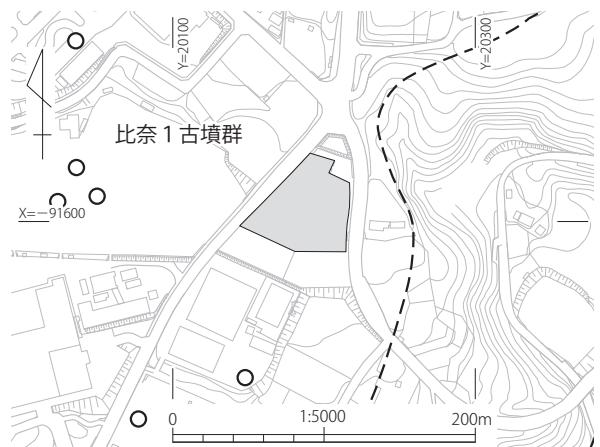
調査面積 1次 : 156.969 m² 2次 : 58.430 m²
(対象面積 2,998.28 m²)

調査期間 1次 : 令和5年6月5日～6月7日

2次 : 令和5年7月12日～7月18日

調査の原因 店舗建設

調査の概要 1次調査では敷地西半部分に8箇所(1～8Tr)、2次調査では敷地東半部分に5箇所(9～13Tr)のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。



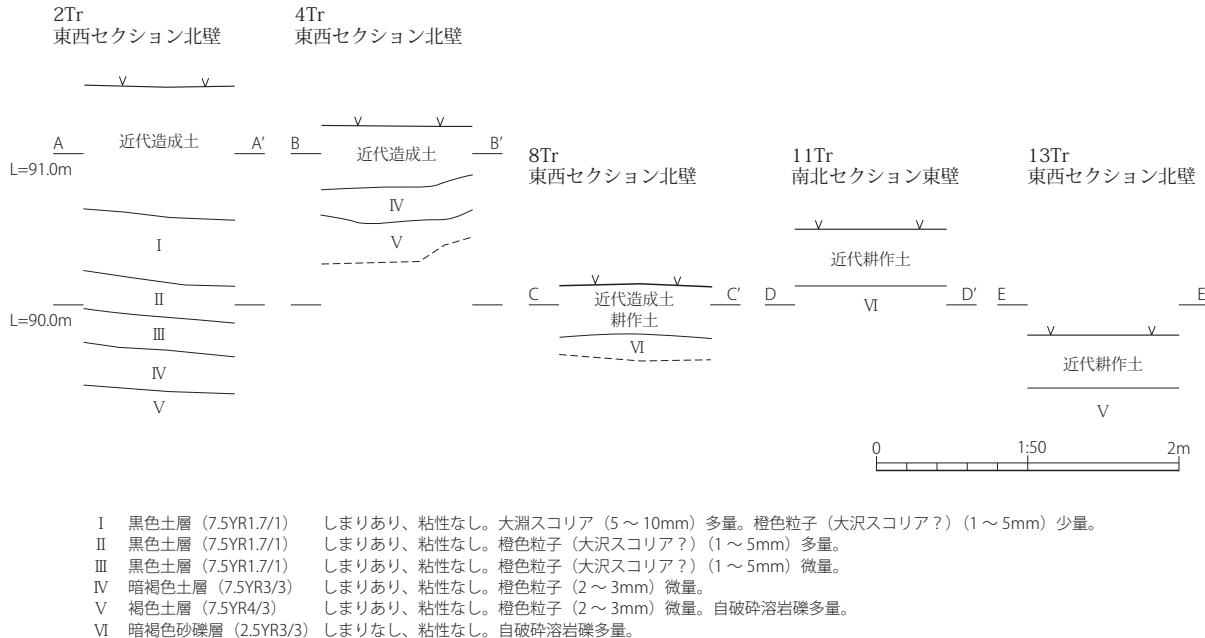
第32図 比奈1古墳群第12地区 位置図



第33図 比奈1古墳群第12地区 トレンチ配置図

調査の結果 調査地は南側や西側の道路一帯から北東方向に向かって降る傾斜地に位置するが、4Tr・10Tr以南ではいずれも表土直下の浅い位置で溶岩礫の層を検出しておらず、埋蔵文化財が遺存しないことを確認した。

傾斜面に位置する北側の2Tr・3Tr・9Tr周辺には大淵スコリアを含む古墳時代の自然堆積層が良好に遺存していたため、その上下の層を中心に精査したもの、遺構や遺物は検出されなかった。



第34図 比奈1古墳群第12地区 セクション図

15. 沖田遺跡 第170次調査地点1次調査

所在地 今泉二丁目 124-5外

調査面積 9.279 m² (対象面積 1,066.25 m²)

調査期間 令和5年6月8日

調査の原因 不動産売買

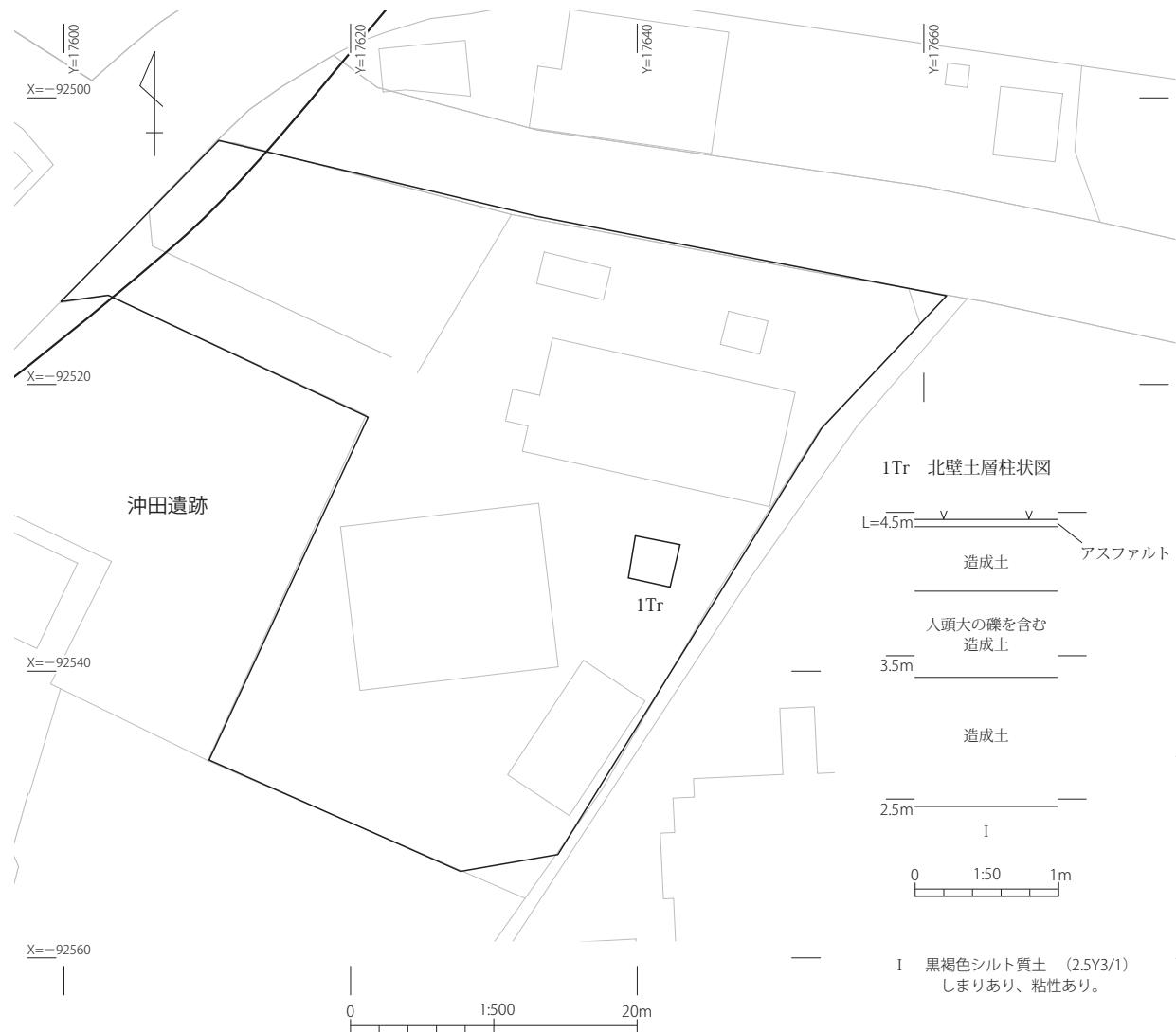
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下2.0mまでは現代の造成土が存在することが確認された。さらに下層には黒褐色シルト質土が堆積していることが確認されたが、湧水やそれに伴う調査区壁の崩落が激しく、安全面から調査を継続することができなかつた。

遺構・遺物は確認されていない。



第35図 沖田遺跡第170次調査地点 位置図



第36図 沖田遺跡第170次調査地点 トレンチ配置図、セクション図

16. 川坂遺跡 第14地区1次調査

所 在 地 天間 845-6 外

調査面積 17.983 m² (対象面積 380.05 m²)

調査期間 令和5年6月21日

調査の原因 不動産売買

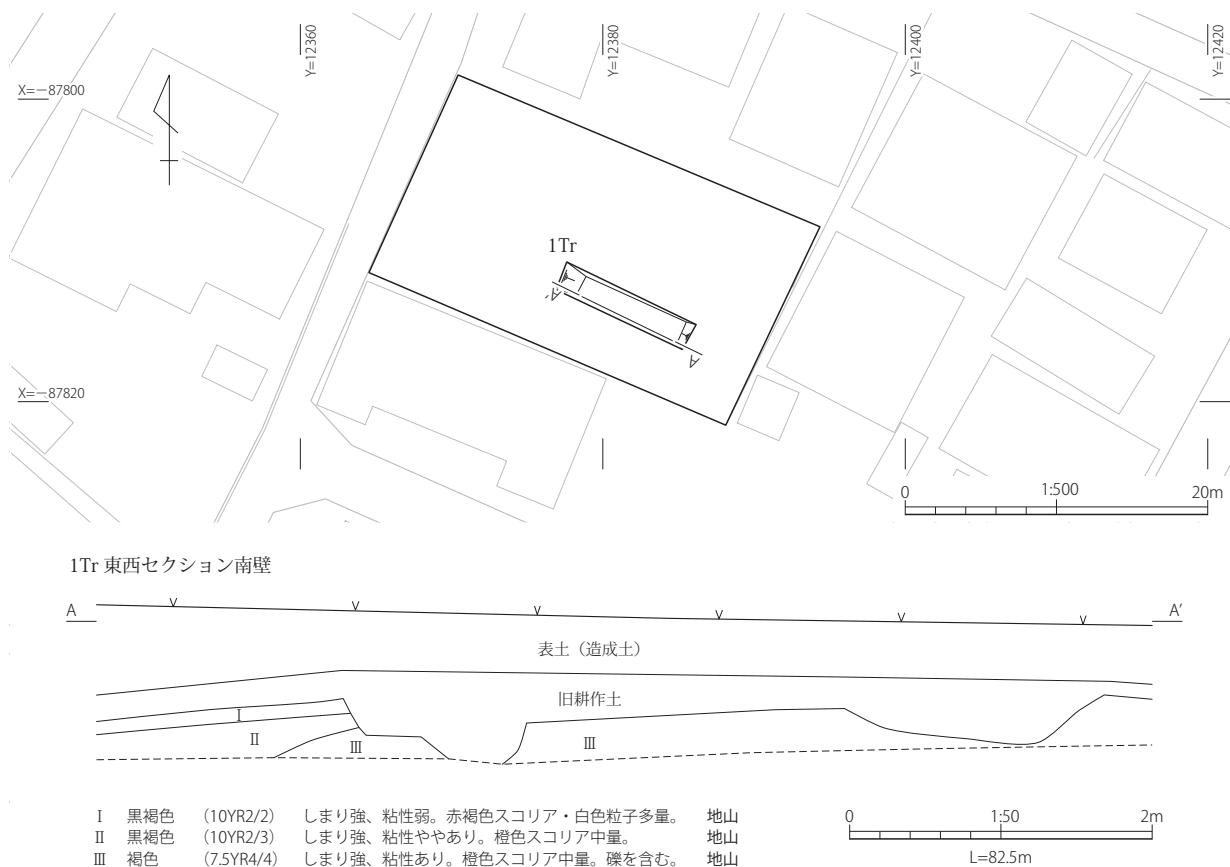
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ (1Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

土地全体が削平を受けており、古墳時代以降の遺構検出面が残存しないことが明らかとなつた。そのため、敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第37図 川坂遺跡第14地区 位置図



第38図 川坂遺跡第14地区 トレンチ配置図、セクション図

17. 東平遺跡 第121地区2次調査

所 在 地 伝法2502-1外

調査面積 9.233 m² (対象面積 178.62 m²)

調査期間 令和5年6月13日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 調査地では令和元年度に1次調査を実施し、奈良時代とみられる溝とピット、土器片が出士している。

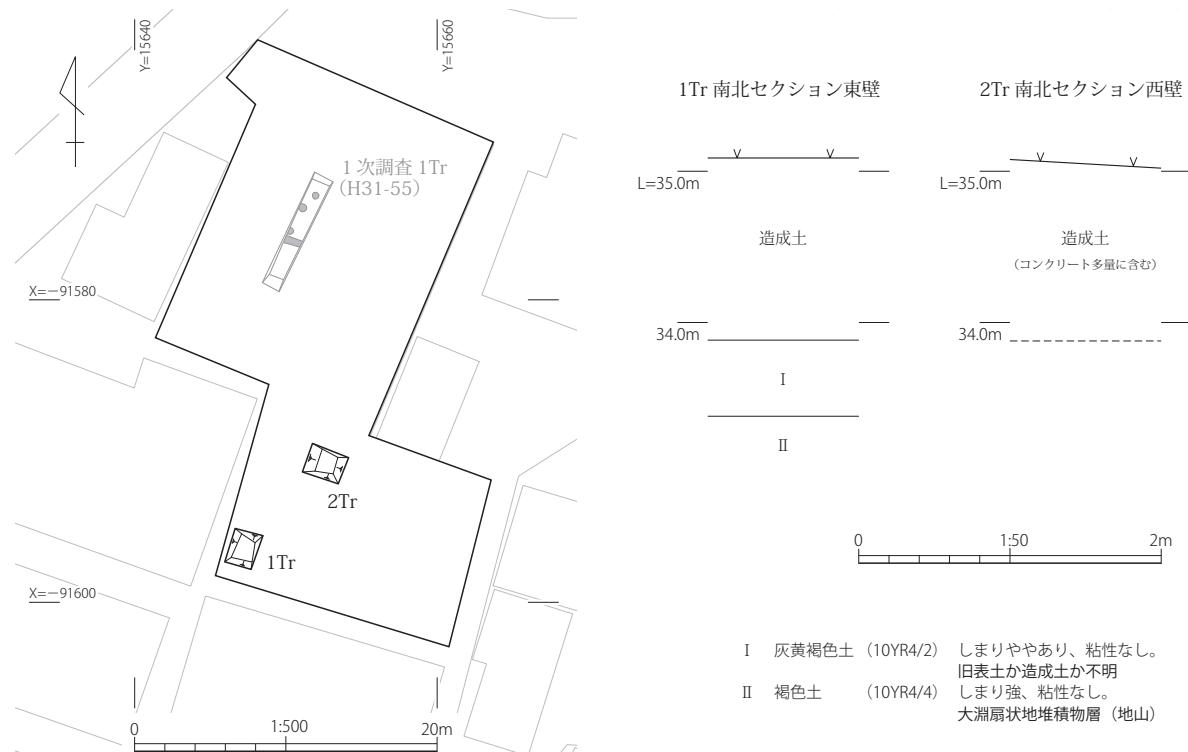
敷地南側に2箇所のトレンチ(1～2Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 敷地全体に大規模な盛り土がなされており、地表下約2.0mにおいて漸く地山を検出した。

安全面等から調査面積に制限があったものの、遺構・遺物は確認されなかった。



第39図 東平遺跡第121地区 位置図



第40図 東平遺跡第121地区 トレンチ配置図、セクション図

18. 国久保遺跡 第13地区 1次調査

所 在 地 国久保三丁目 2245-23 外

調査面積 5.982 m² (対象面積 135 m²)

調査期間 令和5年6月14日～6月15日

調査の原因 不動産売買

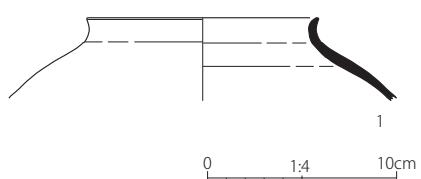
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下0.3mにおいて、奈良・平安時代の遺物包含層(I・II層)を検出し、当該期の土器が出土した。第42図1は1Trで出土した須恵器の短頸壺である。肩部は丸く張り、頸部はごく短く、口縁端部は外反する。

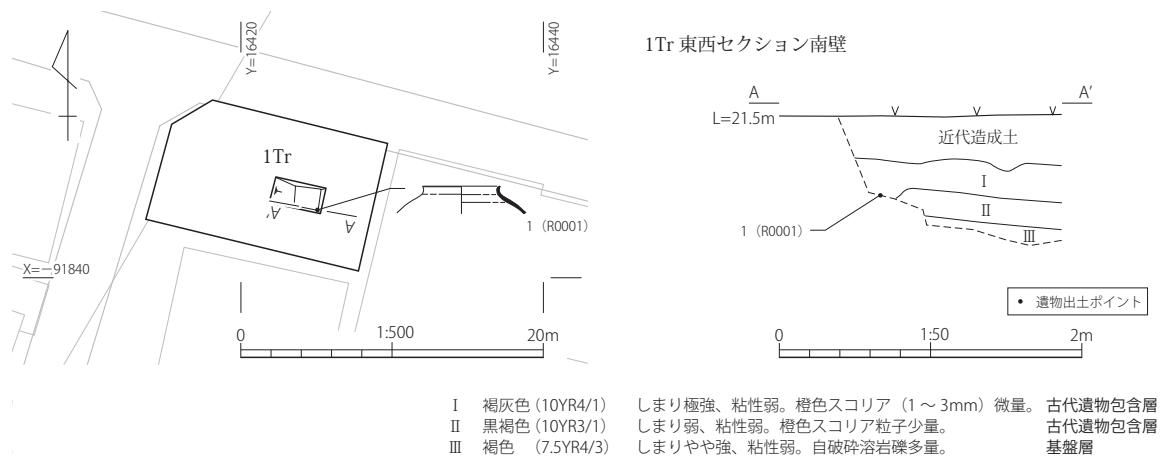
敷地北側に広がる耕作地においても多量の土器片が散布することから、敷地内やその周辺に古代の集落が広がっていた可能性が高い。



第41図 国久保遺跡第13地区 位置図



第42図 国久保遺跡第13地区 出土遺物実測図



第43図 国久保遺跡第13地区 トレンチ配置図、セクション図

第3表 国久保遺跡第13地区 出土遺物観察表

報告番号	挿図番号	写真図版	R番号(PC点)	R番号(一括)	出土場所	種別	細別	時代	法量(cm)			焼成率	内面色調	外面色調	備考	
									口径	底径	器高					
1 第42図	PL.6		0001	1Tr	須恵器	短頸壺	奈良・平安	[12.0]	—	(4.4)	良好	20%	2.5Y6/1	黄灰	2.5Y7/1	灰白

19. 国久保遺跡 第14地区 1次調査

所在 地 国久保二丁目 2003-6 外

調査面積 5.247 m² (対象面積 198 m²)

調査期間 令和5年7月24日

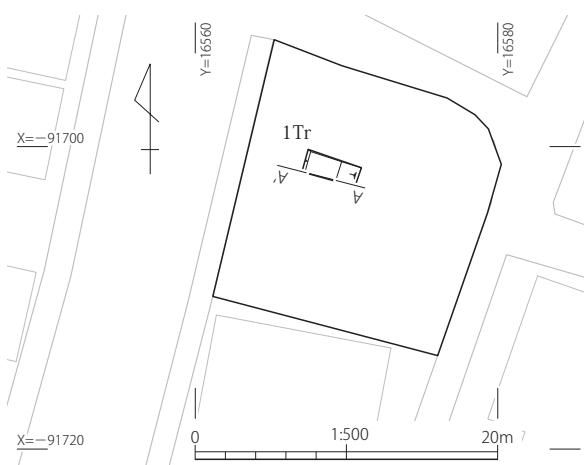
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

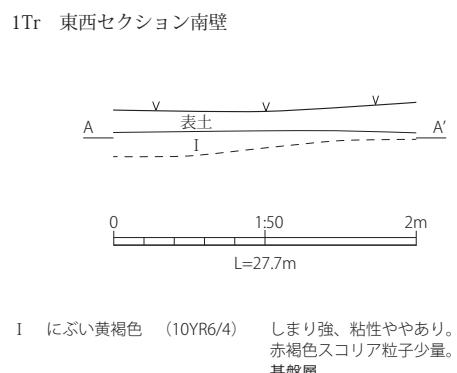
調査の結果 土地全体が削平を受けており、遺構・遺物は確認されなかった。そのため、敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第44図 国久保遺跡第14地区 位置図



第45図 国久保遺跡第14地区 トレンチ配置図、セクション図



I にぶい黄褐色 (10YR6/4) しまり強、粘性ややあり。
赤褐色スコリア粒子少量。
基盤層

20. 神谷古墳群 第13地区1次調査・2次調査

所 在 地 神谷 846-4 外

調査面積 1次 : 33.563 m² 2次 : 5.512 m²
(対象面積 1,231 m²)

調査期間 1次 : 令和5年6月28日～7月19日
2次 : 令和5年11月21日～11月22日

調査の原因 公園整備

調査の概要 調査地には富士市指定史跡「千人塚古墳」が所在し、また、古墳の可能性がある巨石も散乱している。

1次調査では千人塚古墳の西側や古墳とみられる巨石の周囲を中心に9箇所のトレンチ(1～9Tr)を設定し、2次調査では敷地北西隅に1箇所のトレンチ(10Tr)を設定し、重機による掘削を行った後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 敷地内の南西部分において横穴式石室墳(SZJ-12／須津J-第12号墳)を検出したほか、東側では富士市指定史跡である千人塚古墳(須津J-第10号墳)の周溝の一部を検出した。

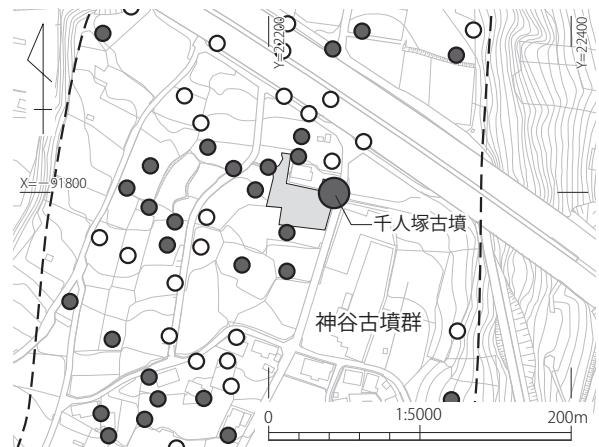
SZJ-12は西側部分を中心に近代耕作に伴う改変が著しいものの、奥壁から東側壁については1～2段程度が残存することを確認できたほか、東側や北側では墓坑や周溝の一部も検出した。

千人塚古墳で今回検出された周溝は、平成18年度調査(第5地区4次調査2Tr)で検出したものとほぼ同規模(幅約3.0m)であり、指定地域外である石室南西部分に周溝が良好に遺存することを確認できた。

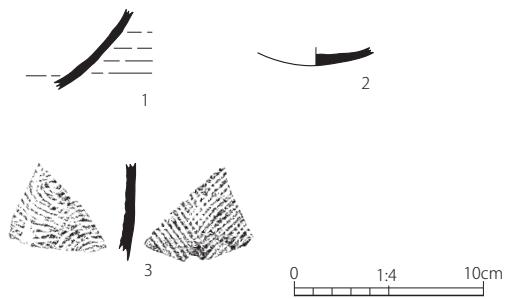
敷地北西隅の10Trでは、基盤層であるIV層上面から須恵器の小片1点を検出したものの、顕著な遺物の広がりや遺構は確認できなかった。

第4表 神谷古墳群第13地区 出土遺物観察表

報告番号	挿図番号	写真図版	R番号(PC点) R番号(一括)	出土場所	種別	細別	時代	法量(cm)			焼成率	残存率	内面色調	外面色調	備考
								口径	底径	器高					
1	第47図	PL.9	0004	5Tr SZJ-12 石室覆土	須恵器			—	—	(4.1)	良好	-	2.5Y7/1	灰白	2.5Y5/1 黄灰 2と同一か
2	第47図	PL.9	0007	5Tr SZJ-12	須恵器			—	—	(1.0)	良好	50%	2.5Y7/1	灰白	2.5Y6/1 黄灰 1と同一か
3	第47図	PL.9	0003	8Tr	須恵器	甕		—	—	(5.2)	良好	-	2.5Y6/1	黄灰	2.5Y6/1 黄灰

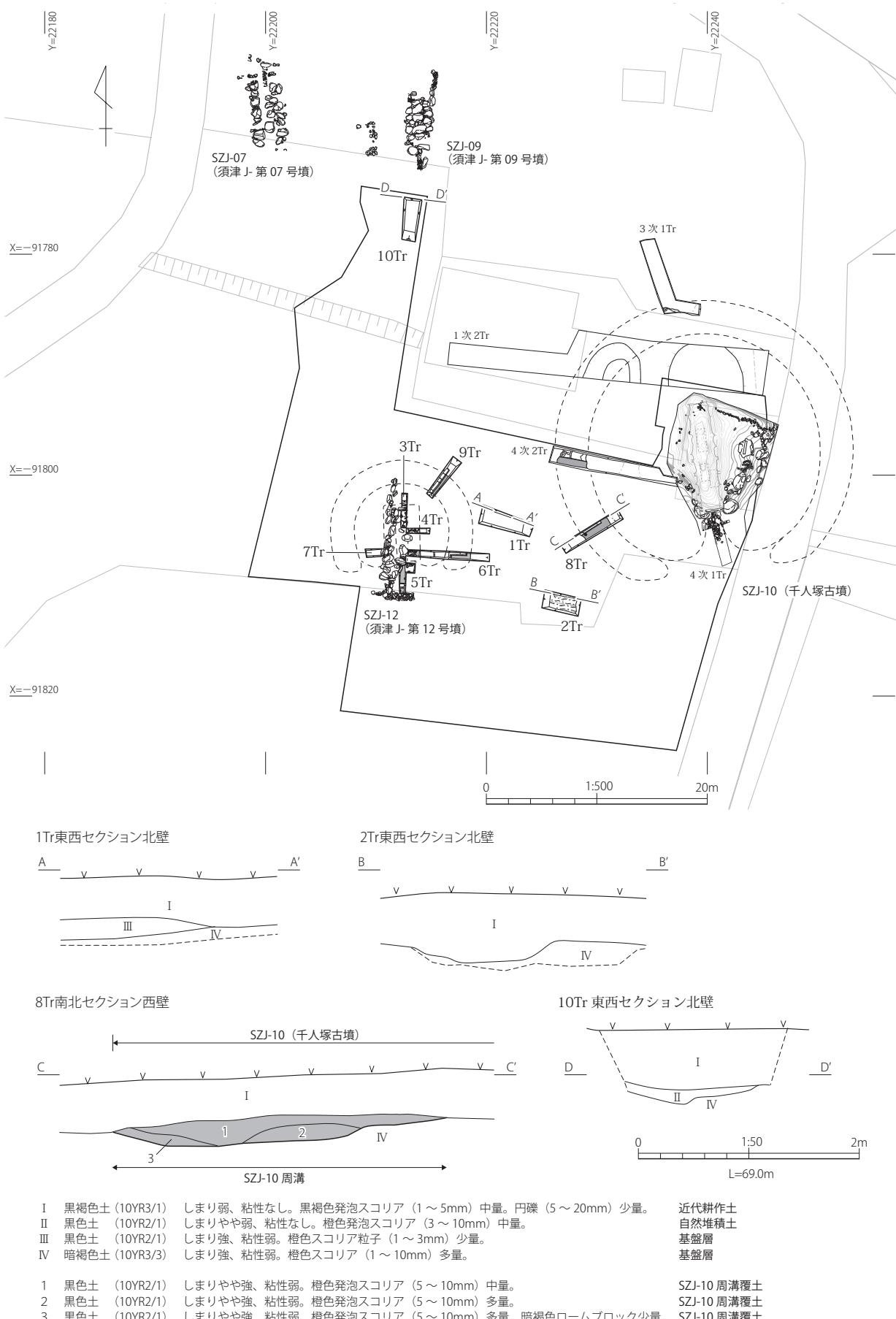


第46図 神谷古墳群第13地区 位置図

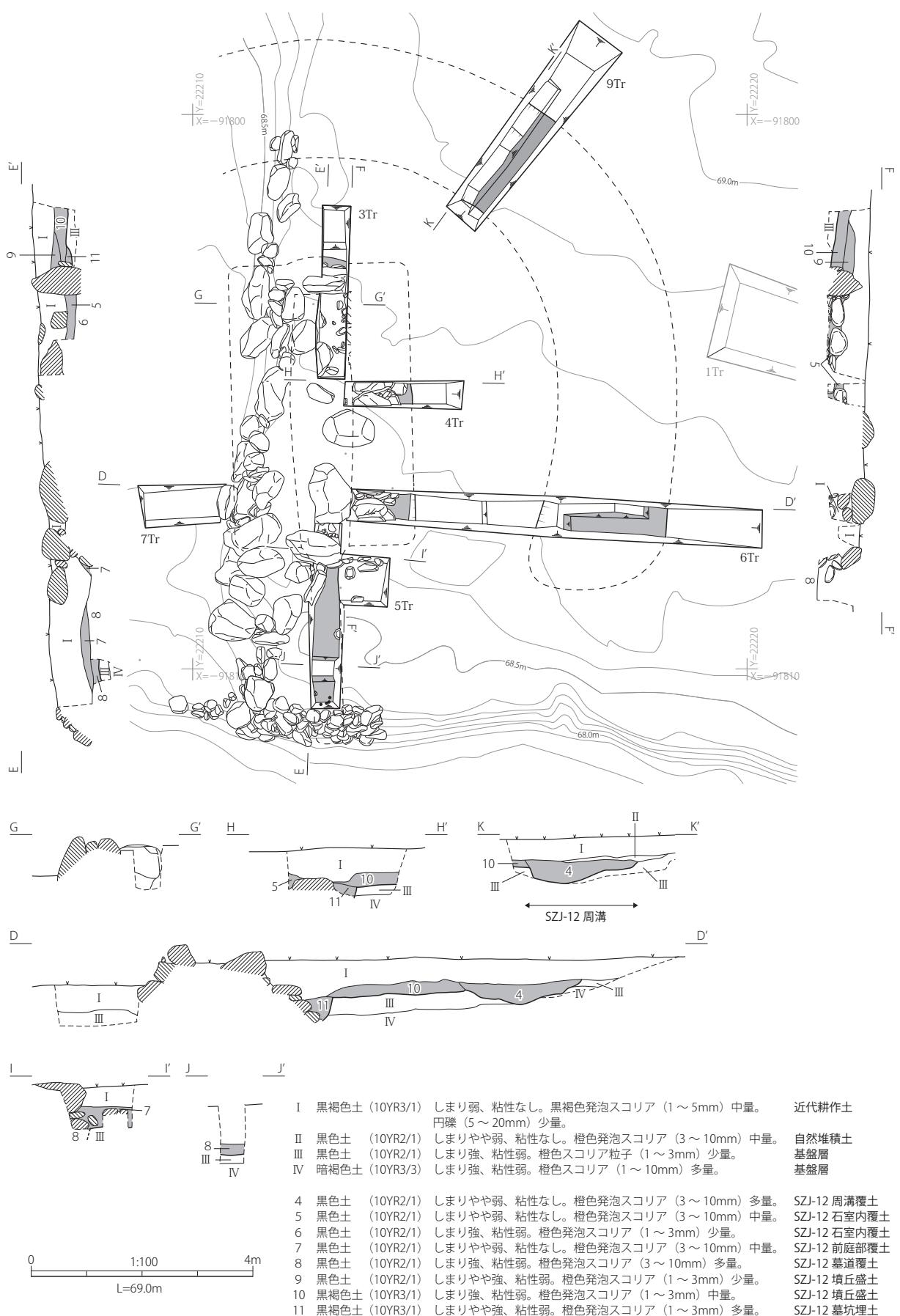


第47図 神谷古墳群第13地区 出土遺物実測図

遺物は、少量の須恵器片が出土し、3点を図示した。第47図1・2は5Tr(SZJ-12)から出土した体部片と丸底の底部片である。いずれも内外面は滑らかに整えられている。器種は特定できないが、同一個体の可能性がある。3は8Trで出土した甕の胴部片である。外面にタタキ痕、内面にオサエ痕が明瞭に残る。



第48図 神谷古墳群第13地区 トレンチ配置図、セクション図



第49図 神谷古墳群第13地区 SZJ12 平面図、セクション図

21. 沢東 A 遺跡 第31次調査地点 1次調査

所在 地 久沢 180-2

調査面積 14.555 m² (対象面積 618.45 m²)

調査期間 令和5年8月17日

調査の原因 不動産売買

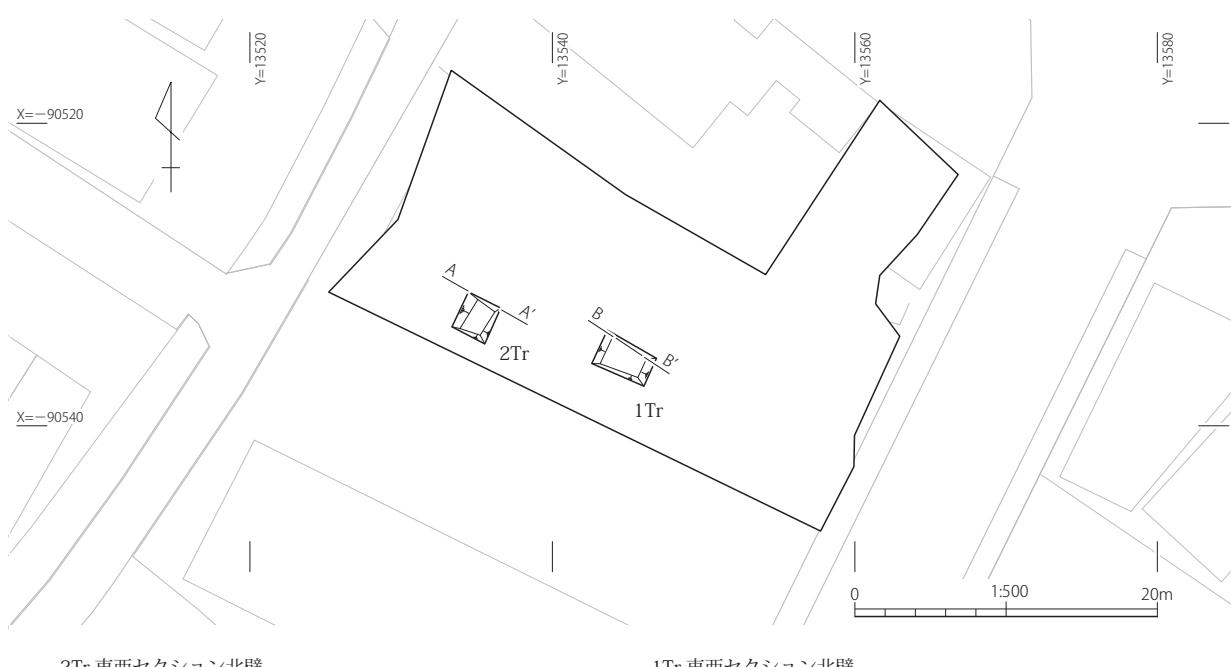
調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ (1~2Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。

そのため、敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。

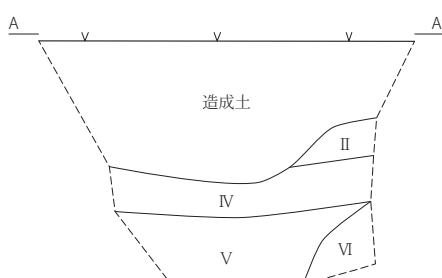


第50図 沢東A遺跡第31次調査地点 位置図

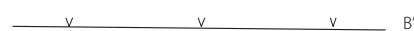


2Tr 東西セクション北壁

1Tr 東西セクション北壁



I	黒褐色 (7.5YR3/2)	しまりあり、粘性なし。
II	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりあり、粘性なし。
III	極暗褐色 (7.5YR2/3)	しまりあり、粘性なし。
IV	極暗褐色 (7.5YR2/3)	しまりあり、粘性なし。
V	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりあり、粘性なし。
VI	極暗褐色 (7.5YR2/3)	しまりあり、粘性なし。



造成土

0	1:50	2m
$L=32.4m$		

第51図 沢東A遺跡第31次調査地点 トレンチ配置図、セクション図

22. 厚原横道下遺跡 第7地区 1次調査

所 在 地 厚原 1200-4 外

調査面積 4.721 m² (対象面積 167.65 m²)

調査期間 令和5年7月28日

調査の原因 事務所建設

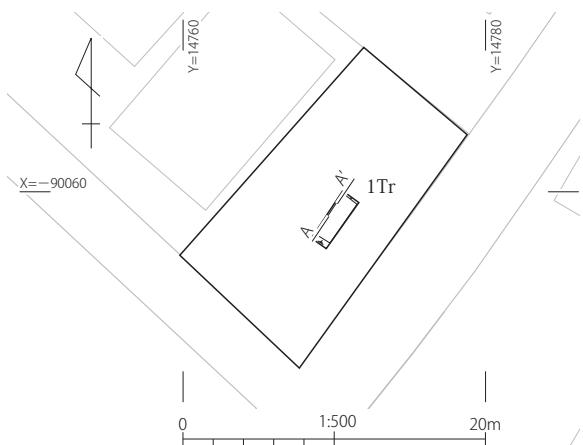
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。

そのため、敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第52図 厚原横道下遺跡第7地区 位置図



第53図 厚原横道下遺跡第7地区 トレンチ配置図、セクション図

23. 柏原遺跡 第22地区 1次調査

所 在 地 中柏原新田 187-1 外

調査面積 13.340 m² (対象面積 493.21 m²)

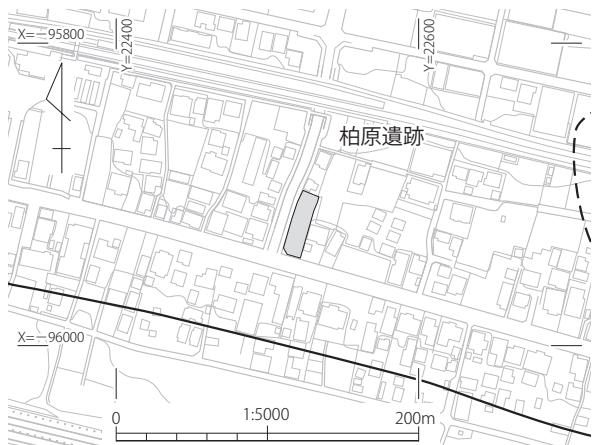
調査期間 令和5年8月17日～8月18日

調査の原因 不動産売買

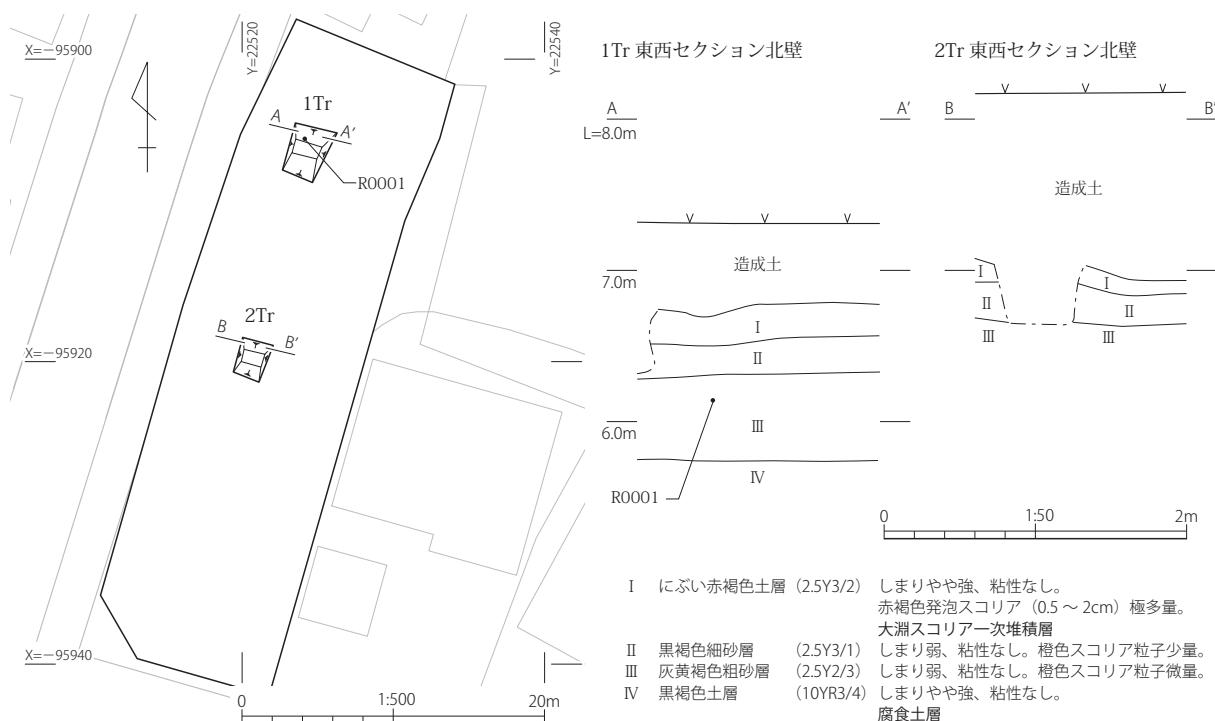
調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ(1～2Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 1Trの地表下約1.2m(Ⅲ層)において古墳時代の土師器片を検出したものの、器壁の摩滅が多く、流れ込みの可能性が考えられる。また、その上下の層を中心に精査したものの、遺構を検出することはできなかった。

以上のことから、当該地においては集落の広がりは認められないと判断できる。



第54図 柏原遺跡第22地区 位置図



第55図 柏原遺跡第22地区 トレンチ配置図、セクション図

24. 天間沢遺跡 第73地区 1次調査

所在地 天間 1022-1

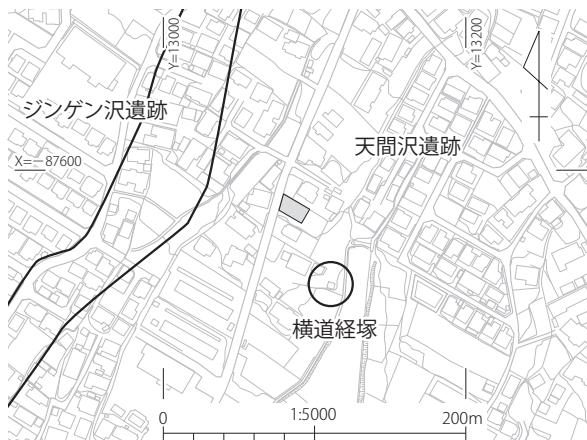
調査面積 14.221 m² (対象面積 473.57 m²)

調査期間 令和5年8月28日

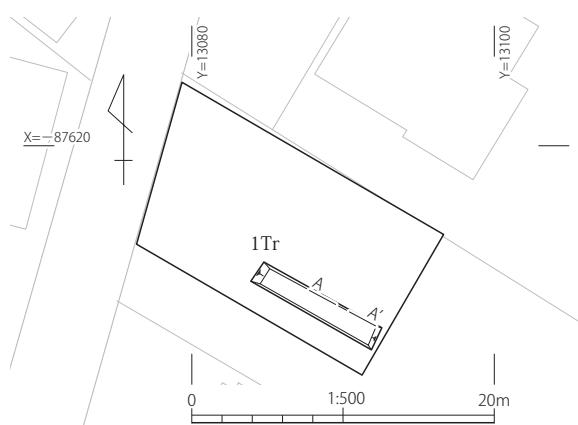
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。土地全体が大規模に削平を受けていることから、敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第56図 天間沢遺跡第73地区 位置図



第57図 天間沢遺跡第73地区 トレンチ配置図、セクション図

25. 宇東川遺跡 第34地区 1次調査

所 在 地 原田 691-4 外

調 査 面 積 50.484 m² (対象面積 1,731 m²)

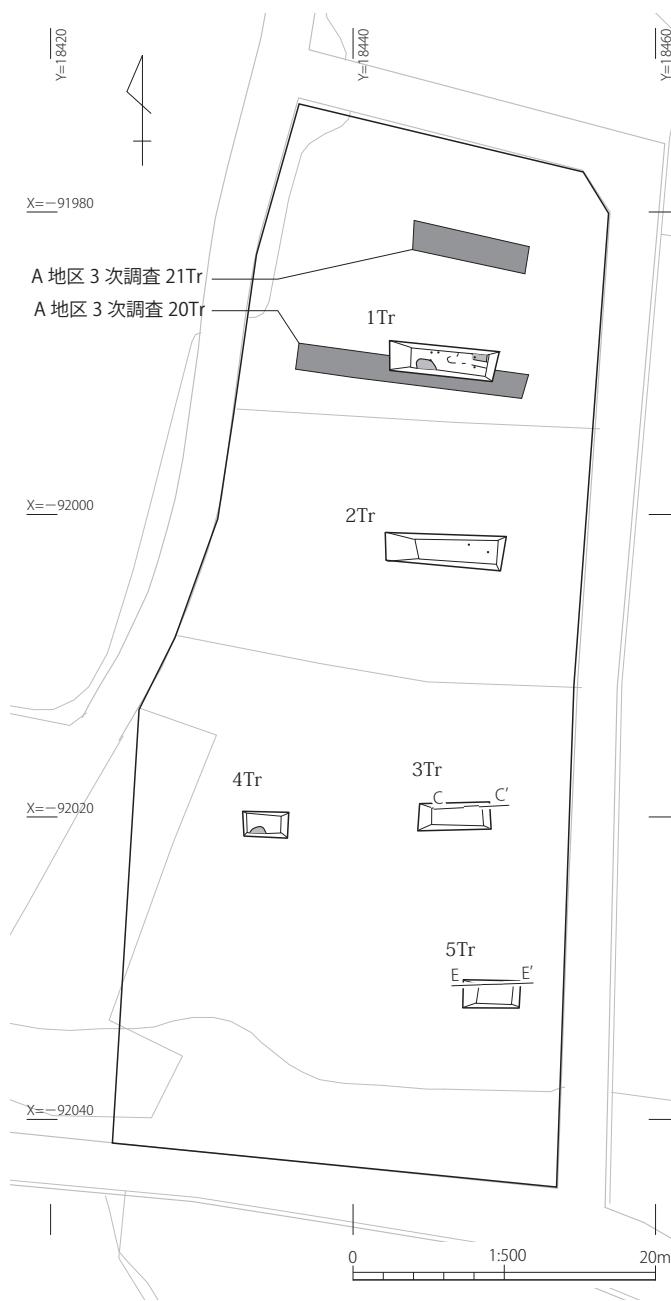
調 査 期 間 令和5年8月24日～8月25日

調査の原因 公園整備

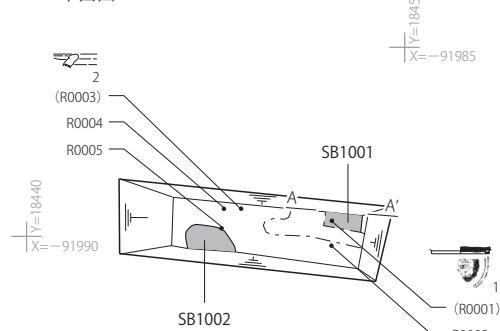
調査の概要 敷地内に5箇所のトレンチ (1～5Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。



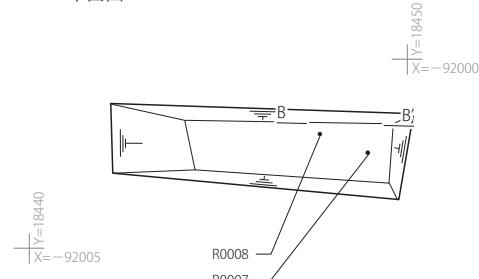
第58図 宇東川遺跡第34地区 位置図



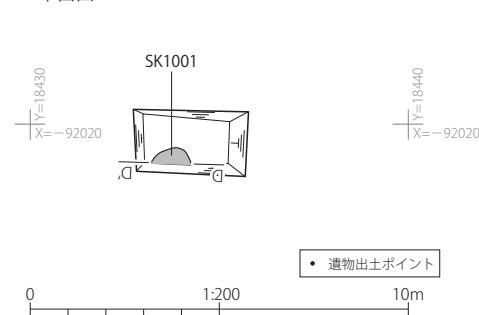
1Tr 平面図



2Tr 平面図



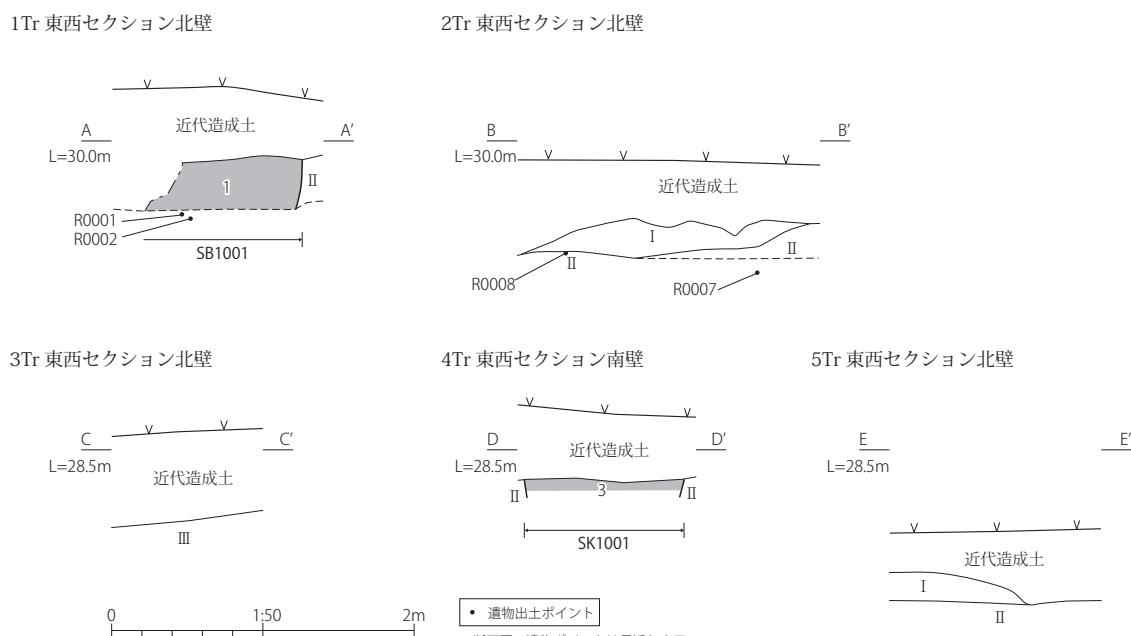
4Tr 平面図



第59図 宇東川遺跡第34地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図

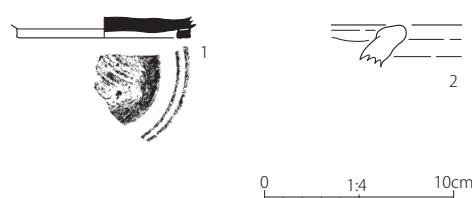
調査の結果 1Tr・2Tr・4Trでは地表下0.4mにおいて古墳～平安時代の遺構や縄文時代の遺物包含層（I層）を、5Trでは地表下0.3mにおいて縄文時代の遺物包含層を検出した。平成18年度に実施したA地区3次調査（20・21Tr）でも遺構・遺物を検出しておらず、敷地北側一帯に古代の集落が広がっていた可能性が高い。一方、3Trは削平が著しく、埋蔵文化財が遺存しないことを確認した。

遺物は、縄文土器・土師器・須恵器が出土し、2点を図示した。第61図1は1Tr SB1001で出土した須恵器高台壺の底部である。底面は回転ヘラケズリ後、中心を木口で整え、断面方形の高台を貼り付けている。2は土師器甕の口縁部片である。口縁端部が内側に肥厚する。



I 黒褐色土層 (10YR3/2)	しまり強、粘性なし。橙色スコリア粒子少量。	縄文包含層
II 暗褐色土層 (10YR3/3)	しまり強、粘性弱。溶岩礫 (1~10cm) 中量。	基盤層
III 褐色土層 (10YR3/4)	しまり強、粘性弱。溶岩礫 (10~30cm) 多量。	
1 黒褐色土層 (10YR3/1)	しまり強、粘性なし。黒色発泡スコリア (0.5~1cm) 中量。	SB1001 覆土
2 にぶい黄褐色粘土層 (10YR5/3)	しまり強、粘性弱。粘土層。	SB1002 カマド粘土 (※平面図のみ)
3 黒褐色土層 (10YR3/2)	しまり強、粘性弱。橙色スコリア粒子少量。にぶい黄褐色ブロック中量。	SK1001 覆土

第60図 宇東川遺跡第34地区 セクション図



第61図 宇東川遺跡第34地区 出土遺物実測図

第5表 宇東川遺跡第34地区 出土遺物観察表

報告番号	挿図番号	写真図版	R番号(PC点)	出土場所	種別	細別	時代	法量(cm)			焼成率	残存率	内面色調	外面色調	備考
								口径	底径	器高					
1	第61図	PL.25	0001	1Tr SB1001	須恵器	壺		-	高台径 [9.1]	(1.1)	良好	20%	2.5Y7/1	灰白	2.5Y7/1 灰白
2	第61図	-	0003	1Tr	土師器	甕		-	-	(2.2)	良好	-	5YR4/2	灰褐	5YR5/3 にぶい赤褐

26. 外原遺跡 第1地区 1次調査

所 在 地 北松野 616-1 外

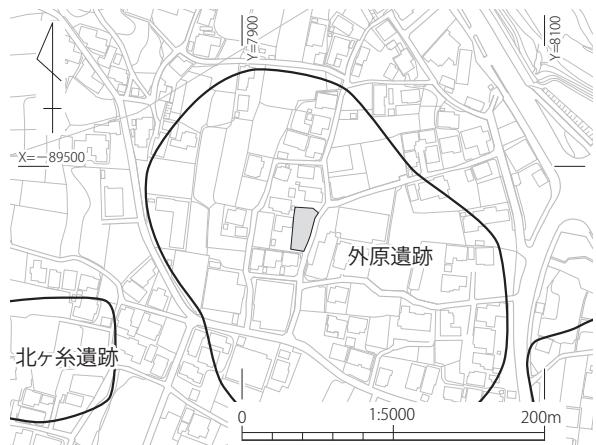
調 査 面 積 1.200 m² (対象面積 298 m²)

調 査 期 間 令和5年8月24日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第62図 外原遺跡第1地区 位置図



1Tr 南北セクション西壁

A — v — v — A'

造成土

I

0 1:50 2m
L=57.3m

I 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性ややあり。
径1cmほどの小石少量。
地山

第63図 外原遺跡第1地区 トレンチ配置図、セクション図

27. 富士岡1古墳群 第21地区 1次調査

所 在 地 比奈 1704-1

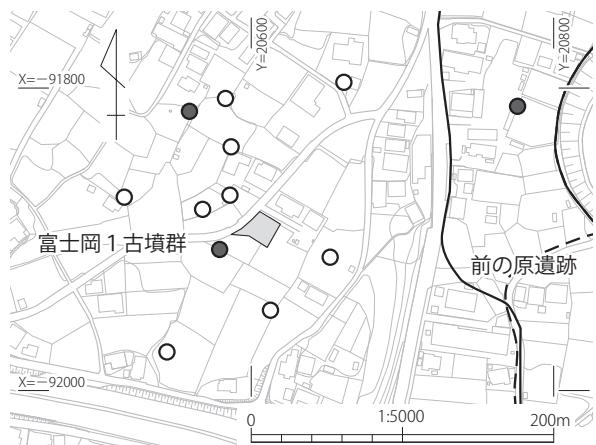
調 査 面 積 23.903 m² (対象面積 299.47 m²)

調 査 期 間 令和5年8月30日～8月31日

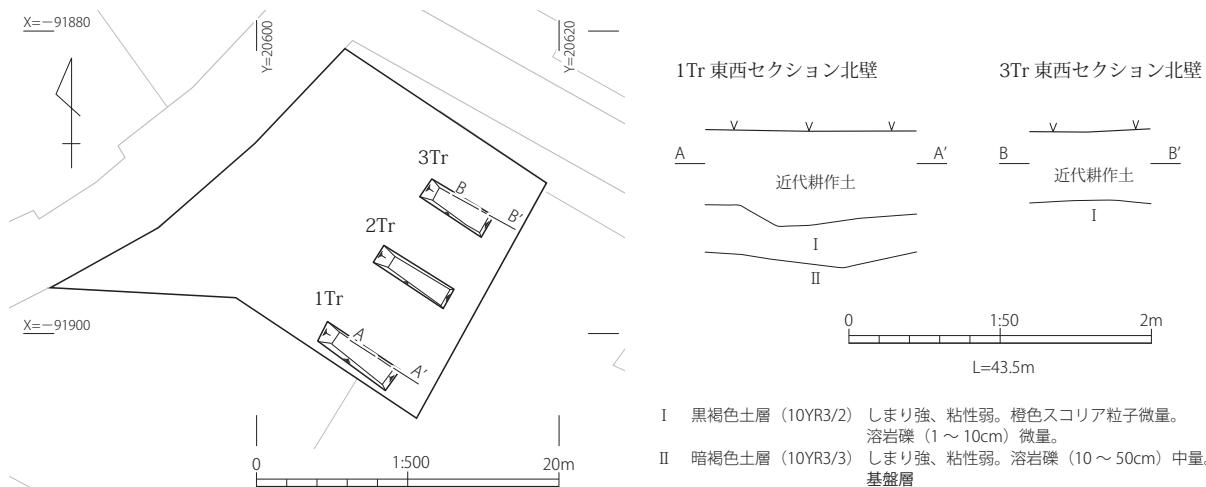
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に3箇所のトレンチ(1～3Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 調査地は北西から南東方向に向かって緩やかに降る傾斜地に位置し、自然堆積層が比較的良好に遺存する敷地東側を中心に精査したものの、遺構や遺物は検出されなかった。



第64図 富士岡1古墳群第21地区 位置図



第65図 富士岡1古墳群第21地区 トレンチ配置図、セクション図

28. 東平遺跡 第159地区 1次調査

所 在 地 伝法2505-1

調査面積 10.449 m² (対象面積 128.9 m²)

調査期間 令和5年9月4日

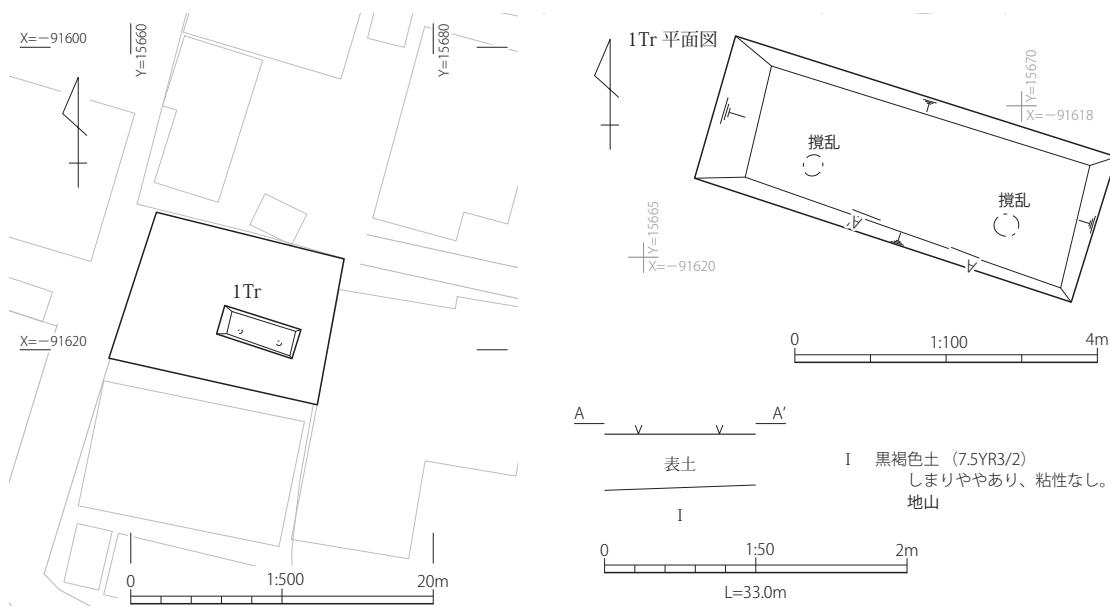
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構検出面が削平されており、遺構・遺物は確認されなかった。敷地内に埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第66図 東平遺跡第159地区 位置図



第67図 東平遺跡第159地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

29. 舟久保遺跡 第78地区1次調査

所 在 地 今泉九丁目 1510-2

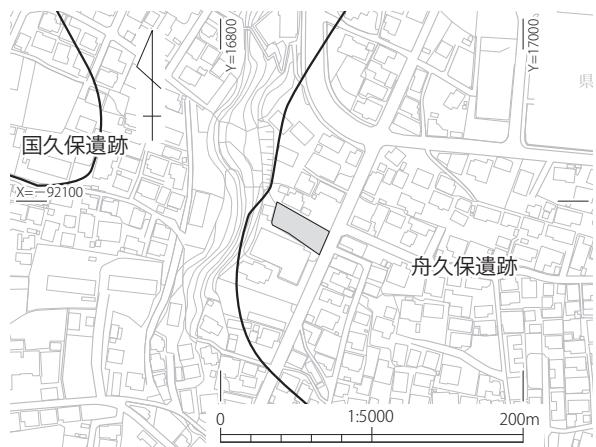
調 査 面 積 9.456 m² (対象面積 519 m²)

調 査 期 間 令和5年8月29日

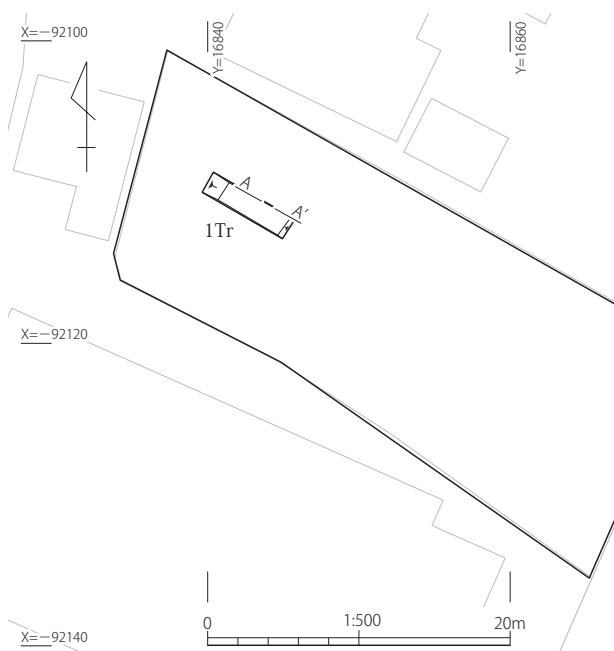
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 旧表土は残存するものの、遺構・遺物は検出されなかった。敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。

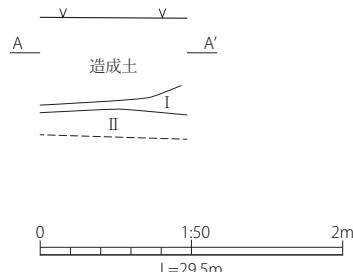


第68図 舟久保遺跡第78地区 位置図



第69図 舟久保遺跡第78地区 トレンチ配置図、セクション図

1Tr 東西セクション北壁



I 黒色 (10YR2/1) しまり弱、粘性ややあり。
大淵スコリア少量。

II にぶい黄褐色 (10YR5/4) しまり強、粘性なし。

礫・橙色スコリア多量。

30. 善得寺城跡・東泉院跡

第10地区1次調査・2次調査

所 在 地 今泉八丁目 1370-6外

調 査 面 積 1次 : 4.438 m² 2次 : 7.525 m²

(対象面積 494.66 m²)

調 査 期 間 1次 : 令和5年9月11日

2次 : 令和5年10月23日～10月25日

調査の原因 個人住宅建設



第70図 善得寺城跡・東泉院跡第10地区 位置図

調査の概要 1次調査で敷地南寄りに1箇所(1Tr)、2次調査で敷地北寄りに1箇所(2Tr)のトレントを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構は確認されなかった。

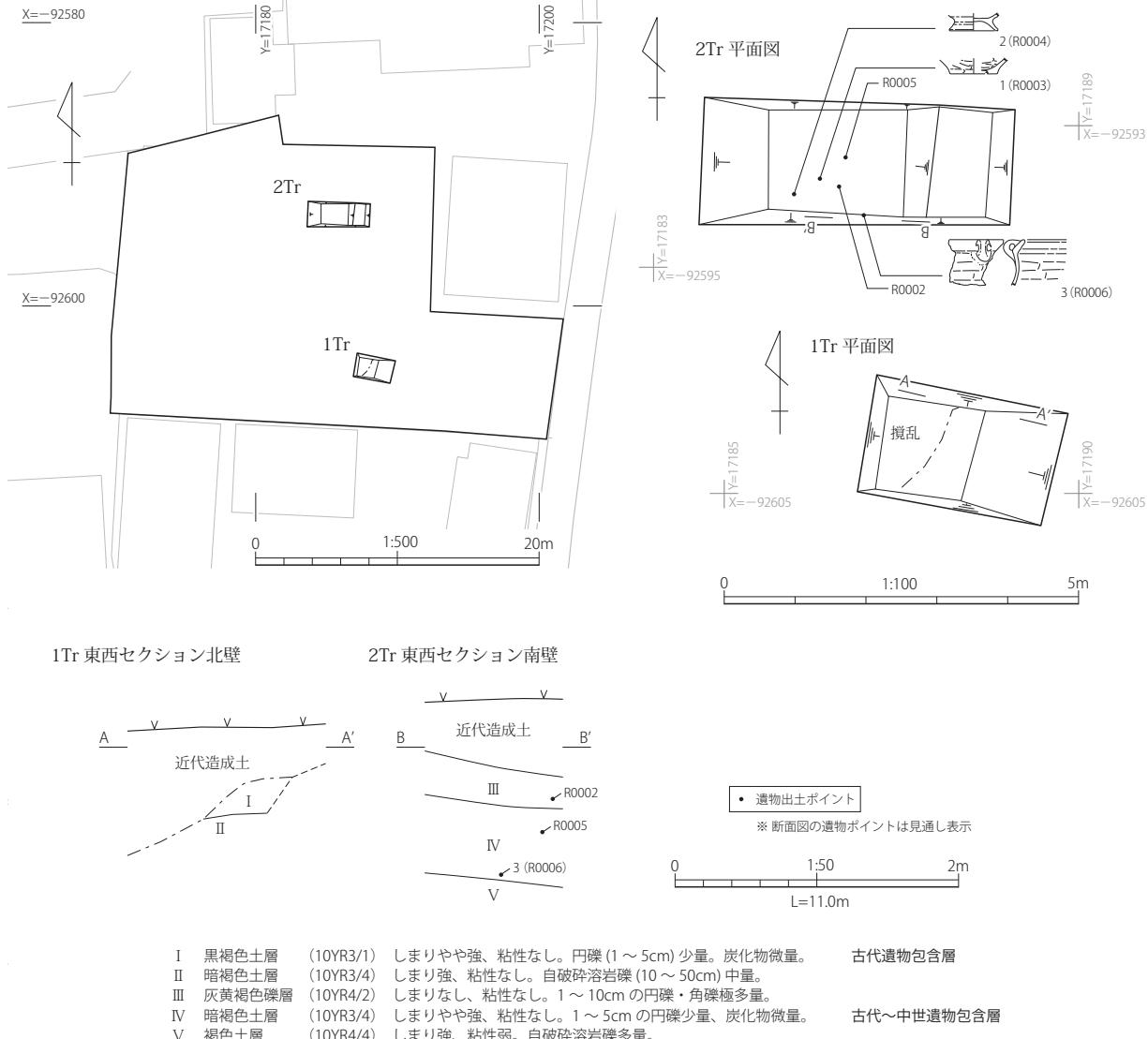
1Trでは地表下0.4mにおいて、奈良・平安時代とみられる遺物包含層(I層)を検出した。ただし、トレント北西部に現在の宅地造成時に行われた大規模な攪乱痕が認められることから、敷地内の限られた範囲にだけI層が遺存する可能性もある。

2Trでは地表下0.75mにおいて、平安時代～中世の土器を含む遺物包含層(II層)を検出した。

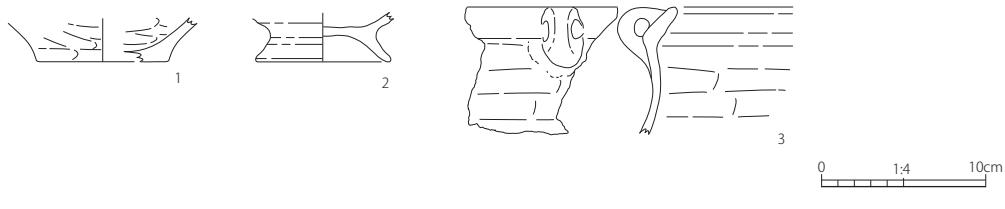
出土した土器のうち、土師器の内耳壙(第72図3)は中世後期に遠江や西三河で多くみられる「くの字

形」のものであり、富士市域では極めて希少な器種である。今川氏親の命で東泉坊が日吉宮(現日吉浅間神社)の造営を始めたのが15世紀末～16世紀初頭とみられており、今回の成果が当該地周辺の隆盛の一端を示す資料となる可能性がある。

第72図1は弥生土器の壺である。胴部は内外面ともにナデ調整で、底部外面に木葉痕を残す。2は土師器の高台壙である。高脚でハの字状に開く高台から、富士VIII(10世紀後半から11世紀)頃とみられる。



第71図 善得寺城跡・東泉院跡第10地区 トレント配置図、トレント平面図、セクション図



第72図 善得寺城跡・東泉院跡第10地区 出土遺物実測図

第6表 善得寺城跡・東泉院跡第10地区 出土遺物観察表

報告番号	捕図番号	写真図版	R番号(PC点) R番号(一括)	出土場所	種別	細別	時代	法量(cm)			焼成率	残存率	内面色調	外面色調
								口径	底径	器高				
1	第72図	-	0003	2Tr	弥生土器	壺	弥生	-	[8.0]	(2.7)	良好	20%	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙
2	第72図	PL.12	0004	2Tr	土師器	高台壇	平安	-	高台径 [8.0]	(3.0)	良好	45%	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙
3	第72図	PL.12	0006	2Tr	土師器	内耳壺	中世後期	-	-	(7.8)	良好	-	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR4/1 褐灰

31. 沖田遺跡 第171次調査地点1次調査

所 在 地 今泉495-3外

調査面積 5.490 m² (対象面積 2,167.38 m²)

調査期間 令和5年11月13日

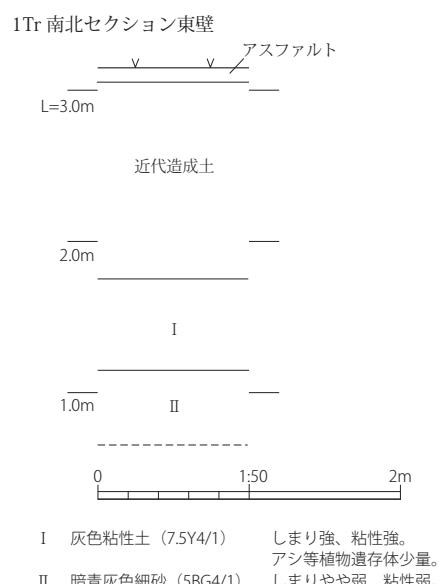
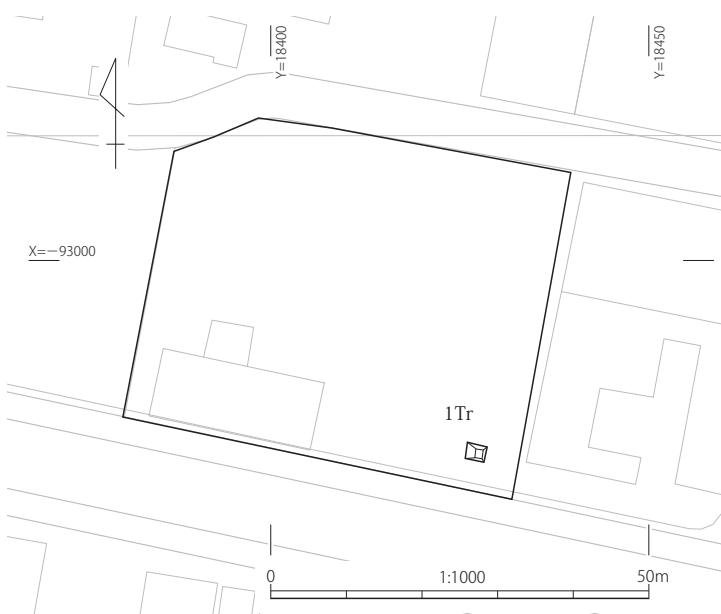
調査の原因 営業所建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下約1.4m以下において低湿地性の粘土や砂層を検出し、地表下2.5m前後まで掘削したもの、遺構や遺物は発見されなかった。



第73図 沖田遺跡第171次調査地点 位置図



第74図 沖田遺跡第171次調査地点 トレンチ配置図、セクション図

32. 国久保遺跡 第6地区2次調査

所在 地 国久保一丁目 2120-6 外

調査面積 17.958 m² (対象面積 561.45 m²)

調査期間 令和5年9月14日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 調査地は西側の一部分が国久保遺跡の範囲に含まれている。平成29年度に1次調査を実施しており、奈良・平安時代とみられる土坑と少量の土師器・須恵器が出土している。

敷地東側に1箇所のトレンチ(2Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

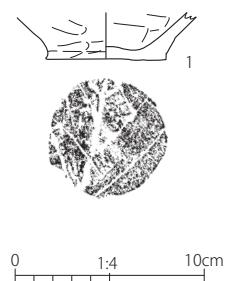
調査の結果 1次調査同様、地表下1.9mにおいて、奈良・平安時代の竪穴建物(SB2001)とピット(Pit2001)を検出し、奈良・平安時代の土器が出土した。敷地内においても多量の土器片が散布することから、敷地内やその周辺に古代の集落が広がっていた可能性が高い。

SB2001出土の土師器長胴甕(甕F)の底部を図示した(第76図1)。胴部外面はナデ調整、内面は胴部から底部までヘラナデ調整する。底部外面には、葉を2枚重ねた様子の木葉痕が残る。富士VI(9世紀後葉から10世紀初頭ごろ)に位置づけられる。

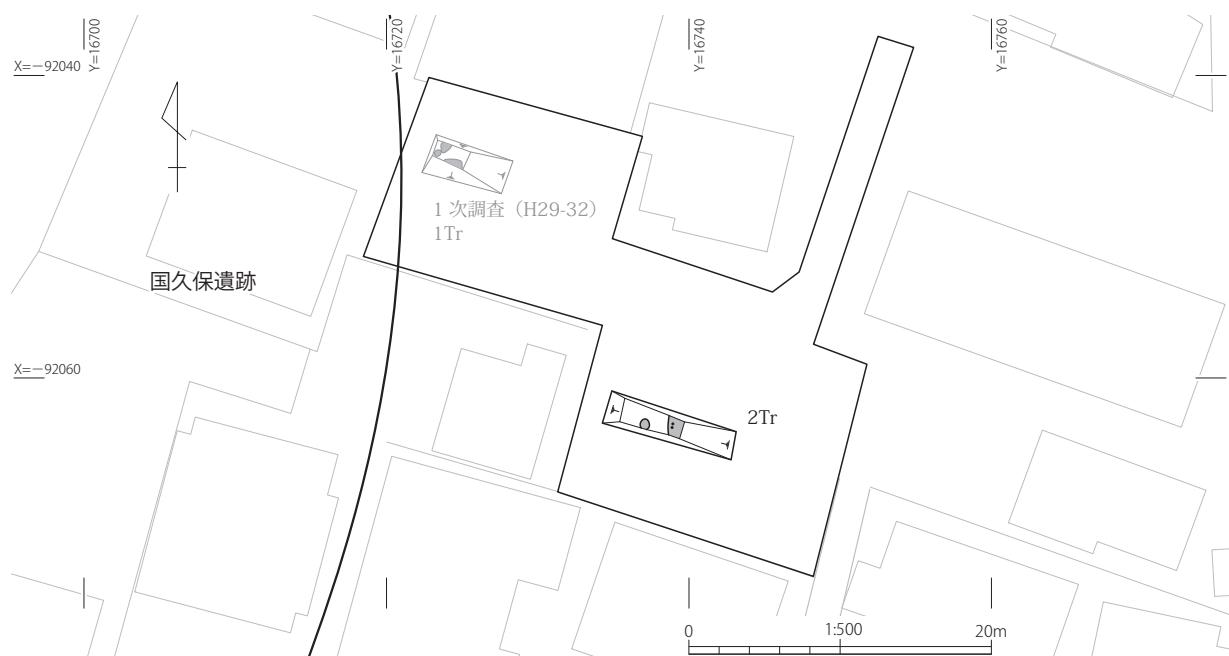
調査結果を受けて、令和5年10月、国久保遺跡の包蔵地範囲の変更(追加)を行った。



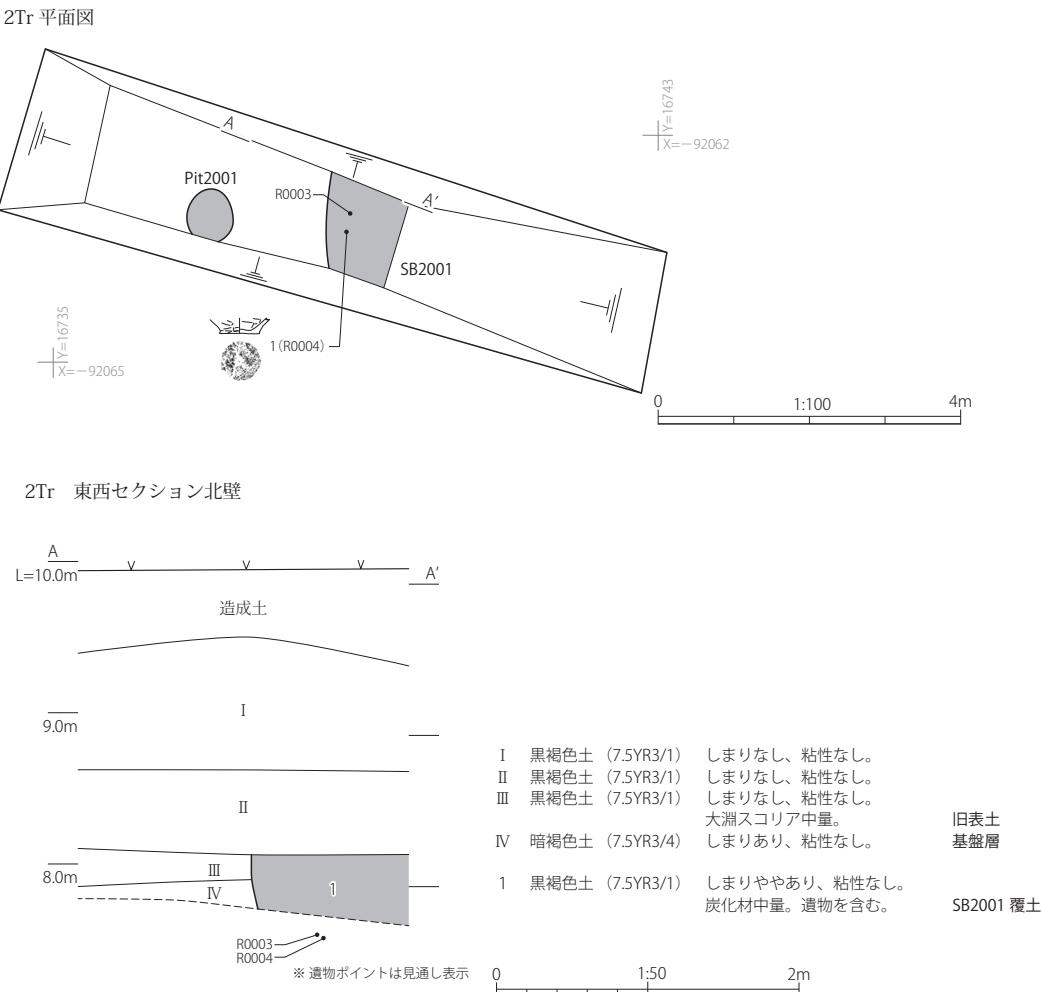
第75図 国久保遺跡第6地区 位置図



第76図 国久保遺跡第6地区 出土遺物実測図



第77図 国久保遺跡第6地区 トレンチ配置図



第78図 国久保遺跡第6地区 トレンチ平面図、セクション図

第7表 国久保遺跡第6地区 出土遺物観察表

報告番号	挿図番号	写真図版	R番号(PC点) R番号(一括)	出土場所	種別	細別	時代	法量(cm) 口径 底径 器高	焼成率	残存率	内面色調	外面色調	備考
1 第76図	PL.13	0004	2Tr SB2001	土師器	甕	平安	—	6.3 (2.2)	良好	60%	5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐	

33. 包蔵地外 中野遺跡隣接地（第2地区1次調査）

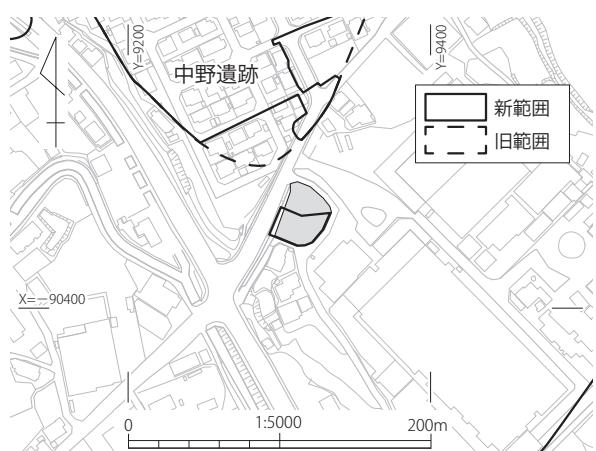
所 在 地 南松野 2465-1

調査面積 56.347 m² (対象面積 784 m²)

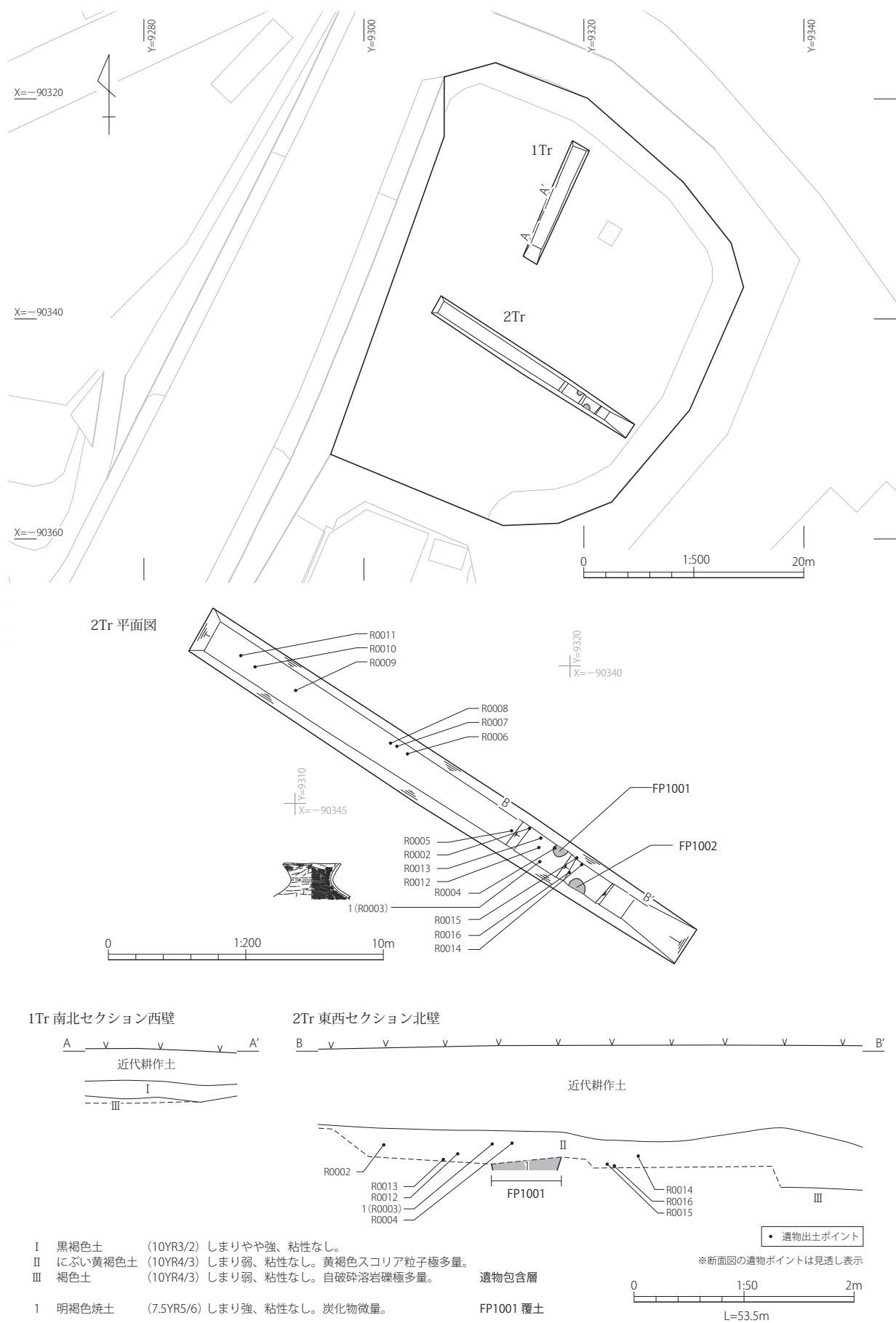
調査期間 令和5年11月1日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ（1～2Tr）を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。



第79図 中野遺跡第2地区 位置図



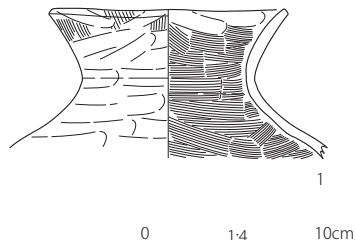
第 80 図 中野遺跡第 2 地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

調査の結果 敷地南側に設定した2Trの地表下0.7mにおいて、弥生時代の土器を含む遺物包含層（Ⅲ層）を確認し、包含層中には同時期とみられる炉（FP）を2基検出した。

一方、北側に設定した1Tr周辺では地表下0.1m程度で溶岩が検出できることから、遺構や遺物は存在しないものと判断できる。

第81図1は2Tr出土の弥生土器壺である。内面は細かいヨコハケ目調整後、口縁部近くをナデしている。外面は粗いタテハケ目調整後、全体をヨコナデしている。ハケ目の溝などにわずかに赤彩が残存している。

今回の調査結果および過去の調査結果を踏まえて、令和5年12月、中野遺跡の包蔵地範囲の追加および滅失をおこなった。



第81図 中野遺跡第2地区 出土遺物実測図

第8表 中野遺跡第2地区 出土遺物観察表

報告番号	挿図番号	写真図版	R番号(PC点)	出土場所	種別	細別	時代	法量(cm)			焼成率	内面色調	外面色調	備考
								口径	底径	器高				
1 第81図	PL.14	0003	2Tr	弥生土器	壺	弥生		[12.2]	—	(7.9)	良好	-	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐

34. 花守遺跡 第10地区1次調査

所 在 地 富士岡 225-1 外

調査面積 18.036 m² (対象面積 496.37 m²)

調査期間 令和5年10月10日

調査の原因 集合住宅建設

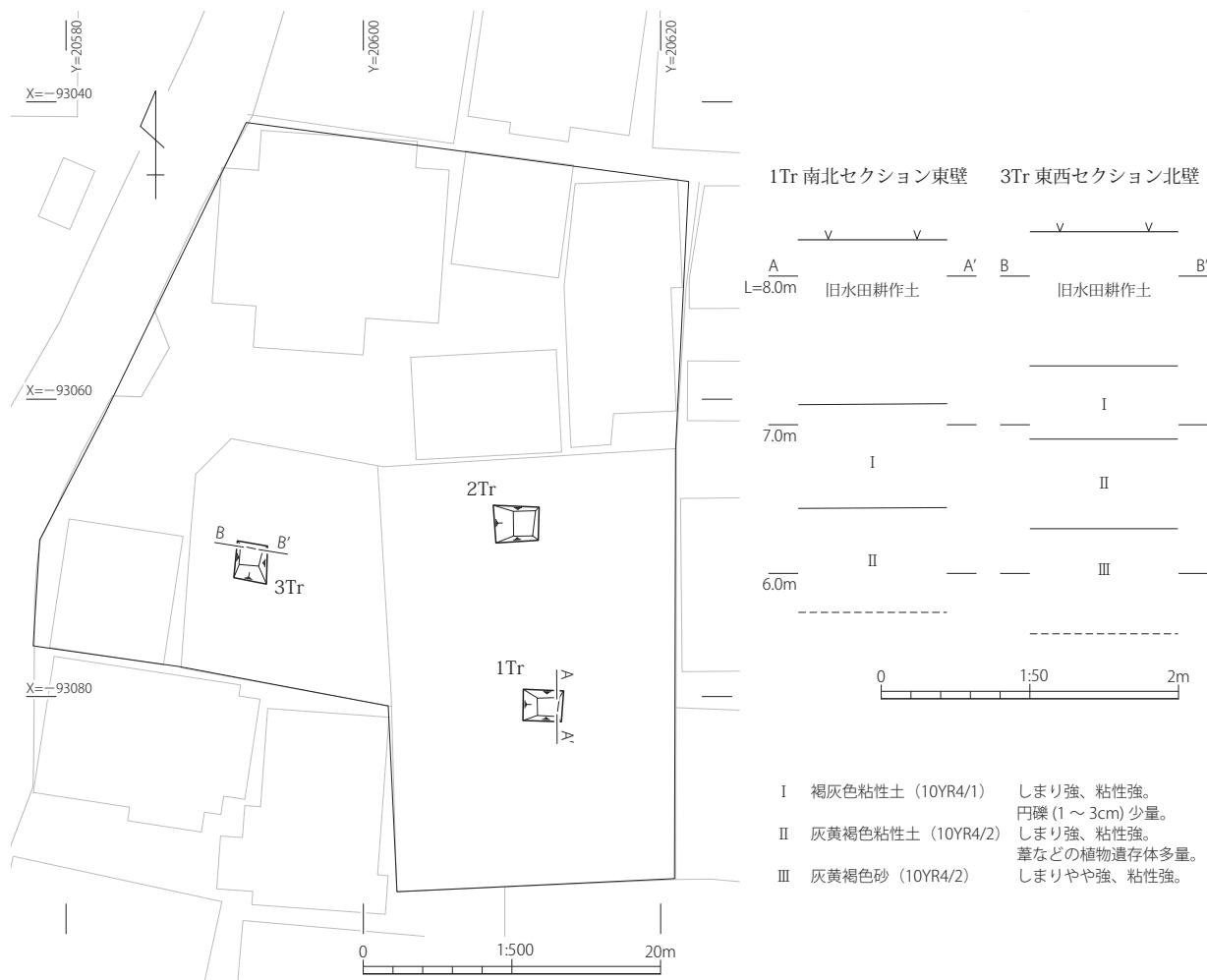
調査の概要 敷地内に3箇所のトレンチ(1～3Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見にとめた。

調査の結果 地表下約1.0m以下において低湿地性の粘土や砂層を検出し、地表下2.7m前後まで掘削したもの、遺構や遺物は発見されなかった。

敷地一帯は地下の湧水量が非常に多く、砂交じりの粘土層が厚く堆積することから、赤淵川の氾濫原に相当すると考えられる。したがって、古代以前には居住に適さない土地であったと判断できる。



第82図 花守遺跡第10地区 位置図



第83図 花守遺跡第10地区 トレンチ配置図、セクション図

35. 東平遺跡 第160地区1次調査

所 在 地 伝法2452-1外

調査面積 84.650 m² (対象面積 775.16 m²)

調査期間 令和5年10月10日～10月11日

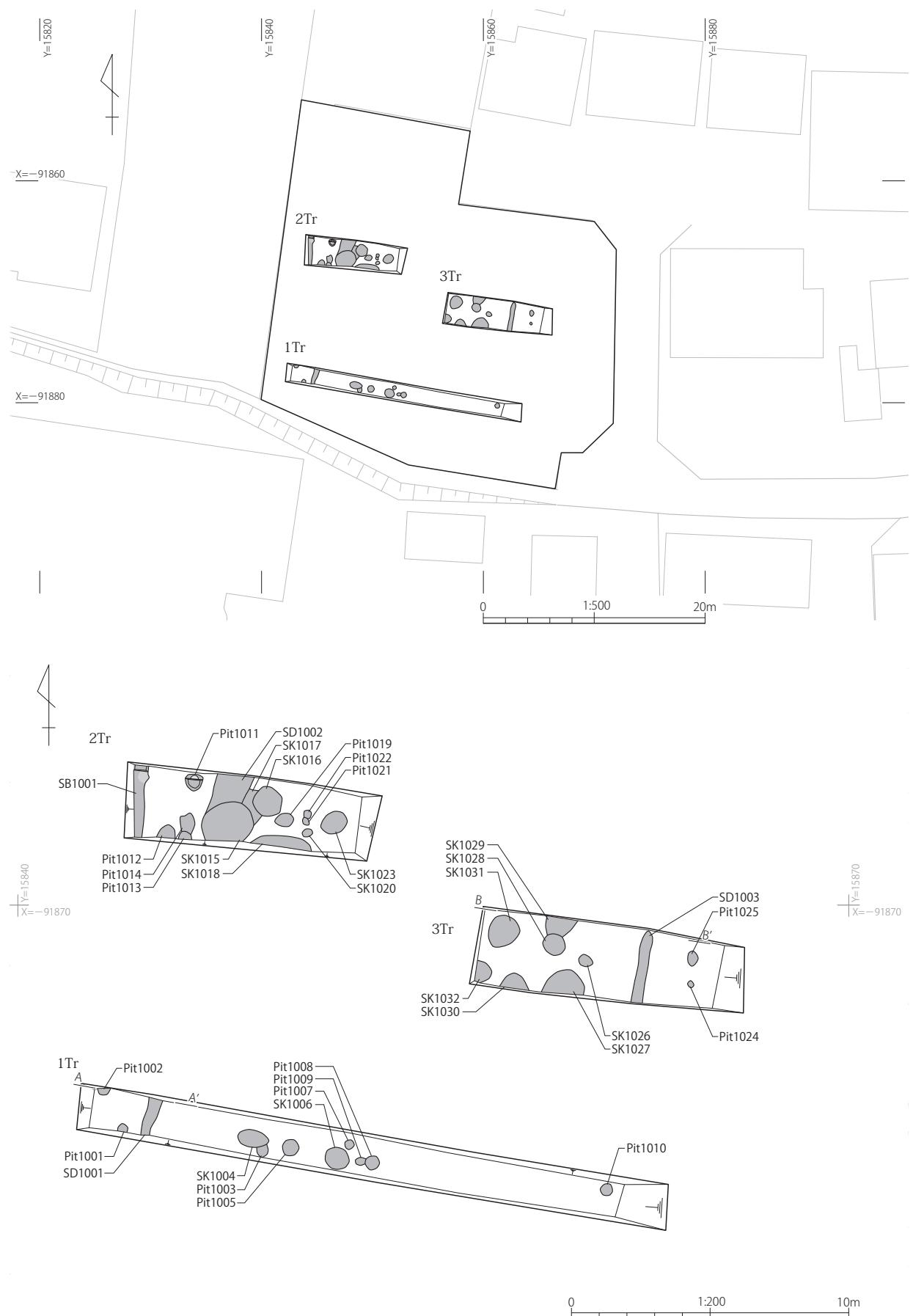
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に3箇所のトレンチ (1~3Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

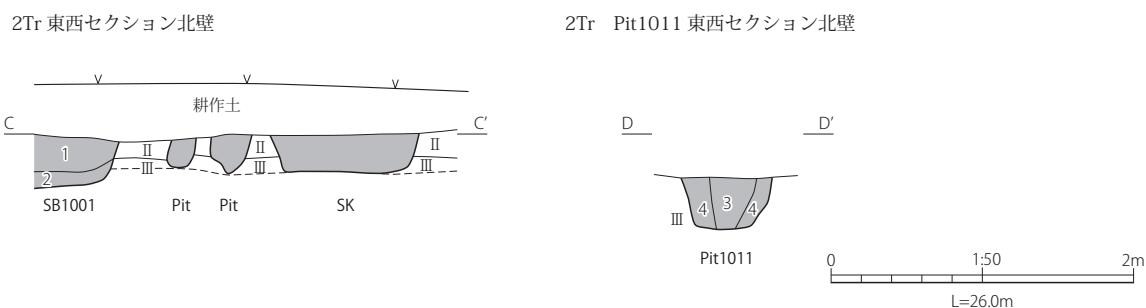
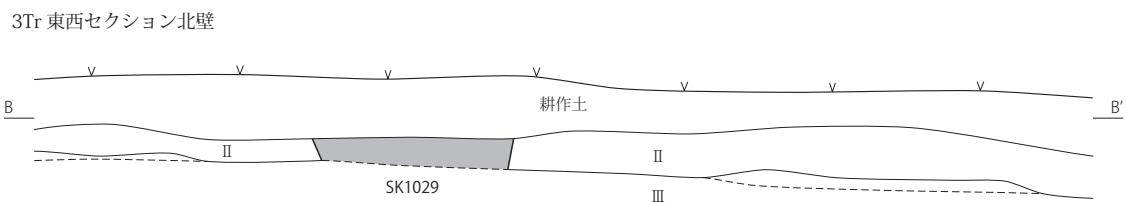
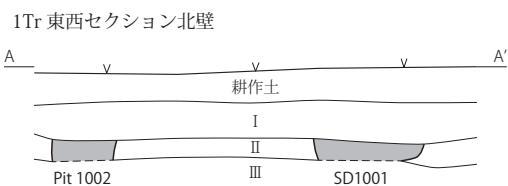
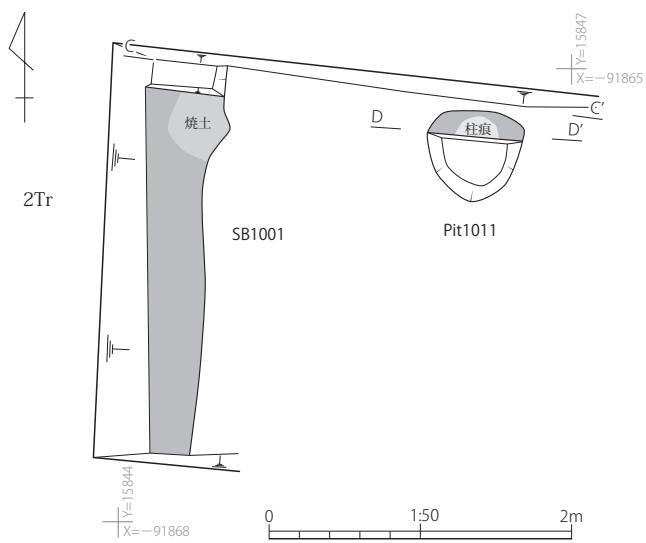
調査の結果 奈良時代から平安時代と考えられる堅穴建物・土坑・ピットが検出され、土器・陶磁器・金属製品が出土した。周辺の調査例からも、当該地一帯には、奈良時代から平安時代にかけての堅穴建物や掘立柱建物が、濃密に展開していると考えられる。



第84図 東平遺跡第160地区 位置図



第85図 東平遺跡第160地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図



I 黒褐色土 (10YR3/1) しまりなし、粘性なし。石（径 10～20cm 大）中量。
 II 黒褐色土 (10YR3/1) しまりややあり、粘性なし。大淵スコリア（径 5～10mm）中量。
 III 暗褐色 (10YR3/3) しまりあり、粘性なし。

堆積土
旧表土
基盤層

1 黒褐色土 (10YR3/1) しまりややあり、粘性なし。大淵スコリア中量。
 2 黒褐色土 (10YR3/1) しまりややあり、粘性なし。焼土・大淵スコリア少量。
 3 黒褐色土 (10YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。大淵スコリア（径 5～10mm）中量。
 4 黒褐色土 (10YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。大淵スコリア中量。

SB1001 覆土
SB1001 覆土
Pit1011 柱痕
Pit1011 覆土

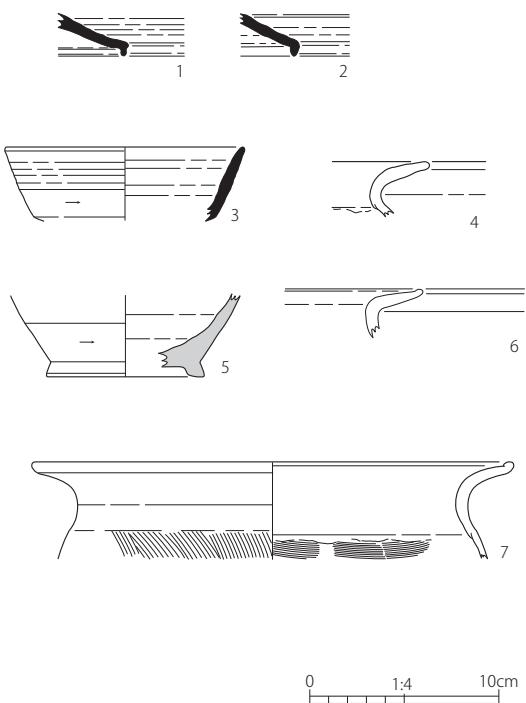
第 86 図 東平遺跡第 160 地区 2Tr 遺構平面図、セクション図

出土した遺物から7点を図示した(第87図)。

1・2は須恵器の坏蓋で2は天井部に回転ケズリが認められる。3の須恵器は箱形の有台坏身とみられる。体部下半を回転ヘラケズリしている。4は遠江系水平口縁甕(甕E)の口縁部である。1から4は2Tr SB1001から出土したもので、2・4はカマドからの出土である。

5は灰釉陶器の壺とみられる。体部外面に施釉が認められ、下半が回転ヘラケズリされる。底部内面にも釉が付着している。6・7は遠江系水平口縁甕(甕E)の口縁部である。7は口縁端部が玉縁状を呈する。5～7は2Tr Pit1011から出土した。

1～4・6・7は富士II～III(8世紀中葉～9世紀初頭)、5は9～10世紀代のものとみられる。



第87図 東平遺跡第160地区 出土遺物実測図

第9表 東平遺跡第160地区 出土遺物観察表

報告番号	挿図番号	写真図版	R番号(PC点) R番号(一括)	出土場所	種別 細別	時代	法量(cm)			焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
							口径	底径	器高				
1	第87図	-	0002	2Tr SB1001	須恵器 蓋		[13.2]	-	(2.2)	良好	20%	2.5Y5/1 2.5Y5/1	黄灰 黄灰
2	第87図	-	0008	2Tr SB1001 カマド	須恵器 蓋		-	-	(2.25)	良好	-	2.5Y6/1 2.5Y6/1	黄灰 黄灰
3	第87図	PL.15	0002	2Tr SB1001	須恵器 坏		[12.5]	-	(3.9)	良好	20%	2.5Y6/2 2.5Y6/2	黄灰 黄灰
4	第87図	-	0008	2Tr SB1001 カマド	土師器 甕?		-	-	(2.9)	良好	-	10YR7/3 10YR8/3	にぶい黄橙 浅黄橙
5	第87図	PL.15	0004	2Tr Pit1011	灰釉陶器 壺?		-	高台径 [8.2]	(4.4)	良好	30%	2.5Y7/1 2.5Y7/2	灰白 灰黄
6	第87図	-	0004	2Tr Pit1011	土師器 甕		-	-	(2.6)	良好	-	10YR6/3 7.5YR7/4	にぶい黄橙 にぶい橙
7	第87図	PL.15	0004	2Tr Pit1011	土師器 甕		[25.7]	-	(5.2)	良好	20%	5YR6/6 5YR6/6	橙 橙

36. 術宜ノ前遺跡 第8地区1次調査

所在 地 比奈 1619

調査面積 3.203 m² (対象面積 496.37 m²)

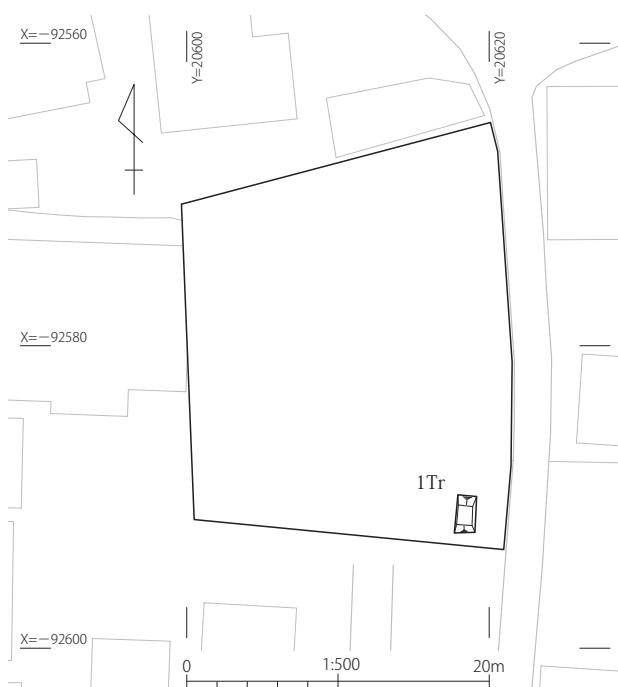
調査期間 令和5年10月5日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下0.2m以下において旧赤淵川河床とみられる砂礫層を検出し、地表下1.2mの湧水層まで掘削したものの、遺構や遺物は発見されなかった。

過去の調査例から、術宜ノ前遺跡の集落が溶岩台地上やその末端部に展開することを勘案するならば、赤淵川の河床砂礫層が広がる当該地周辺には遺跡は存在しないものと判断できる。

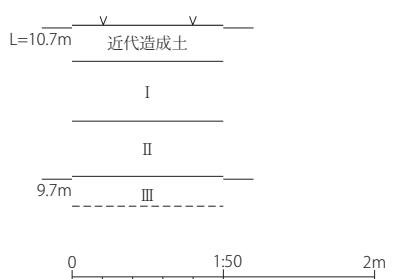


第89図 術宜ノ前遺跡第8地区 トレンチ配置図、セクション図



第88図 術宜ノ前遺跡第8地区 位置図

1Tr 南北セクション東壁 柱状図



- | | | |
|-----|-------------------|--|
| I | 黒褐色砂礫層 (10YR3/2) | しまり弱、粘性なし。
円礫 (1~20cm) 極多量。
赤淵川起源の砂礫層 |
| II | 暗褐色砂礫層 (10YR3/3) | しまり弱、粘性なし。
円礫 (1~20cm) 多量。
赤淵川起源の砂礫層 |
| III | 灰黄褐色砂礫層 (10YR4/2) | しまり弱、粘性なし。
円礫 (1~10cm) 中量。湧水層。
赤淵川起源の砂礫層 |

トレンチ配置図、セクション図

37. 東平遺跡 第161地区1次調査

所 在 地 伝法 2542-3

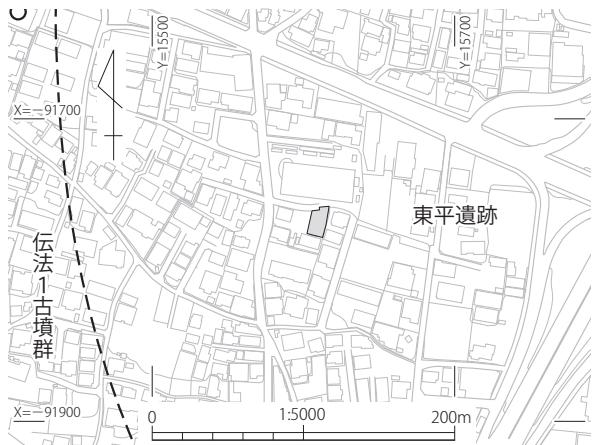
調 査 面 積 15.046 m² (対象面積 157.28 m²)

調 査 期 間 令和5年11月6日

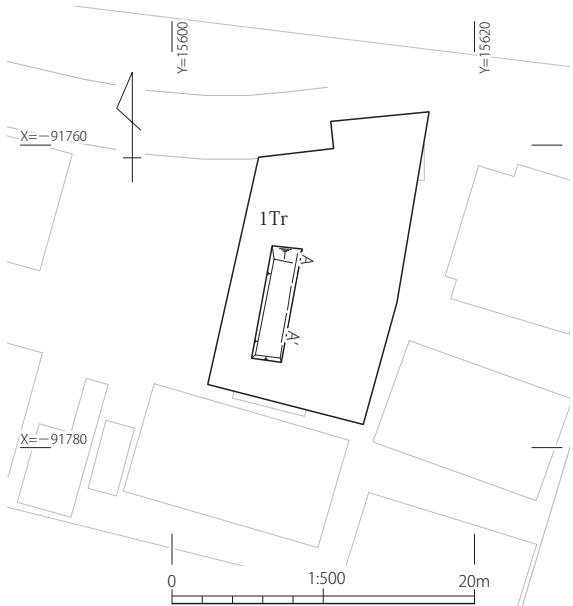
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。そのため、当該地は埋蔵文化財が希薄なエリアと考えられる。

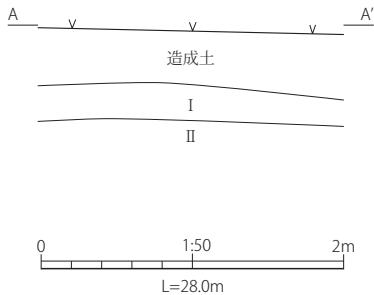


第90図 東平遺跡第161地区 位置図



第91図 東平遺跡第161地区 トレンチ配置図、セクション図

1Tr 南北セクション東壁



- I 黒色土 (7.5YR2/1) しまりややあり、粘性なし。赤色粒子を中量含む。
II 黑褐色土 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性なし。
旧耕作土
地山

38. 東下天間古墳群 第1地区1次調査

所 在 地 天間 1408-4外

調 査 面 積 74.149 m² (対象面積 3,104.29 m²)

調 査 期 間 令和5年11月7日～11月8日

調査の原因 店舗建設

調査の概要 東下天間古墳群は1基の消滅古墳(東下天間古墳)によって構成される。『鷹岡町史』(富士市 1984)によれば、昭和15年に古墳が発掘され、直刀・金環・切子玉・管玉が出土したと伝わる。

敷地内に12箇所のトレンチ(1～12Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。



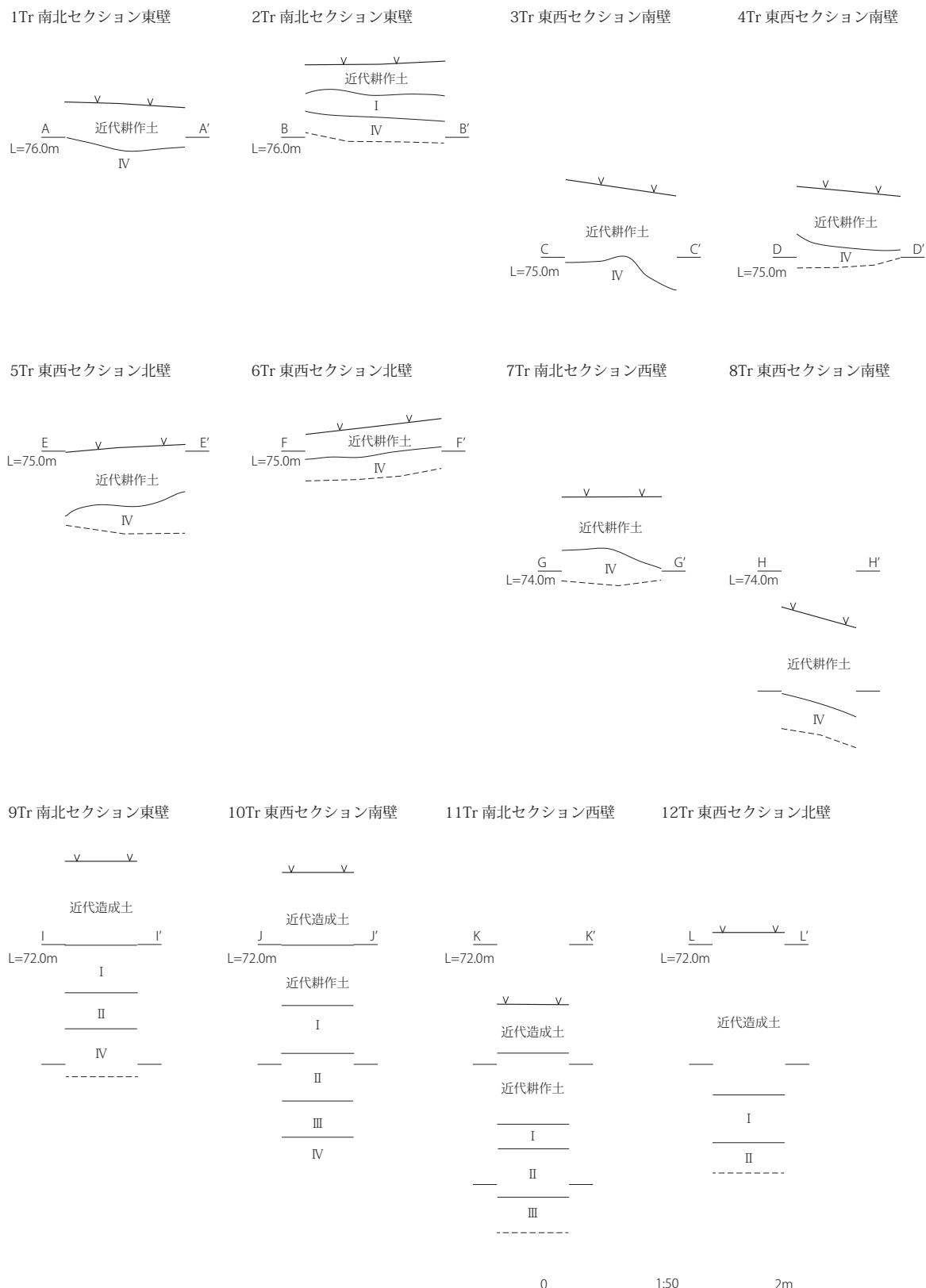
第92図 東下天間古墳群第1地区 位置図

調査の結果 斜面低位部の10～12Trでは古代以前の土層が良好に遺存しており、11Trの地表下1.6m(III層)において僅かに縄文土器片が発見されたものの、遺物包含層を形成しているとは判断できず、

遺構の存在も確認できなかった。北側から流れ込んだ遺物の可能性が高い。南東側の斜面部分ではいずれも基盤層が浅く検出され、古墳の痕跡はおろか、遺物も全く見られなかった。



第93図 東下天間古墳群第1地区 トレンチ配置図



第94図 東下天間古墳群第1地区 セクション図

39. 天間沢遺跡 第74地区1次調査

所在 地 天間 1942-5

調査面積 5.893 m² (対象面積 731.78 m²)

調査期間 令和5年11月2日

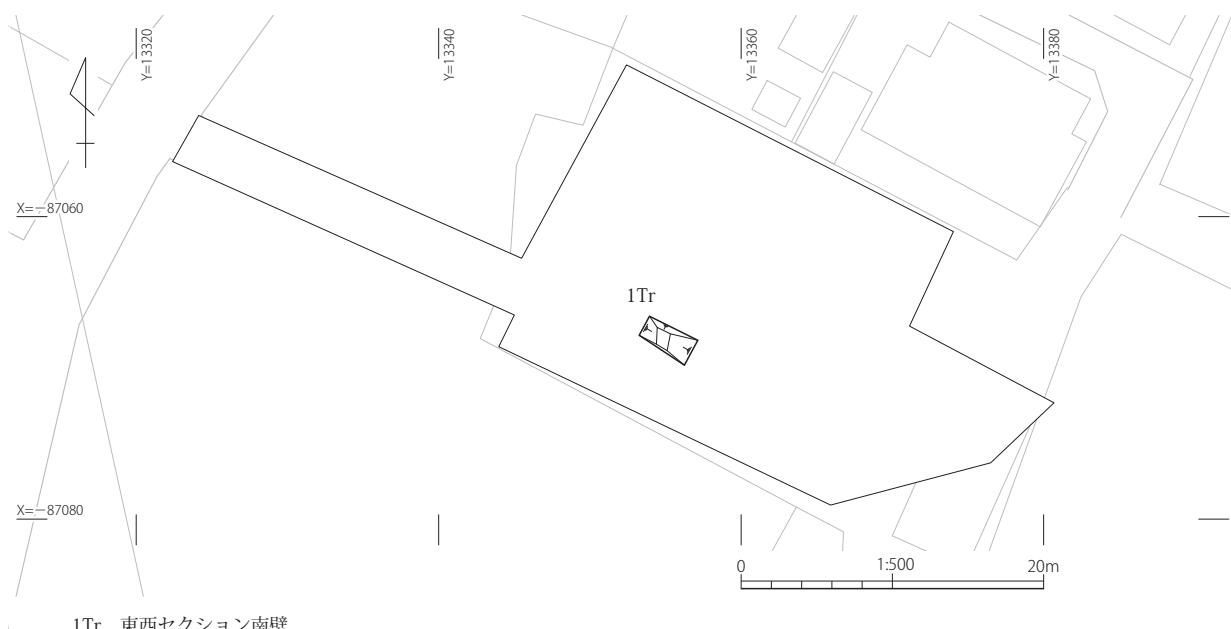
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

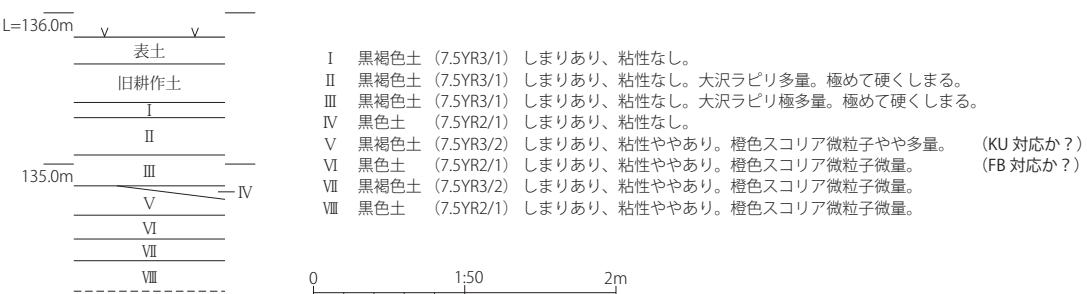
調査の結果 繩文時代の遺物包含層に対応する土層は良好に残存していたが、遺構・遺物は確認されなかつた。そのため、当該地は埋蔵文化財が希薄なエリアと結論付けられる。



第95図 天間沢遺跡第74地区 位置図



1Tr 東西セクション南壁



第96図 天間沢遺跡第74地区 トレンチ配置図、セクション図

40. 天間沢遺跡 第75地区 1次調査

所 在 地 天間 1296-6

調査面積 28.269 m² (対象面積 2,259 m²)

調査期間 令和5年11月29日～11月30日

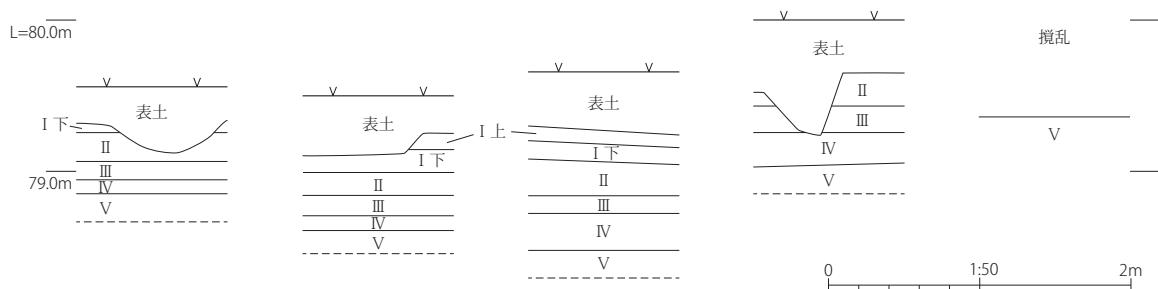
調査の原因 宅地分譲

調査の概要 敷地内に5箇所のトレンチ(1～5Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 繩文時代の遺物包含層に対応する土層は良好に残存していたが、遺構・遺物は確認されなかつた。そのため、当該地は埋蔵文化財が希薄なエリアと結論付けられる。



第97図 天間沢遺跡第75地区 位置図



古墳時代前期の遺構覆土

I 大沢ラピリ層 黒褐色。緻密なスコリア粒子で極めて硬くしまる。(上・下に分層される。)

縄文時代中・後期の包含層

II 黒色土層 (KU) 黒褐色。橙色スコリア粒をやや多く、白色テフラ (カワゴ平バミス) を少量含む。しまりはやや強い。

縄文時代早・前期の包含層

III 富士黒土層 (FB) 黒色。橙色スコリア微粒子を微量含む。しまりはやや弱く、粘性が出てくる。

IV 漸移層 (Zn) 暗褐色。褐色味の強い土と黒味が強い土が混ざり合い、鮮やかな橙色のスコリア粒を少量含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。

旧石器時代の包含層

V 休場層 (YL) 明褐色。全体的に赤みが強く、橙色スコリア粒をやや多く含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。

第98図 天間沢遺跡第75地区 トレンチ配置図、セクション図

41. 三新田遺跡 R 地区 1次調査

所在 地 田中新田 275-15 外

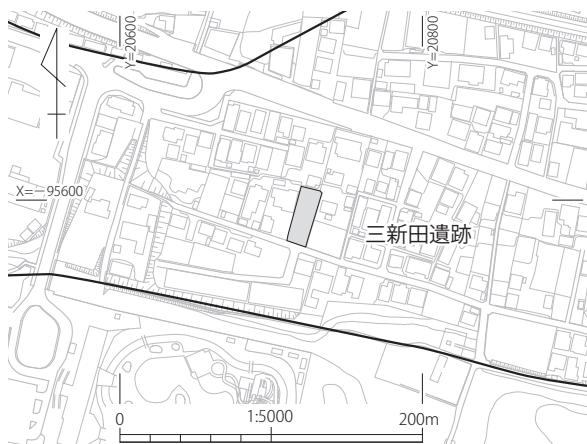
調査面積 17.691 m² (対象面積 495 m²)

調査期間 令和5年11月20日

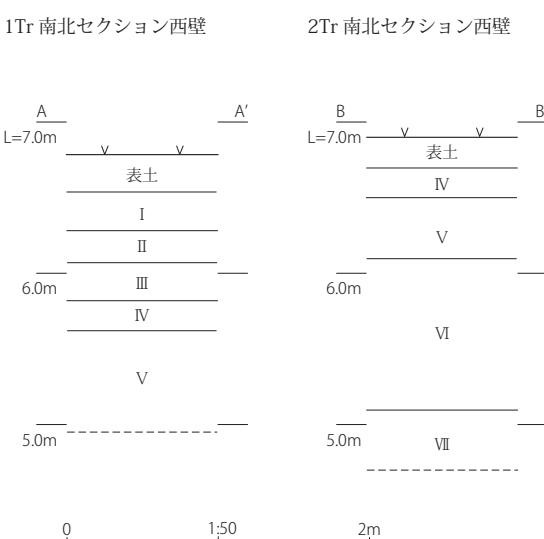
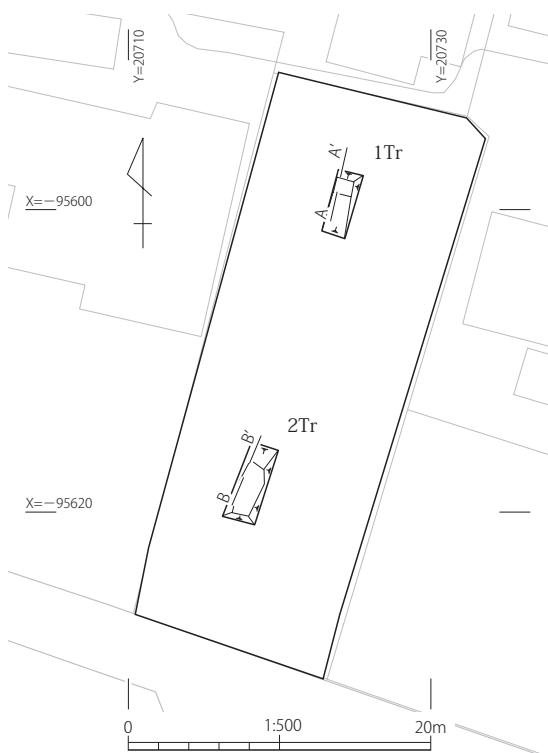
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に2箇所のトレント (1~2Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下0.2m~1.0mにおいて古墳時代に堆積した大淵スコリア層を検出し、その上下の層を中心に精査したもの、遺構や遺物は検出されなかった。対象地は遺跡内では田子の浦砂丘(砂礫洲)の最高所に近く、集落が疎らなエリアに当たると考えられる。



第99図 三新田遺跡R地区 位置図



第100図 三新田遺跡R地区 トレント配置図、セクション図

42. 富士岡1古墳群 第22地区1次調査

所 在 地 富士岡 1610-1

調 査 面 積 10.337 m² (対象面積 496.44 m²)

調 査 期 間 令和5年12月25日

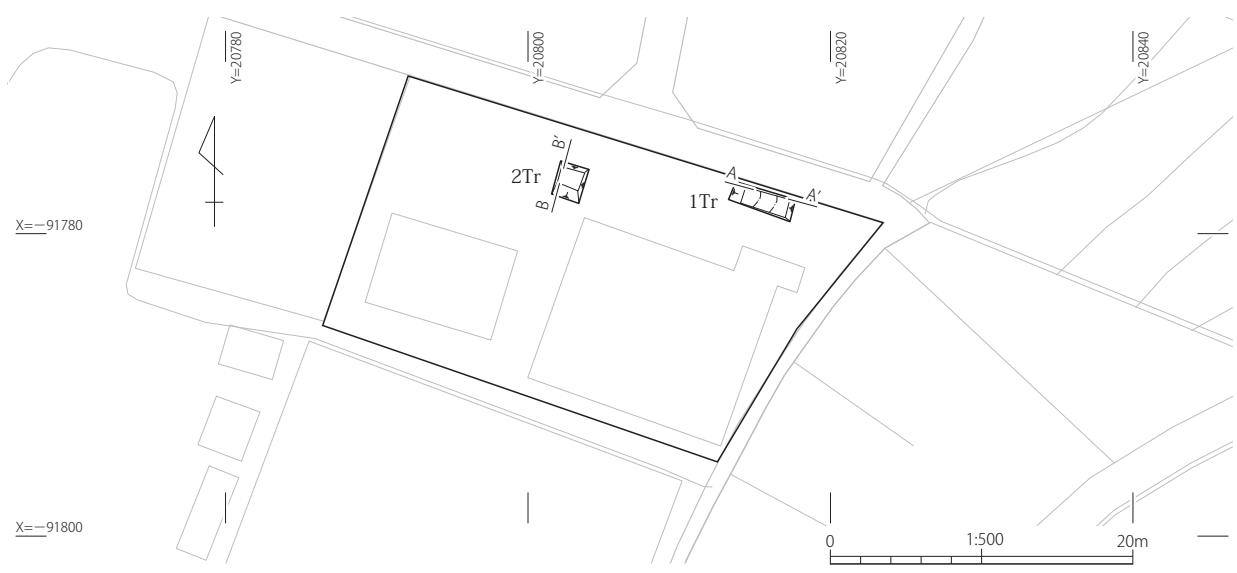
調査の原因 浄化槽設置

調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ(1～2Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 道路部分に近い1Trでは大規模な攪乱がみられた一方で、2Trでは自然堆積層が比較的良好に遺存する状況を確認したものの、遺構や遺物は検出されなかった。

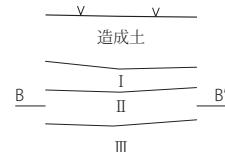
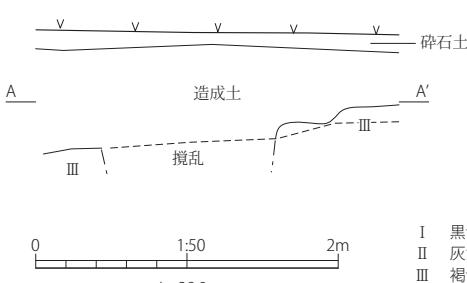


第101図 富士岡1古墳群第22地区 位置図



1Tr 東西セクション北壁

2Tr 南北セクション西壁



I	黒色土	(10YR2/1)	しまりやや強、粘性なし。黒褐色発泡スコリア(5mm)少量。
II	灰黄褐色土	(10YR4/2)	しまり強、粘性弱。橙色スコリア粒子少量。
III	褐色土	(10YR4/4)	しまり強、粘性弱。橙色スコリア粒子少量。

第102図 富士岡1古墳群第22地区 トレンチ配置図、セクション図

43. 厚原遺跡 第11地区 1次調査

所在 地 厚原 741-1、-7

調査面積 16.134 m² (対象面積 763.41 m²)

調査期間 令和6年1月11日

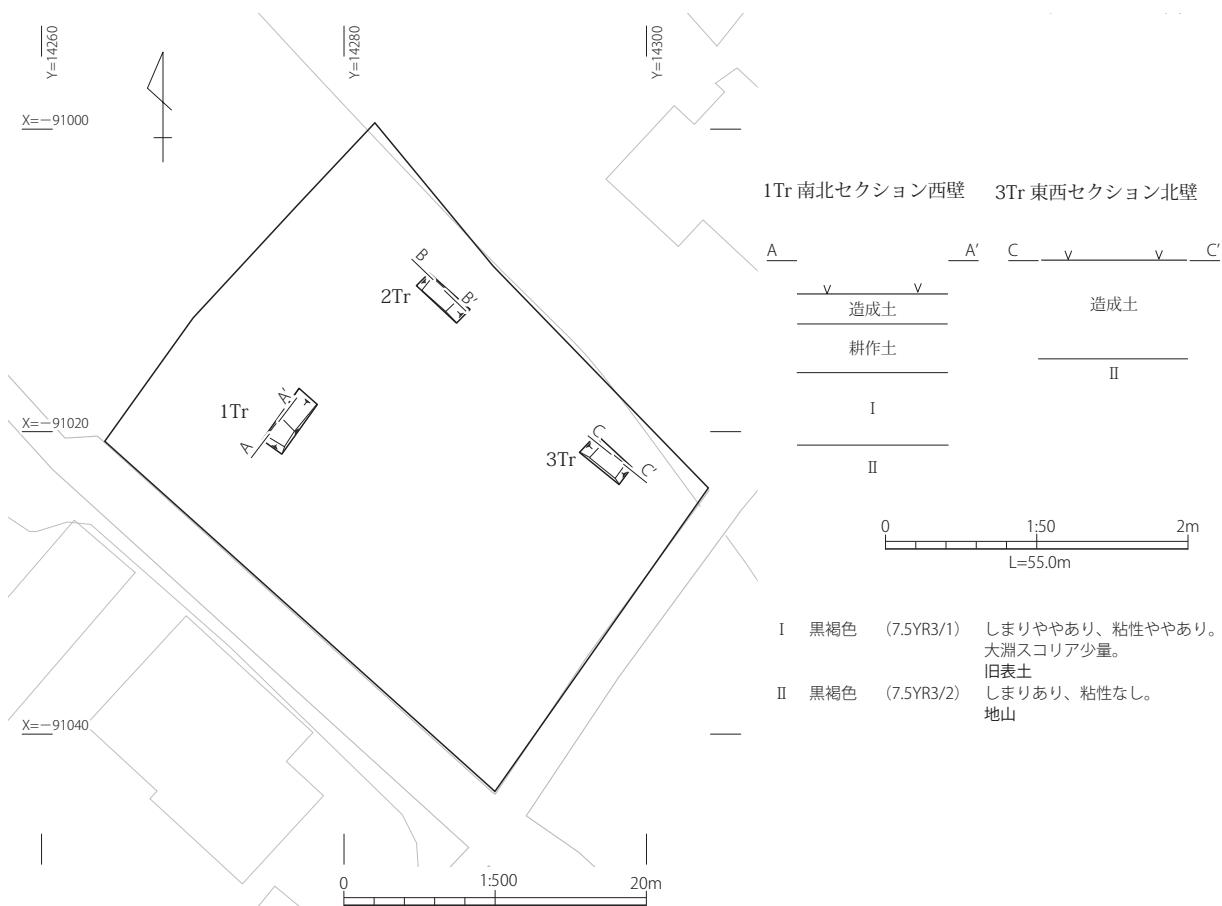
調査の原因 建売住宅建設

調査の概要 敷地内に3箇所のトレント (1~3Tr) を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。当該地は埋蔵文化財の希薄なエリアと結論付けられる。



第103図 厚原遺跡第11地区 位置図



第104図 厚原遺跡第11地区 トレント配置図、セクション図

44. 東平遺跡 第143地区2次調査

所在 地 伝法3091-1

調査面積 10.644 m² (対象面積 361.38 m²)

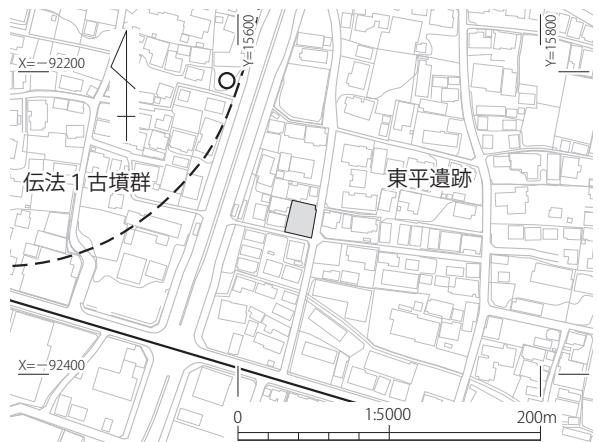
調査期間 令和6年1月11日

調査の原因 佐藤浩史による個人住宅建設

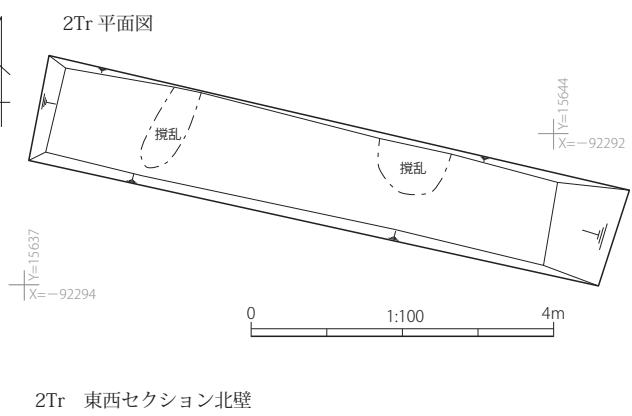
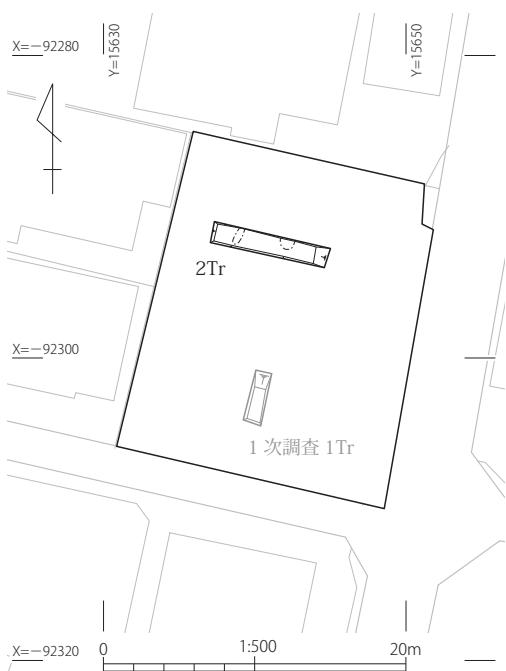
調査の概要 調査地では令和3年10月に1次調査を実施し、旧表土中から奈良時代の土器が出土している。

敷地内北寄りに1箇所のトレンチ(2Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

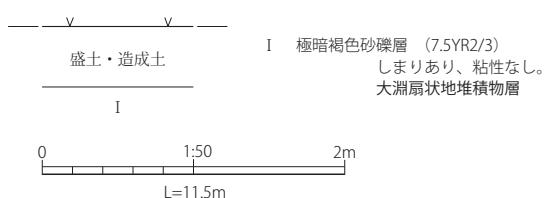
調査の結果 かつて住宅が建っていた敷地北側は土地が削平を受けており、遺構・遺物は残存しないことが明らかとなった。



第105図 東平遺跡第143地区 位置図



2Tr 東西セクション北壁



第106図 東平遺跡第143地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

45. 沢上遺跡 第7次調査地点1次調査

所在地 中之郷 4056番13

調査面積 4.203 m² (対象面積 266.59 m²)

調査期間 令和6年2月14日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。地表下1.1mから近世以降と考えられる河川堆積物層を検出した。周囲よりも低い土地で西側から東側に流れる旧河川上に位置することから、居住域には適していない土地と推察される。当該地に埋蔵文化財は存在しないと結論付けられる。



第108図 沢上遺跡第7次調査地点 トレンチ配置図、セクション図

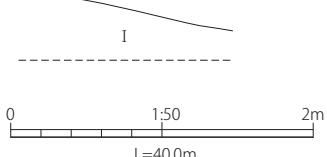


第107図 沢上遺跡第7次調査地点 位置図

1Tr 南北セクション西壁

A ————— V ————— V ————— A'

造成土



I 黒褐色砂礫層 (7.5YR3/1) しまり弱、粘性なし。礫 (5 ~ 15cm) 多量。
近現代陶磁器片出土。
河川堆積物

46. 東平遺跡 第162地区1次調査

所在地 伝法2502番5ほか

調査面積 4.935 m² (対象面積 393.64 m²)

調査期間 令和6年1月18日

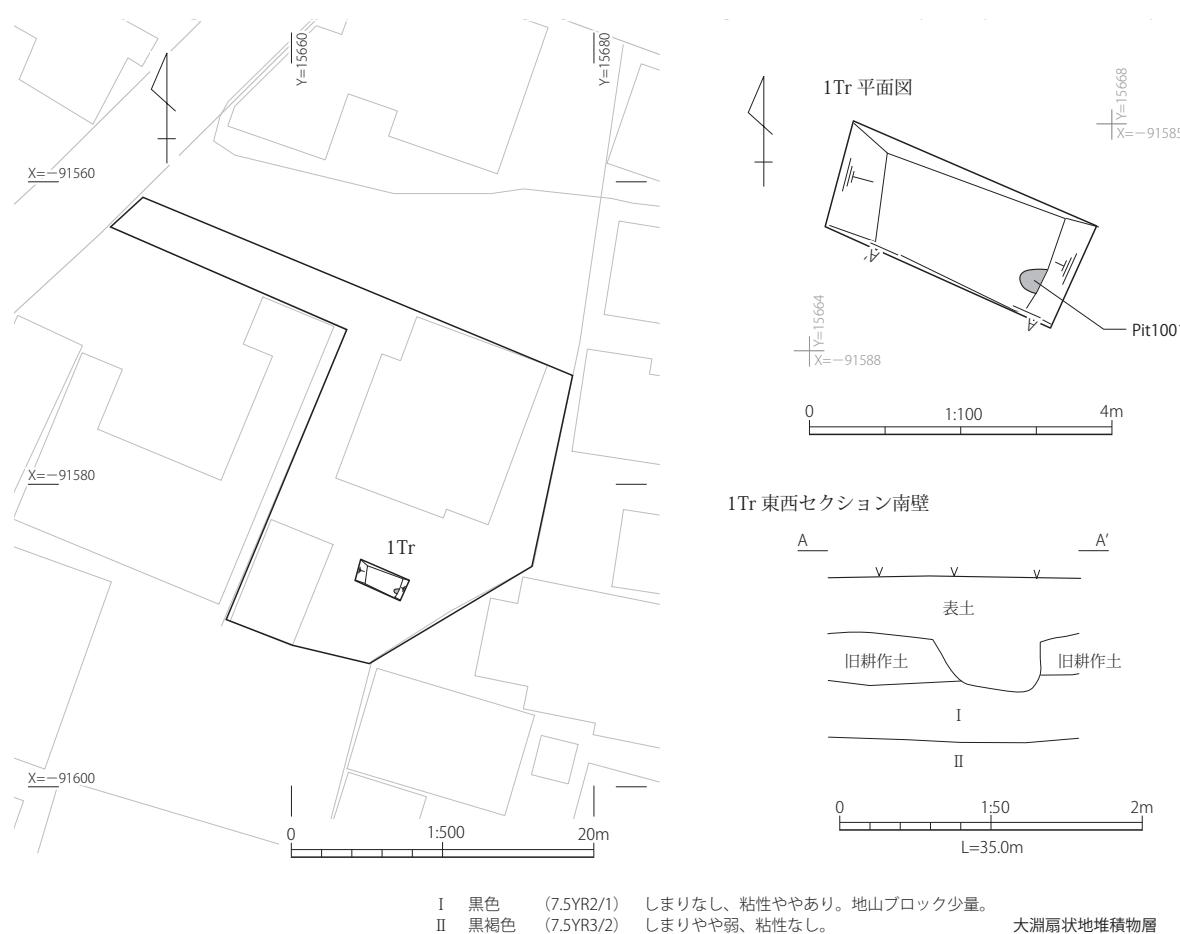
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下1.1mでピット(Pit1001)を検出した。敷地内では奈良時代から平安時代の土器が多く採集できるため、当該期の遺構と考えられる。



第109図 東平遺跡第162地区 位置図



第110図 東平遺跡第162地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

47. 中杼・中ノ坪遺跡 第24地区1次調査

所 在 地 厚原429-9

調査面積 5.469 m² (対象面積 717.35 m²)

調査期間 令和6年3月13日

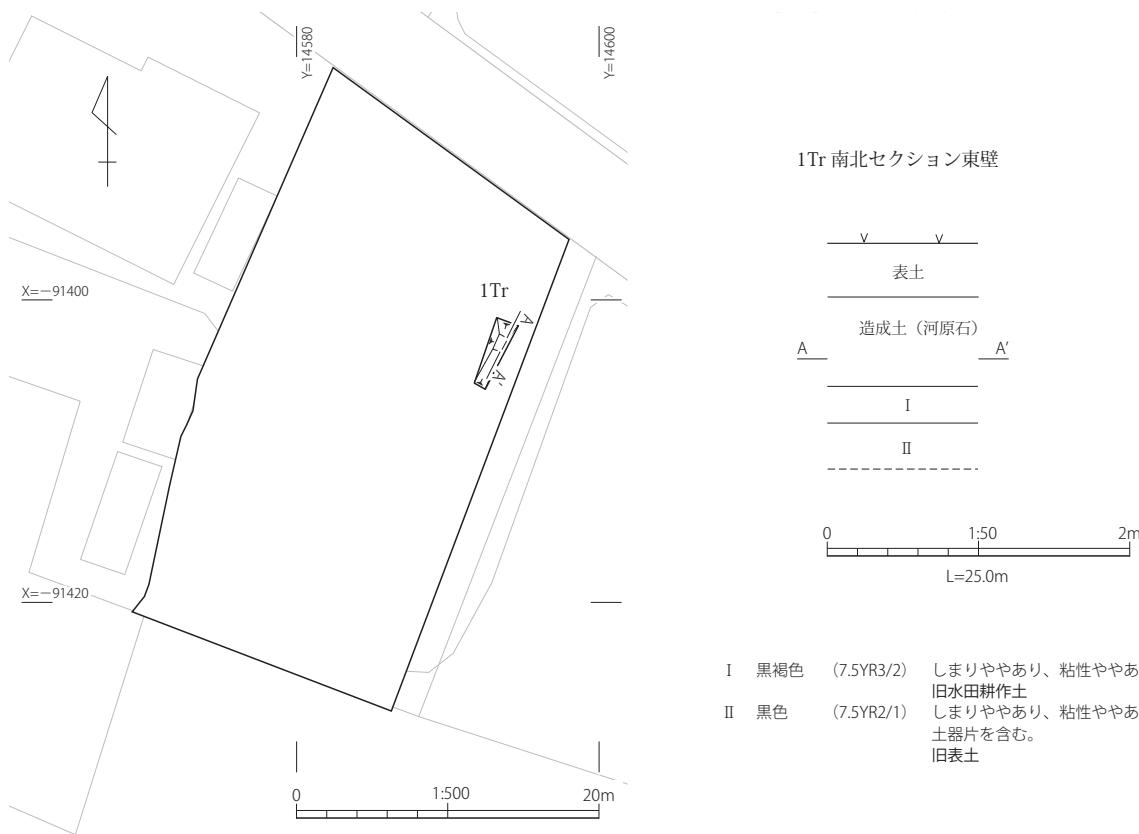
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下1.2mで奈良時代から平安時代の土器を包含する自然堆積層を検出したが、遺構は検出されなかった。現代の盛り土が厚く存在するが、地下には遺跡が比較的良好に残存していると結論付けられる。



第111図 中杼・中ノ坪遺跡第24地区 位置図



第112図 中柄・中ノ坪遺跡第24地区 トレンチ配置図、セクション図

48. 東平遺跡 第163地区 1次調査

所 在 地 伝法2736番1ほか

調査面積 18.023 m² (対象面積 611.64 m²)

調査期間 令和6年3月4日～3月6日

調査の原因 宅地分譲

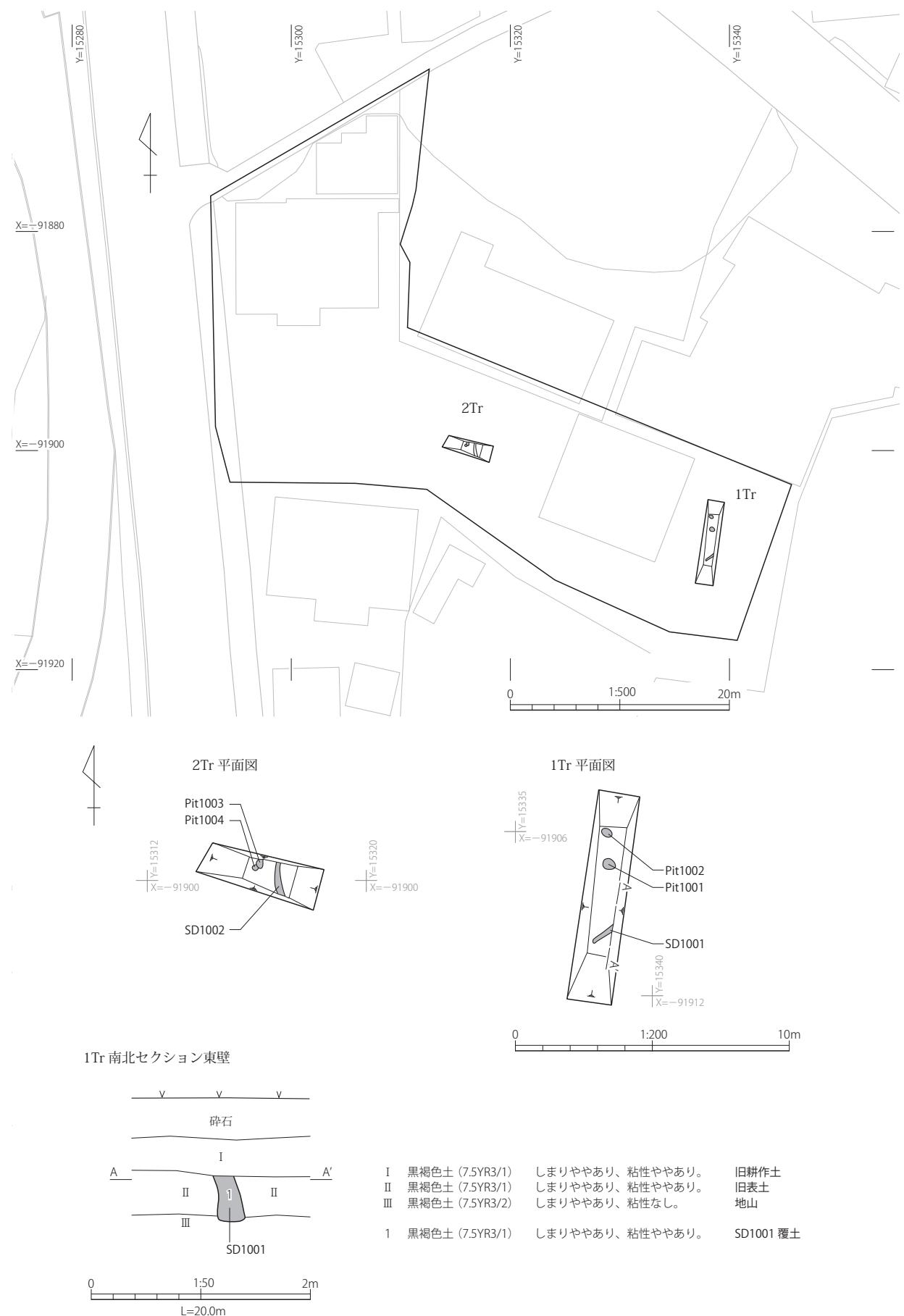
調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチ(1～2Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 地表下0.7mからピット・溝を検出し、奈良・平安時代の土器片が出土した。

敷地内には奈良時代から平安時代の遺跡が希薄ながら残存すると結論付けられる。



第113図 東平遺跡第163地区 位置図



第114図 東平遺跡第163地区 トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

49. 舟久保遺跡 第79地区1次調査

所在 地 今泉六丁目 1598-12 ほか

調査面積 6.255 m² (対象面積 323.56 m²)

調査期間 令和6年2月27日

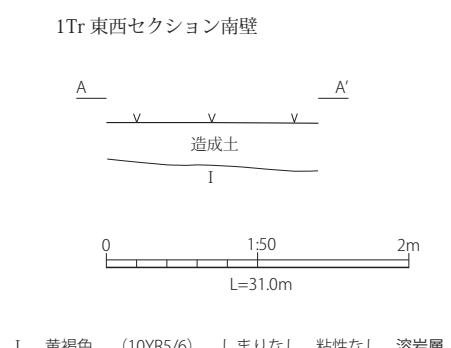
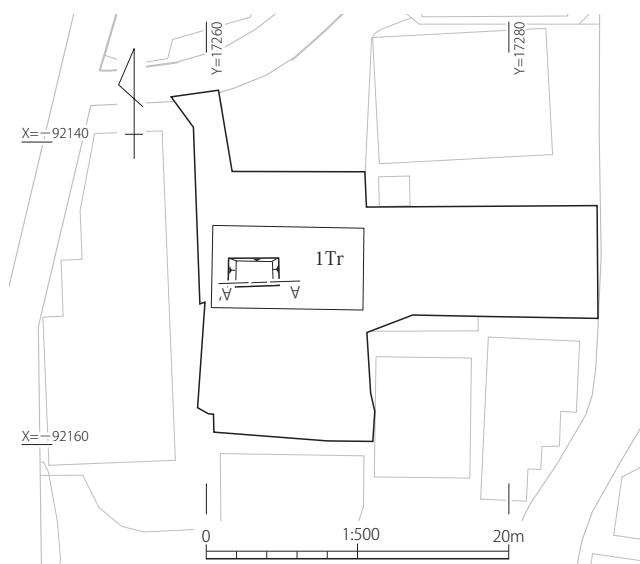
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。地表下0.2~0.3mで基盤層となる溶岩を検出した。土地全体が大規模な削平を受けており、旧表土が残存しないことが明らかとなった。敷地内に埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第115図 舟久保遺跡第79地区 位置図



第116図 舟久保遺跡第79地区 トレンチ配置図、セクション図

50. 中島遺跡 第17地区1次調査

所在 地 原田 774-4

調査面積 4.365 m² (対象面積 182.62 m²)

調査期間 令和6年3月13日~3月15日

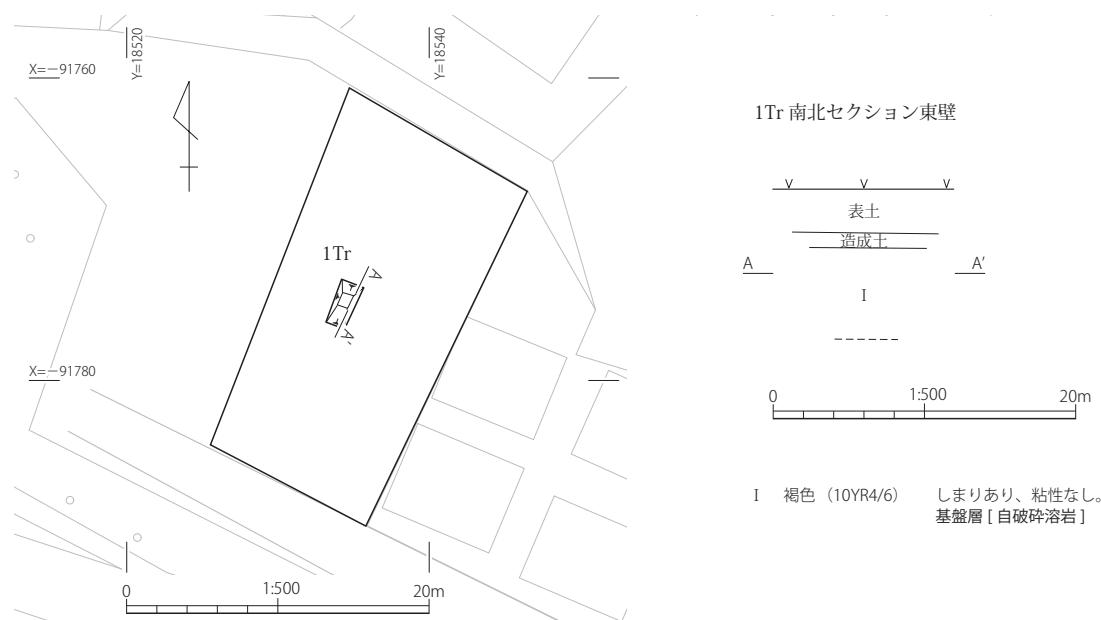
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 敷地全体が大規模に削平を受けており、遺構・遺物を確認することはできなかった。敷地内に埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。



第117図 中島遺跡第17地区 位置図



第118図 中島遺跡第17地区 トレンチ配置図、セクション図

51. 水神堂遺跡 第4地区 1次調査

所 在 地 原田 810

調査面積 16.250 m² (対象面積 1368 m²)

調査期間 令和6年3月13日

調査の原因 宅地分譲

調査の概要 敷地内に3箇所のトレンチ(1~3Tr)を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 敷地西方に設定した1Trの調査により、松原川に向かって土地が急激に傾斜していることが確認された。谷地形内の堆積層からは縄文時代以降の遺物は全く確認されなかった。

一方、敷地東側の2Tr・3Trでは近世以降の土地改変により自然堆積層が確認されなかった。

地表面で奈良・平安時代の遺物が採集されることから、かつては当該期の遺跡が展開していた可能性が高いが、現在は全く残存しないと結論付けられる。



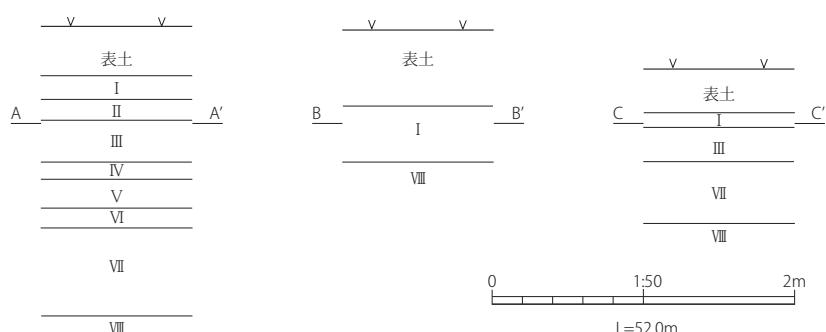
第119図 水神堂遺跡第4地区 位置図



1Tr 南北セクション東壁

2Tr 東西セクション北壁

3Tr 東西セクション北壁



I	黒色土 (7.5YR2/1)	しまりややあり、粘性ややあり。
II	黒色土 (7.5YR2/1)	しまりややあり、粘性ややあり。白色粒子多量。
III	黒色土 (7.5YR2/1)	しまりややあり、粘性ややあり。
IV	黒褐色土 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性ややあり。
V	黒色土 (7.5YR2/1)	しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子中量。
VI	黒褐色土 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子中量。
VII	黒褐色土 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性なし。礫多量。
VIII	黒褐色土 (7.5YR3/2)	しまりややあり、粘性ややあり。

(KU 対応か)

(FB 対応か)

(Zn 対応か)

自破碎溶岩層

第120図 水神堂遺跡第4地区 トレンチ配置図、セクション図

埋蔵文化財包蔵地の範囲や遺跡種類等の内容については、確認・試掘調査や現地踏査により得られた情報に基づき、隨時、変更や新規登録を行っている。

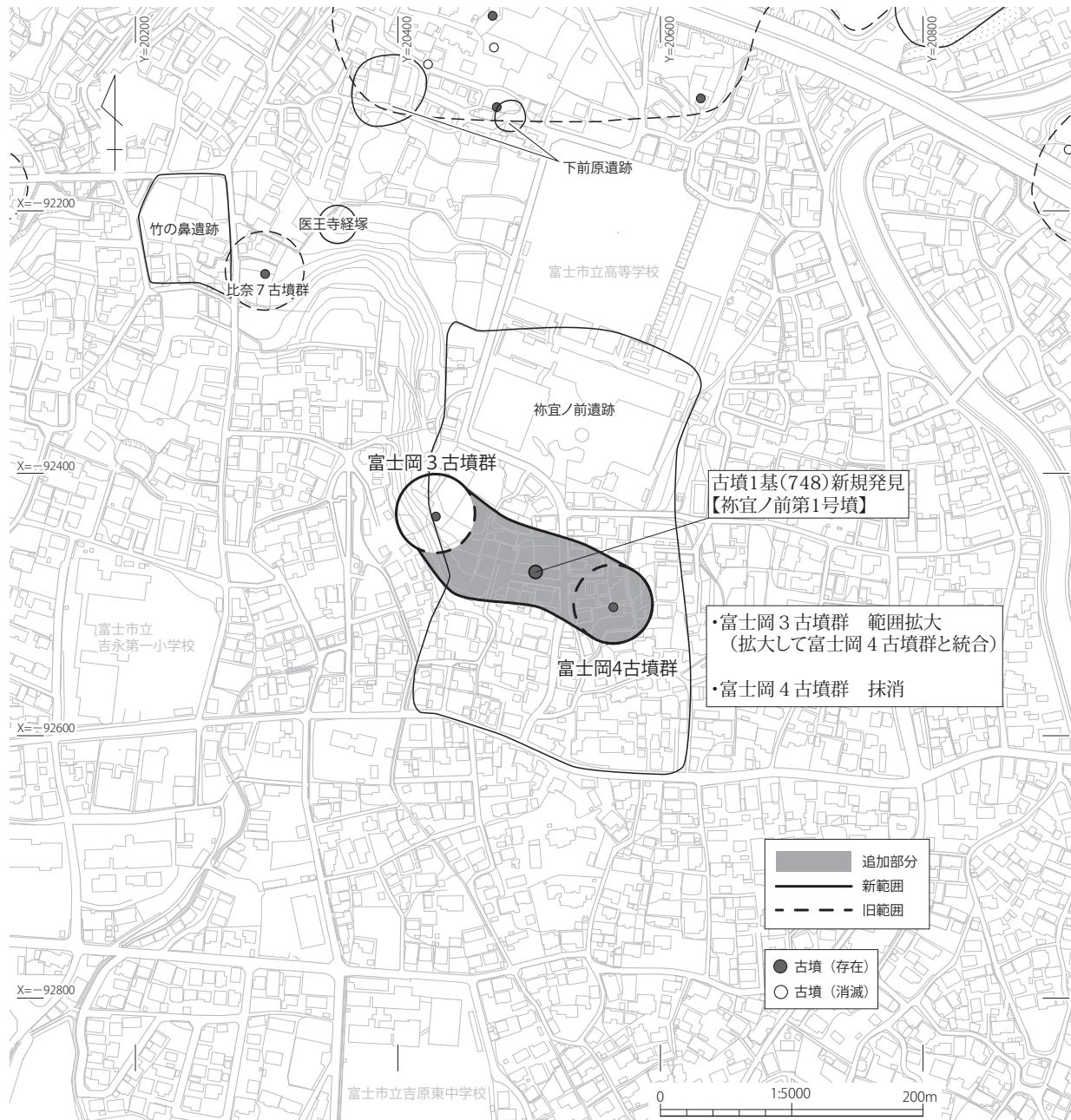
令和6年1月から令和7年1月の間に行われた埋蔵文化財包蔵地の登録内容変更について、ここで報告する。

第10表 埋蔵文化財包蔵地 登録内容の変更

遺跡番号	遺跡名	変更内容	変更年月日
200 神谷古墳群	古墳1基（市古墳番号747 (第121図参照)	須津J-第197号墳)の新規発見	令和6年6月17日発見
194 富士岡3古墳群	古墳1基（市古墳番号748 称宜ノ前第1号墳）の新規発見 包蔵地範囲の追加および富士岡4古墳群と統合（第122図参照）		令和7年1月20日
195 富士岡4古墳群	富士岡3古墳群との統合により抹消（第122図参照）		令和7年1月20日



第121図 神谷古墳群の内容変更



第122図 富士岡3古墳群・富士岡4古墳群の内容変更

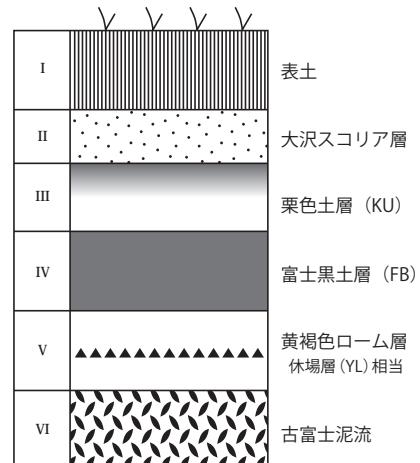
第2章 天間沢遺跡の調査

第1節 天間沢遺跡の概要

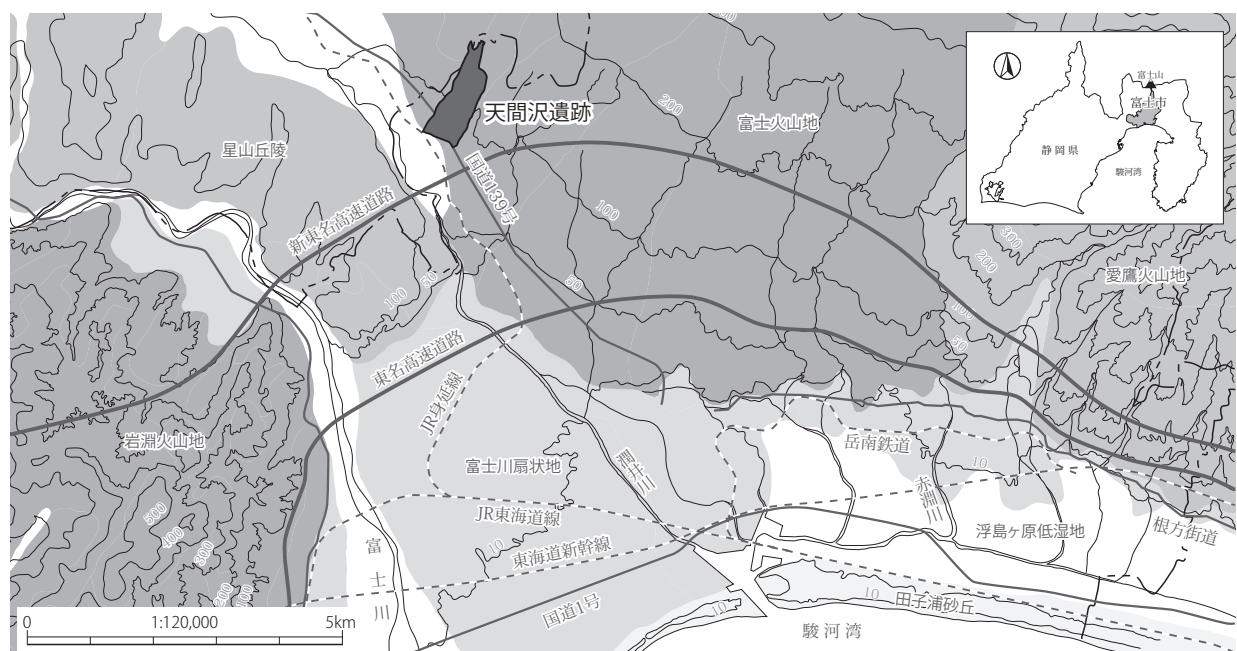
天間沢遺跡は、世界遺産である富士山の南西山麓域に立地し、開析によって形成された尾根上の丘陵部に営まれた遺跡である。富士山は、数十万年前の更新世に活動を開始し、現在も活動を継続中の成層火山であるが、天間沢遺跡の最下層は古富士泥流と呼ばれる溶岩礫およびその碎屑であり、人類の生活跡が確認されるのは、この泥流より上位に堆積した火山灰土からである。この古富士泥流は、放射性炭素C14測定で約3万～1.5万yrBPの所産とされており、ほぼ立川ローム層および愛鷹上部ローム層と同じ、古富士火山の噴火活動による生成と考えられる。天間沢遺跡では、この泥流層直上に黄褐色ローム層が堆積し、その上に富士黒土層(FB)、栗色土層(Ku)と、愛鷹上部ローム標準土層に対応する堆積が確認できる。そのため、この黄褐色ローム層は、中位に上層と下層を分けるスコリアが確認される場合もあることから、愛鷹上部ローム層の休場層(YL)相当層と考えられる。なお、確定することはできないが、活発な火山活動と関連づ

けると、この泥流は愛鷹上部ローム第Iスコリア層(ScI)と同じ成因によるものかもしれない。

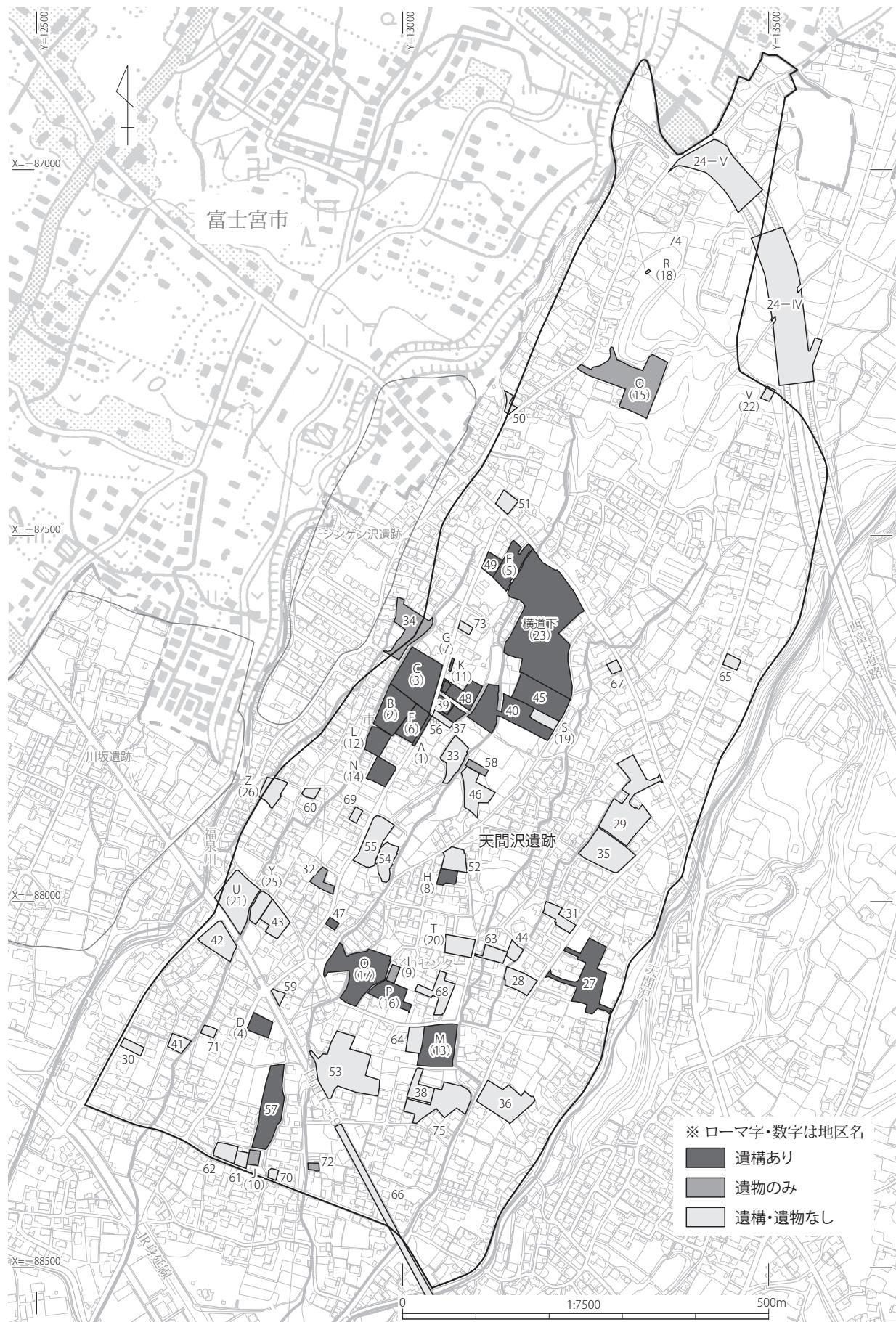
この黄褐色ローム層からは遺物は出土していないが、K地区に後期旧石器時代の遺物であるナイフ形石器が確認できるので、天間沢遺跡の最初の住人は後期旧石器時代人と考えられる。



第123図 天間沢遺跡 標準土層



第124図 天間沢遺跡の位置



第125図 天間沢遺跡 調査履歴図



第126図 天間沢遺跡 遺構分布状況図

完新世になって、P 地区と Q 地区の富士黒土層からは縄文時代早期後葉の遺物が出土し、天間沢遺跡のほぼ全域で、栗色土層中で縄文時代中期から後期にかけての遺構と遺物が検出される。特に縄文時代中期後葉に最盛期を迎えていた。天間沢遺跡は、近隣の縄文時代中期の遺跡として著名的な富士宮市の国指定史跡千居遺跡や滝戸遺跡、沼津市の大芝原遺跡などとともに、富士・愛鷹山麓の拠点集落として営まれていたと考えられる。

その後も、栗色土層を切り込む形で、黒色土を覆土とする古墳時代前期の建物などの遺構、遺物が検出され、さらに奈良・平安時代から中世までの遺物が出土していることから、天間沢遺跡は更新世末期から中世まで、人々の生活が営まれていることがわかつてきている。

天間沢遺跡が発見されたのは昭和 2～3 年（1927～28 年）のこと、富士宮市域を中心に遺跡踏査・遺物採集を行っていた岳南考古学会の佐野武勇氏が、旧鷹岡村天間の畠を踏査し、多数の縄文土器・

石器を確認したことによる。その後多くの研究者や学生により遺跡踏査が行われたが、小規模ながら初めての発掘調査（第 6 地区 -1 次、旧：第 1 次調査）が行われたのは、発見から 30 年以上が経過した昭和 35 年のことであった。

開発に伴う発掘調査が相次いだのは、昭和 45 年から昭和 47 年にかけてのことである。道路建設に伴う第 1 地区（旧：第 2 次調査 A 地区）、市立幼稚園建設に伴う第 2 地区（旧：第 3 次調査 B 地区）、市営団地建設に伴う第 3 地区（旧：第 4 次調査 C 地区）、ボーリング場建設に伴う第 23 地区 -1 次（旧：第 5 次調査 横道下地区）と、3 年間という短期間に 4 次に渡る緊急発掘調査が実施された。近接した地区で実施されたこれらの調査では、縄文時代中期・後期および古墳時代前期の集落が検出され、とりわけ縄文時代中期の遺物出土量が際立っていたことから、天間沢遺跡は当地域における当該期の中核的な遺跡と捉えられることとなった。

第 11 表 天間沢遺跡調査履歴

調査年度	調査番号	地区・次 (旧地区名)	調査種類	調査期間	所在地 調査の契機	対象(m ²) 調査(m ²)	時代	遺構	遺物	報告書
S35		6 地区 -1 次 (第 1 次 F 地区の一部)	学術調査	1960****	天間 1048 - 1 学術調査	100	縄文中期	配石遺構		
S44		1 地区 (第 2 次 A 地区)	本調査	19700323 ～ 19700405	天間 1048 外 市道高屋天間沢線建設	300	縄文中期 古墳初頭	配石遺構 建物 2	縄文土器・石器 土師器	2
S46		2 地区 (第 3 次 B 地区)	本調査	19710910 ～ 19711028	天間 1047 - 1 市立天間幼稚園建設	2,600	縄文中期	配石遺構・土坑 5・建物 1	縄文土器・石器	2
S46		3 地区 (第 4 次 C 地区)	本調査	19711224 ～ 19720627	天間 1045 - 1 外 市営住宅天間団地建設	3,400	縄文中期 古墳初頭	建物 11・土坑 15	縄文土器・石器 土師器	2
S46		23 地区 -1 次 (第 5 次 横道下地区第 1 次)	本調査	19711224 ～ 19720215	天間 995 ボーリング場建設	500	縄文中期～後期 古墳初頭	配石遺構・建物 1 建物 6	縄文土器・石器 土師器	2
S47		4 地区 (第 6 次 D 地区)	試掘	19730325 ～ 19730329	天間 577 - 1 遺跡範囲確認	100	縄文中期 律令期？	ピット状遺構	縄文土器 土師器	20
S47		5 地区 -1 次 (第 6 次 E 地区)	試掘	19721224 ～ 19721229	天間 988 - 1 遺跡範囲確認	50	縄文中期 古墳初頭	ピット状遺構 溝状遺構	縄文土器	20
S53		6 地区 -2 次 (第 7 次 F 地区)	試掘	19781002 ～ 19781202	天間 1048 - 1 市立天間幼稚園拡張	1,053	縄文中期	土坑 30・建物 2 集石遺構 4	縄文土器・石器	1 2
S54		24 地区 (第 1 ～ V 地点)	試掘	19791006 ～ 19791116	久沢 外 西富士道路建設		縄文 弥生	なし	縄文土器・石器・有孔磨製 石鏃	3
S58		17 地区 -1 次 (Q 地区)	試掘	19830418 ～ 19830419	天間 1106 - 1 天間公民館建設	1,142 125		なし		本章 第 2 節
S58		7 地区 (第 8 次 G 地区)	試掘	19831024 ～ 19831028	天間 1045 - 5 遺跡範囲確認	50	縄文 古墳	配石遺構 1・埋甕 1・土坑 2 ピット 2	縄文土器	20
S58		8 地区 (第 8 次 H 地区)	試掘	19831107 ～ 19831112	天間 1130 - 1 遺跡範囲確認	50	古墳	堅穴建物 1		20
S58		9 地区 (第 8 次 I 地区)	試掘	19831114 ～ 19831117	天間 1121 遺跡範囲確認	50	縄文	なし	縄文土器	20
S58		10 地区 (第 8 次 J 地区)	試掘	19831118 ～ 19831122	天間 528・529 遺跡範囲確認	50	律令期	なし	土師器・須恵器	20
S59		11 地区 (K 地区)	試掘	19841015 ～ 19841031	天間 1011 - 1 分布確認調査	200	縄文	建物 5・土坑	縄文土器	20
S61		12 地区 (L 地区)	試掘	19860905 ～ 19860910	天間 1062 - 3 宅地造成	750 300	縄文 古墳以降	土坑 5 溝状遺構 1	縄文土器・黒曜石・打製石 斧	20
S62		13 地区 (M 地区)	試掘	19870511 ～ 19870515	天間 1312 - 1 外 宅地造成	2,579 150	縄文	土坑 2	無し（周辺から縄文土器・ 土師器出土）	20
S62		23 地区 -2 次 (横道下地区第 2 次)	試掘	19870907 ～ 19870921	天間 999 外 宅地造成	7,000 400	縄文	埋甕 1・土坑 1 ・配石遺構 1	縄文土器・石斧	本章 第 7 節
H01		14 地区 (N 地区)	試掘	19890605 ～ 19890622	天間 1061 - 1 外 宅地造成	968 367	縄文 古墳初頭	堅穴建物 1・ピット 1	縄文土器・石鏃・石斧 土師器	20

調査年度	調査番号	地区・次(旧地区名)	調査種類	調査期間	所在地調査の契機	対象(m ²)調査(m ²)	時代	遺構	遺物	報告書
H01		15地区(O地区)	試掘	19890905～19890913	天間1896-2外農産物集出荷場住宅建設	4,758 660	縄文 中・近世	土坑2	縄文土器片	20
H03		16地区(P地区)	試掘	19911202～19911211	天間1120-4天間沢遺跡公園整備	1,329 495	縄文 古墳	堅穴建物	縄文土器・黒曜石 土師器	20
H03		17地区-2次(Q地区)	試掘	19911219	天間1115-1外天間公民館駐車場造成	648		なし	なし	本章第2節
H03		18地区(R地区)	試掘	19920316～19920319	天間1943-1送電線鉄塔建設	144 22		なし	なし	本章第3節
H04		19地区(S地区)	試掘	19920708～19920710	天間1001-4共同住宅建設	905 65		なし	なし	本章第4節
H04		20地区(T地区)	試掘	19911013～19921026	天間1127-1外共同住宅建設	960 312		なし	なし	本章第5節
H04		21地区(U地区)	試掘	19921020～19921027	天間591-1倉庫・事務所建設	2,915 194		なし	なし	本章第6節
H04		22地区(V地区)	試掘	19930225	天間1785-21送電線鉄塔建設	144 40		なし	なし	本章第3節
H05		5地区-2次(E-2地区)	試掘	19930420～19930428	天間988-8外共同住宅敷地造成	1,274 170	縄文 古墳	土坑・ピット 溝状遺構	縄文土器	20
H05		5地区-3次(E-2地区)	本調査	19930524～19930705	天間988-8外共同住宅敷地造成	1,274 300	縄文 古墳	土坑・炉跡・埋甕 ピット状遺構・溝状遺構	縄文土器・石器	20
H14		17地区-3次(Q地区-1次)	試掘	20020508～20020520	天間1117-1外天間公民館増築	1,633 365	縄文 古墳	埋甕	縄文土器・石器 土師器	4 本章第2節
H14		17地区-4次(Q地区-2次)	本調査	20020527～20020701	天間1117-1外天間公民館増築	800 683	縄文 古墳	土坑	縄文土器 土師器	本章第2節
H14		25地区(Y地区)	試掘	20020823	天間590-1外共同住宅建設	635 90		なし	なし	4
H17		26地区(Z地区)	試掘	20060302	天間937-1宅地造成	839 26		なし	なし	5
H19 H19-22		27地区-1次	試掘	20080318～20080326	天間1238-1外宅地造成	3,266 87	古墳	堅穴建物2・溝状遺構1	土師器	6
H20 H20-09		27地区-2次	試掘	20081107	天間1238-1外宅地造成	2,665 27		なし	なし	4
H20 H20-02		28地区	試掘	20080521～20080522	天間1167-1外集合住宅建設	995 56		なし	なし	4
H20 H20-11		29地区	試掘	20081215～20081222	天間1189-1外宅地造成	4,000 209		なし	なし	4
H21 H21-01		27地区-3次	試掘	20090406	天間1242外集合住宅建設	1,866 13		なし	なし	7
H22 H22-27		30地区	試掘	20110126	天間625-10外不動産売買	342 8		なし	なし	8
H23 H23-02		31地区	試掘	20110411	天間1168-6外集合住宅建設	635 14		なし	なし	8
H23 H23-08		32地区	試掘	20110603	天間1096-1外集合住宅建設	628 19	縄文	なし	土器	8
H24 H24-15		33地区	確認	20121129	天間1050-1の一部集合住宅新築	896 12		なし	なし	9
H24 H24-16		34地区	確認	20121205～20121206	天間964-1外及び官有地宅地造成	2,158 72	縄文	なし	縄文土器	9
H25 H25-03		35地区	確認	20130418	天間1174-3外宅地造成	1,985 38		なし	なし	9
H25 H25-17		36地区	確認	20130909～20130911	天間1263外宅地造成	2,178 82		なし	なし	9
H25 H25-20		37地区	確認	20131001～20131004	天間1010-5個人住宅建設	398 46	縄文	堅穴建物・ピット	縄文土器・石器	9
H25 H25-23		38地区	確認	20131029	天間1317-1外共同住宅建設	965 9		なし	なし	9
H25 H25-31		39地区	確認	20140117～20140110	天間1010-6個人住宅建設	353 53	縄文	土坑・ピット	縄文土器・石器	9
H26 H26-12		40地区-1次	確認	20140722～20140728	天間1001-1外長屋住宅新築	3,517 99	縄文	堅穴建物・ピット	縄文土器	10
H26 H26-15		40地区-2次	確認	20140818～20140821	天間1001-1外長屋住宅新築	3,517 65	縄文	ピット	縄文土器	10
H26 H26-39		41地区	確認	20150126	天間615-1外不動産売買	507 9		なし	なし	11
H27 H27-03		42地区	確認	20150417	天間600番1外店舗建設	1,510 23		なし	なし	11
H27 H27-101		40地区-3次	本調査	20150511～20150717	天間1001番1外長屋新築	3,517 892	縄文	堅穴建物・溝・土坑・ピット	縄文土器・石器	10
H28 H28-25		43地区	確認	20161114	天間590番1外個人住宅及び集合住宅建設	996 7		なし	なし	12
H28 H28-27		44地区	確認	20161121	天間1159番1外集合住宅建設	454 12		なし	なし	12
H29 H29-05		45地区-1次	確認	20170509～20170510	天間1000-1宅地分譲	2,437 47	縄文	堅穴建物・土坑・ピット	縄文土器・石器	13
H29 H29-102		45地区-2次	本調査	20170619～20170810	天間1000-1宅地分譲	272	縄文	堅穴建物・埋甕・土坑・ピット	縄文土器・石器	13
H29 H29-09		46地区	確認	20170628～20170629	天間1137-1農地改良	1,415 25	なし	なし	なし	14
H29 H29-12		47地区	確認	20170703	天間1098-12不動産売買	165 6	縄文	ピット	縄文土器・黒曜石	14
H29 H29-15		48地区	確認	20170720～20170721	天間1011-1外宅地造成	1,455 30	縄文	ピット	縄文土器	14
H29 H29-16		49地区	確認	20170817～20170818	天間988-15宅地造成	489 23	縄文	ピット・溝・不明遺構	縄文土器	14
H30 H30-24		50地区-1次	確認	20180724	天間1889-14個人住宅新築	276,000 4,429		なし	なし	15

調査年度	調査番号	地区・次 (旧地区名)	調査種類	調査期間	所在地 調査の契機	対象(m ²) 調査(m ²)	時代	遺構	遺物	報告書
H30	H30-25	51 地区 - 1 次	確認	20180725	天間 1884-1 建壳住宅新築	485.120 13.530	なし	なし		15
H30	H30-35	52 地区 - 1 次	確認	20180830	天間 1130-2 個人住宅新築	263.000 4.845	なし	なし		15
H30	H30-39	53 地区 - 1 次	確認	20180906	天間 569 番 1 ほか 店舗建設	4,801.740 56.246	なし	なし		15
H30	H30-60	54 地区 - 1 次	確認	20190108	天間 1079 ほか 不動産売買	872.410 5.143	なし	なし		15
H31	H31-31	40 地区 - 4 次	確認	20190826	天間 1001-6 個人住宅新築	321.000 12.693	なし	なし		16
H31	H31-48	52 地区 - 2 次	確認	20191105	天間 1130-2 個人住宅新築	263.000 5.687	なし	なし		16
H31	H31-03	55 地区 - 1 次	確認	20190417 ~ 20190418	天間 1075-1 外 宅地分譲造成	1,804.000 91.819	なし	なし		16
H31	H31-11	56 地区 - 1 次	確認	20190520	天間 1010-1 宅地分譲	280.000 10.552	なし	なし		16
H31	H31-34	57 地区 - 1 次	確認	20190909 ~ 20190912	天間 529-1 ほか 宅地分譲	4,200.000 173.008 繩文 奈良	土坑・ピット 竪穴建物・溝・土坑 ・ピット	土器・石器		16
H31	H31-39	58 地区 - 1 次	確認	20190919	天間 1137-1 個人農地改良	350.000 26.279 繩文	なし		土器	16
H31	H31-52	59 地区 - 1 次	確認	20191212	天間 584-13 不動産売買	227.090 4.078	なし	なし		16
H31	H31-54	60 地区 - 1 次	確認	20191216 ~ 20191217	天間 1069-2 個人住宅新築	198.340 4.781	なし	なし		16
R02	R02-09	17 地区 - 5 次	確認	20200422 ~ 20200423	天間 1115-1 耐震性貯水槽建造	100.000 10.531	なし	なし		17
R02	R02-25	61 地区 - 1 次	確認	20200722	天間 529-1 公会堂建設	345.000 15.035	なし	なし		17
R02	R02-31	62 地区 - 1 次	確認	20200805	天間 528 不動産売買	593.000 17.113	なし	なし		17
R02	R02-33	63 地区 - 1 次	確認	20200827	天間 1157-3 不動産売買	562.150 5.541	なし	なし		17
R02	R02-49	64 地区 - 1 次	確認	20201014 ~ 20201016	天間 1320-5 個人住宅建設	702.000 16.998	なし	なし		17
R03	R03-32	65 地区 - 1 次	確認	20211014	天間 1812-8 店舗建設	297.830 3.144	なし	なし		18
R03	R03-15	66 地区 - 1 次	確認	20210820	天間地先 下水道建設	56.280 8.000	なし	なし		18
R03	R03-33	67 地区 - 1 次	確認	20211115	天間 1208-1 個人住宅建設	205.410 6.314	なし	なし		18
R03	R03-39	68 地区 - 1 次	確認	20211124 ~ 20211125	天間 1124-1 不動産売買	1,286.14 25.875	なし	なし		18
R03	R03-52	69 地区 - 1 次	確認	20220203	天間 1072-7 ほか 土地売買	230.000 8.719	なし	なし		18
R04	R04-17	45 地区 - 3 次	確認	20220616	天間 1000 番 1 個人住宅建設	204.790 3.372	なし	なし		19
R04	R04-101	48 地区 - 2 次	本発掘	20220801	天間 1011-7 個人住宅合併浄化槽設置	4.643 繩文	なし		土器・石器	19
R04	R04-01	70 地区 - 1 次	確認	20220405	天間 522-18 外 不動産売買	69.020 6.330	なし	なし		19
R04	R04-40	71 地区 - 1 次	確認	20221121	天間 550 番 3 個人住宅建設	195.820 22.030	なし	なし		19
R05	R05-08	72 地区 - 1 次	確認	20230419	天間 1327-14 個人住宅建設	163.720 4.971 平安	なし		土器(平安時代)	本書1章
R05	R05-29	73 地区 - 1 次	確認	20230828	天間 1022-1 個人住宅建設	473.570 14.221	なし	なし		本書1章
R05	R05-46	74 地区 - 1 次	確認	20231102	天間 1942-5 個人住宅建設	731.780 5.893	なし	なし		本書1章
R05	R05-48	75 地区 - 1 次	確認	20231129 ~ 20231130	天間 1296-6 宅地分譲	2,259.000 28.269	なし	なし		本書1章

- 報告書 1 『天間沢遺跡第7次(F地区)発掘調査概報』(1979)
 2 『天間沢遺跡I 遺構編』(1984)・『天間沢遺跡II 遺物・考察編』(1985)
 3 『西富士道路(富士地区)・岳南広域都市計画道路田子浦臨港線埋蔵文化財発掘調査報告書』「天間地区」(1981)
 4 『平成14・20年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2010)
 5 『平成17・18年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』富教委(2008)
 6 『平成15・19年度富士市内遺跡発掘調査報告書』(2009)
 7 『平成21年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2011)
 8 『富士市内遺跡発掘調査報告書-平成22・23年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第54集(2013)
 9 『富士市内遺跡発掘調査報告書-平成24・25年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第57集(2015)
 10 『天間沢遺跡』富士市埋蔵文化財調査報告 第58集(2016)
 11 『富士市内遺跡発掘調査報告書-平成26・27年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第60集(2017)
 12 『富士市内遺跡発掘調査報告書-平成28年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第62集(2017)
 13 『天間沢遺跡 第45地区』富士市埋蔵文化財調査報告 第65集(2019)
 14 『富士市内遺跡発掘調査報告書-平成29年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第66集(2019)
 15 『富士市内遺跡発掘調査報告書-平成30年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第67集(2019)
 16 『富士市内遺跡発掘調査報告書-令和元年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第70集(2021)
 17 『富士市内遺跡発掘調査報告書-令和2年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第73集(2022)
 18 『富士市内遺跡発掘調査報告書-令和3年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第76集(2023)
 19 『富士市内遺跡発掘調査報告書-令和4年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第79集(2024)
 20 『天間沢遺跡 D・E・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P地区』富士市埋蔵文化財調査報告 第80集(2024)

第2節 Q地区(第17地区)の調査

1次調査に至る経緯

昭和57年、富士市教育委員会は、富士市天間1106-1外(1,142.5m²)において、天間公民館の建設を計画した。

当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」の範囲内に位置することから、昭和57年11月24日、富士市教育委員会文化振興課は、文化財の所在の有無の確認のための分布調査を実施した。

その結果、当該地は傾斜地であり、さらに1~1.5mの盛土がされているため、遺構等が存在する可能性は低いものの、周辺からは遺物が採集されるため、事前に確認調査を実施する必要があると、静岡県教育委員会へ報告した(昭和57年11月26日付け、富教文第59号)。

1次調査の経過

確認調査は、富士市教育委員会文化振興課職員により、昭和58年4月18日から4月19日にかけて実施された。

調査地は中央を北から南へ流れる小川により東西に分けられている。東側は西側より1mほど低く、一部を削平して平坦地にしている。西側は道路面に合わせて盛土がされ、駐車場として利用されている。

東側に十字形のトレンチを1箇所、西側に南北方向のトレンチを1箇所設定し、重機により掘削した。

東側トレンチでは、厚さ0.5mほどの表土層の直下に、平坦に削られた黄褐色ローム層が検出された。西側トレンチでは、盛土の下に厚さ0.5mほどの旧表土が検出されたものの、その下には遺物包含層はすでになく、古富士泥流の礫層となっていた。

調査地においては遺物包含層が消滅しており、遺跡の分布はないものと判断された。

2次調査

平成3年度には、敷地南側での天間公民館駐車場造成に伴い、工事立会いを実施した(これを2次調査と位置づける)が、遺構・遺物は確認されなかった。



第127図 天間沢遺跡Q地区位置図

3次調査(旧:Q地区-1次)に至る経緯

富士市役所生涯学習課(当時)では、富士市天間1117-1外(1,633m²)において天間公民館の増築工事を計画した。

平成13年10月10日、富士市長から文化財保護法第57条の3第1項(当時)の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の通知書」が提出され(文書番号64号)、これを受けた富士市教育委員会文化スポーツ課(当時)による確認調査を実施することとなった。

3次調査の経過

調査は平成14年5月8日から5月20日にかけて実施した。

調査地の南側に南北方向のトレンチを2本(1~2Tr)、中央から北側に東西方向のトレンチを4本(3~6Tr)、北西側に南北方向のトレンチを1本(7Tr)設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、多数の土坑・ピットを検出した。なかでも、調査地北西に設定した7Trでは、縄文時代の集石遺構(7Tr SS1)とそれに伴う土器集中や、古墳時代の土器を埋納した土坑(7Tr SK4)などが検出され、調査地中央の4・5Trでは自然礫の集積が認められた。なお、この調査時にPitと土坑の名称が、大きさに差異なく併用されているため、現地調査名のまま遺構名とした。

4次調査（旧：Q地区-2次）に至る経緯

確認調査（3次調査）の結果を受けて、富士市教育委員会文化スポーツ課と富士市社会教育課との間で協議を行い、調査地の北半部分を対象に本発掘調査を実施することとなった。

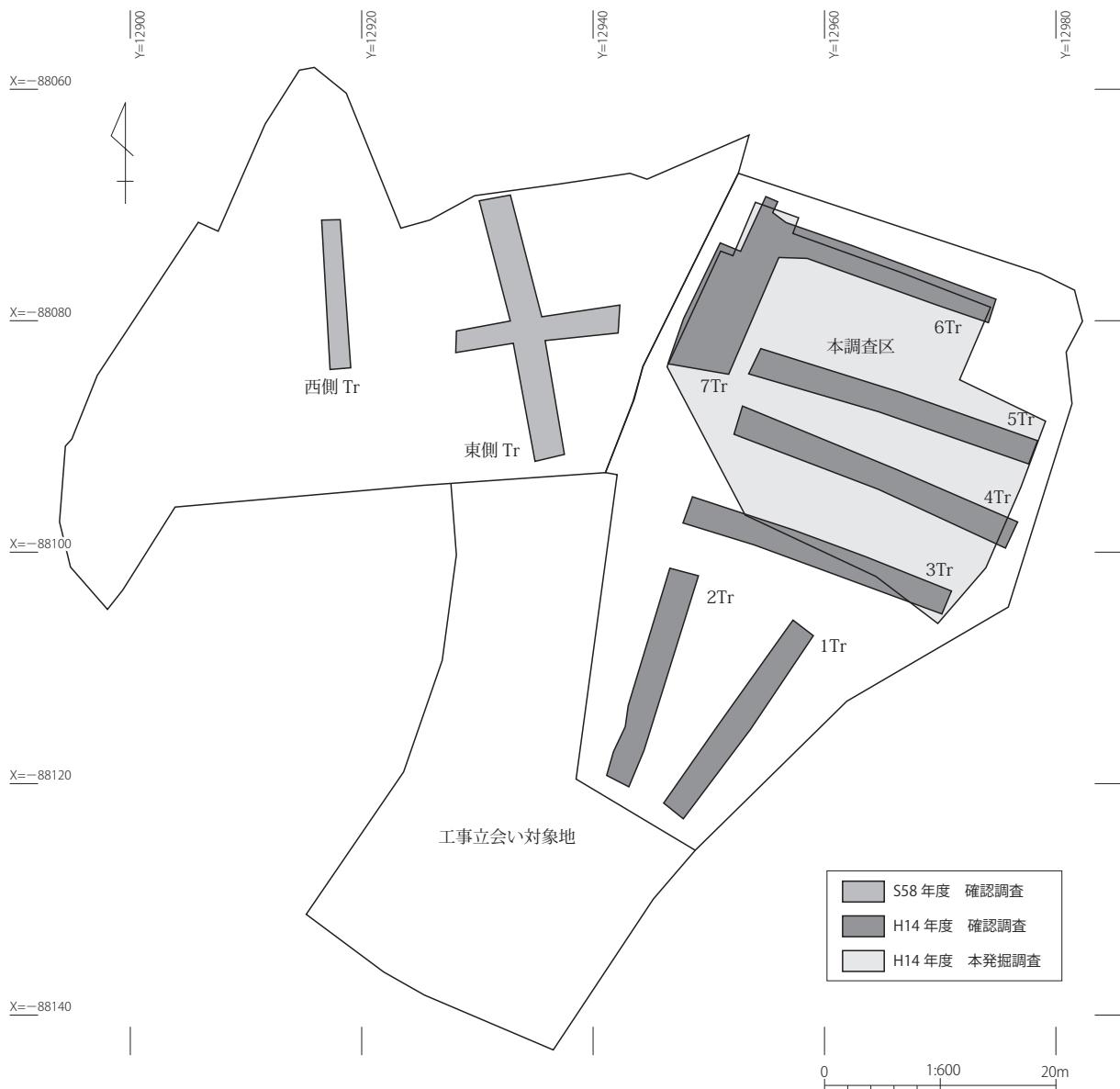
4次調査の経過

本発掘調査（4次調査）は平成14年5月27日から6月28日にかけて実施した。

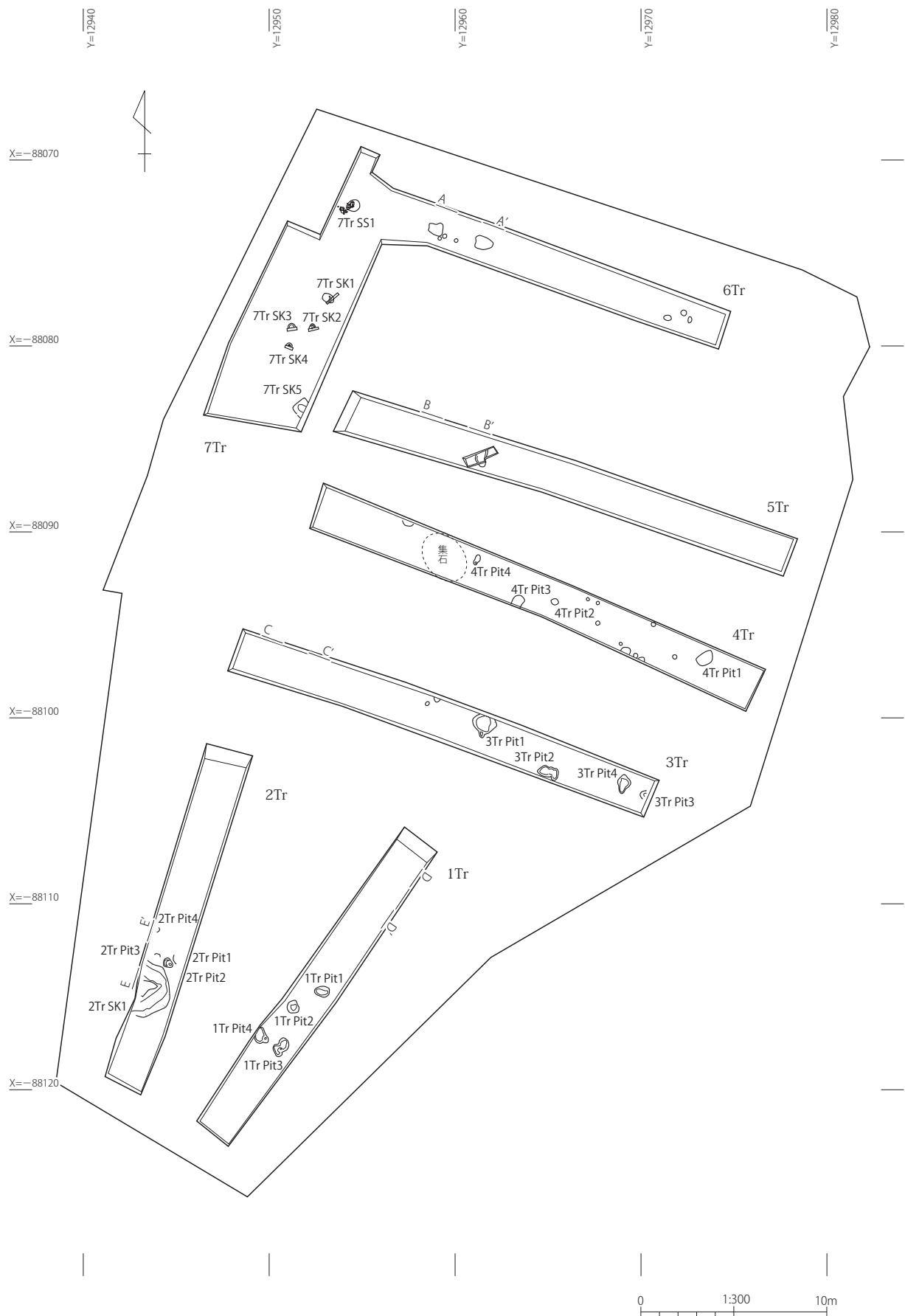
対象地の北半分に本調査区（683m²）を設定し、重機掘削により遺構検出面まで掘り下げた後、人力で精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、ピット89基（Pit1～91、ただし82・88は欠番）を検出し、土層観察や、写真・図面による記録保存を行った。

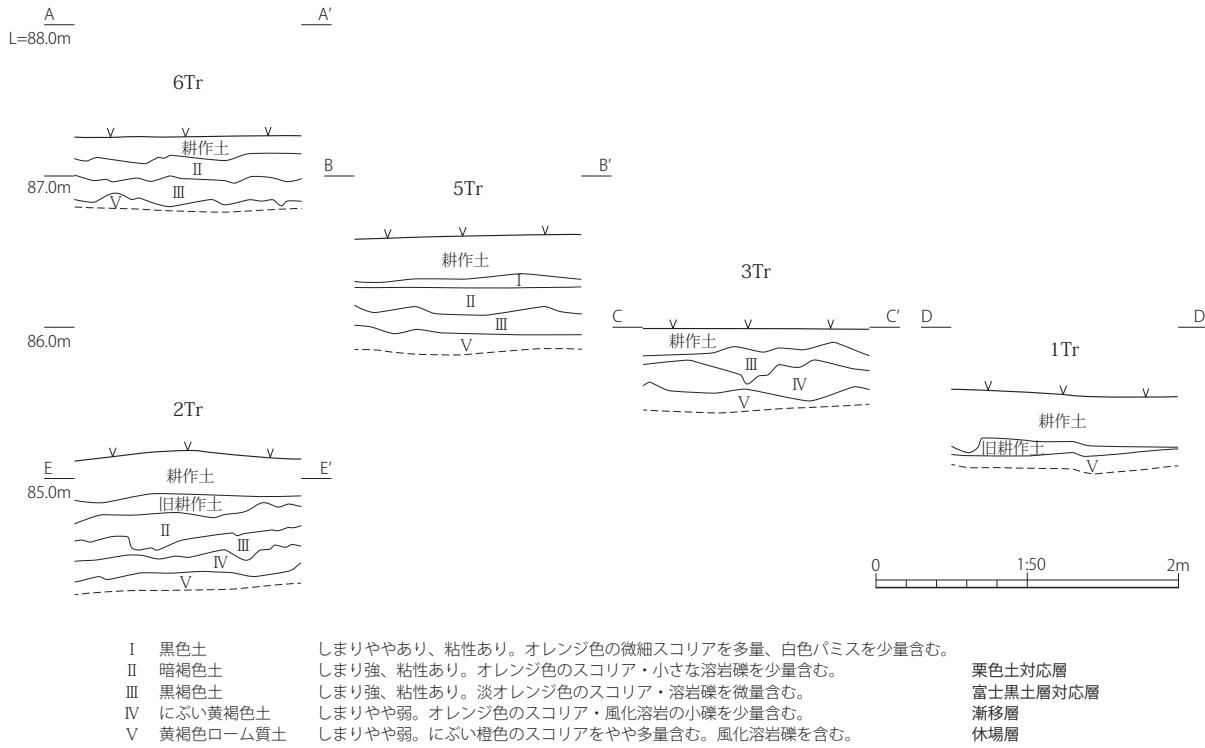
調査の結果について、「発掘調査結果概要」を静岡県教育委員会と富士市長（生涯学習課）に提出した（平成15年3月17日付け、富教文第393号）。



第128図 天間沢遺跡Q地区 トレンチおよび本調査区配置図



第129図 天間沢遺跡Q地区 トレンチ全体図



第130図 天間沢遺跡Q地区 トレンチセクション図

調査の体制

3・4次調査（平成14年度）は以下の体制で実施した。

調査主体 富士市教育委員会 教育長 平岡 彦三
教育次長 鈴木 英之
文化スポーツ課 課長 石井 邦敏
統括主幹 殿岡 孝則
主幹 渡井 義彦
指導主事 渡邊 豊
主査 志村 博
上席主事 前田 勝己
臨時職員 吉田 博子

調査の成果

3次調査では、1Trでピット4基（1Tr Pit1～4）、2Trでピット4基（2Tr Pit1～4）と土坑1基、3Trでピット4基（3Tr Pit1～4）、4Trでピット4基（4Tr Pit1～4）、7Trで土坑5基（7Tr SK1～5）と集石遺構1基（7Tr SS1）を検出した。集石遺構には63・69の縄文時代中期末の加曽利E4式土器が伴っている。ピット・土坑の規模等は第12表に示す。ただし、2Tr SK1は、幅1.0～1.3mの溝が半径1.5mほどの半円形を成したような形状で、深さは55cmを測る。4・5Trでは、自然礫の集積が認められた。

4次調査では、ピット89基（Pit1～91、ただし82・88は欠番）を検出・完掘した。特にPit63からは、八ッ崎I式（1）の完形深鉢が潰れるように出土し、土器表面に煤の付着が顕著であることから、Pit63は縄文時代草創期～早期の時期に特徴的に使用される「炉穴」であった可能性が高い。ピット・土坑の規模等は第12表に示す。

調査区中央南寄りでは3次調査4・5Trで検出されたものと同様に自然礫の集積が認められた。しか

し、これらは谷地形の場所に集中していることが確認され、また周辺で認められる集石・配石土坑等とは石の大きさ等が異なることから、谷地形に自然堆積したものと判断した。

土器は、縄文時代早期後葉のハッ崎I式を主体とするが、茅山式並行と考えられる、やや赤みがかつた胎土で少量の纖維を含んだ沈線文や縄文を施文した土器を伴っている。また、少量の縄文時代中期、古墳時代の土器、平安時代の灰釉陶器等が出土している。

縄文時代早期後葉の土器は、ほぼハッ崎I式のみという状況で、隣接するP地区では、その量が減少するという傾向から、Q地区を中心とする狭い範囲がハッ崎I式期の天間沢遺跡といえるかもしれない。

なお、土坑4(SK4)からは、完形の古墳時代の小型土師器碗(75)が出土しており、土師器と思われる壺胴部(76)も出土していることを考慮すると、ピットと土坑に関しては、縄文時代と古墳時代、平安時代の遺構が混在している可能性が高い。

石器は、黒曜石製の無茎凹基(79)と無茎平基(80)の石鏸、81の黒曜石製ノッチ、82・83の黒曜石と84の富士川ホルンフェルスの石核、85と86の磨石が出土している。また、古墳時代以降のものと考えられる、87の線条痕が顕著な大型の砥石も出土している。81のノッチに関しては、石鏸等の小型石器の素材となる剥片を作出するため、石核残核を再利用していると考えられ、打点凹部のカーブを利用し刃部を形成している。

出土した遺物で、特に注目されるのは、ハッ崎I式の完形深鉢形土器である。口縁部から平底の底部までほぼ完全に揃っている類例は知られていない。また、土器焼成後と考えられるが、底部側面に7つの貫通孔が片側に偏って穿てられている。また、胴部には土器を覆う籠目痕が観察される。この土器は土坑(Pit63)から全個体が潰れたように出土している。このような状況から、本来、Pit63は上部炉体が失われた炉穴と思われる。土器も全体が煤に覆われた様子から、炉穴で燻された状況が想像され、縄文時代早期に多用された炉穴の使用法が類推できる一例となるだろう。図版には、この土器を三次元ソ

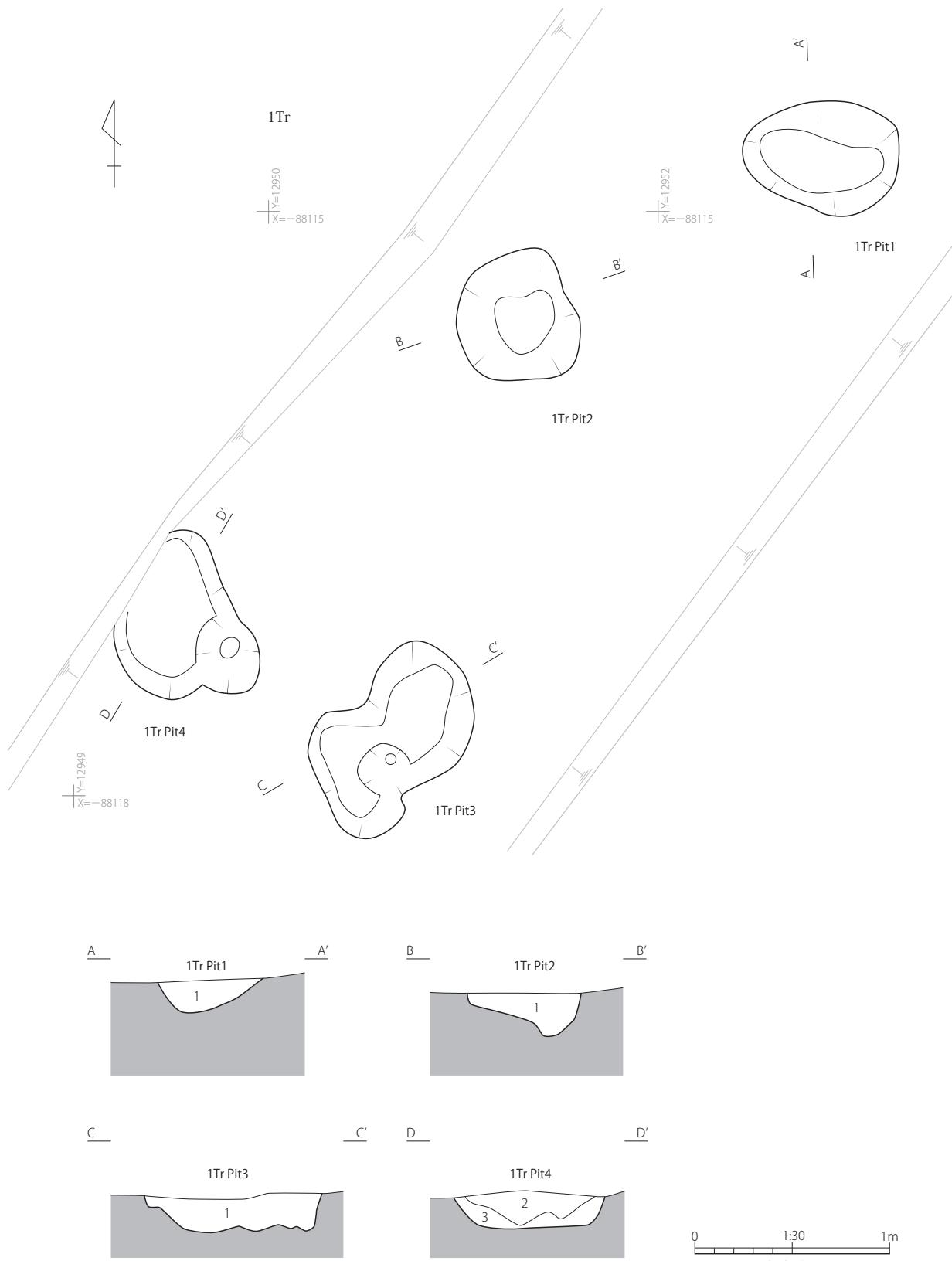
フトウェア Scaniverse、VisualSFM、CloudCompare、MeshLab で 3D 化したモデルをもとにして展開した画像、さらに Lit Sphere Radiance Scaling 処理を行って細部を明確化した画像を掲載した。

ハッ崎I式は、増子康眞氏が 1983 年に設定した縄文時代早期後葉の土器型式で、東海地方を中心に関東から関西まで分布している。時期的には関東の茅山下層式後半期と並行し、東海東部の早期後葉においては、清水柳E式(ミヲ坂式)からはじまり、在地系野島式(木戸上式)から元野式に引き続き、次の粕畑式に繋がる連綿と続く在地型式の一部をなす。器形のわかる個体は、滋賀県米原市の磯山城遺跡、三島市天台B遺跡、長泉町富士石遺跡、神奈川県横須賀市吉井貝塚が知られるのみであり、現在まであまり資料数の多くないハッ崎I式が、Q地区では、ほぼ純粋な形で纏まっていることが重要であろう。

上記以外の遺物として、灰釉陶器(77)と中世の瀬戸美濃系の碗口縁部(78)、江戸末の錢貨「文久永宝」(88)が出土している。

参考文献

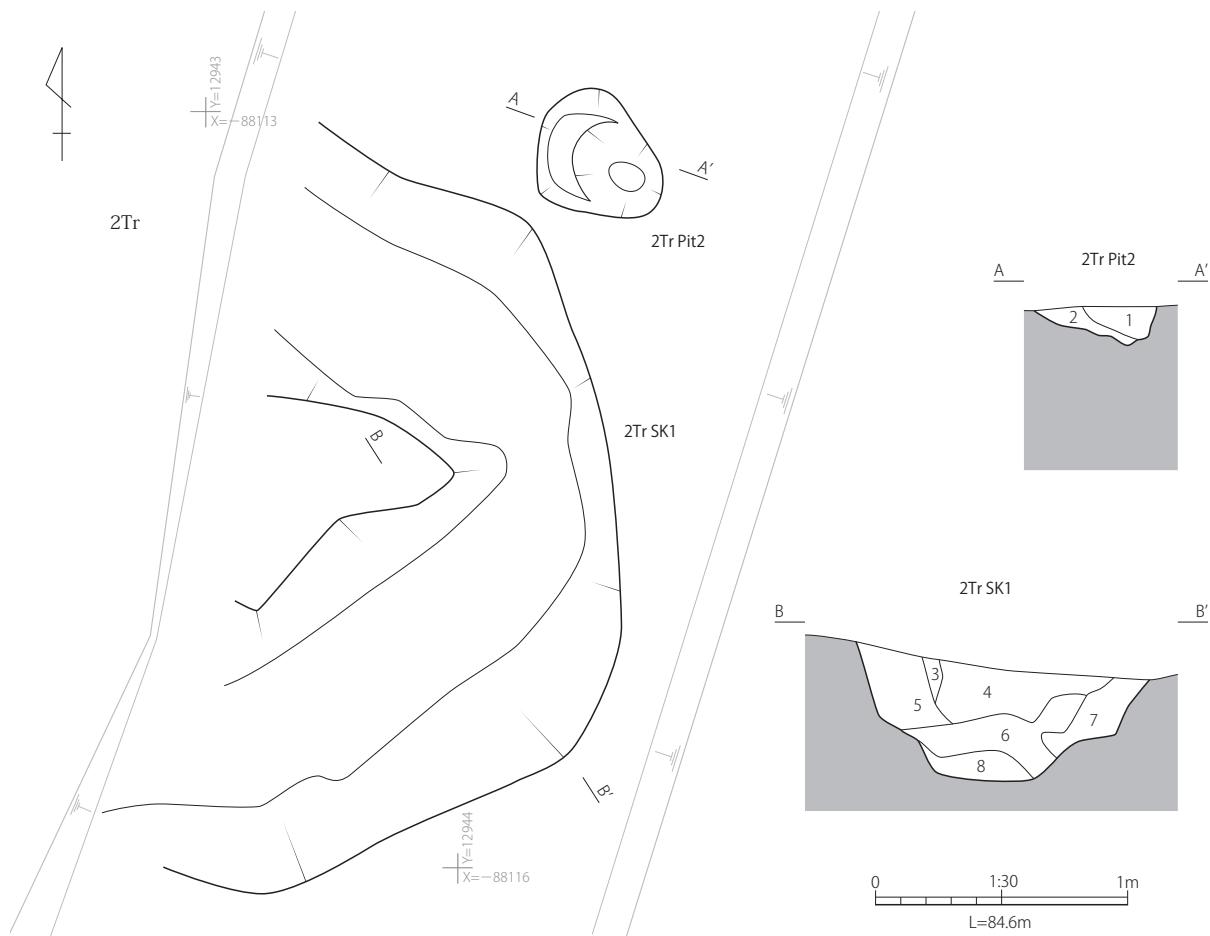
- 増子康眞 1983 「ハッ崎I式土器をめぐって」『古代人』41
名古屋考古学会
中井 均 1986 『磯山城遺跡』米原市教育委員会
池谷初恵 1998 「(1) 土器」『中村分遺跡 天台B遺跡 台崎C遺跡 試掘調査』三島市教育委員会
毒島正明 2005 「ミヲ坂式」「木戸上式」の再提唱について
『土曜考古』第29号 土曜考古学研究会
笛原千賀子 2009 「ふたつの野島 - 長泉町梅ノ木沢遺跡の第II群土器-」『研究紀要』第15号 静岡県埋蔵文化財調査研究所
小崎 晋 2010 「東海地方における早期後葉～前期初頭の貝塚と土器」『縄文海進の考古学』六一書房
壬生亮輔・勝又直人 2012 「第3章 縄文時代の遺構と遺物」
『富士石遺跡III』静岡県埋蔵文化財センター
Romain Vergne, Romain Pacanowski, Pascal Barla, Xavier Granier, Patrick Reuter 2012 「Enhancing surface features with the Radiance Scaling Meshlab Plugin」『Archaeology in the Digital Era Volume II』e-Papers from the 40th Conference on Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology Southampton, 26-30 March 2012 pp.417-421.
野内秀明 2010 「43a 吉井貝塚・吉井城山」『新横須賀市史』横須賀市



1 黄褐色土 しまり強。栗色土と黄褐色土が混ざった土。オレンジ色のスコリア・白色スコリアを微量含む。
 2 黒褐色土 しまりやや強。大沢スコリアをやや多量、黄褐色ロームブロックを少量含む。
 3 黄褐色土 2層の土がわずかに混ざる。

1Tr Pit1～3 覆土
1Tr Pit4 覆土
1Tr Pit4 覆土

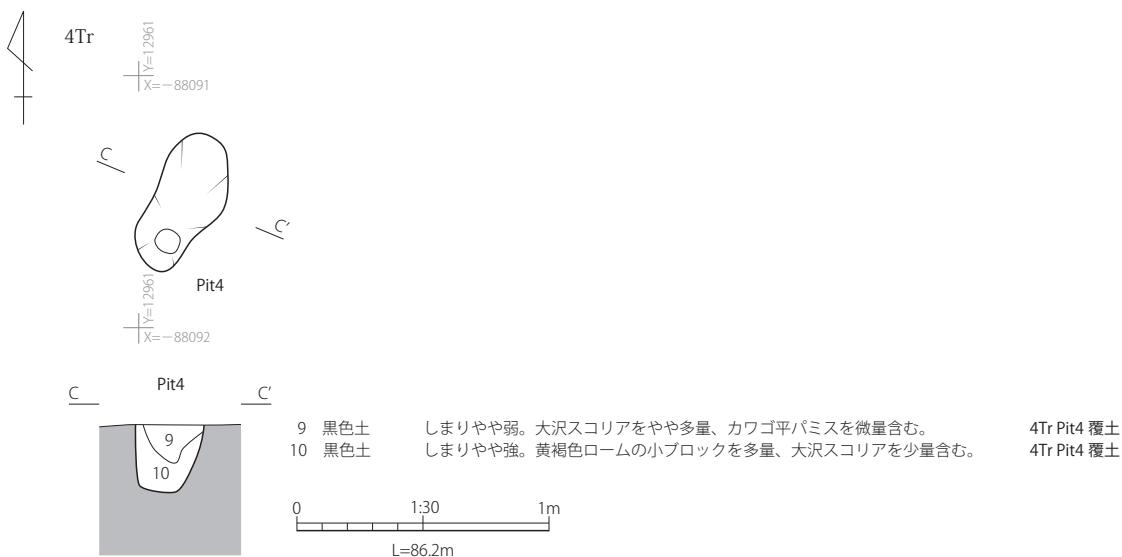
第131図 天間沢遺跡Q地区 1Tr 遺構平面図、セクション図



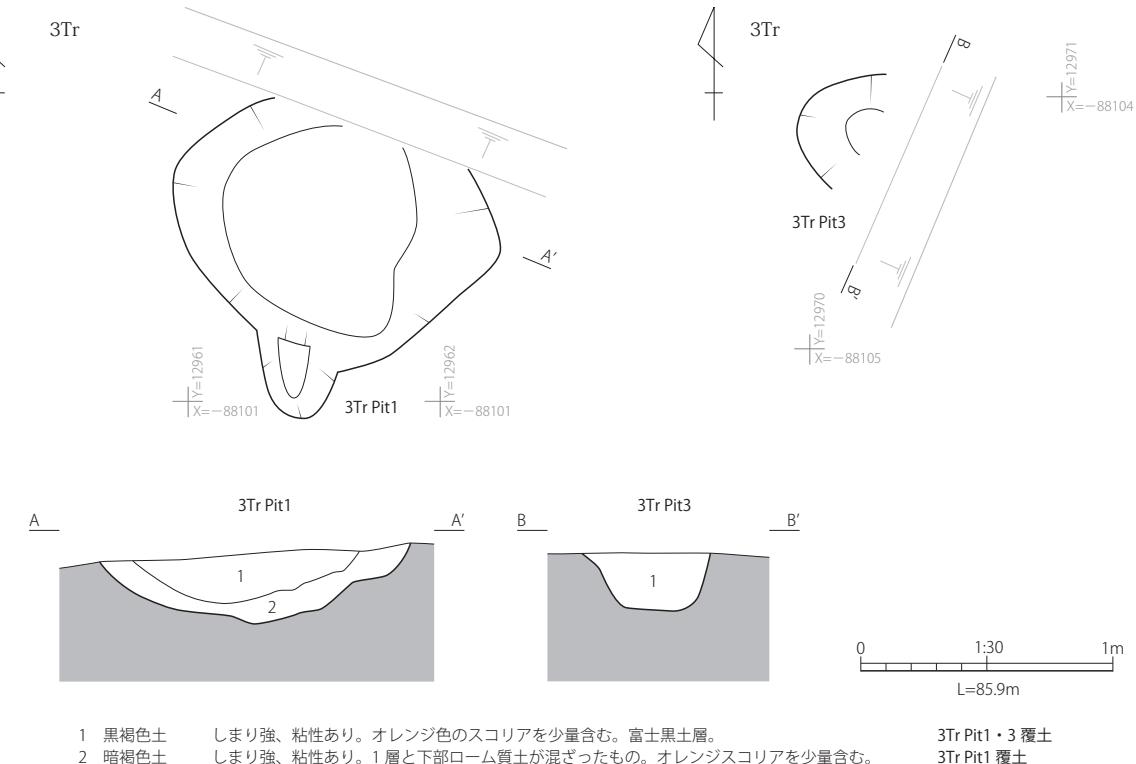
- | | |
|------------|--|
| 1 黒褐色土 | しまりやや弱、粘性ややあり。大沢スコリアをやや多量、黄褐色ロームを少量含む。 |
| 2 暗褐色土 | しまり弱、粘性ややあり。黄褐色ローム土が主体で黒褐色土が少量混ざる。 |
| 3 黄褐色土混黒色土 | しまりあり、粘性やや弱。オレンジ色の微細スコリアを微量含む。 |
| 4 黒色土 | しまり強、粘性あり。オレンジ色の微細スコリアを少量、5mm以下の溶岩粒を微量含む。富 |
| 5 黄褐色土混黒色土 | しまりあり、粘性弱。1cm以下の溶岩粒を少量含む。 |
| 6 黄褐色土混黒色土 | しまりやや弱、粘性あり。オレンジ色の微細スコリア・5cm以下の溶岩粒を微量含む。 |
| 7 黑色土混黄褐色土 | しまりやや弱、粘性弱。溶岩粒はあまり見られない。 |
| 8 黑色土混黄褐色土 | しまりややあり、粘性やや弱。オレンジ色の微細スコリア・1cm以下の溶岩粒を微量含む、 |

2Tr Pit2 覆土
2Tr Pit2 覆土
2Tr SK1 覆土

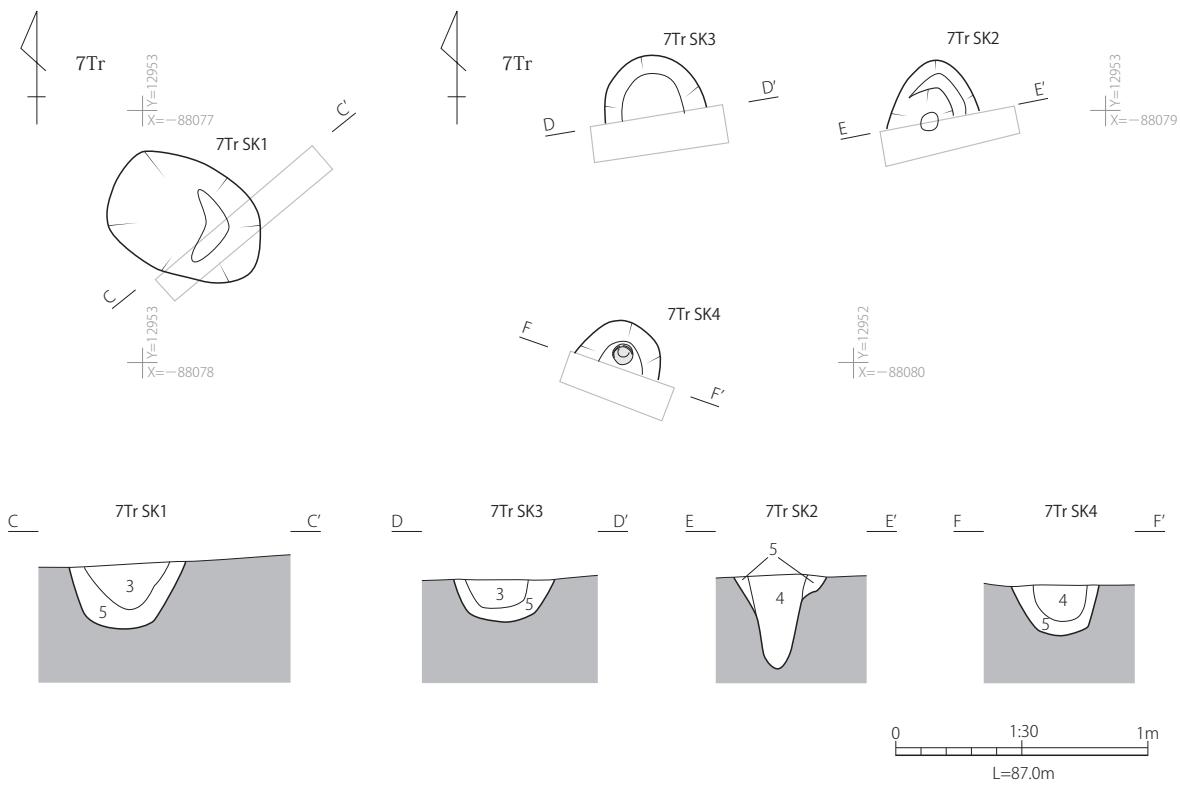
第 132 図 天間沢遺跡 Q 地区 2Tr 遺構平面図、セクション図



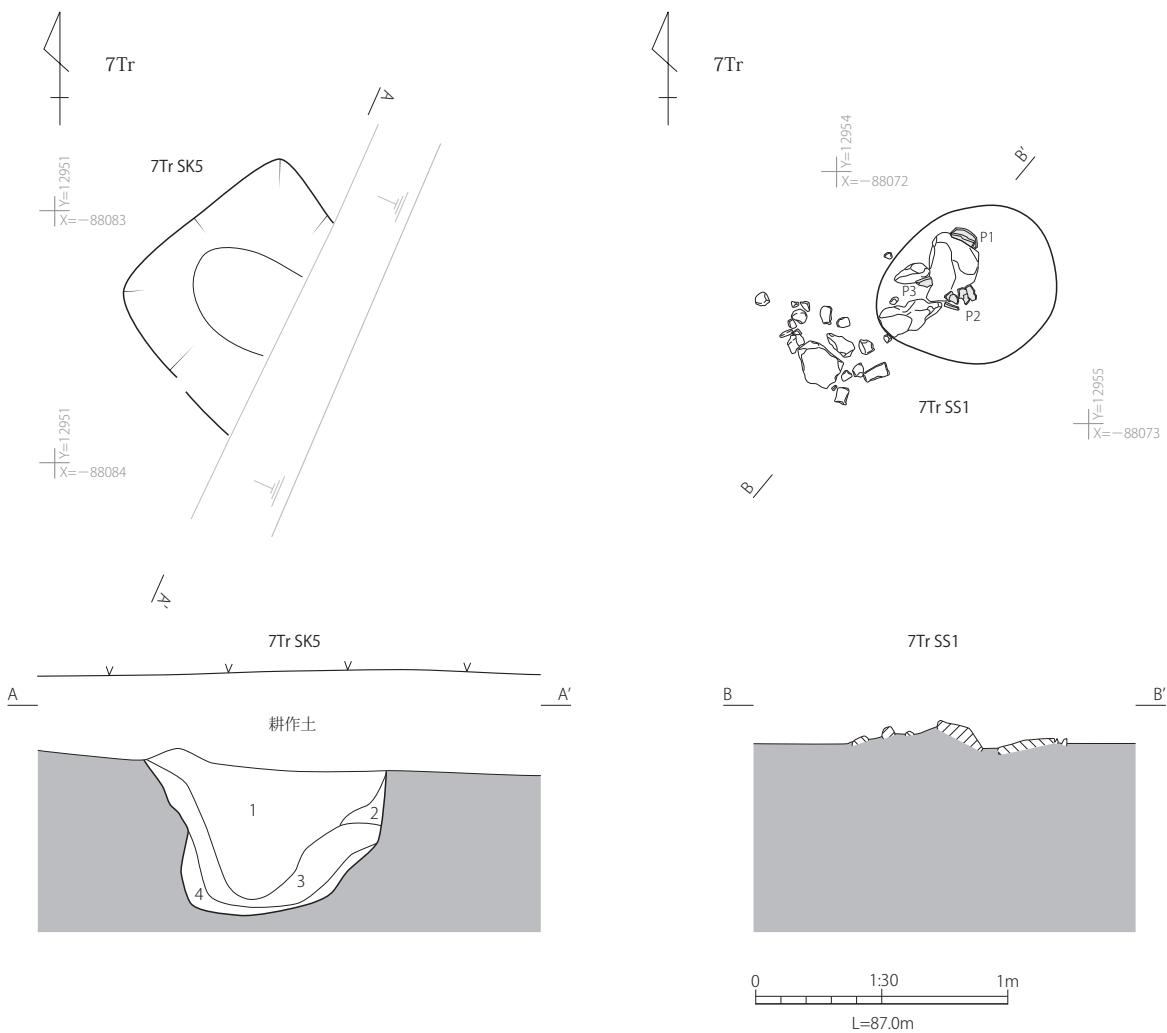
第 133 図 天間沢遺跡 Q 地区 4Tr 遺構平面図、セクション図



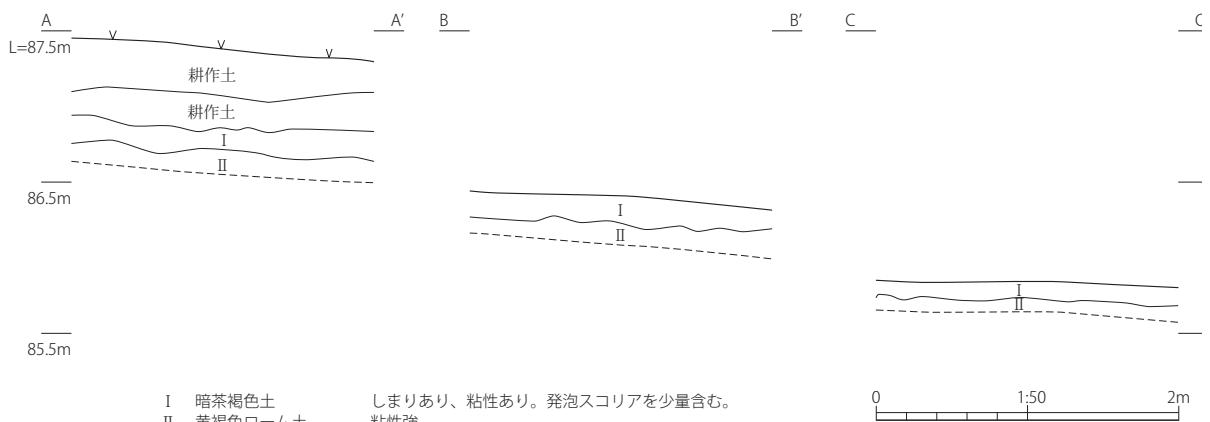
第134図 天間沢遺跡Q地区 3Tr 遺構平面図、セクション図



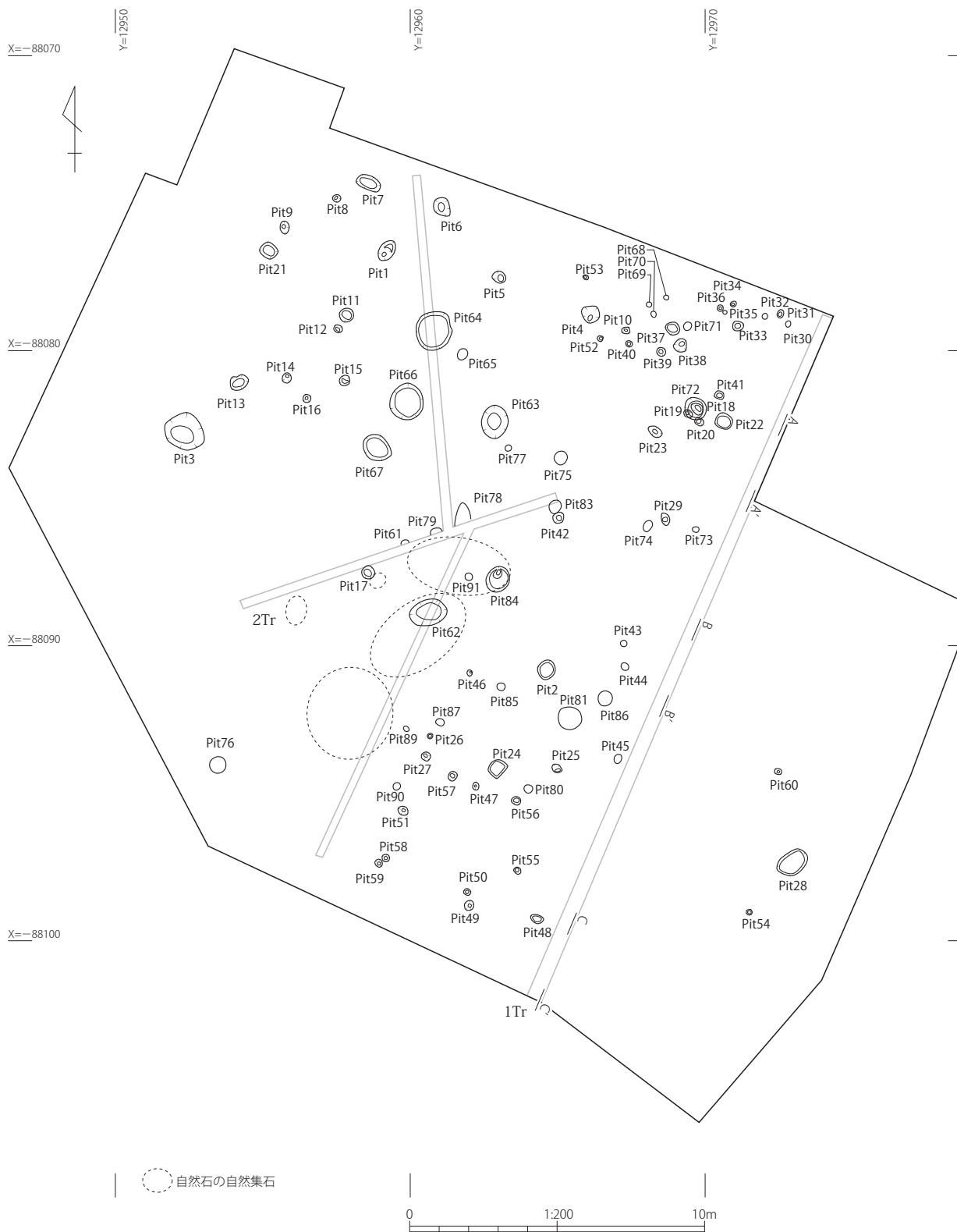
第135図 天間沢遺跡Q地区 7Tr 遺構平面図、セクション図 ①



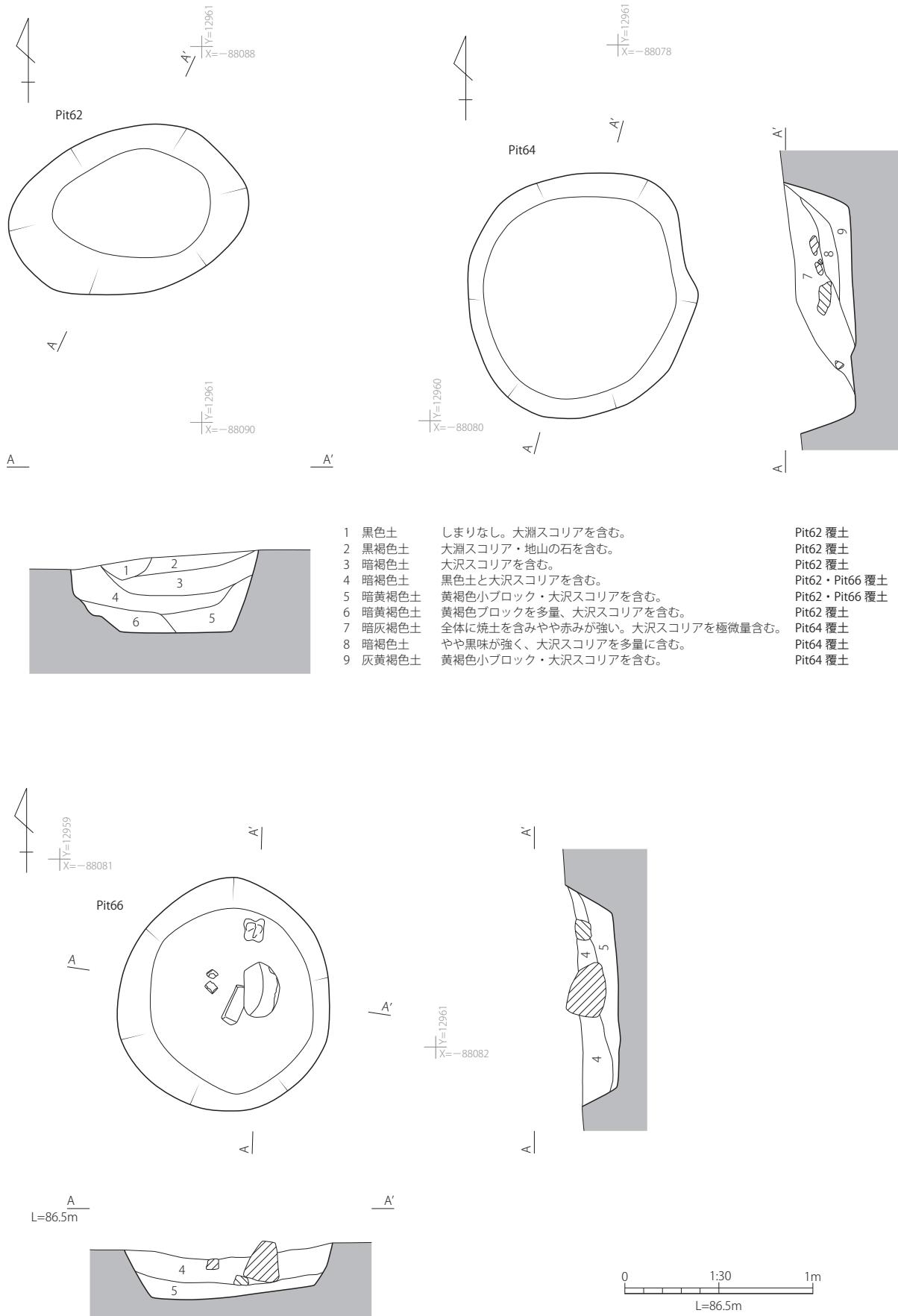
第136図 天間沢遺跡Q地区 7Tr 遺構平面図、セクション図 ②



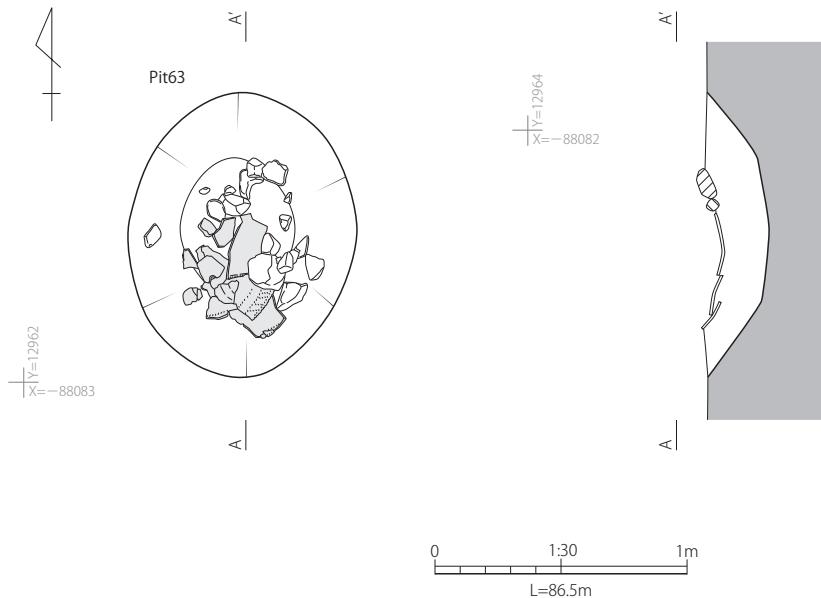
第137図 天間沢遺跡Q地区 本調査区セクション図



第138図 天間沢遺跡Q地区 本調査区全体図



第139図 天間沢遺跡Q地区 本調査区 遺構平面図、セクション図 ①

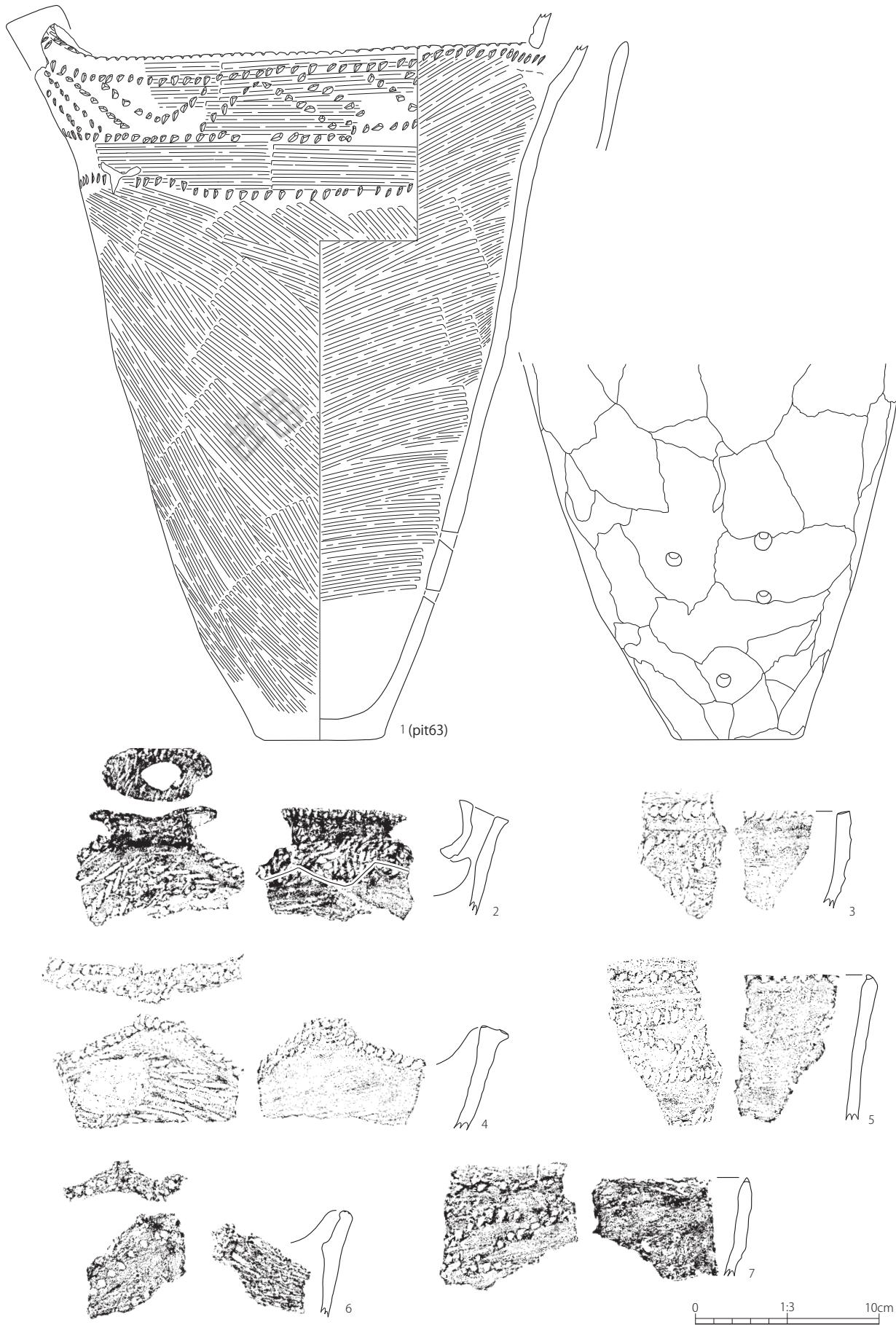


第140図 天間沢遺跡Q地区 本調査区 遺構平面図、セクション図 ②

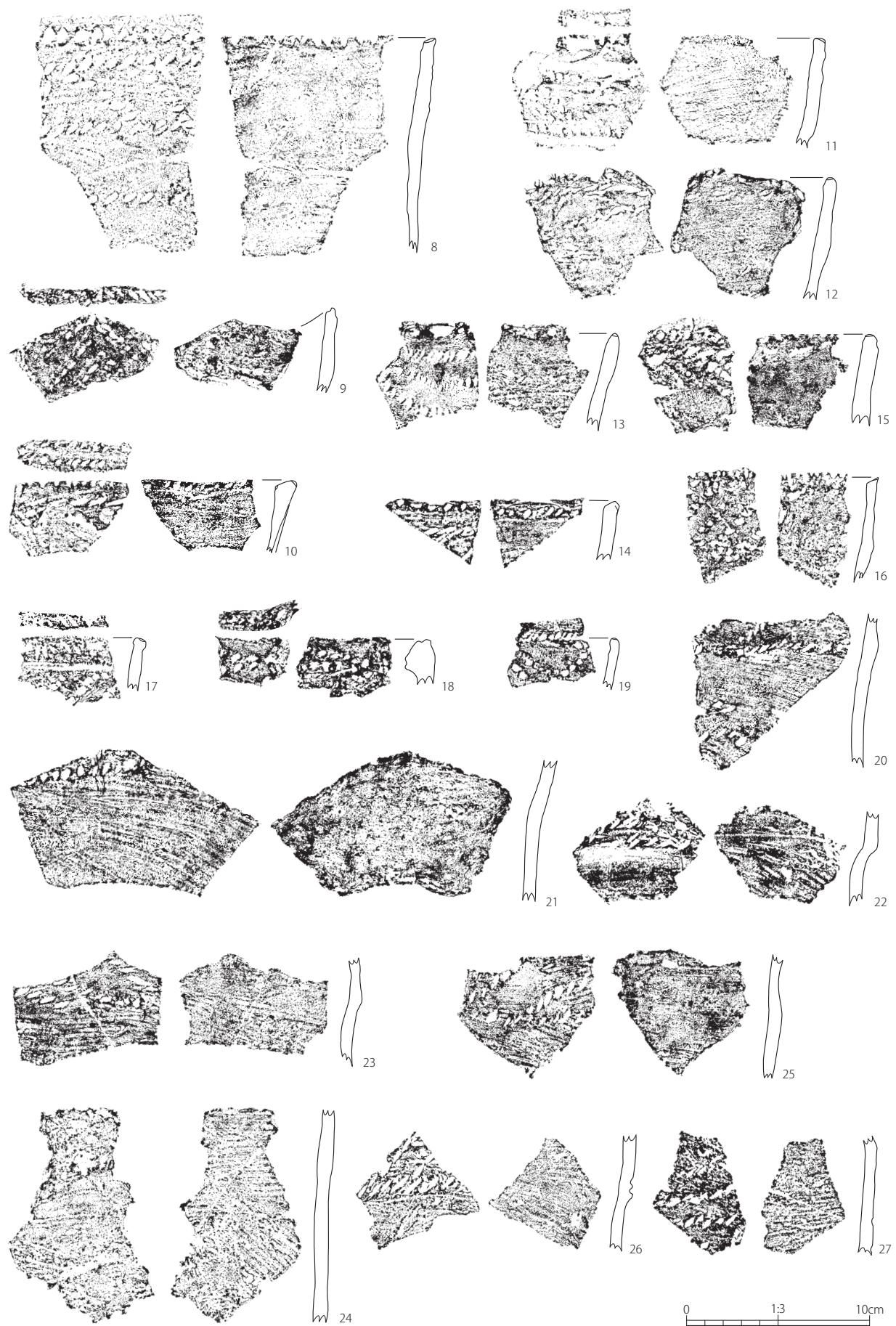
第12表 天間沢遺跡Q地区 遺構一覧表

調査区	遺構番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	覆土
1Tr	1Tr Pit1	80	59	18	不整形	丸底	
1Tr	1Tr Pit2	68	59	22	不整形	丸底	
1Tr	1Tr Pit3	95	62	20	不整形	平底	
1Tr	1Tr Pit4	87	(77)	19	不整形	平底	
2Tr	2Tr Pit1	-	-	-	-	-	
2Tr	2Tr Pit2	55	49	15	不整形	丸底	
2Tr	2Tr Pit3	-	-	-	-	-	
2Tr	2Tr Pit4	-	-	-	-	-	
3Tr	3Tr Pit1	132	(118)	30	不整形	浅い丸底	
3Tr	3Tr Pit2	112	58	16	不整形	丸底	
3Tr	3Tr Pit3	50	(29)	22	(円形)	平底	
3Tr	3Tr Pit4	103	71	15	不整形	-	
4Tr	4Tr Pit1	90	62	16	楕円形	平底	富士黒
4Tr	4Tr Pit2	42	34	12	円形	平底	富士黒
4Tr	4Tr Pit3	(55)	57	12	(楕円形)	平底	スコリア含む
4Tr	4Tr Pit4	58	28	27	楕円形	平底	スコリア含む
7Tr	7Tr SK1	64	45	27	楕円形	丸底	
7Tr	7Tr SK2	37	(24)	37	(楕円形)	丸底	
7Tr	7Tr SK3	40	(24)	17	(円形)	丸底	
7Tr	7Tr SK4	35	(19)	20	(円形)	丸底	
7Tr	7Tr SK5	90	(63)	58	(方形)	丸底	
7Tr	7Tr SS1	74	61	-	楕円形	-	
本調査区	Pit1	76	50	33	楕円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit2	65	59	26	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit3	142	119	48	楕円形	-	黒色土
本調査区	Pit4	63	63	35	楕円形	-	黒色土
本調査区	Pit5	48	37	19	円形	-	
本調査区	Pit6	72	59	15	楕円形	-	
本調査区	Pit7	84	49	19	楕円形	-	
本調査区	Pit8	29	24	34	円形	-	
本調査区	Pit9	44	31	20	楕円形	-	
本調査区	Pit10	28	21	21	楕円形	-	
本調査区	Pit11	47	45	13	円形	-	
本調査区	Pit12	30	26	39	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit13	63	48	52	楕円形	-	
本調査区	Pit14	34	29	43	円形	-	
本調査区	Pit15	38	33	22	円形	-	
本調査区	Pit16	28	27	19	円形	-	
本調査区	Pit17	46	41	11	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit18	46	35	47	楕円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit19	31	25	35	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit20	32	24	38	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit21	56	50	24	隅丸方形	-	

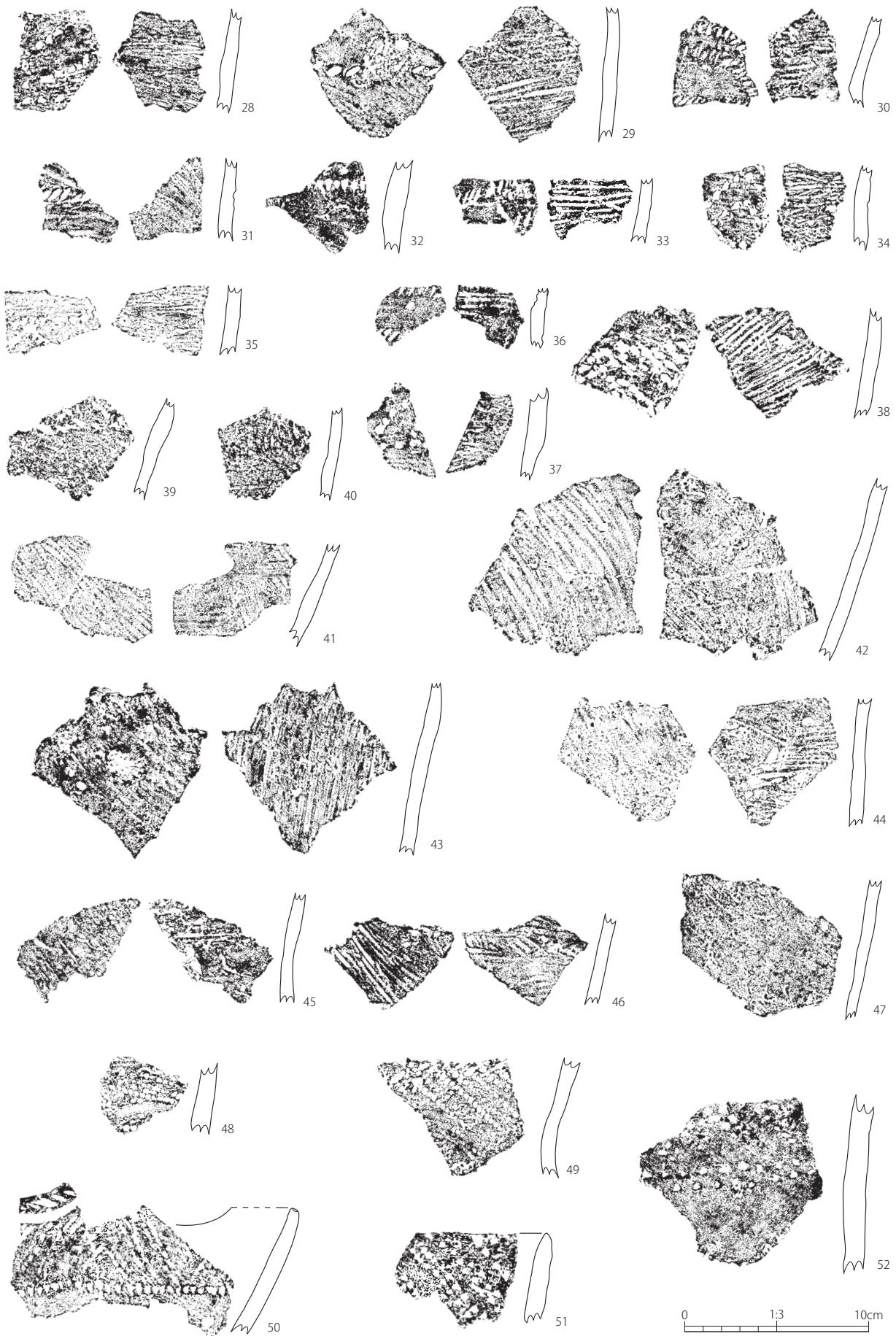
調査区	遺構番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	覆土
本調査区	Pit22	58	53	23	円形	-	
本調査区	Pit23	54	33	28	楕円形	-	
本調査区	Pit24	60	52	16	隅丸方形	-	スコリア含む
本調査区	Pit25	35	27	15	不整形	-	
本調査区	Pit26	18	18	20	円形	-	
本調査区	Pit27	30	28	19	円形	-	
本調査区	Pit28	109	75	30	楕円形	-	
本調査区	Pit29	44	27	31	楕円形	-	
本調査区	Pit30	20	18	16	円形	-	
本調査区	Pit31	30	22	19	円形	-	
本調査区	Pit32	19	18	19	円形	-	
本調査区	Pit33	38	33	20	円形	-	
本調査区	Pit34	20	19	32	円形	-	
本調査区	Pit35	15	14	29	円形	-	
本調査区	Pit36	21	21	38	円形	-	
本調査区	Pit37	50	45	51	楕円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit38	46	45	47	楕円形	-	
本調査区	Pit39	32	29	51	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit40	23	22	32	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit41	32	26	22	楕円形	-	
本調査区	Pit42	40	37	29	円形	-	
本調査区	Pit43	22	21	19	円形	-	
本調査区	Pit44	28	24	10	円形	-	
本調査区	Pit45	31	23	43	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit46	21	18	26	円形	-	
本調査区	Pit47	25	21	34	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit48	44	29	8	楕円形	-	
本調査区	Pit49	36	32	54	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit50	24	21	31	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit51	35	29	40	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit52	19	17	27	円形	-	スコリア含む
本調査区	Pit53	21	16	25	円形	-	
本調査区	Pit54	20	20	11	円形	-	
本調査区	Pit55	25	21	27	楕円形	-	
本調査区	Pit56	34	29	23	円形	-	
本調査区	Pit57	32	28	19	円形	-	
本調査区	Pit58	26	23	31	円形	-	
本調査区	Pit59	27	25	28	円形	-	
本調査区	Pit60	26	20	18	円形	-	
本調査区	Pit61	27	(13)	-	(円形)	-	
本調査区	Pit62	126	88	42	楕円形	平底	スコリア含む
本調査区	Pit63	113	90	20	楕円形	丸底	
本調査区	Pit64	137	120	34	楕円形	平底	スコリア含む
本調査区	Pit65	40	32	-	円形	-	
本調査区	Pit66	123	113	25	円形	平底	スコリア含む
本調査区	Pit67	105	83	-	楕円形	-	
本調査区	Pit68	16	16	-	円形	-	
本調査区	Pit69	16	16	-	円形	-	
本調査区	Pit70	20	17	-	楕円形	-	
本調査区	Pit71	28	24	-	楕円形	-	
本調査区	Pit72	79	74	-	円形	-	
本調査区	Pit73	21	19	-	円形	-	
本調査区	Pit74	39	27	-	楕円形	-	
本調査区	Pit75	47	43	-	円形	-	
本調査区	Pit76	57	57	53	円形	-	
本調査区	Pit77	21	21	-	(円形)	-	
本調査区	Pit78	(65)	60	-	(楕円形)	-	
本調査区	Pit79	42	(19)	-	(円形)	-	
本調査区	Pit80	28	28	-	円形	-	
本調査区	Pit81	79	75	-	円形	-	
本調査区	Pit83	46	39	-	円形	-	
本調査区	Pit84	89	76	-	円形	-	
本調査区	Pit85	25	25	-	円形	-	
本調査区	Pit86	53	48	-	円形	-	
本調査区	Pit87	30	21	-	円形	-	
本調査区	Pit89	19	16	-	円形	-	
本調査区	Pit90	27	22	-	円形	-	
本調査区	Pit91	25	24	-	円形	-	



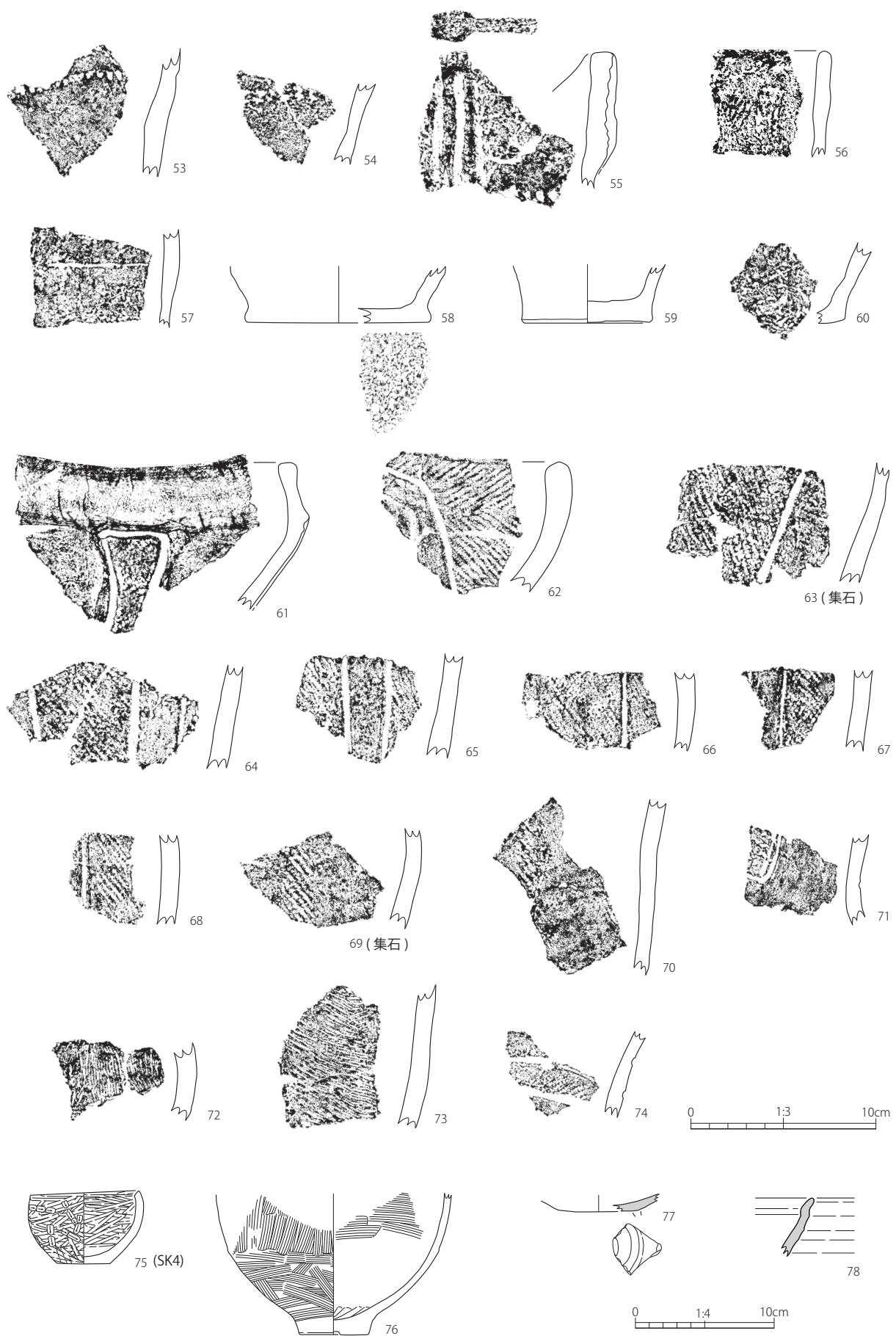
第141図 天間沢遺跡Q地区 出土遺物実測図 ①



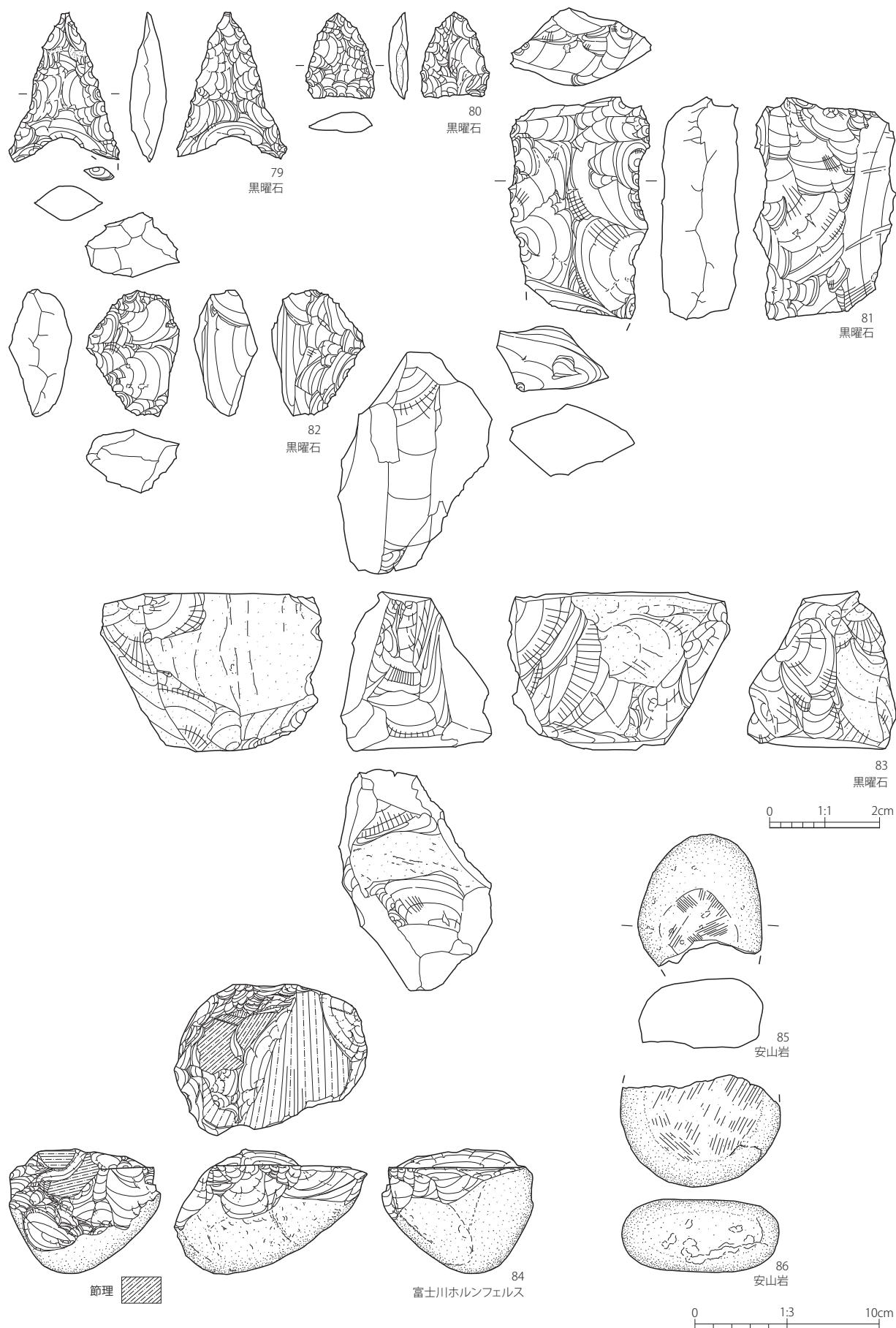
第142図 天間沢遺跡Q地区 出土遺物実測図 ②



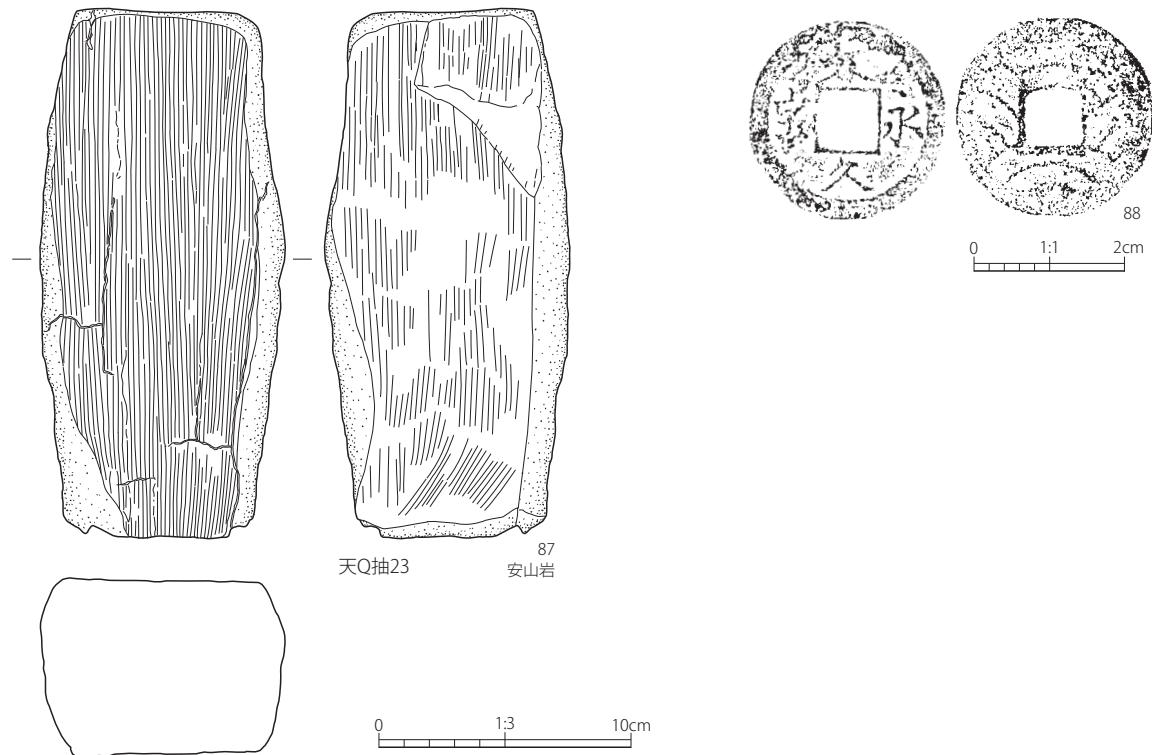
第143図 天間沢遺跡Q地区 出土遺物実測図 ③



第144図 天間沢遺跡Q地区 出土遺物実測図 ④



第145図 天間沢遺跡Q地区 出土遺物実測図 ⑤



第146図 天間沢遺跡 Q地区 出土遺物実測図 ⑥

第13表 天間沢遺跡 Q地区 出土土器観察表

挿図 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第141図 PL.24	1	Pit63	10YR4/1 褐灰	10YR5/3 にぶい黄褐	I群A類	ハッ崎I	二単位の注口状把手を持つ平底の深鉢。口縁部は二段の段を形成し、段の境には連続刺突文を施文する。文様は、口唇とその表裏両面に連続刺突文を施し、一段目の文様帶は刺突による三角文と、その辺に合わせた斜行文で構成する。二段目は貝殻腹縁による横平行の条痕を施し、器体下半は斜め条痕を全体に施文する。器体には部分的に籠状の包み容器の痕跡と思われる、黒色の斜め格子の模様が観察される。また、底部近くに補修孔のような貫通孔が7つも空けられている。Pit63出土。残存高39.6cm、底径7cm。	
第141図 PL.25	2	B2Gr	10YR6/3 にぶい黄	7.5YR4/3 褐	I群A類	ハッ崎I	注口状の把手部分。口唇の表角と裏角に斜め爪形の刻みを施し、口唇上面平坦部を括げる形で、幅広な漏斗状の把手を形づくる。把手上面は梢円形の笠状になり、爪形文が密接施文される。波状口縁に沿うように斜め爪形の連続刺突を施文し、その下に斜め平行の連続爪形文を配置する。把手の裏面の注口部は、口唇の裏角部分をそのまま三角形に突出させる形で張り出す成形をしている。	R57
第141図 PL.25	3	集石中	10YR3/1 黒褐	2.5Y2/1 黒	I群A類	ハッ崎I	器面全体に横位の擦痕がみられ、口唇に平行する二本の連続爪形文とその間に斜行する連続爪形文を施文し文様帶を形成する。やや内側に傾斜する、角のある口唇上面に連続爪形文を施している。	R42
第141図 PL.25	4	排土	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	I群A類	ハッ崎I	波状口縁の突起部を含む口縁部。口唇の表角と裏角に斜め爪形の刻みを施し、波状口縁に沿うように斜め爪形の連続刺突を施文する。その下に斜行する連続爪形文を施文する。突起部は厚みを増して、上面は梢円形の平坦面となる。	R38
第141図 PL.25	5	SK4・7Tr	2.5YR5/6 明赤褐	10YR3/1 黒褐	I群A類	ハッ崎I	鋭角な口唇に刻みを施し、口縁に平行して連続した爪形文を二列に配置して文様帶とし、内部に斜行の連続爪形文を施文する。	R24
第141図 -	6		10YR8/4 淡黄橙	10YR4/2 灰黄褐	I群A類	ハッ崎I	波状口縁の酒杯状把手部分。口唇に沿って連続刺突文を施し、口唇上面には管状工具による円形の連続刺突文を施文する。	R45

挿図 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第141図 PL.25	7	4Tr	7.5YR7/6 橙	7.5YR3/2 黒褐	I群 A類	ハッ崎 I	口唇に刻みを入れ、口唇近くと口縁部の段に平行して連続に爪形の斜め刺突文を施し、その間を斜行する刺突文を施文する。裏面に薄く貝殻条痕文を施文する。胎土には多くの繊維を混入する。	R7
第142図 PL.25	8	6Tr	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	I群 A類	ハッ崎 I	口唇に刻みを入れ、口唇と口縁部の段の下に平行して連続に爪形の斜め刺突文を施し、その間を斜行する刺突文を施文する。段より下位は、ゆるやかにくびれるが、その下部に水平の連続刺突文を施文する。裏面は植物質の繊維による横位の擦痕で、全体を整形している。	R29・ R44
第142図 PL.25	9	C2Gr	5YR5/6 明赤褐	7.5YR3/1 黒褐	I群 A類	ハッ崎 I	波状口縁の突起部。口唇上面に斜め刻みを施し、茎状の工具による平行押引き文で重なったV字状に施文する。胎土には多量の繊維を含有する。	R59
第142図 -	10	5Tr	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	I群 A類	ハッ崎 I	口唇の表角と裏角に斜め爪形の刻みを施し、波状口縁に沿うように斜め爪形の連続刺突を施文する。	R36
第142図 -	11	5Tr	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/3 にぶい褐	I群 A類	ハッ崎 I	口唇に刻みを入れ、口縁部の段に、断面四角の工具による連続刺突を施して文様帶とし、その中に重なったV字に連続刺突文を施文する。裏面には貝殻条痕文を施す。	R36
第142図 -	12	Pit61	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	I群 A類	ハッ崎 I	銳角な口唇部に茎状の工具で刻みを入れ、口唇に接して連続斜め刺突文を施文、その下に平行する連続斜め刺突文を施文して、その間を、連続斜め刺突文で重ねたV字状に施文する。胎土には多量の繊維を含有する。	R52
第142図 -	13		7.5YR4/3 褐	5YR4/3 にぶい赤褐	I群 A類	ハッ崎 I	口唇上面に刻みを入れ、口縁部平行する連続爪形文の下に、並行する連続爪形文を凹字状に施文する。胎土に繊維を多量に含有する。	R38
第142図 -	14	表採	7.5YR8/6 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	I群 A類	ハッ崎 I	銳角な口唇の表角と裏角に斜め爪形の刻みを施し、口唇に沿って連続の斜め爪形文を施文する。	R66
第142図 -	15	5Tr 東	2.5YR6/6 橙	10YR3/2 黒褐	I群 A類	ハッ崎 I	口唇に刻みを入れ、口唇に沿って表裏に斜め刺突文を施文、表側に斜行する斜め刺突文を施文する。胎土に多量の繊維を含む。	R36
第142図 PL.25	16	C2Gr	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	I群 A類	ハッ崎 I	銳角な口唇に刻みを施し、さらに口唇平坦面にも刺突文を施文する。口唇に接して連続刺突文を施文、平行して段部分にも刺突文を施して文様帶とし、内部に斜行の刺突文を施文する。	R64
第142図 PL.25	17	5Tr 東	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	I群 A類	ハッ崎 I	口唇に浅い刻みを施し、口唇に沿って浅い沈線を引いて、その下に連続刺突文を斜行して施文する。	R36
第142図 -	18	5Tr	10YR4/1 褐灰	10YR3/2 黒褐	I群 A類	ハッ崎 I	口縁部把手部分。口唇内側に注口状に環をつくって、口唇とともに上に斜め刺突文を施す。口縁の表裏にも平行して連続刺突文を施文する。	R9
第142図 -	19	C2Gr	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR4/2 灰褐	I群 A類	ハッ崎 I	口唇上面に斜め爪形文の刻みを入れ、口縁部に並行する刺突文を凹字状に施文する。	R64
第142図 PL.26	20	C2Gr	10YR3/4 暗褐	7.5YR4/4 褐	I群 A類	ハッ崎 I	薄い貝殻条痕文を地文とし、段部分に連続した斜め爪形文を施文する。	R64
第142図 PL.26	21	Pit63	2.5YR6/8 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	I群 A類	ハッ崎 I	貝殻条痕を地文に、口縁部近くで、水平に斜め連続刺突を施す。胎土に多量の繊維を含む。	R81
第142図 PL.26	22	C1Gr	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR5/3 にぶい褐	I群 A類	ハッ崎 I	はつきりとした段をつくり、口縁部文様帶を形成、段に斜め爪形文を施文し、その上に連続爪形文で並行する山形の文様を描く。	R58
第142図 PL.26	23		10YR6/4 にぶい黄橙	5YR4/4 にぶい赤褐	I群 A類	ハッ崎 I	段をもつ口縁部の文様帶部分。段に連続斜め爪形文を施文し、その上に斜行する爪形文を施文する。表裏に貝殻条痕文を施し地文としている。	R40
第142図 -	24	5Tr 東	10YR6/4 にぶい黄橙	5YR4/3 にぶい赤褐	I群 A類	ハッ崎 I	平行する連続刺突文と斜行する連続刺突文を施文する。裏面の口縁部に近いと思われる部分に横位の貝殻条痕文が施文される。	R36
第142図 PL.26	25		10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR4/2 灰褐	I群 A類	ハッ崎 I	段をもつ口縁部の文様帶部分。段に連続斜め爪形文を施文し、その上に斜行する爪形文を施文する。表裏に貝殻条痕文を施し地文としている。	R40
第142図 -	26	SK1・2Tr	5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	I群 A類	ハッ崎 I	段をもつ口縁部の文様帶部分。段に連続斜め爪形文を施文し、その上に斜行する爪形文を施文する。	R19
第142図 PL.26	27		10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	I群 A類	ハッ崎 I	連続した斜め爪形文を多重に平行して施文する。裏面は、植物繊維の擦痕で横ナデしている。	R45
第143図 -	28	Pit61	5YR6/6 橙	5YR5/4 にぶい赤褐	I群 A類	ハッ崎 I	平行する連続刺突文と斜行する連続刺突文を施文する。裏面に薄く貝殻条痕文を施文する。	R52
第143図 -	29	7Tr	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	I群 A類	ハッ崎 I	連続した斜め爪形文を横位に施文、裏面に貝殻条痕文を施す。胎土に多くの繊維を含む。	R12
第143図 PL.26	30	5Tr	2.5YR4/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	I群 A類	ハッ崎 I	二つの段を持つ深鉢のくびれ部。段に連続爪形文を施文し、その間を平行、斜めに連続爪形文で文様帶を構成する。	R4
第143図 -	31	B3Gr	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	I群 A類	ハッ崎 I	貝殻条痕文を施文後、斜め連続刺突文を施文する。裏面に薄い貝殻条痕文を施す。	R54
第143図 PL.26	32	C1Gr	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	I群 A類	ハッ崎 I	斜め縦の連続刺突文を横位に施文している。器壁は厚く、胎土は少量に繊維を含む。	R58
第143図 -	33	C2Gr	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR6/6 橙	I群 A類	ハッ崎 I	平行する連続爪形文を施文。裏面には貝殻条痕文を施文する。	R59

挿図 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第143図 -	34	Pit64	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/3にぶい褐	I群A類	ハッ崎I	重ねたV字状に連続刺突文を施文し、裏面に貝殻条痕文を薄く施文する。	R68
第143図 -	35	Pit64	10YR5/2灰黄褐	7.5YR6/6橙	I群A類	ハッ崎I	連続刺突文を横位に施文。裏面は貝殻条痕文を施文する。	R68
第143図 -	36		7.5YR3/3暗褐	5YR6/6橙	I群A類	ハッ崎I	平行する連続斜め爪形文を施文し、裏面には貝殻条痕文を施す。	R40
第143図 -	37	Pit63	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR4/3褐	I群A類	ハッ崎I	深鉢の段部分。段に連続刺突文を施し、その上部に斜行する連続刺突文を施文する。	R81
第143図 -	38	B2Gr	7.5YR7/6橙	2.5YR6/6橙	I群A類	ハッ崎I	連続刺突文を横位に施文し、その下に並行する連続刺突文を回字状に施文する。裏面には貝殻条痕文を施文する。胎土に多量の纖維を含む。	R64
第143図 -	39		2.5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐	I群A類	ハッ崎I	深鉢の段部分。段に連続刺突文を施す。胎土に多量の纖維を含む。	R45
第143図 -	40	3Tr	7.5YR7/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	I群A類	ハッ崎I	薄い爪形の連続刺突文を水平に施文。	R20
第143図 -	41	C2Gr	2.5YR5/6明赤褐	7.5YR4/2灰褐	I群A類	ハッ崎I	表裏に貝殻条痕文を施文する。	R59
第143図 -	42	4Tr	7.5YR4/2灰褐	10YR3/2黒褐	I群A類	ハッ崎I	粗い太めの条痕を器面全体に施文。裏面は植物質の工具で斜めにナデた擦痕で整形している。胎土には多くの纖維を混入している。	R7
第143図 -	43		7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR4/2灰褐	I群A類	ハッ崎I	裏面に貝殻条痕文を施文する。	R38
第143図 -	44	C2Gr	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	I群A類	ハッ崎I	裏面に貝殻条痕文を施文。	R69
第143図 -	45		10YR7/4にぶい黄橙	10YR4/1褐灰	I群A類	ハッ崎I	裏面に薄く貝殻条痕文を施文する。	R45
第143図 -	46	C1Gr	2.5YR6/6橙	7.5YR4/3褐	I群A類	ハッ崎I	表面に貝殻条痕文を施文する。	R58
第143図 -	47	2Tr	5YR6/6橙	5YR6/6橙	I群A類	ハッ崎I	胎土に纖維を多く含む。	R3
第143図 -	48		5YR7/6橙	5YR4/1褐灰	I群A類	ハッ崎I?	LR?の縄の側面圧痕を横位に施文し、その上位には凹線によって弧状線が引かれる。胎土には多量の纖維を含む。	R45
第143図 PL.26	49	Pit64	5YR6/6橙	7.5YR3/1黒褐	I群A類	ハッ崎I?	口縁部下部に段を設け、口縁に平行、および段に連続斜め爪形文を施文して文様帶とし、その内部にRLの縄あるいは側面押圧を施文する。胎土に多量の纖維を含有する。	R68
第143図 PL.26	50		5YR4/4にぶい赤褐	5YR3/3暗赤褐	I群B類	早期末	斜めに丸棒状工具を刺突し、連続して水平に施文、その上部を文様帶とし、同じ工具による斜めの平行押引き線により、重層した三角形文を構成する。器壁は厚めで、少量の纖維を含有する。茅山式並行か。	R38
第143図 PL.26	51	SK1・7Tr	10YR5/3にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐	I群B類	早期末	丸棒状工具による斜めの平行押引き線により、重層した三角形文を構成する。器壁は厚めで、少量の纖維を含有する。	R29
第143図 PL.26	52	5Tr東	2.5YR5/6明赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	I群B類	早期末	頸部に平行して丸棒状の工具による連続した斜め刺突文を平行して施文、その上に同じ工具で平行押引き線を斜行して施文する。器壁が厚く、あまり纖維を含まない。茅山式並行か。	R36
第144図 -	53	C2Gr	2.5YR5/6明赤褐	5YR4/3にぶい赤褐	I群B類	早期末	器壁が厚い深鉢の屈曲部の上位に、丸棒状工具による連続刺突文を水平に施す。茅山式並行か。	R59
第144図 -	54	6Tr	5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐	I群B類	早期末	丸棒状工具による、押引きの連続刺突文を平行に施文する。茅山式並行か。	R10
第144図 PL.26	55		7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR3/2黒褐	I群B類	早期末	二本の隆帯を突起部とする波状口縁部分。隆帯の側部および隆帯間は、二本の茎状工具による押引文によって圧着されている。口縁部の下には斜め縄の連続刺突文を横位に施文している。胎土には纖維を含有する。茅山式並行か。	R38
第144図 -	56	排土	7.5YR5/4にぶい褐	5YR4/3にぶい赤褐	I群B類	早期末	口唇に浅い刻みと口唇に沿って斜め刺突を施し、貝殻腹縁?の押引文を縦、斜めに施文する。胎土は少量の纖維と雲母を含む砂粒を多く混入する。茅山式並行か。	R40
第144図 -	57	5Tr	7.5YR4/4褐	7.5YR5/4にぶい褐	I群B類	早期末	沈線状になるように、短く薄いヘラ状工具で水平に連続刺突で施文している。胎土に少量の纖維を含む。茅山式並行か。	R4
第144図 -	58	中央部集石中	7.5YR6/6橙	7.5YR4/6褐	I群A類	ハッ崎I	胎土に多量の纖維を含有する深鉢底部。	R42
第144図 -	59	B2Gr	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR7/6橙	I群A類	ハッ崎I	平底の底部。纖維を多く含む。	R62
第144図 -	60	5Tr	2.5YR6/6橙	5YR6/6橙	I群A類	ハッ崎I	平底の底部。纖維を多量に含有する。	R4
第144図 PL.26	61		7.5YR4/2灰褐	7.5YR5/4にぶい褐	III群B-2類	加曾利E4	無文口縁鉢(鍔付土器の形態)鍔部分から隆帯の懸垂文を垂下し、広い区画は無文、狭い区画には浅い沈線で囲み、その内部をLRの縄文を横位で埋める。	R48

挿図 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第144図 PL.26	62	SK・7Tr	2.5YR5/4にぶい赤褐	2.5YR6/6 橙	III群 B-2類	加曾利 E4	内湾する口縁をもつ深鉢の口縁部。平行沈線による区画内を、LRの縄文で、口縁部に沿っては横位に、その下は縦位に施文して充填する。	R5
第144図 -	63	SS (P2)・ 7Tr	10YR6/3にぶい黄	5YR6/6 橙	III群 B-2類	加曾利 E4	沈線による懸垂文とそれによる区画内を縦位のRLの縄文で埋める。	R49
第144図 -	64	5Tr 東	10YR7/3にぶい黄橙	5YR6/8 橙	III群 B-2類	加曾利 E	沈線による懸垂文とそれによる区画内を単節Lの縄文を縦位で埋める。	R36
第144図 -	65	5Tr 東	10YR6/3にぶい黄橙	5YR6/8 橙	III群 B-2類	加曾利 E	平行沈線による懸垂文とそれによる区画内をLRの縄文を縦位で埋める。	R36
第144図 -	66	SK・7Tr	7.5YR7/6 橙	5YR6/6 橙	III群 B-2類	加曾利 E	沈線による懸垂文の区画内をLRの縄文を縦位で埋める。	R5
第144図 -	67	5Tr 東	2.5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙	III群 B-2類	加曾利 E	平行沈線による懸垂文とそれによる区画内をLRの縄文を縦位で埋める。	R36
第144図 -	68	SK・Tr7	2.5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙	III群 B-2類	加曾利 E	沈線による懸垂文の区画内を、LRの縄文で縦位で埋める。	R5
第144図 -	69	SS (P2)・ 7Tr	7.5YR5/3にぶい褐	5YR6/6 橙	III群 B-2類	加曾利 E	単節Lの縄文を縦位に帯状に施文。	R49
第144図 -	70	SK・7Tr	5YR4/2 灰褐	5YR5/6 明赤褐	III群	中期?	単節Lの縄文を縦位に帯状に施文する。	R5
第144図 -	71	4Tr	7.5YR7/4にぶい橙	5YR5/4にぶい赤褐	III群	中期?	平行沈線で区切られた中をLRの縄文で充填する。	R32
第144図 -	72	SK・Tr7	7.5YR4/2 灰褐	2.5YR5/6 明赤褐	III群	中期?	rの撚糸文を器体全体に施文している。53と同一個体。	R5
第144図 -	73	SK・5Tr 東	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	III群	中期?	rの撚糸文を斜めに器体全体に施文している。84と同一個体。	R5
第144図 -	74	5Tr 東	5YR4/6 赤褐	5YR4/6 赤褐	IV群 A-2類	堀之内 2	LRの帶縄文を横位に施文。	R36
第144図 PL.27	75	SK4	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR6/3にぶい褐	土師器	古墳前期?	小型椀。SK4出土。	R24
第144図 PL.27	76	7Tr	7.5YR5/3にぶい褐	10YR4/1 褐灰	土師器	古墳前期?	壺底部。	R12
第144図 -	77	5Tr	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	灰釉陶器	平安	薄い高台の痕跡がある椀・皿底部。	R9
第144図 -	78	5Tr	5YR6/3 オリーブ黄	5YR6/3 オリーブ黄	陶器	中世	緑色の灰釉が施釉されている。15世紀代、古瀬戸後期の直線大皿の口縁部。	R9

第14表 天間沢遺跡Q地区 出土石器観察表

挿図 図版	番号	出土場所	器種名	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	観察	現地 番号
第145図 PL.27	79	集石横	石鎌	黒曜石	2.65	1.98	0.59	1.8	右脚欠損の凹基無茎鎌。中央集石の横で出土。	R46
第145図 PL.27	80	SK4・7Tr 拡張 区	石鎌	黒曜石	1.54	1.18	0.37	0.6	小型の平基無茎鎌。	R24
第145図 PL.27	81	調査地北東	ノッチ	黒曜石	3.99	2.53	1.17	12.57	石核から転用してノッチとしている。排土中出土。	R38
第145図 PL.27	82		楔形石器	黒曜石	2.33	1.6	1.17	2.82	ほぼ残核としての形態をしている。	R73
第145図 PL.27	83	Pit23	石核	黒曜石	3.99	2.76	2.76	29.26	ほとんど原石の形態を留めている。Pit23出土。	R47
第145図 PL.27	84	Pit64	石核	富士川ホルン フェルス	10.45	8.22	6.72	571.55	節理面を打面とした石核。ほとんど素材となる剥片は作出されていない。Pit64出土。	R71
第145図 -	85	1Tr	磨石	安山岩	(7.18)	6.68	(3.71)	188.37	部分的に平坦面ができる磨石。	R12
第145図 PL.27	86		磨・敲石	安山岩	(6.1)	8.75	3.85	273.57	被熱を受け、亀裂と赤化がみられる。	R7
第146図 PL.27	87	Pit66	砥石状磨石	安山岩	20.11	9.71	9.01	2860	表裏平坦部に長軸平行に条線状の擦痕が顕著にのこされている。Pit66出土。	R82

第15表 天間沢遺跡Q地区 出土金属製品観察表

挿図 図版	番号	出土場所	分類	型式	観察	現地 番号
第146図 PL.27	88	江戸末	銭貨	「文久永宝」(草文略宝細郭) 松平春嶽筆の草文		

調査に至る経緯

平成3年、東京電力株式会社（以下、事業者）は、富士市天間において送電線鉄塔建設工事を計画し、平成3年5月28日、富士市教育委員会に「埋蔵文化財分布確認指導依頼書」を提出した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」に位置するため、富士市教育委員会文化振興課は、鉄塔が建設される4箇所（鉄塔No.1～3・42）について分布確認調査を実施した。その結果、2箇所（鉄塔No.1～2）については事前の確認調査が必要であるとの判断に至った。

R地区の調査

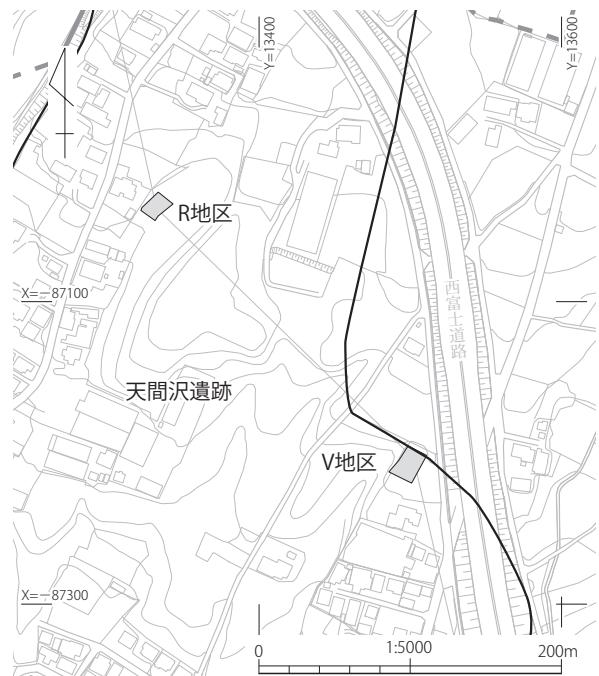
平成4年1月20日、鉄塔No.1・3・42の建設箇所について、事業者から文化財保護法第57条の2第1項（当時）の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。富士市教育委員会は届出を静岡県教育委員会に進達し、静岡県教育委員会から事業者に対して、鉄塔No.1の範囲（富士市天間1943-1）について、富士市教育委員会と協議して発掘調査を実施するように通知があった（平成4年2月6日付け、教文第3-139号）。

平成4年3月10日、富士市教育委員会は文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を静岡県教育委員会に提出し（富教文第212号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

調査は平成4年3月16日から3月19日にかけて行った。調査地に1箇所のトレンチ(1Tr)を設定し、人力により掘削・精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

その結果、遺構・遺物は確認されなかった。

調査の結果について、「発掘調査終了報告書」を静岡県教育委員会に提出した（平成4年4月4日付け、富教文第2号）。



第147図 天間沢遺跡 R地区・V地区 位置図

V地区的調査

平成4年6月1日、鉄塔No.2の建設箇所（富士市天間1785-21）について、事業者から文化財保護法第57条の2第1項（当時）の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。富士市教育委員会は届出を静岡県教育委員会に進達し、静岡県教育委員会から事業者に対して、富士市教育委員会と協議して発掘調査を実施するように通知があった（平成4年6月12日付け、教文第3-43号）。平成5年2月26日、富士市教育委員会は文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を静岡県教育委員会に提出し（富教文第331号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

調査は平成5年2月25日から2月26日にかけて行った。調査地に2箇所のトレンチ（1～2Tr）を設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

その結果、遺構・遺物は確認されなかった。

調査の体制

R地区（平成3年度）の調査は以下の体制で実施した。

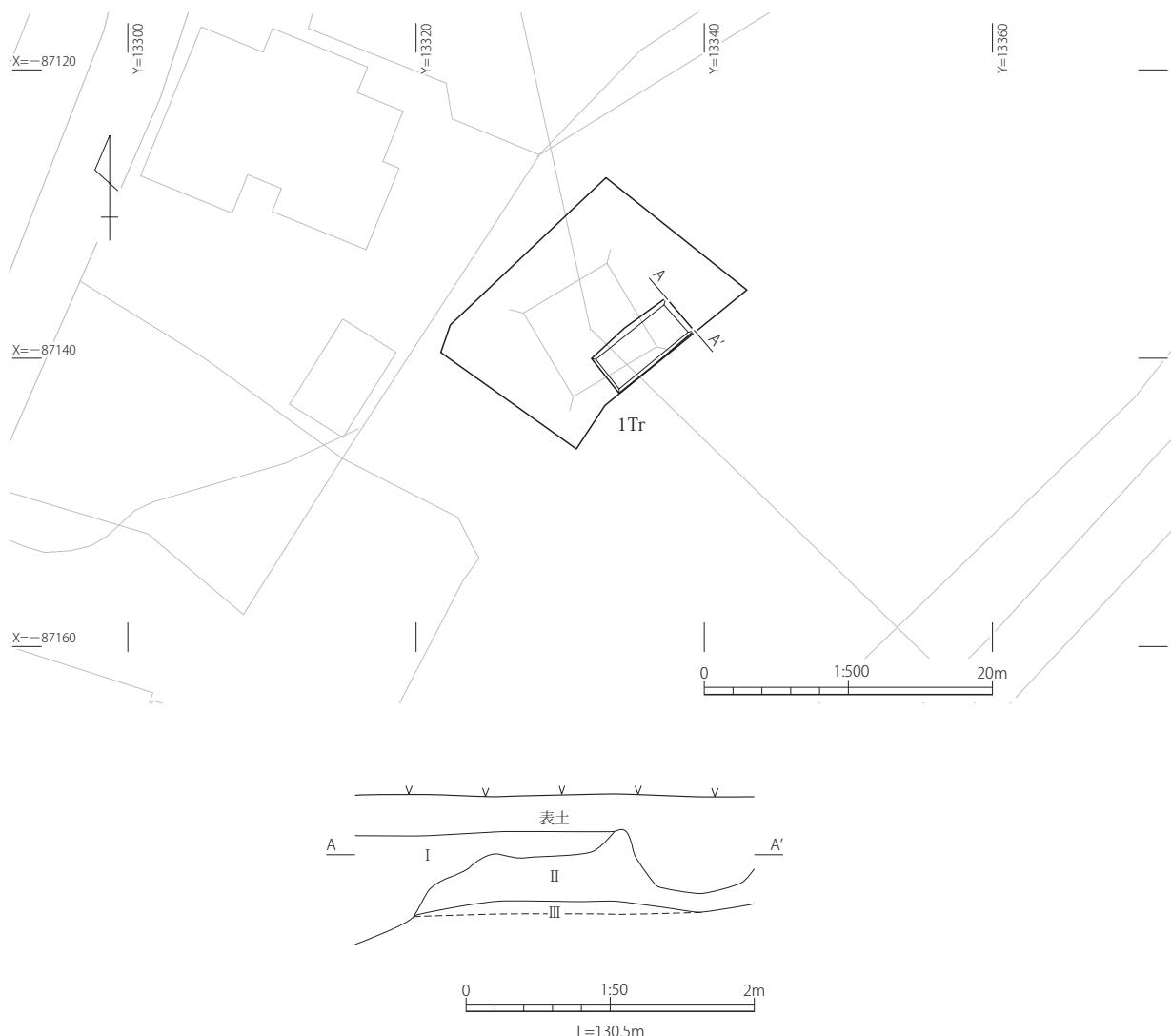
調査主体者

富士市教育委員会	教育長	山本 厚
	教育次長	伊藤 輝英
文化振興課	課長	小長谷 秀夫
	課長補佐	小出 禮節
調査担当	文化財係	佐野 誠一
	係長	
	指導主事	中尾 欣司
	主事	前田 勝己

V地区（平成4年度）の調査は以下の体制で実施した。

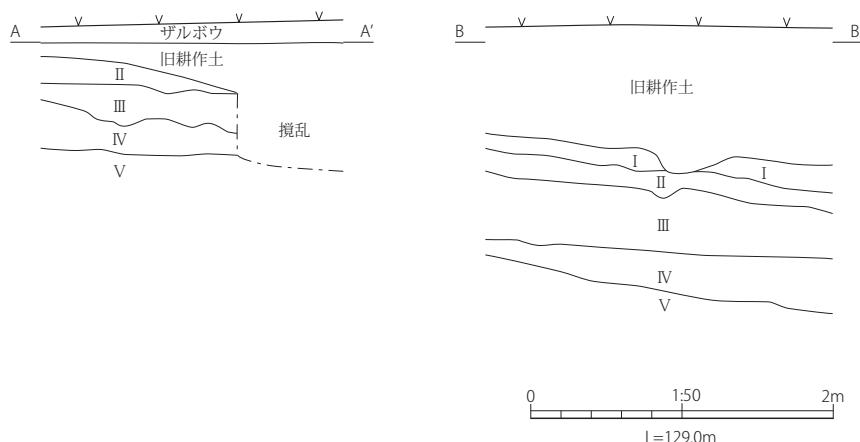
調査主体者

富士市教育委員会	教育長	山本 厚
	教育次長	小山 哲雄
文化振興課	課長	小長谷 秀夫
	課長補佐	若林 富彦
調査担当	文化財係	佐野 誠一
	係長	
	主事	前田 勝己
	主事	影山 英之



I 黒褐色土 しまり弱。大沢スコリアを少量含むが、攪乱の可能性がある。
II 暗褐色土 しまり強、粘性やや強。軟質の橙色スコリアを上部にやや多く含む。礫が少量混入する。栗色土か?
III 褐色土 磕を多く含む風化溶岩層。橙色のやや大粒のスコリアが非常に多い。

第148図 天間沢遺跡R地区 トレンチ配置図、セクション図



- | | |
|----------|--|
| I 暗褐色土 | しまり極強。橙色とにびい橙色の軟質のスコリア (1 ~ 2mm) で形成される。 |
| II 黒色土 | しまり強。暗褐色の発泡スコリア (大淵SC?) を少量、微細なオレンジスコリアを少量含む。 |
| III 暗褐色土 | しまり極強。鮮やかな橙色の発泡スコリアを少量、上部にやや多く含む。白色粒子 (カワゴ平パミス) を少量含む。
この層から溶岩礫がやや多くなる。 |
| IV 黒褐色土 | しまり強。橙色スコリアは微細になり少なくなる。溶岩礫は大きくなる。 |
| V 褐色土 | 角礫が非常に多く、下部にいくに従い溶岩化する。 |

栗色土か?
富士黒か?
地山

第149図 天間沢遺跡V地区 トレンチ配置図、セクション図

第4節 S地区（第19地区）の調査

調査に至る経緯

事業者（個人）は、富士市天間 1001-4（905 m²）において、共同住宅新築工事を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」の範囲内に位置するため、平成4年6月22日、事業者から文化財保護法第57条の2第1項（当時）の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。富士市教育委員会はこれを静岡県教育委員会に進達し（平成4年6月25日付け、富教文第86号）、静岡県教育委員会から事業者に対して、富士市教育委員会と協議して発掘調査を実施するように通知があった（平成4年7月8日付け、教文第3-51号）。

平成4年7月7日、事業者（土地所有者）から発掘調査承諾書が提出された。これを受け富士市教育委員会は、文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を静岡県教育委員会に提出し（平成4年7月14日付け、富教文第103号）、文化振興課職員による発掘調査を実施することとなった。

調査の経過

調査は平成4年7月8日から7月10日にかけて実施された。

敷地の南寄りに、東西方向に1本のトレンチ(1Tr)を設定し、重機および人力による掘削を行い、休場層対応層まで掘り下げたものの、暗茶褐色土（富士黒土層相当）上面にて確認された、樹痕等自然要因と思われる非人為的なピット状の落ち込み以外、遺構は検出されなかったが、遺物は、縄文時代中期中葉～後葉の土器とそれに伴うと考えられる石器類が出土した。

調査の結果について、「発掘調査終了報告書」を静岡県教育委員会に提出した（平成4年12月28日付け、富教文第262号）。



第150図 天間沢遺跡S地区 位置図

調査の体制

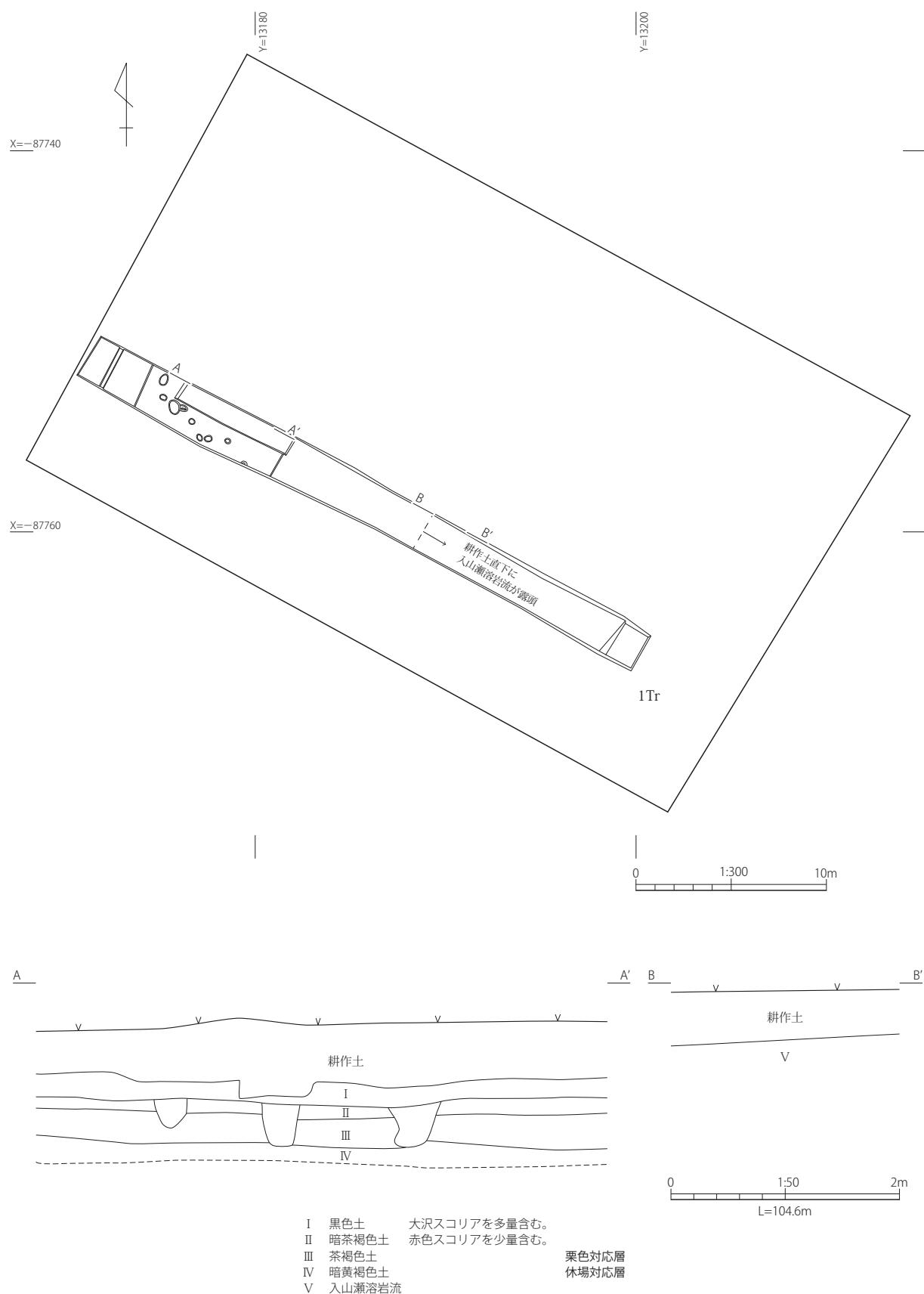
調査は以下の体制で実施した。

調査主体

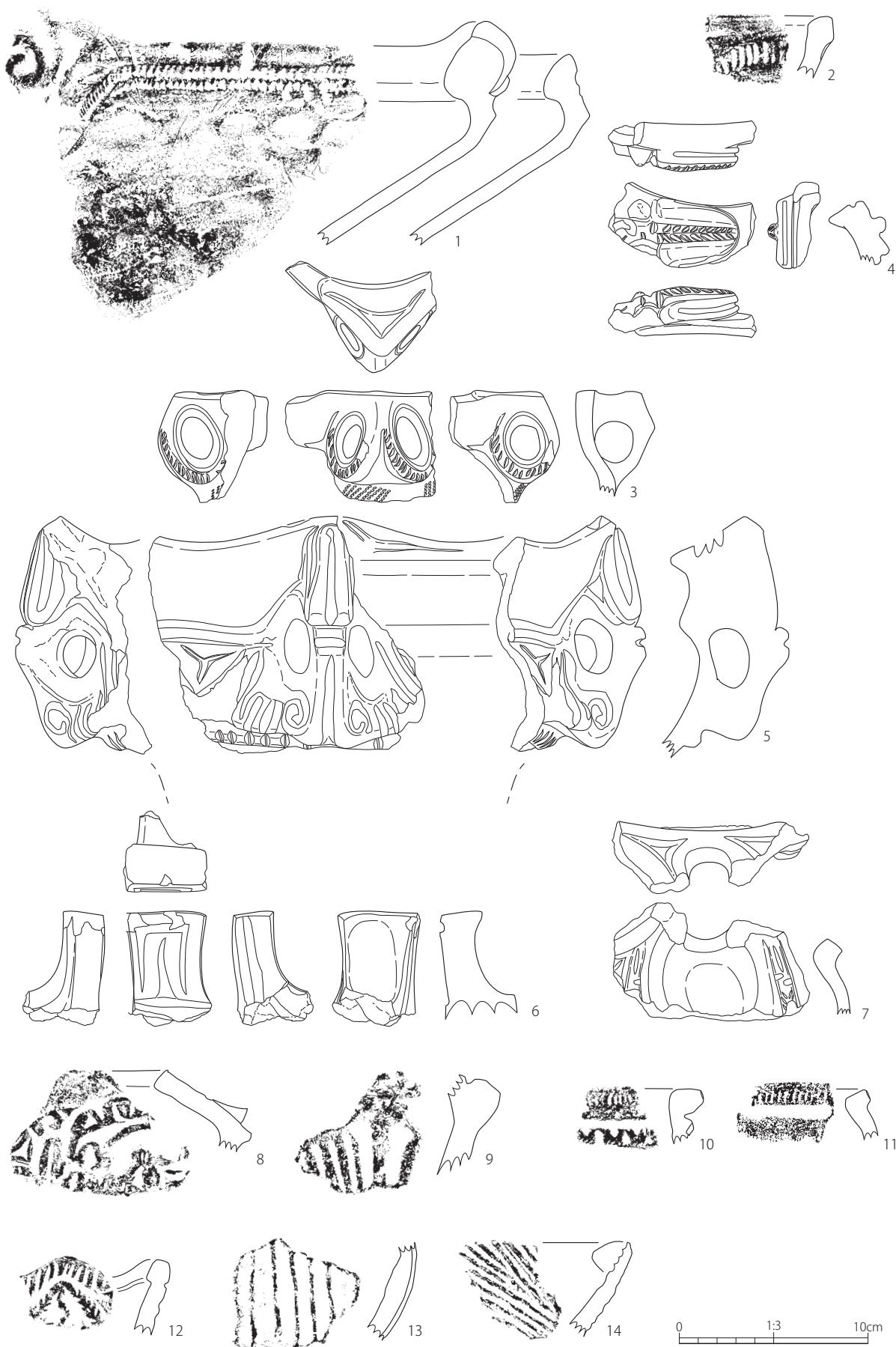
富士市教育委員会 教育長	山本 厚
教育次長	小山 哲雄
文化振興課 課長	小長谷 秀夫
課長補佐	若林 富彦
文化財係 係長	佐野 誠一
調査担当 主事	久松 義昭
調査担当 主事	影山 英之

調査の成果

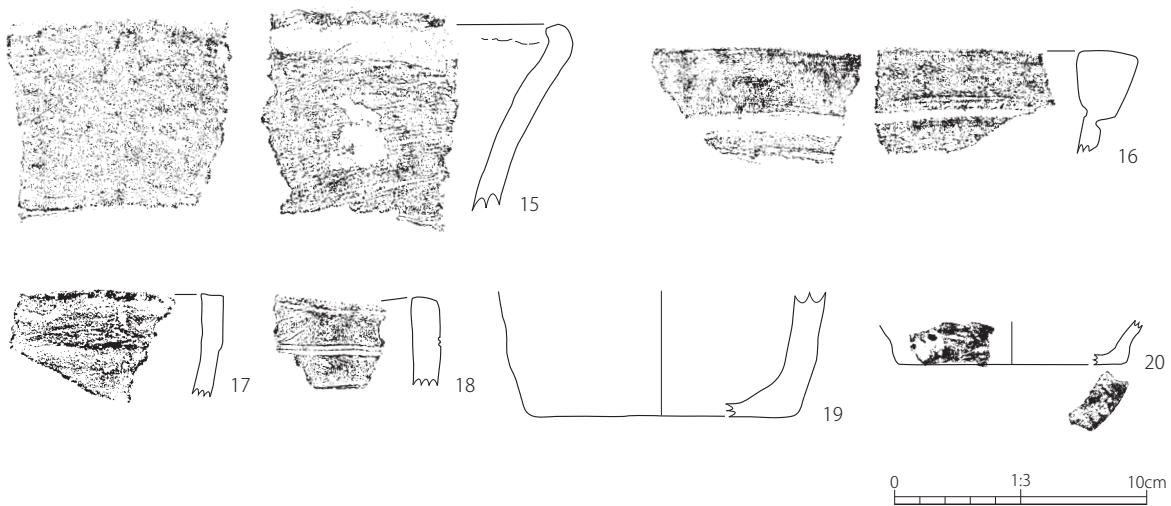
遺構は検出されなかったが、遺物は、縄文中期中葉を主体に後葉までの土器が出土している。特に4の蛇頭装飾が付された口縁部が注目される。他に3・5・7の環状把手等、立体的な把手部分の出土が多い。石器については黒曜石製の楔形石器、富士川ホルンフェルス製の打製石斧頭部、打欠による礫石錘2点、凹石が出土している。



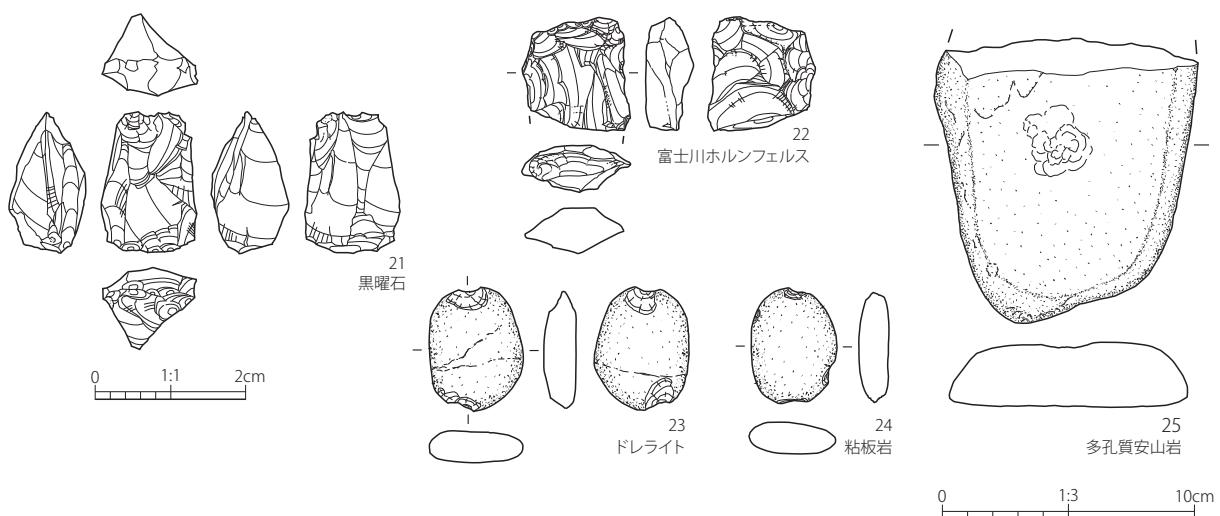
第151図 天間沢遺跡S地区 トレンチ配置図、セクション図



第152図 天間沢遺跡S地区 出土遺物実測図 ①



第153図 天間沢遺跡 S地区 出土遺物実測図 ②



第154図 天間沢遺跡 S地区 出土遺物実測図 ③

第16表 天間沢遺跡S地区 出土土器観察表

挿図 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第152図 PL.29	1		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	III群 A-1類	藤内1	大型浅鉢の口縁部。渦巻文の把手と、口縁に沿って平行する二本の押引き爪形文を施文する。くの字に張り出す肩部を連続して凹むように削り、立体の波状突起をつくり出している。	R5
第152図 -	2		5YR4/2 灰褐	7.5YR3/1 黒褐	III群 A-1類	藤内	口縁に平行して連続爪形文を施文する。	R1
第152図 PL.29	3		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR8/4 浅黄橙	III群 A-1類	井戸尻1・2	環状把手のある口縁部。把手部分は三角形に突出し、その上面に三叉文を描く。環状透しに沿って沈線で区画し隆帯状になった部分に刻みを施す。把手の下にはRLの縄文が縦に施文されている。	R3
第152図 PL.29	4		7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/3 にぶい橙	III群 A-1類	井戸尻1・2	波状口縁に沿う形で蛇頭文を配置する。蛇頭には矢羽状の刻みを施した隆帯が貼付されている。	R1
第152図 PL.29	5		7.5YR6/3 にぶい褐	5YR6/4 にぶい橙	III群 A-1類	井戸尻1・2	環状把手部分が山形になる波状口縁部。口唇近くは無文とし、頸部は文様帶状の区画になり渦巻文や三叉文によって複雑な文様が描画される。頸部直下には太い刻みのある隆帯が一周する。	R5
第152図 PL.29	6		5YR5/3 にぶい赤褐	5YR6/6 橙	III群 A-1類	井戸尻1・2	角柱状の把手部分。沈線を縁辺に沿って直線を四角形状に施し、内部に垂直線を引く。	R5
第152図 PL.29	7		5YR6/6 橙	2.5YR5/6 明赤褐	III群 A-1類	井戸尻	口縁と平行する環状把手部分。環部に接合する三叉部分に矢羽状の刻みを入れた隆帯を貼付している。赤色顔料塗布か。	R4
第152図 PL.29	8		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	III群 A-1類	井戸尻1・2	粘土貼付けと沈線、削りにより、渦巻文、三叉文などの文様を描画している。	R1
第152図 -	9		5YR6/6 橙	10YR8/4 浅黄橙	III群 A-1類	井戸尻3	口縁近くの把手部分。区画内を縦位集合沈線で充填する。	R5
第152図 -	10		5YR5/4 にぶい赤褐	10YR6/3 にぶい黄橙	III群 A-1類	井戸尻?	口縁に隆帯を貼付し幅広平坦な口唇とし、その隆帯に刻みを施す。口唇下に平行して、上下交互の刺突による波状隆帯を施文する。	R5
第152図 -	11		7.5YR7/8 黄橙	7.5YR6/8 橙	III群 A-1類	井戸尻?	口縁に隆帯を貼付し幅広平坦な口唇とし、その隆帯に刻みを施す。	R1
第152図 PL.29	12		7.5YR4/2 灰褐	7.5YR6/4 にぶい橙	III群 A-1類	井戸尻?	波状口縁の口唇表に沿って、刻みのある平らな隆帯を貼付し、その下に矢羽状の刻みをいたれた隆帯で文様を描く。	R2
第152図 -	13		5YR6/4 にぶい橙	2.5YR6/6 橙	III群 A-2類	曾利1	内向する口縁をもつキャリバー形深鉢の口縁部。断面三角形の浮線文をやや斜め縦位に平行施文する。	R5
第152図 -	14		5YR6/3 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	III群 A-2類	曾利	籠目文土器口縁部。半隆帯の条線を斜めに密接施文する。	R4
第153図 -	15		5YR6/8 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	III群	中期	大型深鉢の無文口縁部。	R4
第153図 -	16		5YR6/4 にぶい橙	5YR5/4 にぶい赤褐	III群	中期	肥厚し幅広の平坦面にした口唇をもつ口縁部。口縁に平行する太い半隆帯を施文する。	R5
第153図 -	17		2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	III群	中期?	無文の角のある口唇をもつ口縁部。表面に擦痕状の調整をする。	R2
第153図 -	18		5YR6/6 橙	7.5YR3/1 黒褐	III群	中期?	口縁に沿って半裁竹管による平行沈線を水平に施文。	R4
第153図 -	19		10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	III群	中期	深鉢底部。	R5
第153図 -	20		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	III群	中期?	非常に薄く肌色の胎土の底部。西日本系か。	R1

第17表 天間沢遺跡S地区 出土石器観察表

挿図 図版	番号	出土場所	器種名	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	観察	現地 番号
第154図 PL.29	21		楔形石器	黒曜石	1.83	1.27	0.96	1.86	両極石核の残核の可能性あり。	R3
第154図 PL.29	22		打製石斧	富士川ホルンフェルス	(4.48)	4.13	1.88	38.16	頭部の一部。	R1
第154図 PL.29	23		石錐	ドレライト	4.93	3.74	1.31	34.84	礫の両端が打欠かれている礫石錐。	R2
第154図 PL.29	24		石錐	粘板岩	4.61	3.42	1.18	27.04	上下左右に打ち欠きを施している礫石錐。	R5
第154図 -	25		凹石	多孔質安山岩	(11.18)	10.45	2.58	423.2	裏面の平坦面も磨痕が全面に観察される。	R1

第5節 T地区(第20地区)の調査

調査に至る経緯

平成4年、事業者(個人)は、富士市天間1127-1の内、1128の内において共同住宅建設工事を計画した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」に位置するため、富士市教育委員会文化振興課は、事前の確認調査が必要であると判断した。

平成4年9月7日、事業者から文化財保護法第57条の2第1項(当時)の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。富士市教育委員会は届出を静岡県教育委員会に進達し、静岡県教育委員会から事業者に対して、富士市教育委員会と協議して発掘調査を実施するように通知があつた(平成4年10月1日付け、教文第3-87号)。

その後、事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査指導依頼書」および「発掘調査承諾書」が提出された。10月8日、富士市教育委員会は文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を静岡県教育委員会に提出し、文化振興課職員による確認調査を実施することとなつた。

調査の経過と結果

調査は平成4年10月13日から10月17日にかけて実施した。

敷地内に、東西方向に4本(1～4Tr)、南北方向に1本(5Tr)のトレンチを設定し、重機および人力による掘削を行い、休場層対応層まで掘り下げた。

1Tr・3Tr・5Trでは大沢スコリア層以下が部分的に残存しており、一部トレンチを拡張して精査したが、遺構・遺物ともに検出されなかつた。2Tr・4Trでは上部の土は耕作により削られており、遺構・遺物ともに検出されなかつた。

調査の結果について、「発掘調査終了報告書」を静岡県教育委員会に提出した(平成4年12月28日付け、富教文第264号)。



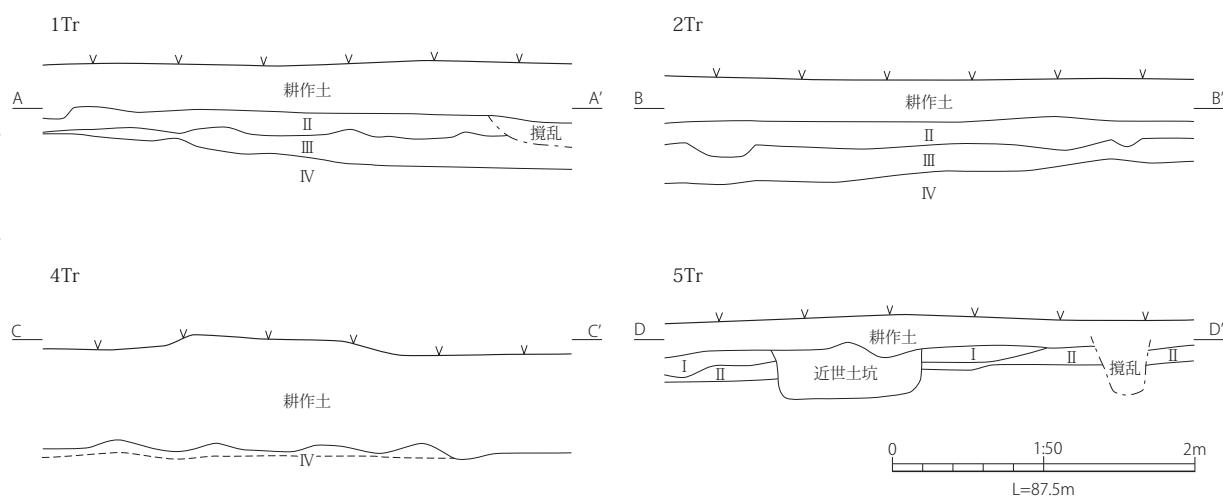
第155図 天間沢遺跡T地区 位置図

調査の体制

調査は以下の体制で実施した。

調査主体者

富士市教育委員会	教育長	山本 厚
	教育次長	小山 哲雄
文化振興課	課長	小長谷 秀夫
	課長補佐	若林 富彦
調査担当 文化財係	係長	佐野 誠一
	主事	久松 義昭



I 黒色土 しまりやや弱、粘性強。大淵スコリアが微量に混ざる。
 II 黒色土 しまり極強、粘性やや弱。大沢スコリアが多量に混ざる。
 III 黒褐色土 しまり極強、粘性やや強。赤色スコリアが少量混ざる。
 IV 明褐色土 しまり極強、粘性強。黄灰色火山灰が混ざる。

旧(近世?)耕作土
栗色土層
休場ローム層

第156図 天間沢遺跡T地区 トレンチ配置図、セクション図

第6節 U地区(第21地区)の調査

調査に至る経緯

平成4年、富士コカ・コーラボトリング株式会社(以下、事業者)は、富士市天間591-1において倉庫・事務所建て替え工事を計画した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」に位置するため、富士市教育委員会文化振興課は、事前の確認調査が必要であると判断した。

平成4年5月25日、事業者から文化財保護法第57条の2第1項(当時)の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。富士市教育委員会は届出を静岡県教育委員会に進達し、静岡県教育委員会から事業者に対して、富士市教育委員会と協議して発掘調査を実施するように通知があった(平成4年6月9日付け、教文第3-34号)。

平成4年9月30日、事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査指導依頼書」および「発掘調査承諾書」が提出された。10月15日、富士市教育委員会は文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を静岡県教育委員会に提出し(富教文第190号)、文化振興課職員による確認調査を実施することになった。

調査の経過と結果

調査は平成4年10月20日から10月27日にかけて実施した。

敷地内に、9箇所のトレーニングを設定し(1~9Tr)、アスファルトカット後、重機および人力による掘削を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

その結果、既存倉庫建設時の造成工事等により、大部分の旧表土が削平されていることが判明した。4Trにおいてわずかに旧表土以下が残存する部分がみとめられたものの、遺構・遺物とともに検出されなかつた。

調査の結果について、「発掘調査終了報告書」を静岡県教育委員会ならびに事業者宛に提出した(平成4年11月9日付け、富教文第214号・215号)。



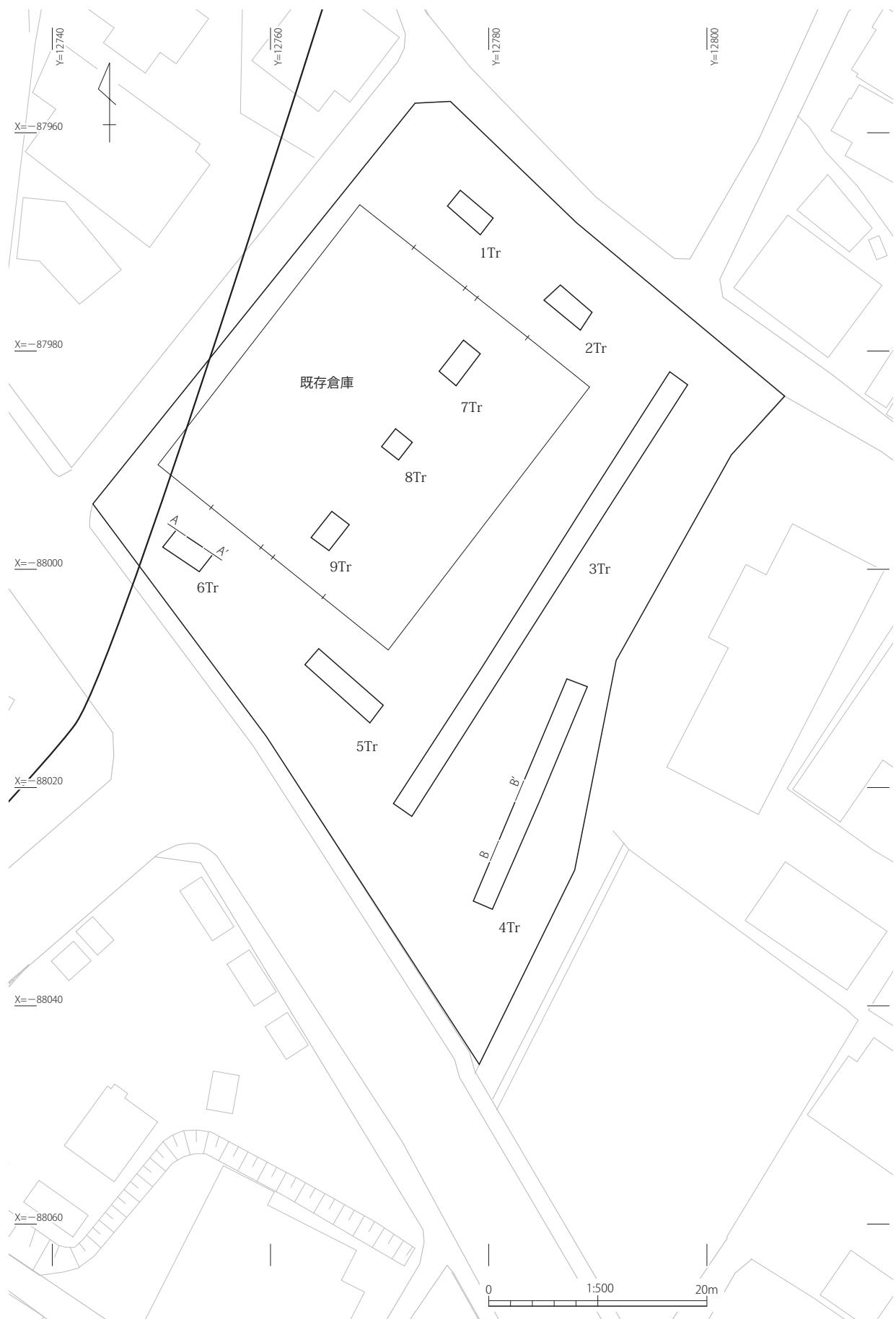
第157図 天間沢遺跡 U地区 位置図

調査の体制

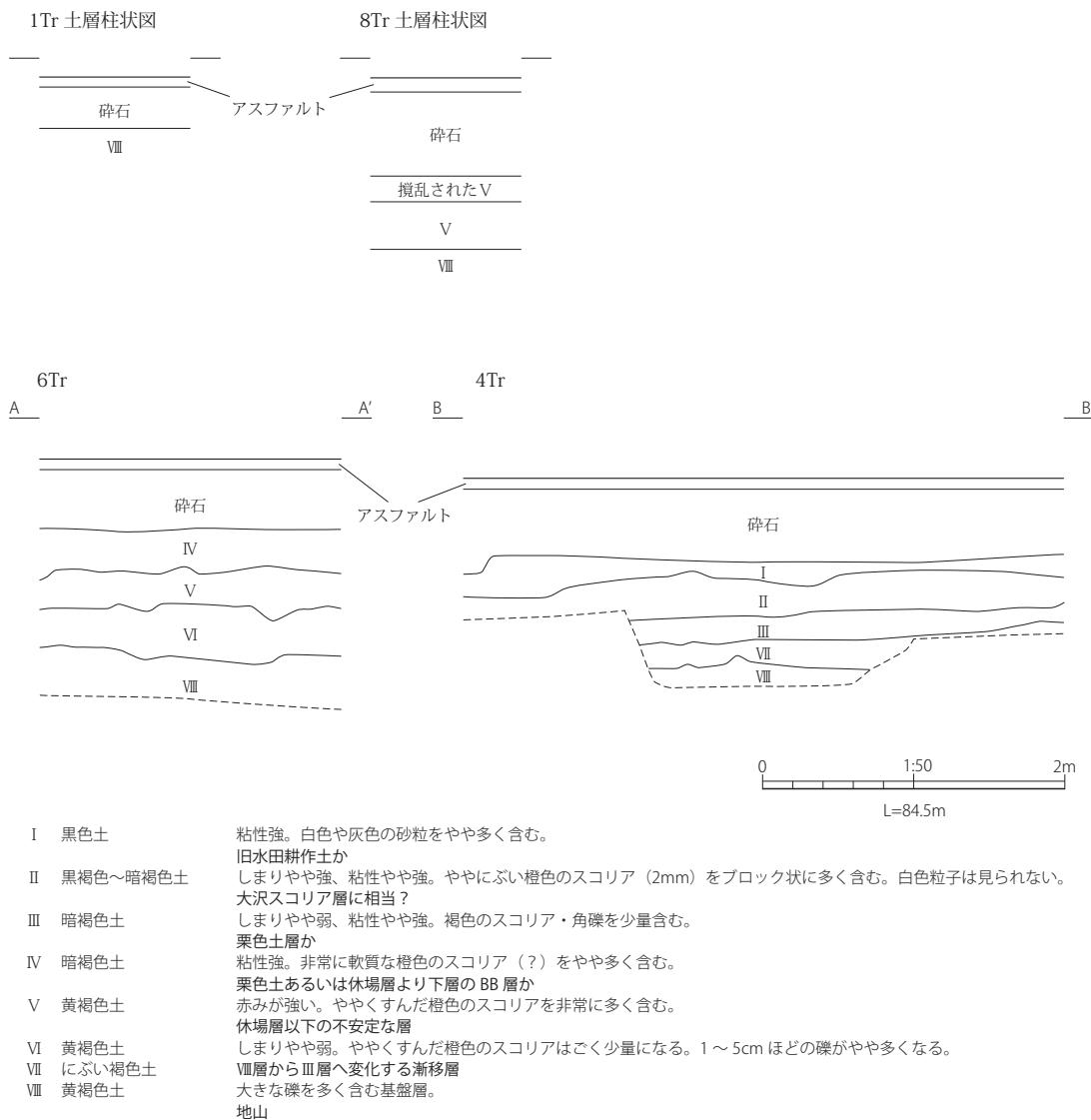
U地区の調査は以下の体制で実施した。

調査主体

富士市教育委員会	教育長	山本 厚
	教育次長	小山 哲雄
文化振興課	課長	小長谷 秀夫
	課長補佐	若林 富彦
文化財係	係長	佐野 誠一
調査担当	指導主事	中尾 欣司
	主事	前田 勝己



第158図 天間沢遺跡U地区 トレンチ配置図



第159図 天間沢遺跡U地区 セクション図

第7節 横道下地区（第23地区）の調査

調査に至る経緯

昭和62年、事業者（法人）は富士市天間999番地外（約12,000m²）において宅地造成工事を計画し、7月20日、富士市教育委員会に「埋蔵文化財分布確認調査指導依頼書」を提出した。

当該地は旧ボーリング場敷地であり、ボーリング場建物建設に伴って、昭和46年度に確認調査および本発掘調査が実施され、古墳時代中期の配石遺構と竪穴建物1軒、古墳時代初頭の竪穴建物6軒を検出している（横道下地区）。

こうした状況を踏まえ、富士市教育委員会は7月27日、文化体育課職員による表面分布調査を行い、8月5日、事前の発掘調査が必要であるとの意見を事業者に通知した（富教文体第92号）。

昭和62年8月26日、事業者から文化財保護法第57条の2第1項（当時）の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。富士市教育委員会は届出を静岡県教育委員会に進達し、静岡県教育委員会から事業者に対して、富士市教育委員会と協議して発掘調査を実施するよう通知があった（昭和62年9月17日付け、教文第4-19号）。

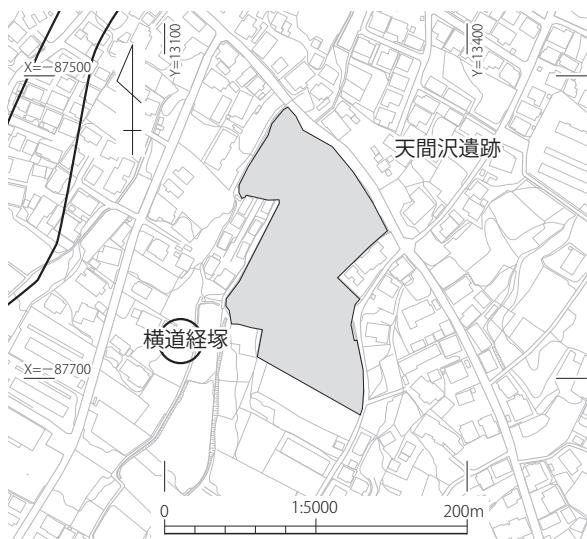
9月1日、富士市教育委員会は文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を静岡県教育委員会に提出し（富教文体第104号）、富士市教育委員会文化体育課職員による確認調査を実施することとなった。

昭和46年度の調査を横道下地区1次調査とし、今回の調査を横道下地区2次調査と位置づける。

調査の経過

調査は、昭和62年9月7日から9月21日にかけて実施した。1次調査の調査範囲外を対象とし、ボーリング場建物の南（b地区）、ボーリング場駐車場北側（c地区）、竹林（d地区）にトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査して遺構・遺物の検出につとめた。

b地区は丘陵の緩斜面にあたり、北東部には溶岩の露頭が認められ、南西に向けて緩やかに傾斜して



第160図 天間沢遺跡横道下地区 位置図

いる。トレンチ中央付近で土坑1基（第3号土坑：SK3）が、トレンチ西側で配石遺構と土坑1基（第4号土坑：SK4）が検出された。

c地区では、トレンチ東側で古墳時代の建物に伴うとみられる焼土が検出されたが、それ以外に遺構・遺物は検出されなかった。駐車場造成時に北側を削平し、その土砂を用いて西側の急斜面を埋めていることが確認され、遺構の存在は想定されない。

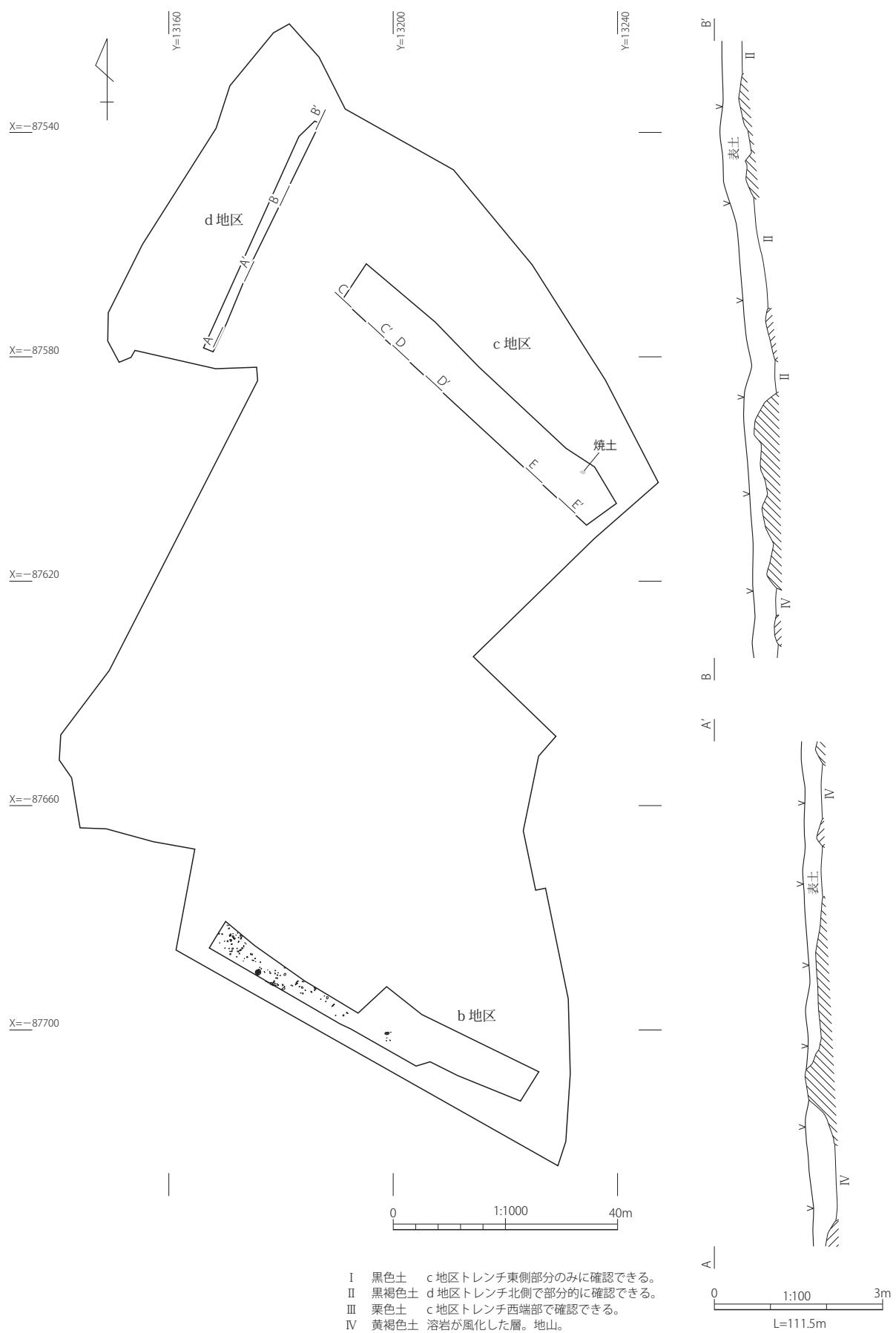
d地区は小川に挟まれた南北に延びる小丘陵で、馬の背部分に溶岩の露頭がみられる。少量の縄文土器が出土したが、遺構は確認されなかった。

調査の結果について、「発掘調査終了報告書」を静岡県教育委員会に提出した（昭和63年3月31日付け、富教文体第218号）。

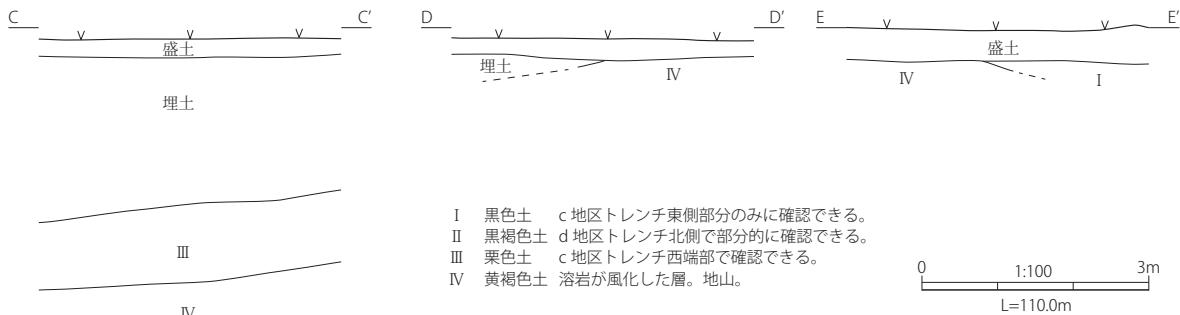
調査の体制

調査は以下の体制で実施した。

調査主体	富士市教育委員会	教育長	小川 清
事務局		教育次長	伊達 喬一
		文化体育課	課長 深澤 清一
			課長補佐 渡邊 誠
		文化振興係	係長 杉本 篤
			主事 平林 将信
			主事 渡井 義彦



第161図 天間沢遺跡横道下地区 全体図、セクション図



第162図 天間沢遺跡横道下地区 セクション図

調査の成果

b 地区の北側では、1次調査において縄文時代中期～後期の配石遺構が検出されている。b 地区トレンチの西側ではこれに連続するものとみられる配石遺構が検出され、土器のまとまりも認められた。

さらに、土器を伴う土坑が 2 基検出された (SK3 ~ 4)。

SK3 はトレンチの中央付近で検出され、平面形は長径 79cm、短径 43cm の細長い楕円形を呈する。検出面からの深さは 30cm ほどを測り、底面の中央に径 24cm、深さ 27cm ほどのピットが掘られている。上段部分の覆土中から、底部のない縄文土器深鉢が正位で出土した。埋甕土坑とみられる。

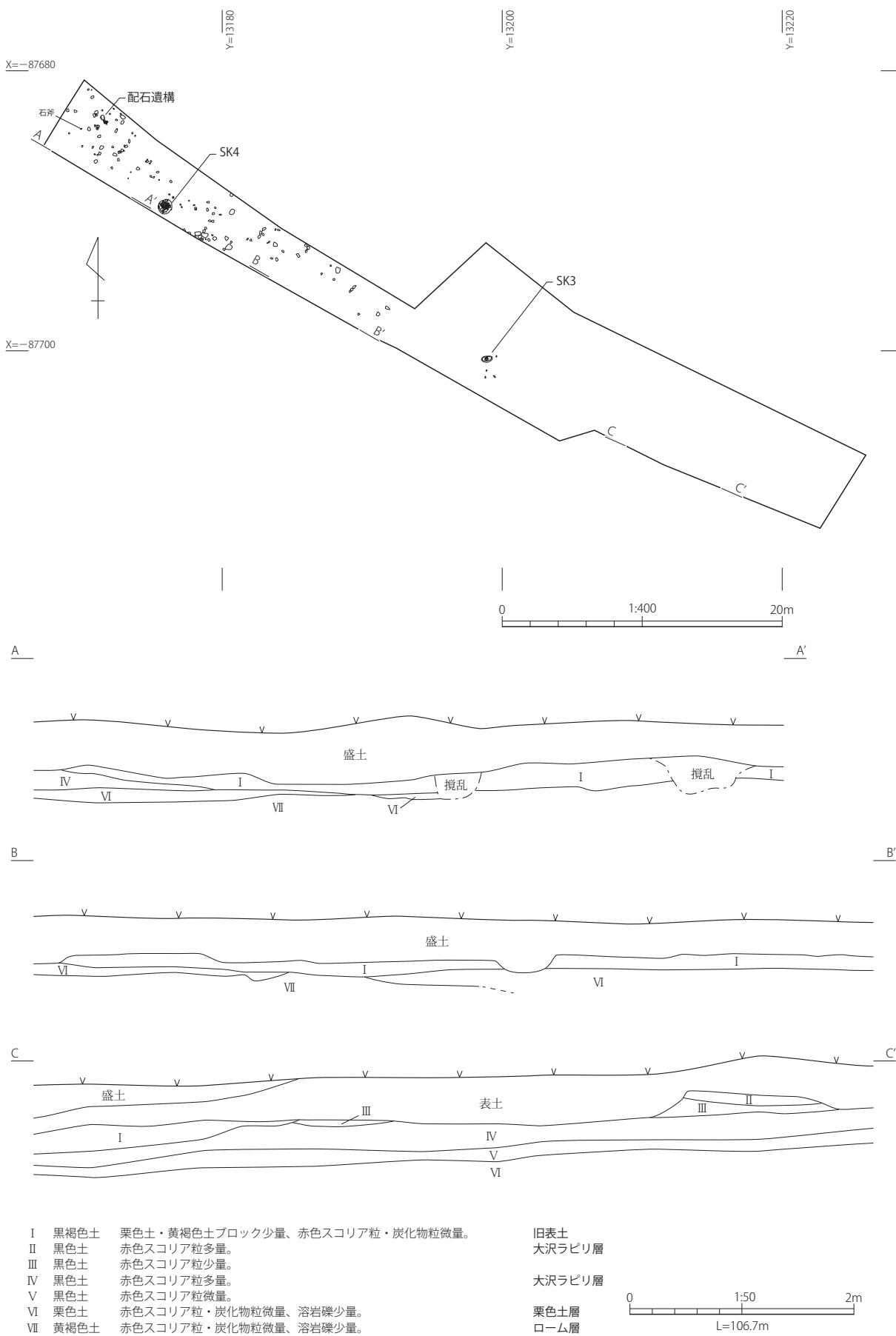
SK4 はトレンチの西寄りで検出され、平面形は長径 110cm、短径 97cm の円形を呈する。検出面からの深さ 13cm ほどの浅い平底で、径 50cm ほどの範囲に焼土が認められ、覆土中から器形が復元可能な大型の破片が重なり合う形で 4 個体以上の土器が出士している。この土器群は、関西系の縄文時代中期末の北白川 C 式と関東系中期末の加曽利 E4 式、そして後期初頭に位置づけられる称名寺 1 式から構成され、縄文時代中期から後期への移行期のセット関係を示す貴重な資料となる。

この北白川 C 式 (18) の文様構成は滋賀県尾上湖底遺跡の完形深鉢形土器 (永峰 1981) に酷似し、胎土も白色系を呈すことから、関西地域と直接関係する可能性が高い。北白川 C 式は、泉拓良氏により設定された関西地方を中心に分布する縄文時代中期終わりの土器型式で、関東地方の加曽利 E 式の影響下で成立すると考えられている。天間沢遺跡の SK4 一括出土の状況は、まさに関東地方と関西地方

の接触を示すものであろう。また、伴出した後期初頭の称名寺 1 式 (71 ~ 79) の文様構成は O 字形で、西日本の中津式系であることから、あわせて両地域の文化的紐帯を表すものかもしれない。

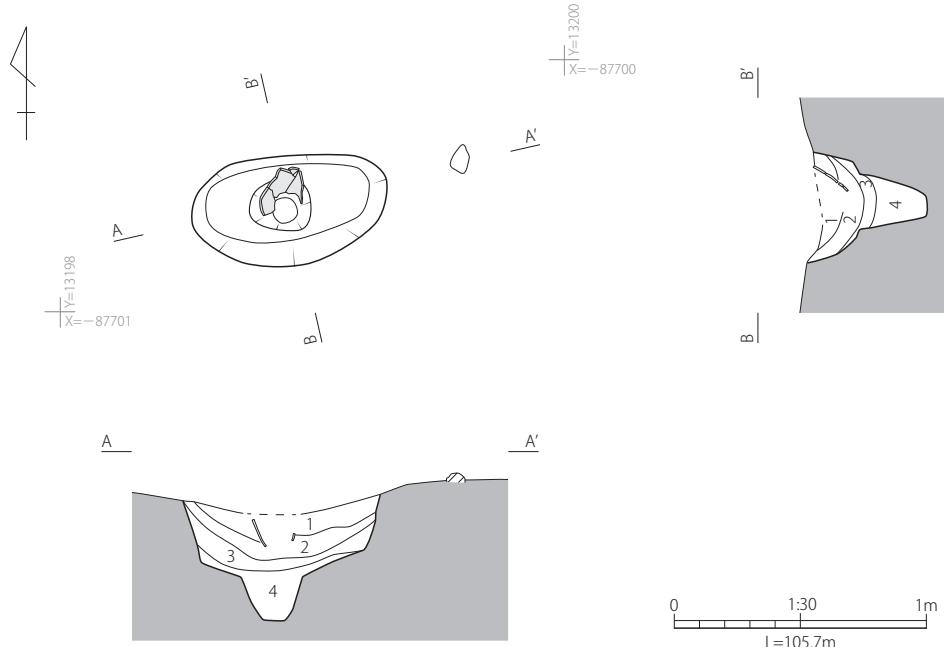
参考文献

- 永峰光一 1981『縄文土器大成②中期』P124 No.351
- 富井 真 1998 「北白川追分町遺跡出土の縄文土器 -- 北白川 C 式の成立を考える --」『京都大学構内遺跡調査研究年報』1998, 1994: 95-115
- 縄文時代文化研究会 編 1999 『縄文時代文化研究の 100 年 -21 世紀における縄文時代文化研究の深化に向けて - 縄文時代 第 10 号』縄文時代文化研究会
- 小林達雄 編 2008 『総覧 縄文土器』アム・プロモーション



第163図 天間沢遺跡横道下地区 b地区全体図、セクション図

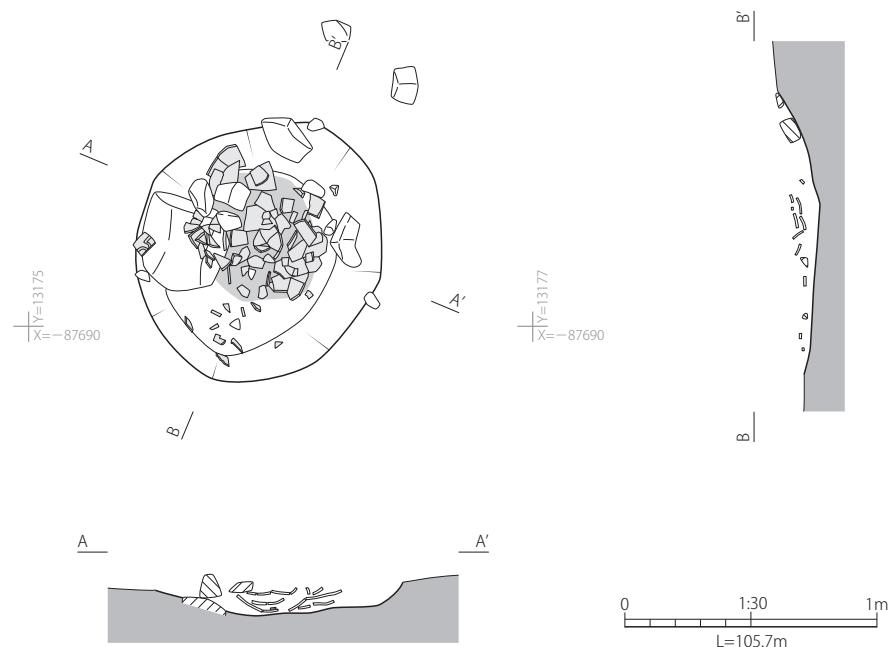
b地区 SK3



- | | |
|--------|-------------------------------|
| 1 褐色土 | 赤色スコリア粒・炭化物粒微量。 |
| 2 褐色土 | 赤色スコリア粒・炭化物粒・発泡スコリア微量、溶岩小礫微量。 |
| 3 暗褐色土 | 赤色スコリア粒・炭化物粒・発泡スコリア微量。 |
| 4 暗褐色土 | |

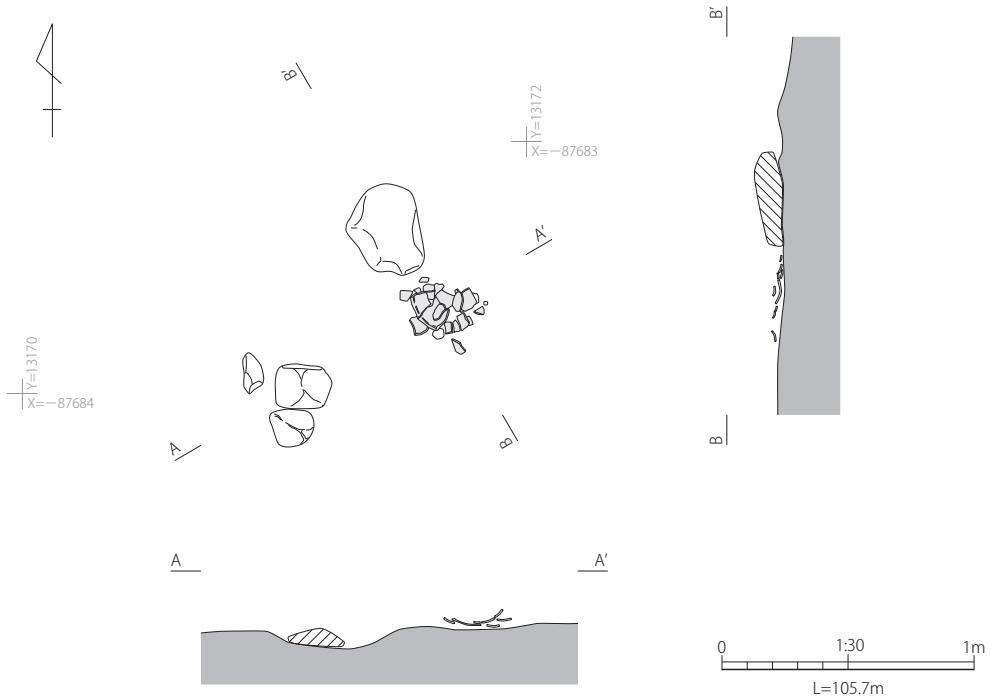
SK3 覆土
SK3 覆土
SK3 覆土
SK3 覆土

b地区 SK4



第164図 天間沢遺跡横道下地区 b地区遺構平面図、セクション図 ①

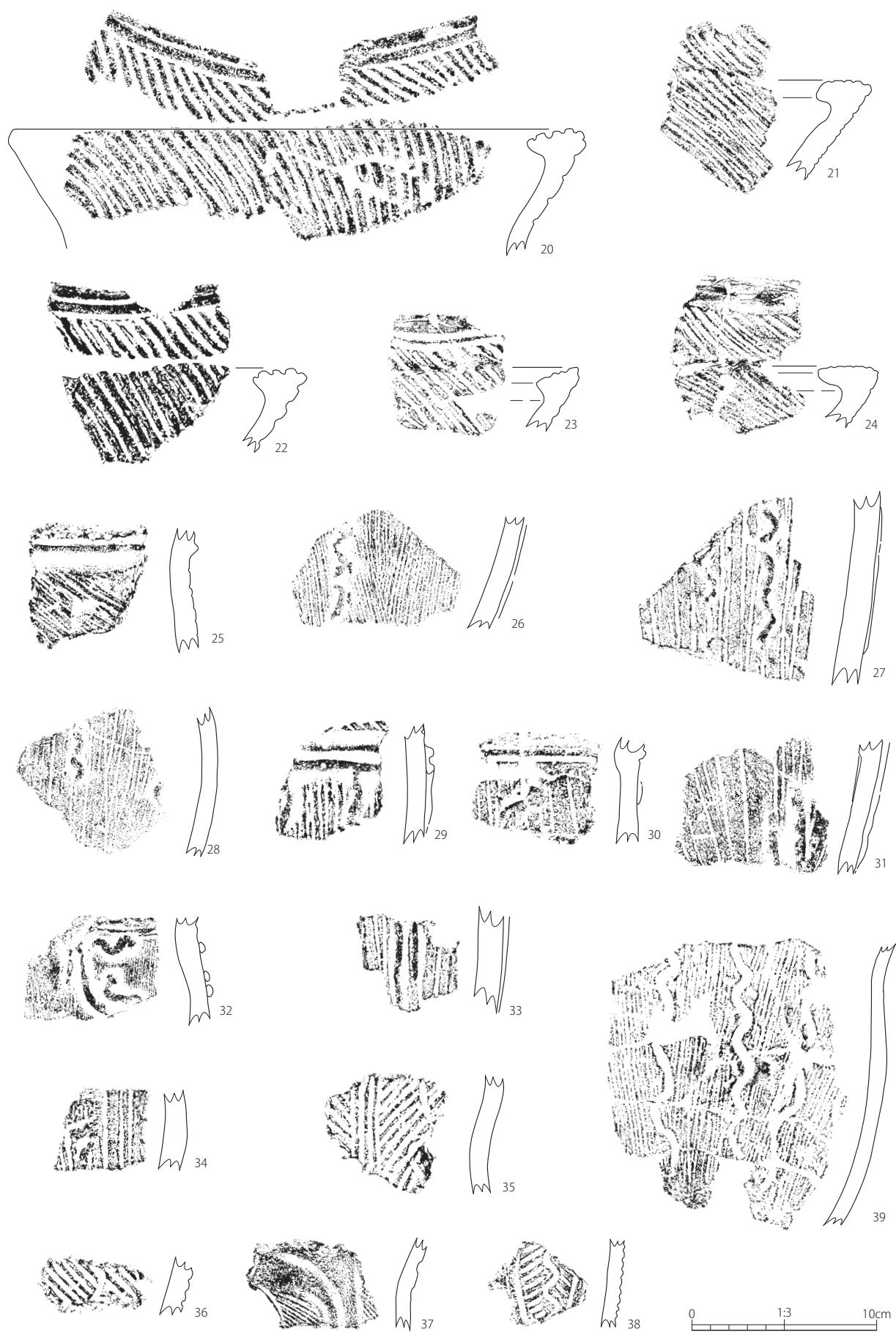
b地区 配石遺構



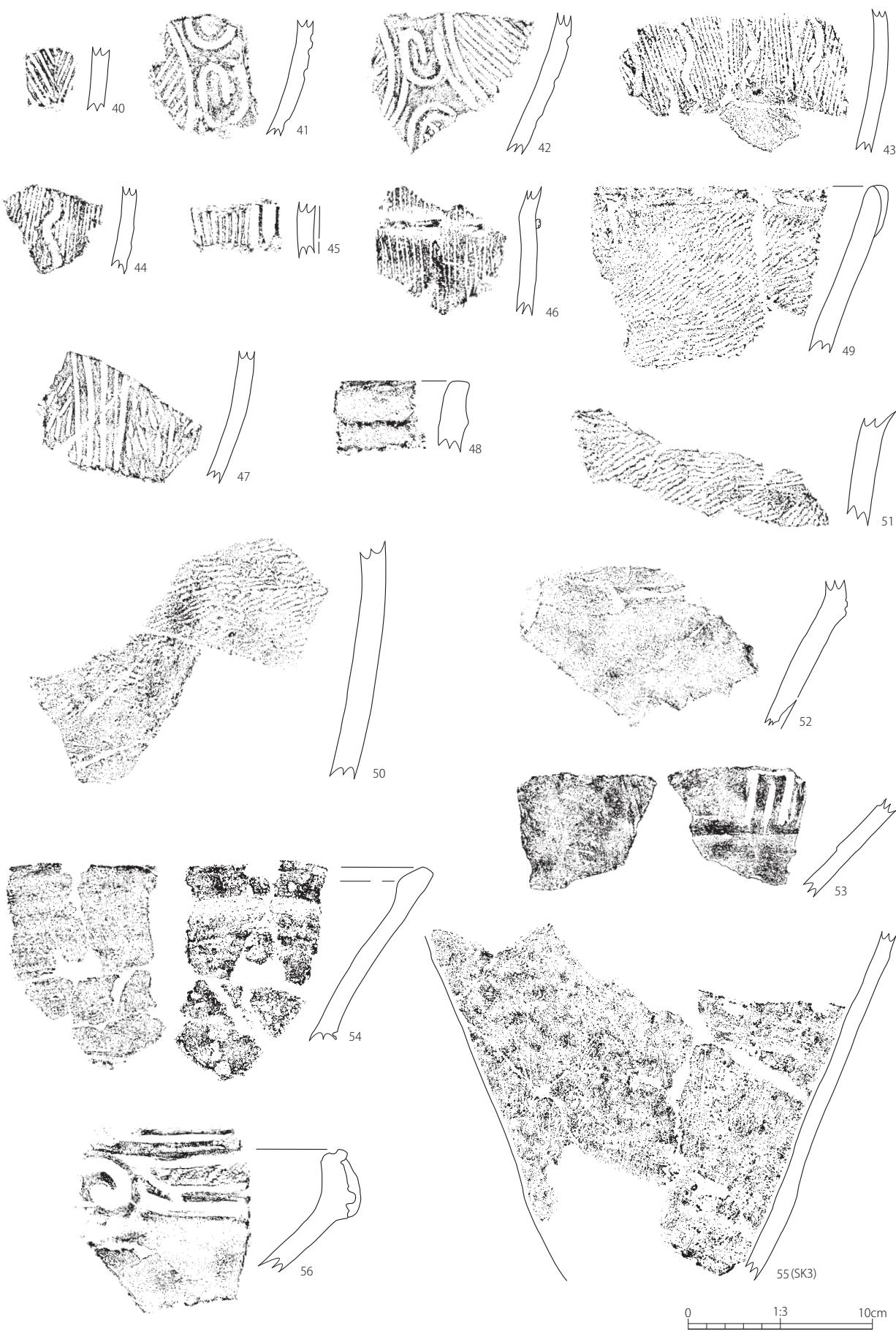
第165図 天間沢遺跡横道下地区 b地区遺構平面図、セクション図 ②



第166図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ①

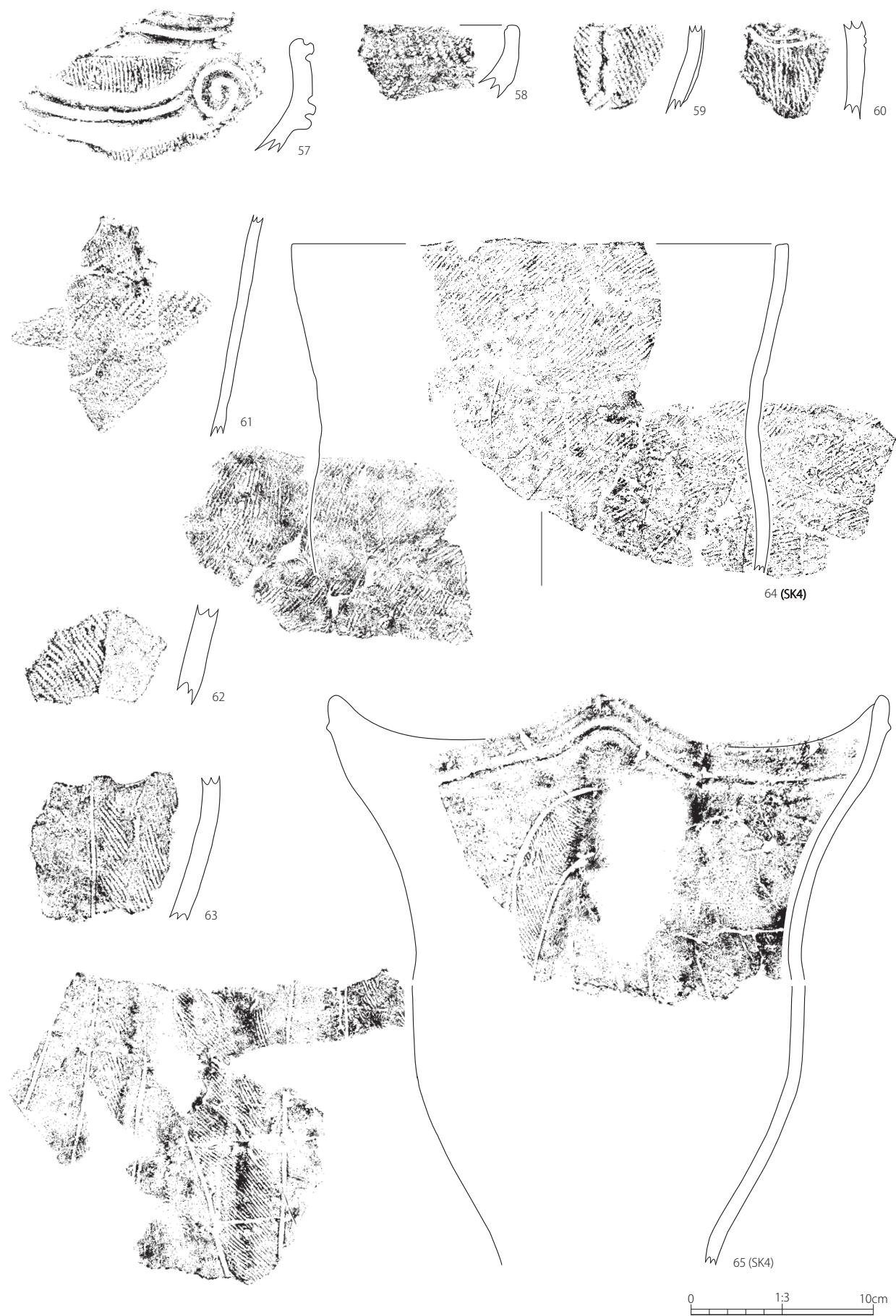


第167図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ②

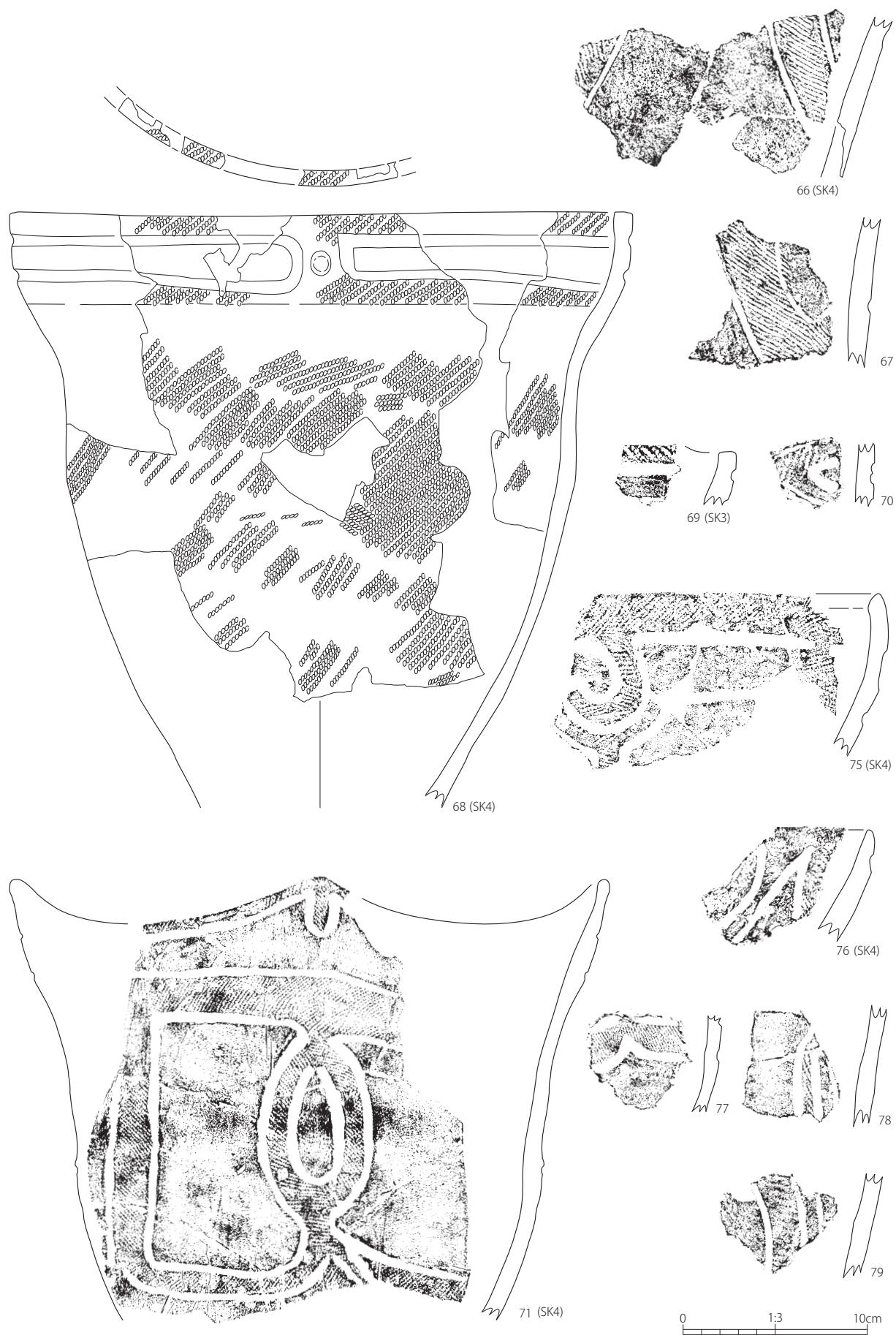


第168図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ③

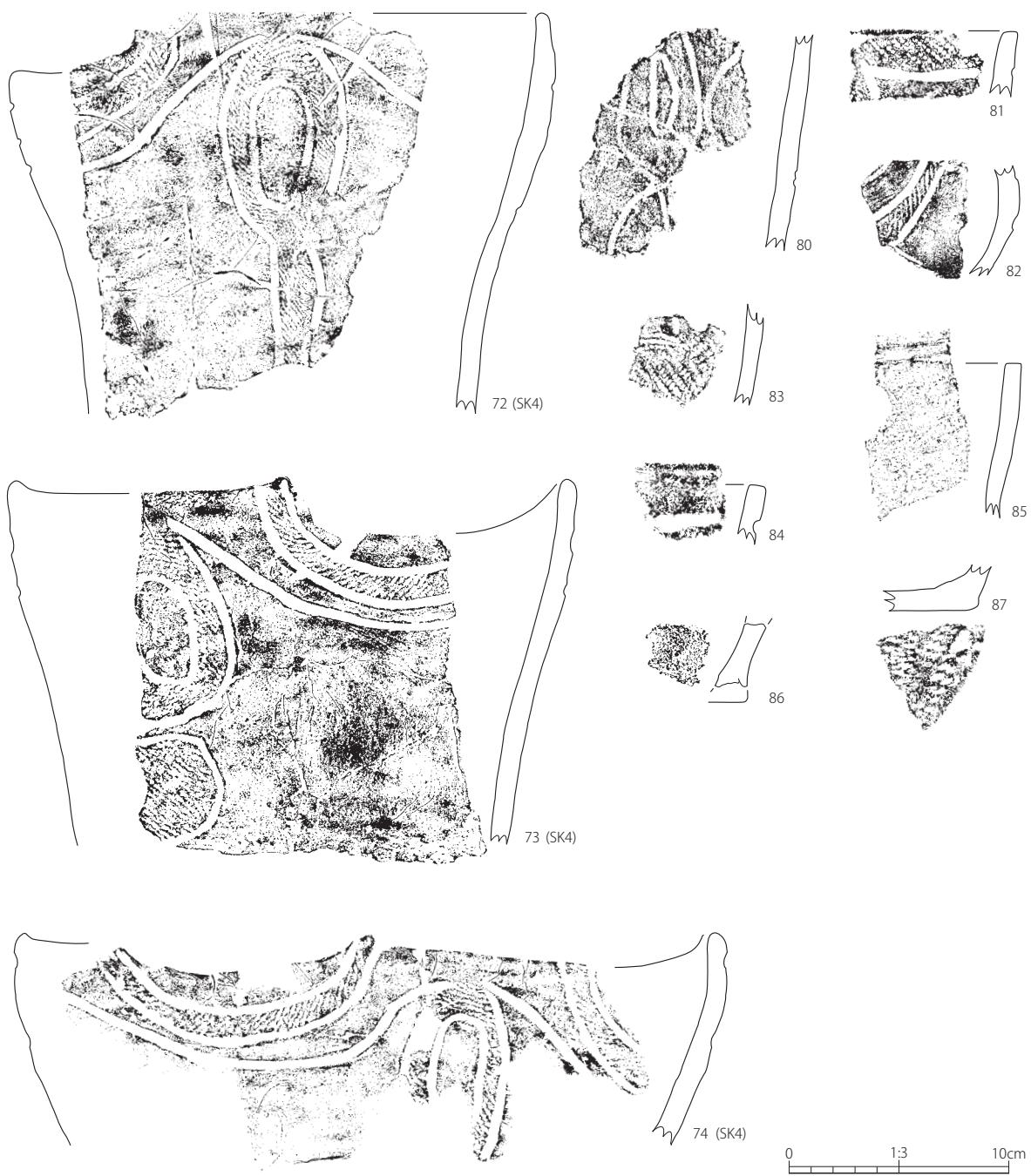
0 1:3 10cm



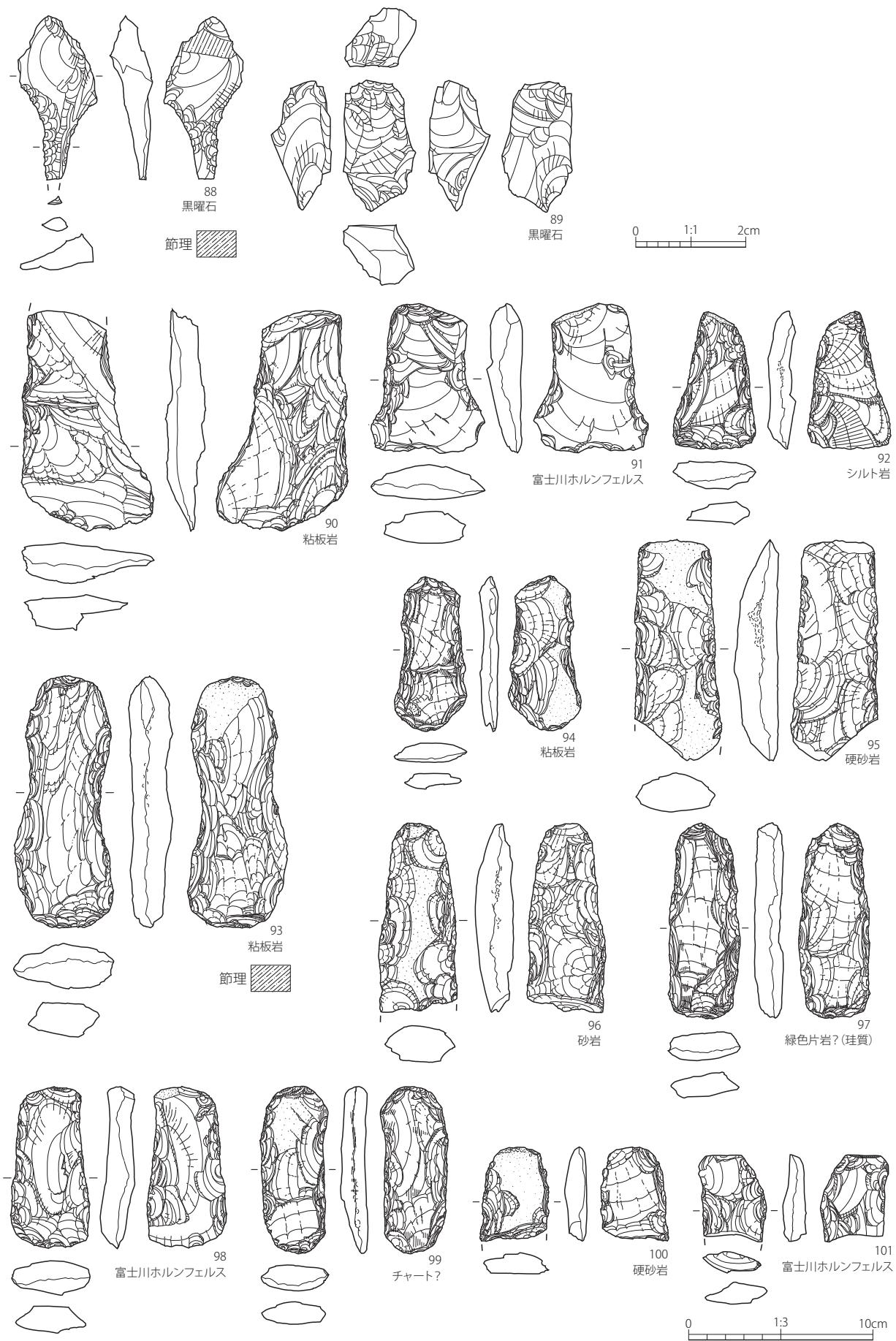
第169図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ④



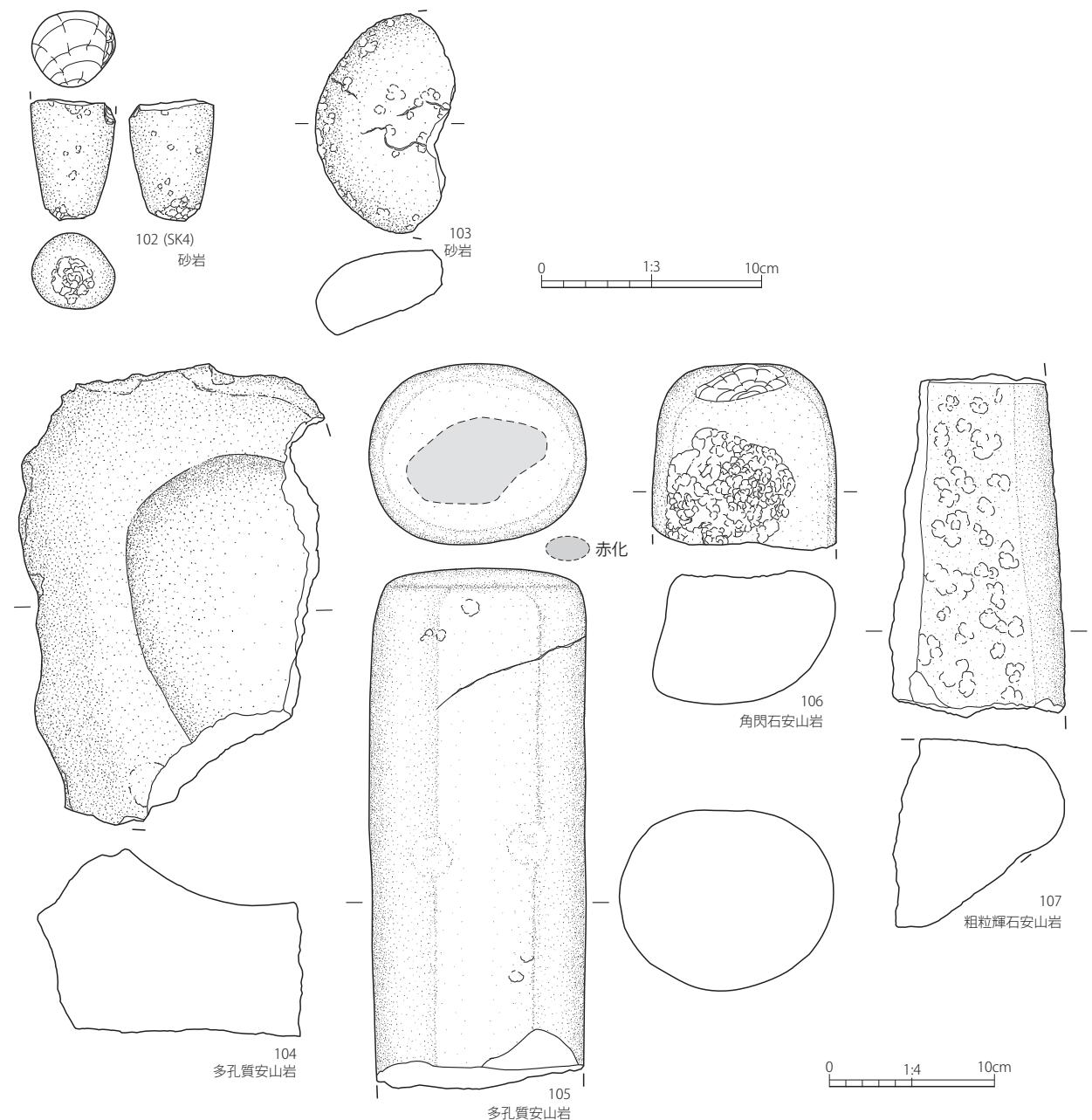
第170図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑤



第171図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑥



第172図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑦



第173図 天間沢遺跡横道下地区 出土遺物実測図 ⑧

第18表 天間沢遺跡横道下地区（第23地区）出土土器観察表

挿図 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第166図 -	1	b地区トレンチ東	5YR5/3にぶい赤褐	2.5YR5/4にぶい赤褐	III群A-1類	藤内I	断面三角形の隆帯の両側を押引き爪形文で押されて区画とし、その下部にRLの縄文を施文後、沈線による波状文を施す。	R18
第166図 PL.33	2	b地区トレンチ東	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	III群A-2類	曾利I	刻みのある懸垂文の間に渦巻文を配する。	R16
第166図 PL.33	3	b地区トレンチ西	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	III群A-2類	曾利I	キャリバー形深鉢の頸部。半隆帯の縦位条線を地文とし、その上から刻みのある浮線文を頸部に平行して貼付し、そこから同じ浮線を懸垂させる。その交点には蛇頭状の浮点を突起させる。	R15
第166図 PL.33	4	b地区トレンチ	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	III群A-2類	曾利I	二本の平行する隆帯の中を密接した波状浮線文を貼付した頸部から、下に縦位の条線を施文する。	R13
第166図 PL.33	5	b地区トレンチ西	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/6橙	III群A-2類	曾利I?	大きく内湾する口縁部に沿って沈線を引き、そこから縦に太い集合沈線を施文する。	R32
第166図 PL.33	6	b地区トレンチ西(配石遺構に伴う)	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	III群A-2類	曾利II	口縁部渦巻つなぎ弧文をもつキャリバー形深鉢上半部。区画内を太い条線や斜め刺突、押引刺突で埋める。	R29
第166図 PL.33	7	b地区トレンチ西	10YR8/4浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	III群A-2類	曾利II	口唇部渦巻つなぎ弧文をもつキャリバー形深鉢口縁部。区画内を太い条線と刺突文で埋める。	R5
第166図 PL.33	8	b地区トレンチ西	7.5YR7/4にぶい橙	5YR7/6橙	III群A-2類	曾利II	大型の深鉢の底部。地文に太い条線を縦に施文。垂下しJ字状になる隆帯の一部が残っている。	R24
第166図 -	9	b地区トレンチ西	10YR6/3にぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙	III群A-2類	曾利II	籠目文土器のくびれ部。粘土紐貼付け隆帯の上部に半隆帯の斜行条線を施す。	R32
第166図 PL.33	10	b地区トレンチ西	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	III群A-2類	曾利II?	籠目文土器のくびれ部。平行する粘土紐の間を波状の粘土紐貼付けた単位の隆帯を何重にも重ねて施文。	R28
第166図 PL.33	11	b地区トレンチ	10YR6/3にぶい黄橙	7.5YR7/6橙	III群A-2類	曾利II	平行する半隆帯の集合沈線文を器面全体に施文する。その内の一部二条に連続の爪形刻みを施し、そこから土紐の蛇行懸垂文を垂下する。	R13
第166図 -	12	b地区トレンチ東	10YR4/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	III群A-2類	曾利II	籠目文土器のくびれ部。半隆帯の斜行条線を地文とし、粘土紐貼付けの波状隆帯を施文。	R22
第166図 PL.33	13	b地区トレンチ西	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙	III群A-2類	曾利III	口縁部文様帶に条線を充填する梢円文と円文を配置する。	R32
第166図 PL.33	14	b地区トレンチ西	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	III群A-2類	曾利III	波状口縁部に粘土帶を貼り付けて肥厚して文様帶とし、変形した梢円文を施文。口唇上面に横J字の沈線を施す。体部には二本の浅い沈線による懸垂文を引き、区画内を条線で充填する。	R32
第166図 PL.33	15	b地区トレンチ西	7.5YR3/3暗褐	5YR5/4にぶい赤褐	III群A-2類	曾利III?	隆帯による梢円文の内部を荒い縦の条線によって埋める。器壁が薄く、西日本系(北白川C式?)かもしない。	R32
第166図 PL.33	16	b地区トレンチ西	7.5YR6/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	III群A-2類	曾利III	大型の籠目文土器の口縁部。裏面に大きく内向した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する沈線まで周り込むように施文する。	R7
第166図 PL.33	17	b地区トレンチ西	5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐	III群A-2類	曾利III	大型の籠目文土器の口縁部。裏面に大きく内向した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する半隆帯まで周り込むように施文する。	R32
第166図 -	18	b地区トレンチ西	5YR6/6橙	5YR6/6橙	III群A-2類	曾利III	籠目文土器の口縁部。裏面に大きく内向した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する半隆帯まで周り込むように施文する。	R32
第166図 -	19	b地区トレンチ西	5YR6/6橙	5YR6/6橙	III群A-2類	曾利III	籠目文土器の口縁部。裏面に大きく内向した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する半隆帯まで周り込むように施文する。	R32
第167図 PL.34	20	b地区トレンチ東	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	III群A-2類	曾利III	籠目文土器の口縁部。裏面に大きく内向した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する半隆帯まで周り込むように施文する。斜行条線を地文に粘土紐の懸垂文を施文。	R16
第167図 -	21	b地区トレンチ西	5YR7/6橙	5YR7/6橙	III群A-2類	曾利III	籠目文土器の口縁部。裏面に大きく内向した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に周り込むように施文する。	R5
第167図 PL.34	22	b地区トレンチ東	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	III群A-2類	曾利	籠目文土器の口縁部。裏面に大きく内向した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する二本の半隆帯まで周り込むように施文する。	
第167図 -	23	b地区トレンチ西	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR7/4にぶい橙	III群A-2類	曾利	籠目文土器の口縁部。裏面に大きく内向した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇に平行する半隆帯まで周り込むように施文する。	R7
第167図 -	24	b地区トレンチ西	5YR6/6橙	5YR6/6橙	III群A-2類	曾利	籠目文土器の口縁部。裏面に大きく内向した口唇から表面に、斜行条線を裏面口唇の無文帯まで周り込むように施文する。	R7
第167図 -	25	b地区トレンチ西	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	III群A-2類	曾利III	籠目文土器のくびれ部。隆帯の下部に斜行条線を施す。	R32
第167図 -	26	b地区トレンチ西	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	III群A-2類	曾利III	籠目文土器の胴部。縦の条線を地文とし、粘土紐による蛇行懸垂文を貼付する。	R32
第167図 PL.34	27	b地区トレンチ東	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	III群A-2類	曾利III	大型の籠目文土器の胴部。太い条線を地文に、二本の粘土紐による懸垂文を施す。	R18
第167図 -	28	b地区トレンチ西	7.5YR4/2灰褐	7.5YR4/3褐	III群A-2類	曾利III	籠目文土器の胴部。太い条線を地文に、粘土紐による懸垂文を施す。	R20

挿図 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第167図 PL.34	29	b 地区 トレンチ西	5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	III群 A-2類	曾利 III	籠目文土器の頸部。縦位の条線を地文とし、平行する二本の粘土紐貼付けの浮線文から粘土紐の蛇行懸垂文を施文する。	R5
第167図 -	30	b 地区 トレンチ西	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	III群 A-2類	曾利 III	籠目文土器の頸部。縦位の条線を地文とし、頭部に平行する太い隆帶上に半裁竹管による平行沈線を施し、そこから粘土紐の蛇行懸垂文を垂下する。	R5
第167図 -	31	b 地区 トレンチ西	7.5YR5/3 にぶい褐	2.5YR5/6 明赤褐	III群 A-2類	曾利 III	籠目文土器の胴部。太い条線を地文に、粘土紐による二本の懸垂文を施す。	R20
第167図 PL.34	32	b 地区 トレンチ西	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙	III群 A-2類	曾利 III	うすい縦位条線を地文とし、頭部隆帶から粘土紐の浮線を垂下し渦巻文を描く。	R17
第167図 -	33	b 地区 トレンチ東	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	III群 A-2類	曾利	太い縦位の条線を地文に二本の平行隆帶の懸垂文を施文する。	R16
第167図 -	34	b 地区 トレンチ東	10YR5/2 灰黃褐	7.5YR6/4 にぶい橙	III群 A-2類	曾利	太い縦位条線を地文に粘土紐の蛇行懸垂文?を垂下する。	R16
第167図 PL.34	35	b 地区 トレンチ西	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	III群 A-2類	曾利 IV	三本の集合沈線による懸垂文に区切られた内部を、綾杉状の条線で充填し、その真ん中に蛇行懸垂文を施文する。	R32
第167図 -	36	b 地区 トレンチ西	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	III群 A-2類	曾利 IV	半隆帶状の斜行条線に蛇行懸垂文を施文。	R32
第167図 -	37	b 地区 トレンチ西	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙	III群 A-2類	曾利 IV	深鉢くびれ部分。沈線による渦巻文の内部を条線で埋める。	R32
第167図 PL.34	38	b 地区 トレンチ西	7.5YR4/2 灰褐	2.5YR6/6 橙	III群 A-2類	曾利 IV	平行沈線の懸垂文に区画された中を蛇行懸垂線を引き、それを軸に集合沈線で羽状条線を施文する。	R20
第167図 -	39	b 地区 トレンチ西	7.5YR4/2 灰褐	5YR6/6 橙	III群 A-2類	曾利 IV	縦の条線を地文とし、浅い沈線による蛇行懸垂文を施文する。43・44と同一個体か?	R20
第168図 -	40	b 地区 トレンチ西	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	III群 A-2類	曾利 IV	綾杉状の条線文。	R17
第168図 -	41	b 地区 トレンチ西	10YR5/2 灰黃褐	7.5YR6/4 にぶい橙	III群 A-2類	曾利 IV ?	鉢形土器の胴部?。沈線で区切られた文様帶に、沈線による連続した渦巻文を施し、地文として斜めの集合沈線で空間を埋める。90と同一個体。	R32
第168図 PL.34	42	b 地区 トレンチ西	5YR4/1 褐灰	5YR5/6 明赤褐	III群 A-2類	曾利 IV ?	鉢形土器の胴部?。沈線で区切られた文様帶に、沈線による連続した渦巻文を施し、地文として斜めの集合沈線で空間を埋める。60と同一個体。	R5
第168図 -	43		7.5YR5/3 にぶい褐	5YR6/6 橙	III群 A-2類	曾利	縦の条線を地文とし、浅い沈線による蛇行懸垂文を施文する。39・43と同一個体か?	
第168図 -	44		7.5YR5/2 灰褐	5YR6/6 橙	III群 A-2類	曾利	縦の条線を地文とし、浅い沈線による蛇行懸垂文を施文する。39・42と同一個体か?	
第168図 -	45	b 地区 トレンチ東	5YR4/3 にぶい赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐	III群 A-2類	曾利	二本単位の細い懸垂文の間を平行する条線で充填する。	R22
第168図 -	46	b 地区 トレンチ西	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	III群 A-2類	曾利	籠目文土器のくびれ部。縦の条線を地文に、頭部に平行して二・一と交互に押引の刺突を施す粘土紐貼付け隆帶を施文する。	R28
第168図 PL.34	47	b 地区 トレンチ西	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	III群 A-2類	曾利 V ?	四本の集合沈線による懸垂文の区画内に、崩れた八の字文?で充填する。	R32
第168図 -	48	b 地区 トレンチ西	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙	III群 A-2類	曾利?	口縁に沿って断面三角形の薄い隆帶を施文。	R32
第168図 PL.34	49	b 地区 トレンチ中央	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR5/4 にぶい赤褐	III群 A-2類	曾利?	単節Lの縄文を横位を主体に器面全体に施文し地文とし、口唇表に沿って粘土紐を乗せて隆帶とし、口縁上に粘土紐で逆Ω状の突起を付ける。地文が繩文だが、曾利式の施文に類似する。83・84と同一個体。	R14
第168図 -	50	b 地区 トレンチ中央	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	III群 A-2類	曾利?	単節Lの縄文をランダムに器面全体に施文。84・85と同一個体。	R14
第168図 -	51	b 地区 トレンチ中央	7.5YR7/4 にぶい橙	5YR5/4 にぶい赤褐	III群 A-2類	曾利?	単節Lの縄文をランダムに器面全体に施文。83・85と同一個体。	R14
第168図 -	52	b 地区 トレンチ西	2.5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐	III群 A-2類	曾利?	頭部の屈曲部に太く低い隆帶を貼付けて、その上に半裁竹管による2本の半隆帶を引く。大型の浅鉢?。	R5
第168図 PL.34	53	b 地区 トレンチ西	10YR7/4 にぶい黄橙	2.5YR6/6 橙	III群 A-2類	曾利?	浅鉢の内面に、肥厚して段になった部分に太い集合沈線を縦に施文。	R32
第168図 -	54	b 地区 トレンチ西	5YR5/3 にぶい赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	III群 A-2類	曾利?	大きくひらく無文口縁部。頭部に平行する沈線を施文する。	R5
第168図 -	55	SK3	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	III群	中期?	無文の深鉢土器胴部。	R19
第168図 PL.34	56	b 地区 トレンチ	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR4/4 にぶい赤褐	III群 B-2類	加曾利 E2	口縁部文様帶に隆帶による渦巻文と区画が施文される。区画内はLRの縄文が充填される。	R2
第169図 PL.34	57	b 地区 トレンチ	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	III群 B-2類	加曾利 E3	隆帶による口唇部渦巻つなぎ弧文をもつキャリパー形深鉢口縁部。区画内をLの撚糸をやや斜め縦で充填する。	R13
第169図 -	58	b 地区 トレンチ西	7.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	III群 B-2類	加曾利 E?	口縁に平行してRLの縄文を施文し、口縁から頭部に同じ原体で縦に施文する。	R32
第169図 PL.34	59	b 地区 トレンチ西	N31 暗灰	7.5YR7/6 橙	III群 B-2類	加曾利 E	横位のRLの縄文を地文に粘土紐による蛇行懸垂文を貼付する。	R32
第169図 -	60	b 地区 トレンチ西	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐	III群 B-2類	加曾利 E	縦位のRの撚糸を地文とし、半裁竹管による沈線を施文する。	R28

挿図 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第169図	61	SK4	10YR7/3にぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙	III群	中期?	薄い深鉢の胴部にやや空間をあけてLRの縄文を横位帶状施文する。	R34
第169図	62	b地区トレンチ西	7.5YR6/4にぶい橙	2.5YR6/6橙	III群B-2類	加曾利E?	LRの縄文を縦位に施文後、縦に幅広く削るように無文帶を形成する。	R7
第169図	63	SK4	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	III群B-2類	加曾利E4	細い沈線の垂下線に沿う単節Lの縄文を縦位に施文する。65と同一個体の可能性がある。	
第169図 PL.35	64	SK4	5YR6/6橙	5YR6/6橙	III群B-2類	加曾利E?	キャリバー形深鉢の全面に、単節Lの縄文を横位に施文。	R37・ R38・ R43・ R45
第169図 PL.35	65	SK4	5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	III群B-2類	加曾利E4	波状口縁に沿って断面三角の薄い隆帯を施文し、口縁突起部の直下に単節Lの磨消縄文帯を上半部の逆U字形と合わせる形で配置しているようだが、縄文が施文されていない部分も多い。66・67と同一個体か。	R51・ R48
第170図	66	SK4	5YR6/6橙	5YR7/6橙	III群B-2類	加曾利E4	単節Lの縄文で幅広の磨消縄文を施文。65・67と同一個体か。	R37・ R41
第170図	67	SK4	10YR5/2灰黄褐	7.5YR7/6橙	IV群A-1類	加曾利E4	単節Lの縄文で幅広の磨消縄文を施文。65・66と同一個体か。	
第170図 PL.36	68	SK4・b地区トレンチ西	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	III群D-2類	北白川C	比較的大きな砂粒が多く含む胎土で、灰肌色を呈す。ゆるやかなキャリバー形の深鉢で、やや立ちぎみの口縁部文様帶には隅丸長方形の区画を浅い沈線で構成し、その内部は無文だが、それを囲んで口唇部までLRの縄文を施す。頸上部に無文帶をつくり、胴部から底部まで横位LRの縄文を全体に施文する。11と12と54・75と同一個体。	R47・ R49・ R50・ R32・ R34
第170図	69	SK3	5YR6/6橙	7.5YR5/3にぶい褐	III群D-2類	北白川C	砂粒が多く含む胎土。口縁に沿って沈線を引き、口唇との間をRLの縄文で埋める。	R19
第170図	70	b地区トレンチ東	10YR6/1褐灰	10YR8/4浅黄橙	III群D-2類	北白川C	砂粒を多く含む白肌色の胎土で、沈線に区画された中をLRの縄文で充填する。	R22
第170図 PL.37	71	SK4	5YR6/8橙	5YR6/8橙	IV群A-1類	称名寺1	波状口縁をもつキャリバー形深鉢の上半部。口唇に沿って沈線を引き、細かいLRの縄文で充填し、突起部の部分の下では舌状に下垂する。胴部には中津タイプのO字文を描き、O字文から下は人の字状に縄文帶が開いて垂下帯と結合し、O字文全体を四角で囲む文様構成となる。	R36・ R37・ R44
第171図 PL.36	72	SK4	5YR6/6橙	2.5YR5/6明赤褐	IV群A-1類	称名寺1	突起をもつ波状口縁で、中津タイプのO字文をキャリバー器形の上部に描画。区画の沈線を引く前に、文様に合わせてLRの縄文を施文している。1・8と同一個体。	R42
第171図 PL.36	73	SK4	5YR6/6橙	2.5YR5/8明赤褐	IV群A-1類	称名寺1	突起をもつ波状口縁で、中津タイプのO字文をキャリバー器形の上部に描画。区画の沈線を引く前に、文様に合わせてLRの縄文を施文している。1・6と同一個体。	R46
第171図 PL.37	74	SK4	5YR6/8橙	2.5YR6/8橙	IV群A-1類	称名寺1	突起をもつ波状口縁で、中津タイプのO字文をキャリバー器形の上部に描画。区画の沈線を引く前に、文様に合わせてLRの縄文を施文している。6・8と同一個体。	R35
第170図 PL.37	75	SK4・b地区トレンチ西	7.5YR7/4にぶい橙	5YR7/6橙	IV群A-1類	称名寺1	口唇部に沿ってLRの縄文を施文し、沈線を引く前に文様に合わせる形で同じ縄文を施文、磨消縄文になるように渦巻文や帶状に沈線を施す。	R8・ R37
第170図	76	SK4	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	IV群A-1類	称名寺1?	長石風の白い粒子を多く含む胎土で、湾曲して膨らむ口縁部を文様帶とする。円を斜めに連結する沈線で区画し、円の内部をRL?の縄文で充填する。	R33
第170図	77	b地区トレンチ西	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	IV群A-1類	称名寺1	太い沈線の間を細かいRの縄文で充填する。	R32
第170図	78	b地区トレンチ西	7.5YR6/4にぶい橙	2.5YR5/6明赤褐	IV群A-1類	称名寺1?	LRの磨消縄文による縦位のO字あるいはJ字状の文様を描く。	R7
第170図	79	b地区トレンチ西	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	IV群A-1類	称名寺1?	LRの磨消縄文を連弧状に配置する。	R7
第171図 PL.37	80	b地区トレンチ西	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR6/6橙	IV群A-1類	称名寺2?	ラフな平行沈線で中津タイプのO字文を施文するが、その内部は無文としている。	R15
第171図	81	表採	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	IV群A-2類	堀之内2	朝顔形深鉢?の口縁部。RLの帶縄文の連結した三角形文を描く。	R9
第171図	82	b地区トレンチ西	7.5YR4/4褐	5YR6/6橙	IV群A-2類	堀之内2	弧状のLRの磨消縄文を施文。	R17
第171図	83	b地区トレンチ東	7.5YR4/2灰褐	10YR5/2灰黄褐	IV群A-2類	堀之内?	RLの縄文を横位に施文した後、縦位に施文してラフな疑似羽状縄文としている。	R18
第171図	84	b地区トレンチ西	10YR5/2灰黄褐	7.5YR7/6橙	IV群	後期?	口縁に沿って平行する沈線と口唇上面に浅い沈線を施文する。	R32
第171図	85	b地区トレンチ	5YR6/8橙	5YR6/6橙	縄文	不明	角ばった口唇をもつ口縁部。	R2
第171図	86		7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/4浅黄橙	中期?		底部。	
第171図 PL.37	87	b地区トレンチ西	7.5YR7/6橙	5YR6/6橙	IV群A-2類	堀之内2?	網代痕のある底部。堀之内2式の8の字形浮点文と同じ工具の刺突痕がある。	R5

第19表 天間沢遺跡横道下地区（第23地区）出土石器観察表

挿図 図版	番号		器種名	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	観察	現地 番号
第172図 PL.37	88	b地区トレンチ 西	錐（ドリル）	黒曜石	(2.89)	1.33	0.58	1.31	先端欠損の揉錐器。	R11
第172図 PL.37	89	b地区トレンチ 西	楔形石器	黒曜石	2.3	1.4	1.05	2.5	両極石核の残核と思われる。	R6
第172図 PL.38	90	b地区トレンチ 西	打製石斧	粘板岩	(11.98)	7.18	2.12	156.97	頭部欠損のバチ形打製石斧。左右非対称なので短冊形の未製品の可能性がある。ボーリング場南トレンチ西端、黒色土出土。	R27
第172図 PL.38	91	b地区トレンチ 西	打製石斧	富士川ホルンフェルス	7.95	6.17	1.85	101	バチ形の小型打製石斧。	R54
第172図 PL.38	92	b地区トレンチ 西	打製石斧	シルト岩	7.41	4.37	1.39	45.78	風化度の少ないやや粗粒の良質な富士川ホルンフェルス？。小型で精製的ないので利器的な石器かもしれない。	R55
第172図 PL.38	93	b地区トレンチ 西	打製石斧	粘板岩	13.6	5.07	2.27	204.41	ややバチ形の短冊型の打製石斧。南トレンチ西側出土。	R11
第172図 PL.38	94	b地区トレンチ 西	打製石斧	粘板岩	8.34	3.85	0.94	38.59	ややバチ形の小型短冊型の打製石斧。	R54
第172図 PL.38	95	b地区トレンチ 西	打製石斧	硬砂岩	(11.98)	4.69	2.41	156.48	短冊形の打製石斧。刃部と頭部に新しい欠損。	R55
第172図 PL.38	96	b地区トレンチ 西	打製石斧	砂岩	(10.22)	4.19	2.04	107.67	刃部欠損の短冊形打製石斧。	R11
第172図 PL.39	97	b地区トレンチ 西	打製石斧	緑色片岩？	10.52	3.72	1.52	83.54	珪質な石材の短冊形打製石斧。南トレンチ西側出土。	R54
第172図 PL.39	98	b地区トレンチ	打製石斧	富士川ホルンフェルス	8.71	4.22	1.47	72.65	短冊形の小型打製石斧。利器的な石器かもしれない。	R21
第172図 PL.39	99	b地区トレンチ 中央	打製石斧	チャート？	9	35.3	1.35	63.85	短冊形の小型打製石斧。全体に使用あるいは着柄による磨痕が観察される。	R52
第172図 PL.39	100	b地区トレンチ 西	打製石斧	硬砂岩	(5.05)	(3.69)	1.09	29.19	短冊形の小型打製石斧の頭部。南トレンチ出土。	R54
第172図 PL.39	101	b地区トレンチ 中央	打製石斧	富士川ホルンフェルス	(4.66)	3.46	1.29	25.34	短冊形の小型打製石斧の頭部。南トレンチ中央出土。	R52
第173図 PL.39	102	SK4	敲石	砂岩	(5.52)	3.84	3.4	97.11	軟質な砂岩製なので、石製だがソフトハンマー的な用途か。	R53
第173図 -	103	b地区トレンチ 西	敲・磨石	砂岩	(10.01)	(6.32)	(3.81)	209.41	軟質な砂岩製。	R54
第173図 PL.39	104	表採	石皿	多孔質安山岩	(28.4)	(18.5)	11.1	8380	凹面をはつきりと造り出した石皿。約1/4残存。	R57
第173図 PL.39	105	b地区トレンチ	石棒	多孔質安山岩	(31.52)	13.2	10.9	8600	縄文時代中期と思われる大型石棒。基部か先端部か不明。	R56
第173図 PL.39	106	b地区トレンチ 西	台石	角閃石安山岩	(11.38)	11.1	8.1	1700	大きく窪む敲打痕をもつ。焼石に転用したのか赤化が観察される。	R55
第173図 PL.39	107	b地区トレンチ 西	石棒？	粗粒輝石安山岩	(20.93)	(10.6)	(11.5)	3400	被熱による大きな剥落で、石棒の側面部が一部残るのみ。	R12

第7節

横道下地区

(第23地区)の調査

第8節 表面採集資料等の報告

市に寄贈された天間沢遺跡の採集品と、以前の調査で未報告であった資料をここで報告する。

1は、1971～72（昭和46～47）年に調査されたC地区14号建物跡から出土した深鉢の装飾環状把手部分である。円環透しが表面に1、裏面に2つの3孔ある。縄文時代中期中葉の藤内2式に比定した。2は、1978（昭和53）年に調査されたF地区で出土した井戸尻式の深鉢底部である。先端部を円文とした扁平な隆帯の懸垂文を施し、LRの縄の絡条体を縦位に回転施文したものを地文としている。『天間沢遺跡II』1985で報告されているが、再実測した。

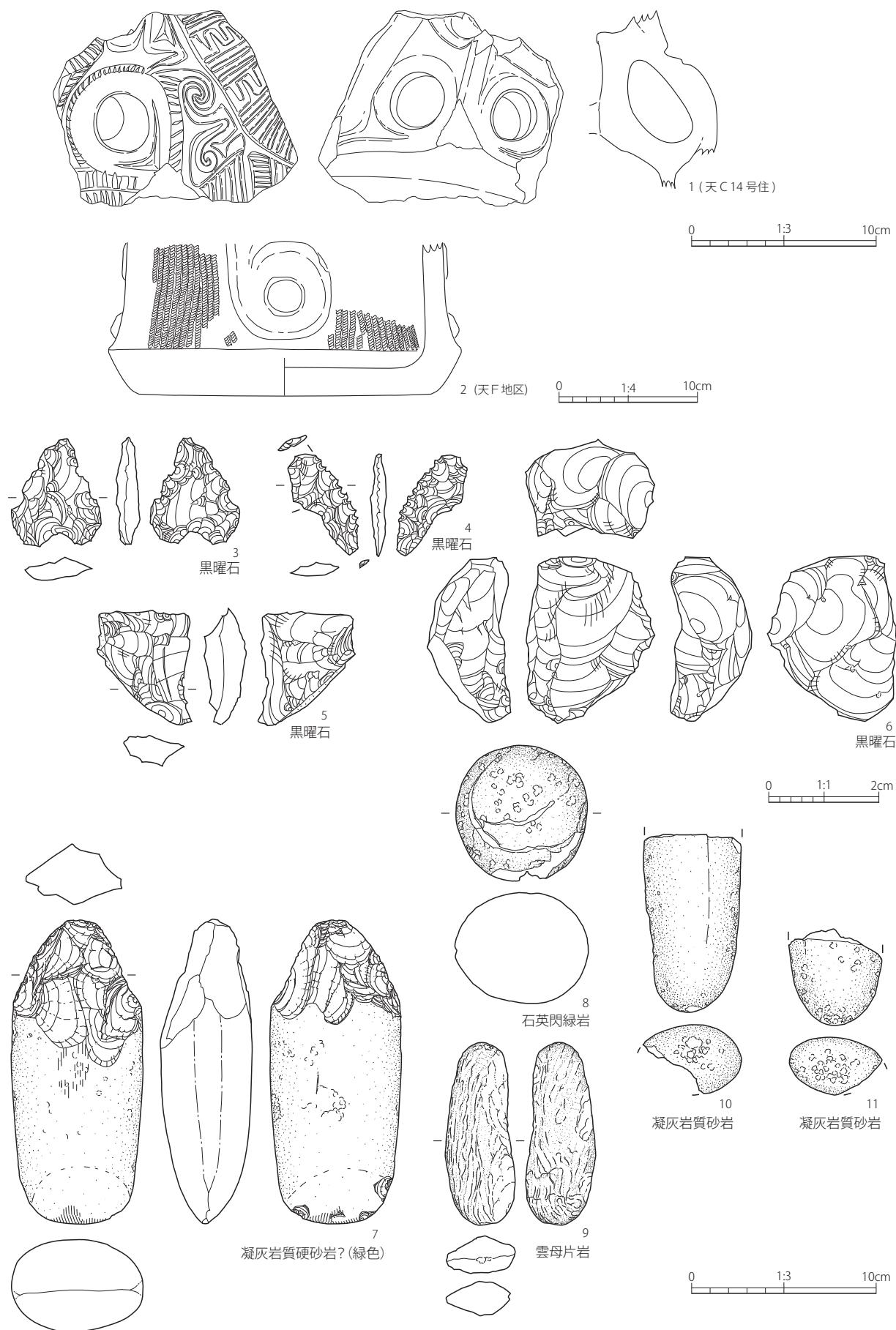
3は荒い成形による黒曜石製凹基無茎鏃で、あるいは未製品かもしれない。4は鋸歯縁加工の黒曜石製長脚鏃。5は黒曜石剥片製のノッチ。6は黒曜石製の多方向からの剥片剥離が観察される残核である。7は緑色を呈する凝灰岩質砂岩製の大型乳棒状石斧で、頭部着柄部の欠損を打撃剥離により再生している。8は磨・敲石、9～11は棒状の敲石である。

第20表 天間沢遺跡表面採集資料等 土器観察表

挿図 図版	番号	出土場所	色調内側	色調外側	分類	型式	観察	現地 番号
第174図 PL.40	1	C地区 14号建物跡	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	III群A-1類	藤内2	深鉢の装飾環状把手部分。円環透しが表面に1、裏面に2つの3孔ある。	R5
第174図 PL.40	2	F地区	2.5YR5/4 にぶい橙	5YR5/6 明赤褐	III群A-1類	井戸尻	深鉢底部。先端部を円文とした扁平な隆帯の懸垂文を施し、LRの縄の絡条体を縦位に回転施文したものを地文としている。	R1

第21表 天間沢遺跡表面採集資料等 石器観察表

挿図 図版	番号	出土場所	器種名	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	観察	現地 番号
第174図 PL.40	3		石鏃	黒曜石	1.91	1.57	0.39	0.92	未製品に近い粗い成形の凹基無茎鏃。菅原淳・菅原千恵・勝亦孝泰氏採集。	R3
第174図 PL.40	4		石鏃	黒曜石	(1.82)	(1.28)	0.28	0.35	先端部、左脚部欠損の長脚鏃。鋸歯縁加工。菅原淳・菅原千恵・勝亦孝泰氏採集。	R3
第174図 PL.40	5		ノッチ	黒曜石	2.01	1.64	0.69	1.87	楔形石器からの転用?。菅原淳・菅原千恵・富田英孝氏採集。	R4
第174図 PL.40	6		石核	黒曜石	2.92	2.25	1.46	9.22	打面を形成し、綫長および等比剥片を作出している。菅原氏ほか採集。	R9
第174図 PL.40	7		磨製石斧	凝灰岩質砂岩	16.6	7.14	5	844.94	緑色の硬質な石材を素材とした大型蛤刃のような乳棒状石斧。頭部欠損後、打撃による再生を行っている。鷹岡天間沢の墨書きアリ。	R14
第174図 PL.40	8		敲石	石英閃綠岩	7.33	7.01	5.97	433.5	球状で、比熱を受け亀裂多く、茶褐色に変色。昭和40年に奈木氏採集。	R1
第174図 PL.40	9		敲石	雲母片岩	9.92	3.74	2.12	84.54	棒状。菅原淳・菅原千恵・勝亦孝泰氏採集。	R2
第174図 PL.40	10		敲石	凝灰岩質砂岩	(9.17)	(5.21)	(4.73)	180.76	棒状。菅原淳・菅原千恵・勝亦孝泰氏採集。	R2
第174図 -	11		敲石	凝灰岩質砂岩	(5.31)	(5.08)	(3.1)	90.14	棒状敲石の先端部。菅原淳・菅原千恵・勝亦孝泰氏採集。	R2



第174図 天間沢遺跡表面採集資料等 実測図

第3章 資料報告

静岡県富士市破魔射場遺跡出土の黒曜岩製尖頭器

村井 咲月

本稿の目的

石器研究の基礎は、石器の剥離痕を観察し、石器製作の工程を推察することにある。昨今は、石器製作以前の段階にあたる、石器石材の原産地や採取地の推定、石器石材の流通や集団間の交易に着目されることが多い。また石器製作のあと、石器の使用により新たに発生する割れや、使用痕が論じられることがある。

これら石器製作の前後の段階を包括する概念で、原石の採取に始まり、加工・製作され、使用され、廃棄に至るまでの過程は、石器のライフヒストリーとよばれることがある。たいていの資料は、その全貌を詳らかに語らない。しかし、いくつかの資料には、二次加工のほか、素材剥片の剥離、使用などの段階で形成された痕跡が、残存していることがある。それらは実資料の観察から把握でき、石器を取り巻く人類の所作をより深く理解する鍵となる。静岡県富士市の破魔射場遺跡出土の尖頭器は、その一例となる。

本稿では、破魔射場遺跡で出土した尖頭器を、肉眼および金属顕微鏡を用いて、徹底的に観察する。石器製作のみならず、素材剥片の剥離やその運搬、使用・破損の段階で残された痕跡を見いたし、石器

の変形を段階的に記述する。また、この過程のなかでみられる、被熱を表す痕跡についても言及する。

研究の対象

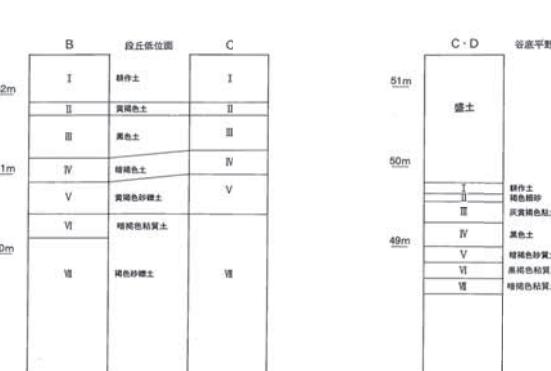
北に富士山、南に駿河湾を有する静岡県富士市は、歴史時代には東西交通の要となった東海道や、南北交通を担った甲斐路がわたるなど、通史的にヒトやものの移動と切り離せない場所であった。市内西部には、日本三大急流の一つに数えられ、甲斐と駿河を繋ぐ重要な水路となった富士川が流れ、駿河湾に注いでいる。

富士川の下流域には、河川の侵食・開析作用を受けて、河岸段丘が形成されている。河岸段丘上では、先史時代から多くの遺跡が営まれてきた。たとえば、縄文時代早期の子母口式、野島式、茅山式などの土器を層位的に検出した駿河山王遺跡（稻垣 1975）、縄文時代前期の木島式土器の標識遺跡となった木島遺跡（加藤ほか 1936、池谷ほか 1980）が見つかっている。

駿河山王遺跡と木島遺跡の間に、高さ約 50m の西岸下流域の河岸段丘上には、横穴式石室、および小石室をもつ古墳が複数確認された谷津原古墳群（石川 2001）や、平安時代の集落と明治時代の建物



第1図 破魔射場遺跡の位置（諸星 2001a）



第2図 破魔射場遺跡の基本土層図（井鍋 2001）

跡を検出した北久保遺跡（諸星 2001b）が立地する。破魔射場遺跡は、これらの遺跡と同じ段丘上に位置している。

破魔射場遺跡は、東名高速道路上り線の改良工事にともない、平成 9 年に発掘調査された遺跡である（諸星 2001a）（図版 1 上段左）。谷津原古墳群、北久保遺跡とともに、富士川サービスエリア関連遺跡として報告された（第 1 図）。

破魔射場遺跡では、縄文時代中期から後期の住居跡や炉跡、配石遺構、弥生時代や平安時代の遺構が見つかっている。縄文土器は、縄文時代中期後半の曾利式と後期前半の堀之内式を主体とし、前期から晩期にかけて幅広い型式が出土している。土器にともなって石器も出土している。石鏃や打製石斧、石錘、磨石、石皿を中心に、碎片を含めて 3000 点以上の発見があった（福島 2001）。

本稿において着目するのは、黒曜岩製の尖頭器である（図版 1 上段右）。当初は、本遺跡で出土した唯一の「石槍」（福島 2001 : 146）として報告されたが、後年「石銛に類似する資料」（成瀬 2021 : 175）とも紹介されている。本資料が出土した B 区は、最下層の VII 層で縄文時代後期前半の遺構が検出されている（井鍋 2001）。しかし、本資料は遺構から出土していないため、詳細な帰属時期は不明である¹⁾（第 2 図）。現在は、富士山かぐや姫ミュージアムに所蔵されている。

研究の方法

破魔射場遺跡で出土した黒曜岩製尖頭器に対して、熟覧と、金属顕微鏡を通した石器表面の観察を実施した。顕微鏡を通して肉眼では認識でき

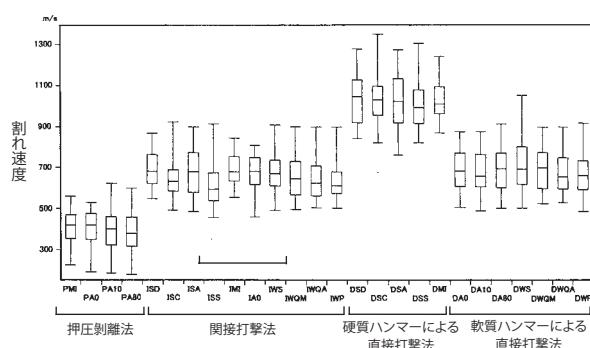
ない、石器表面に形成された微小な痕跡をとらえることが可能である。本稿で特に着目したのは、ガルウイングと被熱痕跡である。

岩石に加撃することで発生する破壊前線が、岩石内部の夾雜物や不均質な部分をとらえると、一対の翼のような模様が作り出される（ツィルク 2020）。石器の剥離面に観察されるこの V 字形を、ガルウイングとよぶ。ガルウイングの二等分線は、破壊前線が発生した方向と対応するため、剥離方向の推定に役立つ。またガルウイングは、夾雜物や不純物の少ない、黒曜岩のような岩石上で観察しやすい。石器石材として多用されるフリントやチャートなどでは、いくら良質であっても不明瞭に現れるとされる。

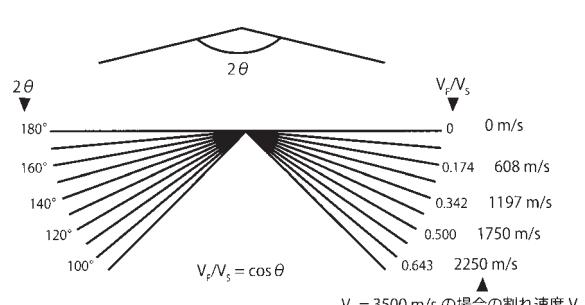
石器の破壊力学的研究のなかで、ガルウイングは剥離方法を同定する根拠になるとして着目されてきた。日本では山田ら（1989）が、ガルウイングの存在とその形成過程を紹介している。高倉ら（2004）は、ガルウイングの開き角から計算して表される割れ速度と剥離方法間に強い相関があることを示した。そして導き出される割れ速度から、剥離方法の同定が可能であることを、実験によって確かめた（第 3 図）。

彼らによると、剥離方法はグループ I：押圧剥離法（金属、角による）、グループ II：間接打撃法（石、金属、角、木による）や直接打撃法（角、木などの軟質ハンマーによる）、グループ III：直接打撃法（石、金属などの硬質ハンマーによる）に分類できて、それぞれの割れ速度は 350 ~ 500m/秒前後、600 ~ 800m/秒前後、900 ~ 1100m/秒前後にまとまるとしている（高倉ほか 2004）。

ツィルク（2020）は、ガルウイングの角度と割れ



第 3 図 割れ速度と剥離方法の関係（高倉ほか 2004 を改変）



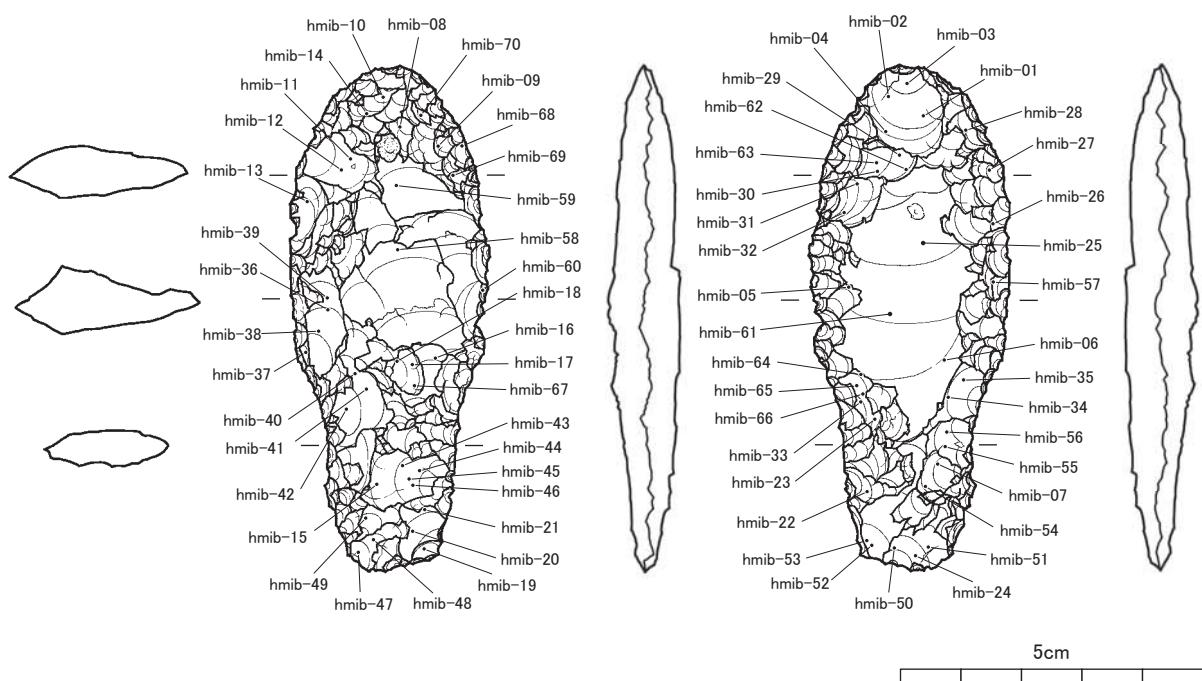
第 4 図 ガルウイングの開き角と
割れ速度の関係（ツィルク 2020）

速度の対応を模式図で表した（第4図）。実際に石割りのスピードを測定していないとも、石器表面に現れたガルウイングの開き角から、割れ速度を概算できることが示されている。彼らの成果から、割れ速度が大きいほど、石器表面に表されるガルウイングの開き角は小さく、対して割れ速度が小さいほどガルウイングの開き角は大きくなることが判明している。

岩石が熱を受けると、石器表面の変質や、傷ができることがある。これを被熱痕跡とよぶ。中沢（2000）は、黒曜岩の表面に観察される被熱痕跡の特徴と生成過程を、実験と実資料の対比から明らかにした。北海道千歳市メボシ川2遺跡から出土した石器群から黒曜岩製資料を抽出し、観察したところ、黒曜岩の表面に現れる被熱痕跡として、ヒビ（クラック）、発泡、平坦もしくは凹凸のある折れ面が形成されたとした。さらにクラックは1a:曲線状、1b:ウロコ状、1c:蜘蛛の巣状の3種類に分けられた。これらクラックは、埋没後の自然作用で生じた移動や、使用により形成される線上痕とは、形態上で区別できるとされる。また、黒曜岩製資料のすべてではなく、一部に認められる痕跡であるため、一律した変化がある風化作用の所産ではないと結論づけた。

中沢の実施した実験では、黒曜岩におけるクラックの形成には、550°Cで9時間以上の加熱を要するという結果が得られた。このことから、黒曜岩製石器に呈されるクラックは、石器が被熱した際にしか表れない特徴的なひび割れであると明示された。中沢（2000）は被熱痕跡の観察に実体顕微鏡を用いていた。しかし金属顕微鏡でも、同様の倍率での観察が可能と考えられる。

本稿では、落斜照明付金属顕微鏡OLYMPUS BX-FM（南山大学上峯研究室所有）によって、100～200倍の倍率で石器を観察した。観察に際し、アルコールなどを用いて石器表面を拭いた。金属顕微鏡での撮影は、WRAYMER WRAYCAM-NOA2000（山田しよう氏より借用）を使用し、ノートPCにインストールされたWRAYMER顕微鏡用カメラ制御ソフトウェアMicro Studio（ver.1.9.25633.20240519）上で実施した。対物レンズがガルウイングや被熱痕跡に正対するように石器を据え、石器の表裏70箇所を、写真撮影により記録した（第5図、図版1下段、図版2）。写真撮影の際には、ガルウイングと被熱痕跡がもっとも明瞭に観察できるよう、各箇所において光度や照射角を微調整した。



第5図 破魔射場遺跡出土尖頭器の金属顕微鏡による観察箇所

尖頭器の製作工程と使用・破損

熟観により、尖頭器の製作工程と使用、および破損について明らかにする。資料は全長8.3cm、幅3.2cm、厚さ1.2cmで、全体が入念に加工され、一定の器厚と左右対称形を得た、黒曜岩製の両面調整の尖頭器である。片面にはポジティブな剥離面が残り、縦長剥片を素材として製作されたことがわかる。素材剥片の剥離面には無数の傷がついており、表面が粗くなっている。3cmほどの舌部を有し、返刺は作り出されているものの、顕著ではない。舌部にみられる、剥離と剥離の境界である稜線の部分には、若干の擦られた痕跡があり、摩耗しているようにみえた。また、尖頭器整形のための剥離はすべて、石器の縁辺から中心に向かって施されるが、舌部にはいくつかの、内側から縁辺に向かう剥離がみられる。尖頭器の先端には、周囲の二次加工の剥離痕に比べて大きな、もっとも新しい剥離が残されている。そのため先端部は尖らず、丸みを帯びているように見える。

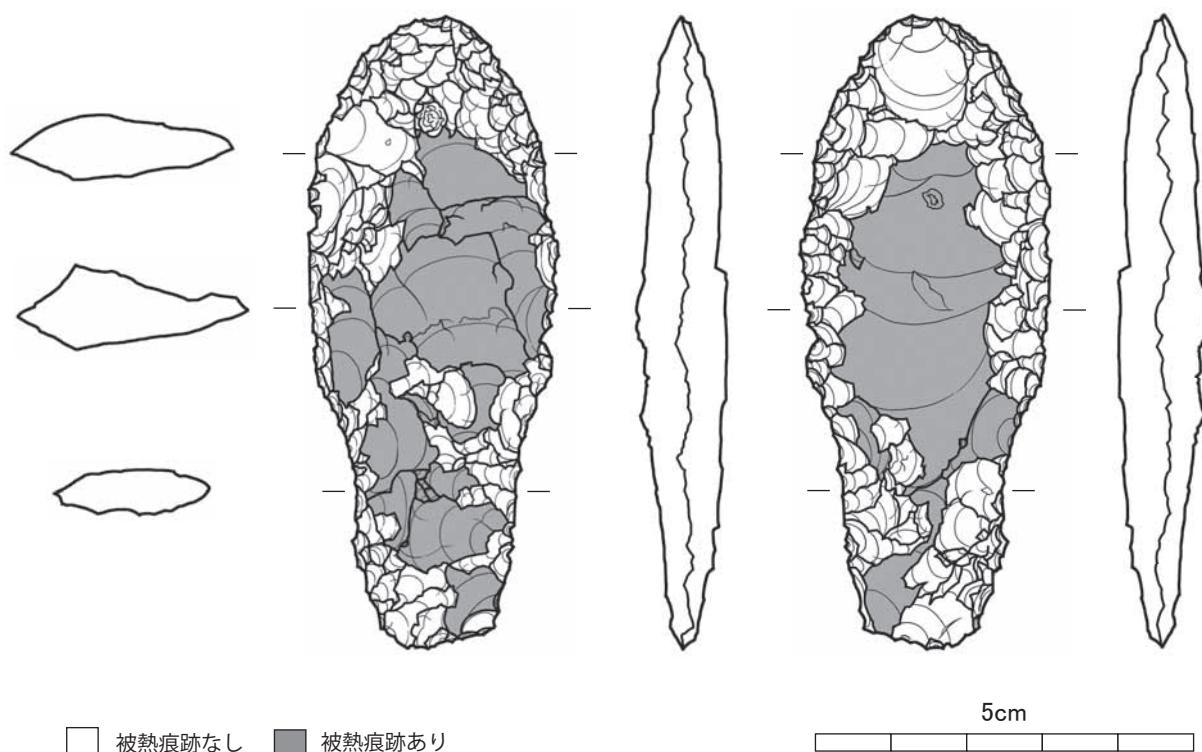
これらのことから、本資料における剥離の過程が、以下のとおり復原される。まず素材剥片のポジティ

ブな剥離面に残される傷からは、素材剥片の段階において、長期間ストレスを受ける環境下にあったことがわかった。素材剥片の形状のまま、遠距離にわたって運搬されていたことが考えられる。

素材剥片が作出された遺跡、また素材剥片に二次加工が施された遺跡については、現時点では明らかにする術がない。本資料は、石器石材原産地と破魔射場遺跡を結ぶ石器時代の人類の移動ルートのどこかで素材剥片となり、長距離にわたって運ばれ、両面に加工されたことがわかる。

舌部の稜線の摩耗や、内側から縁辺に向かう剥離痕は、この部位に石器以外のものが長期間、もしくは強く接していたことを示す。本資料には、柄が装着されていたと考えられ、石槍もしくは石銛として、使用されたことをうかがわせる。

先端に残される大きな剥離痕は、周囲の二次加工に後続している点から、使用時に形成されたものだと予想される。対象に突き刺す動作による衝撃の反動で剥離された結果、先頭部を欠失したと考えられる。これは、いわゆる衝撃剥離痕（御堂島 1991）だとみなせる。



第6図 破魔射場遺跡出土尖頭器の被熱痕跡が確認された剥離痕

尖頭器表面のガルヴィングと被熱痕跡

熟覧によって、石器製作工程と使用および破損の有り様を推察した。それに留まらず、肉眼ではとらえられない痕跡と、その形成理由を考察に加えることで、石器のライフヒストリーをより深く理解することができる。本石器における剥離の方法や被熱の有無を調べるために、金属顕微鏡を用いて、100～200倍の倍率で石器表面を観察した（第5図、図版1下段、図版2）。

まずは素材剥片の段階における運搬痕跡を呈する面について、200倍の倍率で観察したところ、クレーター状の小穴群が確認された（図版1下段：hmib-06、図版2：hmib-61）。これらは、素材剥片が運搬される際に被った、無数の傷である。小穴群が石器表面を覆い尽くしていたため、素材剥片の剥離方法や、その段階における被熱の有無は解読できなかつた。

次に、素材剥片の二次加工の部分を観察した。二次加工は、尖頭器の内部にまで剥離痕の末端を到達させるとともに、長さ数mmで外形の整形に注力されたものに分けられる。このうち前者の、石器中央部に到達する剥離痕では、ガルヴィングと蜘蛛の巣状のクラックが同時に確認できた（図版1下段：hmib-23、図版2：hmib-41）。このときのガルヴィングの開き角は、90°前後と小さく、割れ速度が比較的速かったことがわかる。高倉ら（2004）がグループIIIに分類するような、硬質ハンマーによる直接打撃法によって、粗く加工されたと考えられる。

後者の、尖頭器の外形整形に傾注する小さな剥離痕上には、いかなる被熱痕跡もみられず、ガルヴィングのみが確認できた（図版1下段：hmib-19、図版2：hmib-26、63など）。これらのガルヴィングの開き角は145°から170°と幅があるが、180°近くに達するものもある。このことから、比較的小さい割れ速度を発生させる剥離方法が実施されたことがわかる。高倉ら（2004）の分類におけるグループIの押圧剥離法、もしくはグループIIの、角、木など軟質ハンマーによる直接打撃法か間接打撃法、いずれかの実施が示唆される。

破魔射場遺跡の尖頭器において、素材剥片に対する二次加工は、2段階に分けることが可能である（第

6図）。すなわち石器中央部にまで到達し、クラックがみられる剥離痕と、長さ数mmで、整形に注力された、クラックがみられない剥離痕である。クラックがみられる剥離痕が先行することから、二次加工の途中で熱を被っていることが明らかである。また両者はガルヴィングの開き角に差異があり、それぞれで異なる剥離方法が実施されたことが予想される。

着柄時に生成されたと判断した剥離痕、および尖頭器先端にある、使用による衝撃の反動で形成されたと判断した剥離痕上では、角度120°前後のガルヴィングがとらえられた（図版1下段：hmib-01、02、03、17、図版2：hmib-60など）。二次加工にみられる90°前後、もしくは180°近くに達するガルヴィングとは区別される。また、被熱を示す痕跡が認められなかつた。これらの剥離痕が、二次加工の段階にあった被熱イベント以降に形成されたことが確認された。舌部に観察される特徴的な剥離痕と、先端部の大きな剥離痕は、二次加工以降の、着柄や使用の所産だと考えられる。

肉眼による石器熟覧では、素材剥片、二次加工、着柄、使用および破損の、4段階が認識できた。また金属顕微鏡を用いた観察により、クラックの有無から、石器製作工程の途中で被熱イベントがあることがわかつた。また石器の二次加工の剥離痕と、舌部や先端の特徴的な剥離痕は、ガルヴィングの開き角に差異がみられ、割れ速度が異なることがわかつた。その結果、破魔射場遺跡の尖頭器の変形は、素材剥片、被熱を受けるまでの粗い二次加工、被熱後の二次加工、着柄、使用および破損の、5段階で認識可能であることが明らかになった。

結論

本稿では、肉眼による石器熟覧と金属顕微鏡によるガルヴィングと被熱痕跡の観察から、破魔射場遺跡出土の尖頭器の変形の過程の解明を試みた。その結果、本資料の製作から使用、廃棄までの道程を明瞭に認識できた。

まず、残存する素材剥離面の傷からは、素材剥片の状態で運搬されていたことが明らかになつた。二次加工は、石器の中央部にまで至る粗めの剥離と、

細かな剥離の2段階に分けられた。二次加工の途中で被熱イベントがあったことが、金属顕微鏡による蜘蛛の巣状クラックの観察で判明した。緻密な二次加工に後続する剥離痕からは、尖頭器が着柄され、使用され、対象物に命中し衝撃を被ったことが示された。そして最後に破魔射場遺跡にて廃棄された事実がある。

肉眼と金属顕微鏡を用いた丹念な資料観察にもとづき、石器が変形していく過程に、詳細に迫ることができた。資料の観察というシンプルな方法が、今後も考古資料の理解に大いに有効であることを示せた。

謝辞

資料実見に際しては、富士山かぐや姫ミュージアムにお世話になった。富士市埋蔵文化財調査室には、本稿の発表の場を提供していただいた。厚く御礼申し上げる。

本稿の作成にあたっては、指導教員である上峯篤史准教授にご助言賜った。また金属顕微鏡は、南山大学上峯研究室所有のものをお借りした。

註

- 1) 破魔射場遺跡が立地する谷津原丘陵の頂上部、および南側傾斜地に広がる谷津原古墳群のSF-03土坑からは、黒曜岩原石が6点出土している(石川2001)。覆土から縄文時代中期後半の土器片が出土しており、当該期の土坑と考えられている。富士川下流域において、縄文時代中期に黒曜岩の流通があったことが明らかであり、本資料も当該時期に関わる可能性もある。

引用文献

- 石川武男 2001 「第V章 谷津原古墳群の調査」『富士川SA関連遺跡(遺構編)』 静岡県埋蔵文化財調査研究所編、p.130-161。
- 池谷昌彦・佐野五十三 1980 「第IV章2節 土器」『木島』 富士川町教育委員会、pp.52-82。
- 稻垣甲子男 1975 「第7章第1節 考察 縄文時代の文化」『駿河山王』 富士川町教育委員会、pp.102-114。
- 井鍋誉之 2001 「第III章3節 基本層序」『富士川SA関連遺跡(遺構編)』 静岡県埋蔵文化財調査研究所編、p.11-13。
- 加藤明秀・芹沢長介 1936 「静岡縣に於ける細線紋指痕薄手土器と其伴出石器」『考古學』7-9、pp.416-428。
- 高倉 純・出穂雅実 2004 「フラクチャー・ウイングによる剥離方法の同定研究」『第四紀研究』43-1、日本第四紀学会、pp.37-48。
- ツィルク・アレ 2020 『石の目を読む』 上峯篤史訳編著、京都大学学術出版会。
- 中沢祐一 2000 「黒曜石石器群に認められる被熱痕跡の生成実験と量的評価」『第四紀研究』39-6、日本第四紀学会、pp.535-546。
- 成瀬陽介 2021 「静岡県破魔射場遺跡出土の石鋸類似資料」『東海石器研究』11、東海石器研究会、pp.175-178。
- 福島志野 2001 「第II章第1節3石器」『富士川SA関連遺跡(遺物編)』 静岡県埋蔵文化財調査研究所編、pp.143-200。
- 御堂島正 1991 「石鋸と有舌尖頭器の衝撃剥離」『古代』92、pp.79-97。
- 諸星雅一 2001a 「第I章 調査に至る経緯」『富士川SA関連遺跡(遺構編)』 静岡県埋蔵文化財調査研究所編、p.1。
- 諸星雅一 2001b 「第VI章 北久保遺跡の調査」『富士川SA関連遺跡(遺構編)』 静岡県埋蔵文化財調査研究所編、pp.162-189。
- 山田しよう・志村宗昭 1989 「石器の破壊力学(2)」『旧石器考古学』39、旧石器文化談話会、pp.15-30。

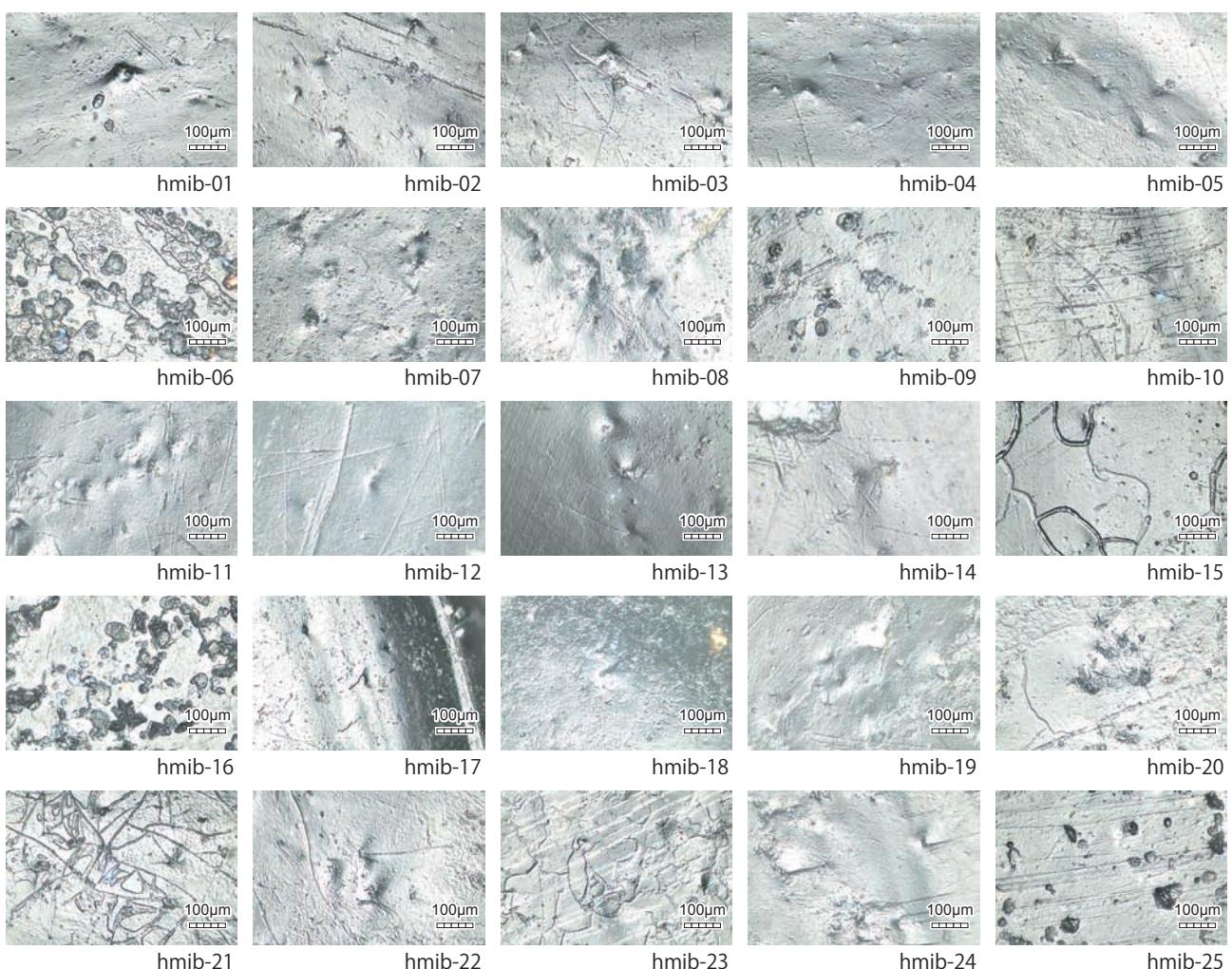


破魔射場遺跡の遠景写真（△の交点）



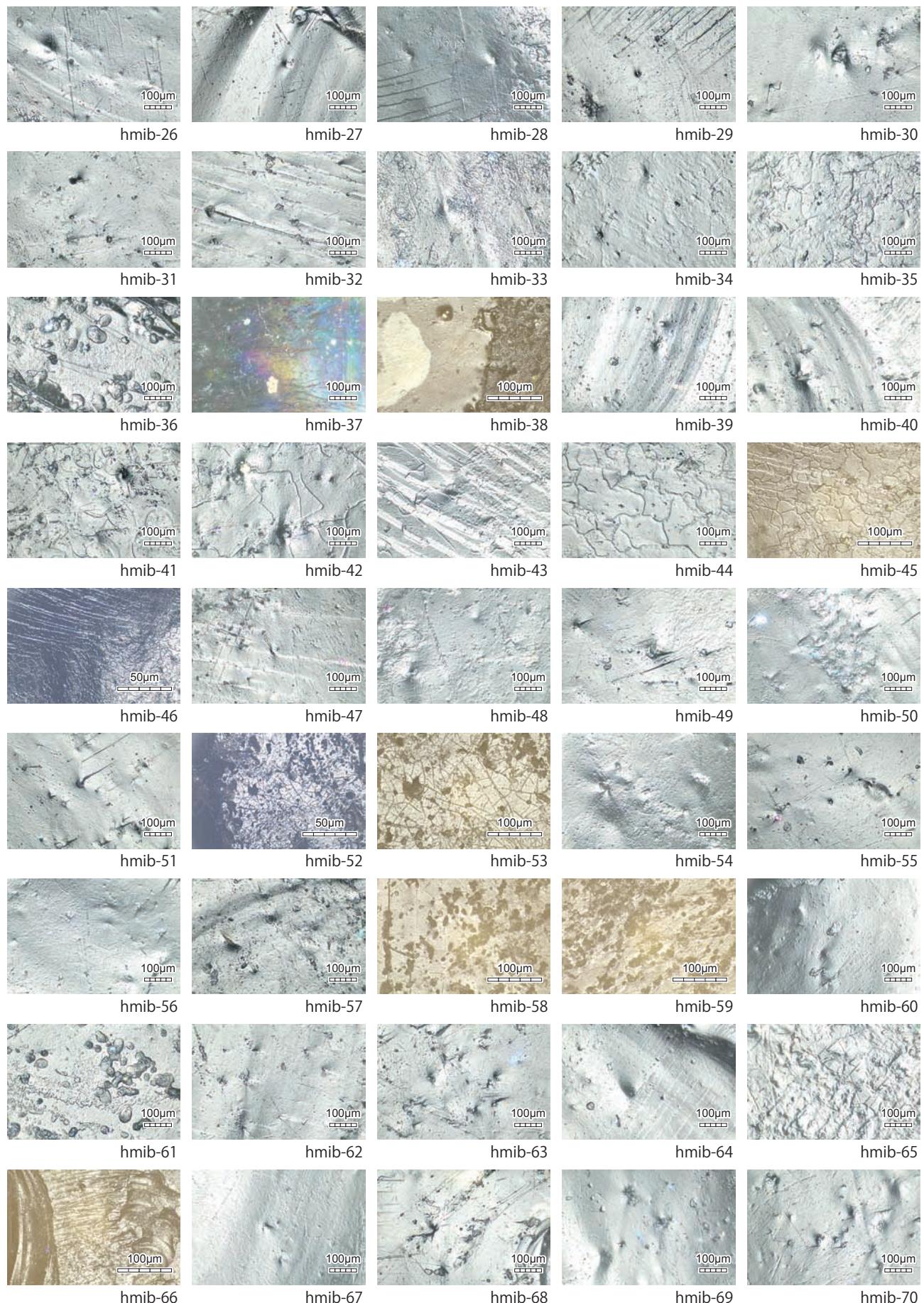
破魔射場遺跡出土の尖頭器（富士山かぐや姫ミュージアム所蔵、筆者撮影）

静岡県富士市破魔射場遺跡出土の黒曜岩製尖頭器
(村井 咲月)



破魔射場遺跡出土尖頭器の観察箇所（hmib-01 から hmib-25、色調未調整）

図版 2



写 真 図 版

PLATE

1. 中野沖田遺跡 第4地区1次調査



1. 2Tr 土層堆積（南から）



2. 5Tr 土層堆積（南から）

3. 東平遺跡第156地区1次調査



1. 1Tr 完掘（南東から）



2. 1Tr 土層堆積（南西から）

2. 滝下遺跡 Q地区1次調査



1. 1Tr 完掘（南東から）



2. 1Tr 土層堆積（南から）

4. 中原遺跡 第33地区1次調査



1. 2Tr 完掘（南西から）



2. 6Tr 土層堆積（南西から）

PL.2 第1章 令和5年度確認調査

5. 三新田遺跡 Q地区 1次調査



1. 1Tr 完掘（東から）

6. 舟久保遺跡 第77地区 1次調査



1. 1Tr 完掘（南西から）



2. 1Tr 土層堆積（北西から）



2. 1Tr 土層堆積（西から）

7. 天間沢遺跡 第72地区 1次調査



1. 1Tr 完掘（北西から）

8. 亀窪遺跡 第1地区 1次調査



1. 1Tr 完掘（南東から）



2. 1Tr 土層堆積（西から）



2. 1Tr 土層堆積（南から）

9. 善得寺廃寺跡 第9地区1次調査



1. 1Tr 完掘（南東から）



2. 1Tr 土層堆積（南から）

10. 川窪遺跡 第7地区2次調査・3次調査



1. 3Tr 完掘（北東から）



3. 4Tr 完掘（南東から）

12. 東平遺跡 第158地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北東から）



2. 1Tr 土層堆積（北から）



2. 3Tr 土層堆積（北東から）



4. 4Tr 土層堆積（南から）

PL.4 第1章 令和5年度確認調査

11. 児森遺跡 第4地区1次調査



1. 1Tr 完掘（南西から）



2. 1Tr SK1001 土層堆積（南から）



3. 2Tr SD1001・SX1001 検出、遺物出土状況（南西から）



13. 富士岡1古墳群 第20地区1次調査



1. 1Tr SZ1001 検出（北から）



2. 1Tr SZ1001 検出（北西から）



3. 1Tr 土層堆積（北西から）



4. 1Tr 土層堆積（北東から）

14. 比奈1古墳群 第12地区1次調査・2次調査



1. 3Tr 完掘（南東から）



2. 3Tr 土層堆積（南西から）



3. 4Tr 土層堆積（南西から）



4. 9Tr 完掘（西から）



5. 9Tr 土層堆積（南西から）



6. 12Tr 完掘（南東から）

15. 沖田遺跡 第170次調査地点1次調査



1. 1Tr 重機掘削の様子（北東から）



2. 1Tr 完掘（南東から）

PL.6 第1章 令和5年度確認調査

16. 川坂遺跡 第14地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北西から）



2. 1Tr 土層堆積（北から）

18. 国久保遺跡 第13地区1次調査



1. 1Tr 土層堆積（北から）



出土遺物

17. 東平遺跡 第121地区2次調査



1. 1Tr 重機掘削の様子（南東から）



2. 1Tr 土層堆積（西から）

19. 国久保遺跡 第14地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北西から）



2. 1Tr 土層堆積（北から）

20. 神谷古墳群 第13地区 1次調査・2次調査



1. 調査地遠景（南から）



2. 調査地全景（南直上から）

PL.8 第1章 令和5年度確認調査

20. 神谷古墳群 第13地区1次調査・2次調査



1. SZJ-12 検出（北東から）



2. 3・4Tr SZJ12 奥壁周辺検出（南西から）



3. 6Tr SZJ12 側壁裏込め検出（南東から）



5. 8Tr 千人塚古墳周溝土層堆積（南東から）



4. 8Tr 千人塚古墳周溝検出（南西から）



6. 10Tr 完掘（南から）

20. 神谷古墳群 第13地区1次調査・2次調査



出土遺物

21. 沢東A遺跡 第31次調査地点1次調査



1. 1Tr 完掘（南東から）



2. 2Tr 土層堆積（南から）

22. 厚原横道下遺跡 第7地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北西から）



2. 1Tr 土層堆積（東から）

PL.10 第1章 令和5年度確認調査

23. 柏原遺跡 第22地区1次調査



1. 1Tr 土層堆積（南から）

24. 天間沢遺跡 第73地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北東から）



2. 2Tr 土層堆積（南から）



2. 1Tr 土層堆積（南から）

25. 宇東川遺跡 第34地区1次調査



1. 1Tr 遺構検出（南東から）



2. 1Tr SB1001 土層堆積（南から）



3. 4Tr SK1001 土層堆積（北から）



1

出土遺物

26. 外原遺跡 第1地区1次調査



1. 1Tr 完掘（南東から）



2. 1Tr 土層堆積（東から）

28. 東平遺跡 第159地区1次調査



1. 1Tr 完掘（南西から）



2. 1Tr 土層堆積（北から）

27. 富士岡1古墳群 第21地区1次調査



1. トレンチ完掘全景（北東から）



2. 1Tr 土層堆積（南西から）

29. 舟久保遺跡 第78地区1次調査



1. 1Tr 完掘（南東から）



2. 1Tr 土層堆積（南から）

PL.12 第1章 令和5年度確認調査

30. 善得寺城跡・東泉院跡 第10地区 1次調査・2次調査



1. 1Tr 完掘（南西から）



2. 1Tr 土層堆積（南から）



3. 2Tr 完掘（北東から）



4. 2Tr 遺物出土状況（北西から）



2



2（底面）



3（内面）



3（外面）

出土遺物

31. 沖田遺跡 第171次調査地点1次調査



1. 1Tr 完掘（北西から）



2. 1Tr 土層堆積（西から）

32. 国久保遺跡 第6地区2次調査



1. 2Tr 完掘（南東から）

34. 花守遺跡 第10地区1次調査



1. 1Tr 土層堆積（西から）



2. 3Tr 土層堆積（南から）



2. 2Tr 土層堆積（南から）



1 (底面)

出土遺物

PL.14 第1章 令和5年度確認調査

33. 中野遺跡 第2地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北東から）



4. 2Tr FP1001・1002 検出（南から）



2. 2Tr 土層堆積（南から）



1

出土遺物

3. 2Tr 遺物（1）出土状況（北西から）

36. 桃宣ノ前遺跡 第8地区1次調査



1. 1Tr 完掘（南西から）



2. 1Tr 土層堆積（西から）

35. 東平遺跡 第160地区1次調査



1. 1Tr 遺構検出（南東から）



5. 3Tr 遺構検出（南東から）



2. 2Tr SB1001・Pit1011 検出（南東から）



3



3. 2Tr SB1001 検出（南東から）



5



4. 2Tr Pit1011 検出（南東から）



7

出土遺物

PL.16 第1章 令和5年度確認調査

37. 東平遺跡 第161地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北西から）



2. 1Tr 土層堆積（西から）

38. 東下天間古墳群 第1地区1次調査



1. 2Tr 土層堆積（北西から）



3. 11Tr 土層堆積（南東から）

39. 天間沢遺跡 第74地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北東から）



2. 1Tr 土層堆積（北から）



2. 9Tr 土層堆積（北西から）



4. 12Tr 土層堆積（南西から）

40. 天間沢遺跡 第75地区1次調査



1. 1Tr 完掘（南西から）



2. 2Tr 土層堆積（南から）

42. 富士岡1古墳群 第22地区1次調査



1. 1Tr 完掘（南西から）



2. 2Tr 土層堆積（東から）

41. 三新田遺跡 R地区1次調査



1. 1Tr 土層堆積（東から）



2. 2Tr 土層堆積（東から）

43. 厚原遺跡 第11地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北東から）



2. 1Tr 土層堆積（東から）

PL.18 第1章 令和5年度確認調査

44. 東平遺跡 第143地区2次調査



1. 2Tr 完掘（北東から）



2. 2Tr 土層堆積（南東から）

46. 東平遺跡 第162地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北西から）



2. 1Tr 土層堆積（北から）

45. 沢上遺跡 第7次調査地点1次調査



1. 1Tr 完掘（北西から）



2. 1Tr 土層堆積（西から）

47. 中桁・中ノ坪遺跡 第24地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北西から）



2. 1Tr 土層堆積（西から）

第1章 令和5年度確認調査 PL.19

48. 東平遺跡 第163地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北西から）



2. 2Tr 土層堆積（南から）

50. 中島遺跡 第17地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北東から）



2. 1Tr 土層堆積（東から）

49. 舟久保遺跡 第79地区1次調査



1. 1Tr 完掘（北西から）



2. 1Tr 土層堆積（北から）

51. 水神堂遺跡 第4地区1次調査



1. 1Tr 土層堆積（東から）



2. 3Tr 完掘（南西から）

PL.20 第2章 天間沢遺跡

天間沢遺跡 Q地区



1. 4次調査 上面遺構（南から）



2. 4次調査 下面遺構（南から）

天間沢遺跡 Q 地区



1. 1次調査 西側トレンチ



2. 1次調査 東側南北トレンチ



3. 1次調査 東側東西トレンチ



4. 3次調査 3～7Tr (西から)



5. 3次調査 1～3Tr (西から)



6. 3次調査 1Tr 遺構検出 (南から)



7. 3次調査 2Tr 遺構検出 (南から)

PL.22 第2章 天間沢遺跡

天間沢遺跡 Q 地区



1. 3次調査 2Tr 南北セクション西壁（東から）



2. 3次調査 2Tr 遺構全景（南から）



3. 3次調査 2Tr SK1（南東から）



4. 3次調査 2Tr SK1 セクション（南西から）



5. 3次調査 3Tr 遺構検出（西から）



6. 3次調査 4Tr 遺構検出（西から）



7. 3次調査 4Tr 集石（南から）



8. 3次調査 7Tr SU1 土器検出状況（東から）

天間沢遺跡 Q 地区



1. 3次調査 7Tr SK4 (東から)



2. 3次調査 7Tr SK5 (南西から)



3. 4次調査 上面遺構 (西部部分、北から)



4. 4次調査 上面遺構 (北東部分、南西から)



5. 4次調査 Pit63 遺物出土状況 (北西から)



6. 4次調査 Pit63 下層遺物出土状況 (北西から)



7. 4次調査 Pit66 (南西から)



8. 4次調査 集石 (南から)

PL.24 第2章 天間沢遺跡

天間沢遺跡 Q地区



1 (Pit63)



1 (穿孔)



1 (籠目痕)

出土遺物

天間沢遺跡 Q 地区



出土遺物

PL.26 第2章 天間沢遺跡

天間沢遺跡 Q地区



出土遺物

天間沢遺跡 Q 地区



75 (SK4)



76



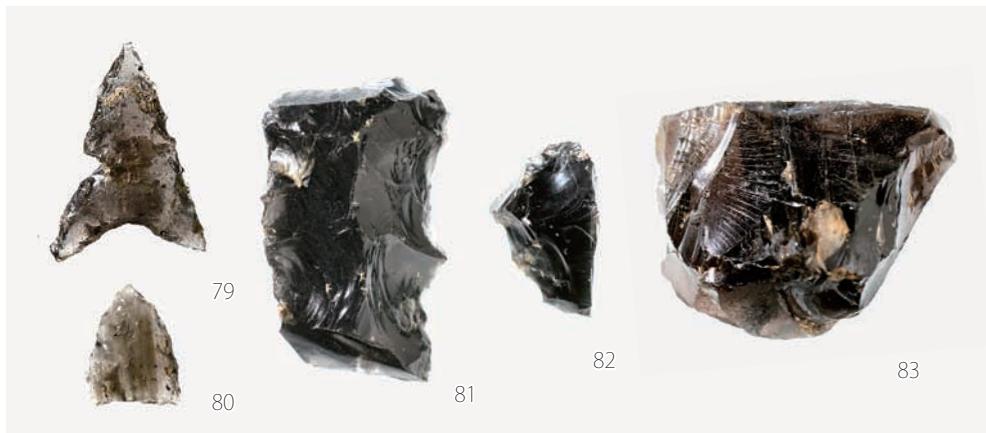
86



84



87



79

80

81

82

83



88

出土遺物

PL.28 第2章 天間沢遺跡

天間沢遺跡 R 地区



1. 1Tr 人力掘削の様子



2. 1Tr 全景（南から）



3. 1Tr 東西セクション北壁（南東から）

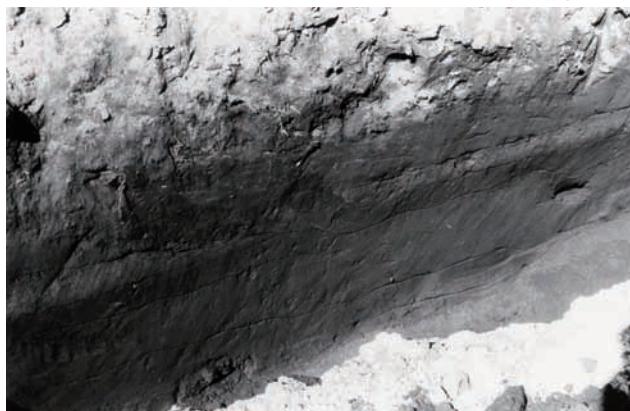
天間沢遺跡 V 地区



1. 調査地全景（南東から）



2. 1Tr 全景（南から）



3. 1Tr 南北セクション西壁（東から）

天間沢遺跡 S 地区



1. 1Tr 全景（西から）



2. 1Tr 東西セクション北壁（南から）

天間沢遺跡 S地区



出土遺物

PL.30 第2章 天間沢遺跡

天間沢遺跡 T 地区



1. 2Tr 全景（西から）



2. 2Tr 東西セクション北壁（南から）

天間沢遺跡 U 地区



1. 1Tr・2Tr 全景（西から）



2. 4Tr 全景（南東から）



3. 4Tr 南北セクション西壁（東から）



4. 6Tr 東西セクション北壁（南東から）



5. 8Tr 全景（西から）



6. 調査の様子（4Tr、南から）

天間沢遺跡 横道下地区



1. b 地区 全景（東から）



2. b 地区 SK3 遺物出土状況（南から）



3. b 地区 SK3 完掘（北から）



4. b 地区 SK4 遺物出土状況（南西から）



5. b 地区 SK4 完掘（北から）

PL.32 第2章 天間沢遺跡

天間沢遺跡 横道下地区



1. b地区 配石遺構（東から）



2. b地区 配石遺構（北から）



3. b地区 石斧出土状況



4. b地区 土器出土状況



5. c地区 全景（北から）



6. c地区 トレンチ西側土層堆積状況（北から）



7. d地区 全景（北から）

天間沢遺跡 横道下地区



出土遺物

PL.34 第2章 天間沢遺跡

天間沢遺跡 横道下地区



出土遺物

天間沢遺跡 横道下地区



64 (SK4)



65 (上部) (SK4)



65 (下部) (SK4)

出土遺物

PL.36 第2章 天間沢遺跡

天間沢遺跡 横道下地区



68 (SK4)



72 (SK4)



73 (SK4)

出土遺物

天間沢遺跡 横道下地区



出土遺物

PL.38 第2章 天間沢遺跡

天間沢遺跡 横道下地区



92



94



90



93



95



96

出土遺物

天間沢遺跡 横道下地区



出土遺物

PL.40 第2章 天間沢遺跡

天間沢遺跡 表面採集資料等



1 (表面)



1 (裏面)



2



7



8



3

4



5



6



9



10

報告書抄録

ふりがな	ふじしないいせきはつくつちょうさほうこくしょ
書名	富士市内遺跡発掘調査報告書
副書名	令和5年度
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第82集
編著者名	佐藤祐樹（編著）・若林美希（著）・笹原芳郎（著）・村井咲月（著）
編集機関	富士市教育委員会（担当課：文化財課）
所在地	〒417-0061 静岡県富士市伝法66番地の2 Tel 0545-30-7850
市町村コード	22210
発行年月日	令和7年3月28日

調査番号	所収番号	所収遺跡名		所在地			種別	遺構	
		地区名	北緯	東経		主な時代	遺物		
				調査面積	調査原因	調査期間			
R05-01	第1章 第2節 1	サツシヨウイセキ 中野沖田遺跡		北松原 1883-1 外			散布地・集落跡・生産遺跡	なし	
		第4地区 1次調査		35° 11' 12.88"	138° 35' 54.46"	古墳	土器 (古墳時代)		
		79.727 m ²	確認調査	20230405 ~ 20230406			227		
R05-02	第1章 第2節 2	タクシヨウイセキ 滝下遺跡		タクシヨウイセキ 伝法 1944-1			集落跡	なし	
		Q 地区 1次調査		35° 10' 29.77"	138° 40' 44.75"		なし		
		16.782 m ²	確認調査	20230404			44		
R05-03	第1章 第2節 3	ミツカイハイジアト 三日市廃寺跡		ミツカイハイジアト 浅間本町 3423-3 外			集落跡・社寺跡	なし	
		東平第156地区 1次調査		35° 10' 00.77"	138° 40' 42.71"		なし		
		3.345 m ²	確認調査	20230417			43		
R05-04	第1章 第2節 4	タカシヨウイセキ 中原遺跡		タカシヨウイセキ 伝法 444-1 外			散布地	なし	
		第33地区 1次調査		35° 10' 51.66"	138° 40' 15.47"		なし		
		243.868 m ²	確認調査	20230410 ~ 20230412			19		
R05-05	第1章 第2節 5	サンショウイセキ 三新田遺跡		サンショウイセキ 三新田 4-11			集落跡	なし	
		Q 地区 1次調査		35° 08' 21.94"	138° 43' 44.11"		なし		
		7.392 m ²	確認調査	20230406			96		
R05-07	第1章 第2節 6	ブナクボイセキ 舟久保遺跡		ブナクボイセキ 今泉六丁目 662-19			集落跡	なし	
		第77地区 1次調査		35° 10' 07.18"	138° 41' 32.84"		なし		
		2.128 m ²	確認調査	20230412			46		
R05-08	第1章 第2節 7	テンヤザシヨウセキ 天間沢遺跡		テンヤザシヨウセキ 天間 1327-14			集落跡	なし	
		第72地区 1次調査		35° 12' 12.31"	138° 38' 29.13"	平安	土器 (平安時代)		
		4.971 m ²	確認調査	20230419			7		
R05-09	第1章 第2節 8	タケツヨウイセキ 亀窪遺跡		タケツヨウイセキ 鶴無ヶ淵 43 外			散布地	なし	
		隣接地【第1地区 1次調査】		35° 11' 20.43"	138° 43' 21.72"		なし		
		23.396 m ²	試掘調査	20230414			29		
R05-10	第1章 第2節 9	サンショウイセキ 善得寺廃寺跡		サンショウイセキ 今泉三丁目 1067-1			社寺跡	なし	
		第9地区 1次調査		35° 10' 02.29"	138° 41' 49.03"		なし		
		3.636 m ²	確認調査	20230509			126		
R05-12	第1章 第2節 10	カワクリイセキ 川津遺跡		カワクリイセキ 厚原 185-1			集落跡・その他の墓	なし	
		第7地区 2次調査		35° 10' 50.09"	138° 39' 05.74"		なし		
		6.821 m ²	確認調査	20230426			127		
R05-13	第1章 第2節 11	タケツヨウイセキ 児森遺跡		タケツヨウイセキ 中里 1379-2			集落跡	溝・土坑・ピット	
		第4地区 1次調査		35° 09' 59.25"	138° 44' 04.38"	古墳	土器 (古墳時代)		
		22.930 m ²	確認調査	20230427			108		
R05-14	第1章 第2節 12	ヒガシヨウイセキ 東平遺跡		ヒガシヨウイセキ 伝法 2795-4 外			集落跡	なし	
		東平第158地区 1次調査		35° 10' 16.54"	138° 40' 15.91"		なし		
		7.048 m ²	確認調査	20230628			42		
R05-15	第1章 第2節 13	フジオカヨコヅクジ 富士岡1古墳群		フジオカヨコヅクジ 比奈 2819-1			古墳	古墳 (横穴式石室塙)	
		第20地区 1次調査		35° 10' 20.38"	138° 43' 32.50"		なし		
		6.165 m ²	確認調査	20230525 ~ 20230526			192	富士岡F- 第66号塙か	
R05-16	第1章 第2節 14	ヒコノタコヅクジ 比奈1古墳群		ヒコノタコヅクジ 比奈 2359-1 外			古墳	なし	
		第12地区 1次調査		35° 10' 27.05"	138° 43' 18.06"		なし		
		156.969 m ²	確認調査	20230605 ~ 20230607			178		
R05-17	第1章 第2節 15	ホキタイセキ 沖田遺跡		ホキタイセキ 今泉二丁目 124-5 外			その他の遺跡・その他の墓	なし	
		第170次調査地点 1次調査		35° 09' 57.02"	138° 41' 36.77"		なし		
		9.279 m ²	確認調査	20230608			53		

調査番号	所収番号	所収遺跡名		所在地		種別	遺構
		地区名		北緯	東経		
		調査面積	調査原因	調査期間		市遺跡番号	特記事項
R05-18	第1章 第2節 16	川坂遺跡 第14地区1次調査		天間 845-6 外 35° 12' 30.37" 138° 38' 09.39"		散布地	なし
		17.983 m ²	確認調査	20230621		5	
R05-19	第1章 第2節 17	ヒガシダイヤイセキ 東平遺跡 東平第121地区2次調査		伝法 2502-1 外 35° 10' 27.93" 138° 40' 18.66"		集落跡	なし
		9.233 m ²	確認調査	20230613		42	
R05-21	第1章 第2節 18	クニクボイセキ 国久保遺跡 第13地区1次調査		クニクボニタクウタ 国久保三丁目 2245-23 外 35° 10' 19.51" 138° 40' 49.04"		集落跡 奈良・平安	なし (奈良時代・平安時代)
		5.982 m ²	確認調査	20230614 ~ 20230615		45	
R05-22	第1章 第2節 19	クニクボイセキ 国久保遺跡 第14地区1次調査		クニクボニタクウタ 国久保二丁目 2003-6 外 35° 10' 23.82" 138° 40' 54.86"		集落跡	なし
		5.247 m ²	確認調査	20230724		45	
R05-23	第1章 第2節 20	カミヤコブンジン 神谷古墳群 第13地区1次調査		カミヤコブンジン 神谷 846-4 外 35° 10' 19.79" 138° 44' 38.15"		古墳 古墳 (横穴式石室墳)	古墳 (横穴式石室墳) 須恵器 (古墳時代)
		33.563 m ²	確認調査	20230628 ~ 20230719		200	千人塚古墳・須津I-第12号墳
R05-24	第1章 第2節 14	ヒ奈1古墳群 第12地区2次調査		ヒ奈 2359-1 外 35° 10' 27.05" 138° 43' 18.06"		古墳	なし
		58.430 m ²	確認調査	20230712 ~ 20230718		178	
R05-26	第1章 第2節 21	ワツビンサン 沢 A 遺跡 第31次調査地点1次調査		ワツビンサン 久沢 180-2 35° 11' 02.05" 138° 38' 55.45"		集落跡	なし
		14.555 m ²	確認調査	20230817		33	
R05-27	第1章 第2節 22	アツハラヨミミシテイ 厚原横道下遺跡 第7地区1次調査		アツハラヨミミシテイ 厚原 1200-4 外 35° 11' 17.18" 138° 39' 43.78"		散布地	なし
		4.721 m ²	確認調査	20230728		15	
R05-28	第1章 第2節 23	サンワツイセキ 柏原遺跡 第22地区1次調査		サンワツイセキ 中柏原新田 187-1 外 35° 08' 06.42" 138° 44' 49.64"		集落跡 古墳	なし 土器 (古墳時代)
		13.340 m ²	確認調査	20230817 ~ 20230818		97	
R05-29	第1章 第2節 24	サンワツイセキ 天間沢遺跡 第73地区1次調査		サンワツイセキ 天間 1022-1 35° 12' 36.28" 138° 38' 37.43"		集落跡	なし
		14.221 m ²	確認調査	20230828		7	
R05-30	第1章 第2節 25	クトクワツイセキ 宇東川遺跡 第34地区1次調査		クトクワツイセキ 原田 691-4 外 35° 10' 13.77" 138° 42' 08.86"		集落跡	堅穴建物、土坑
		50.484 m ²	確認調査	20230824 ~ 20230825		50	
R05-31	第1章 第2節 26	ワツビンサン 外原遺跡 第1地区1次調査		ワツビンサン 北松野 616-1 外 35° 11' 34.43" 138° 35' 13.85"		散布地	なし
		1.200 m ²	確認調査	20230824		220	
R05-32	第1章 第2節 27	フジタツイセキ 富士岡1古墳群 第21地区1次調査		フジタツイセキ 比奈 1704-1 35° 10' 17.26" 138° 43' 34.31"		古墳	なし
		23.903 m ²	確認調査	20230830 ~ 20230831		192	
R05-33	第1章 第2節 28	ヒガシダイヤイセキ 東平遺跡 東平第159地区1次調査		ヒガシダイヤイセキ 伝法 2505-1 35° 10' 26.60" 138° 40' 19.17"		集落跡	なし
		10.449 m ²	確認調査	20230904		42	
R05-34	第1章 第2節 29	ワツビンサン 舟久保遺跡 第78地区1次調査		ワツビンサン 今泉九丁目 1510-2 35° 10' 10.34" 138° 41' 05.89"		集落跡	なし
		9.456 m ²	確認調査	20230829		46	
R05-35	第1章 第2節 30	ゼントラジオアート 善得寺城跡・東泉院跡 第10地区1次調査		ゼントラジオアート 今泉八丁目 1370-6 外 35° 09' 54.67" 138° 41' 19.10"		集落跡・城館跡・社寺跡	なし
		4.438 m ²	確認調査	20230911		102	
R05-36	第1章 第2節 31	サキタツイセキ 沖田遺跡 第171次調査地点1次調査		サキタツイセキ 今泉 495-3 外 35° 09' 41.39" 138° 42' 07.59"		その他の遺跡・その他の墓	なし
		5.490 m ²	確認調査	20231113		53	
R05-37	第1章 第2節 32	ワツビンサン 国久保遺跡 第6地区2次調査		ワツビンサン 国久保一丁目 2120-6 外 35° 10' 12.22" 138° 41' 01.63"		集落跡	堅穴建物
		17.958 m ²	確認調査	20230914		45	
R05-38	第1章 第2節 33	ナカノイセキ 中野遺跡 隣接地【第2地区1次調査】		ナカノイセキ 南松野 2465-1 35° 11' 08.29" 138° 36' 08.17"		集落跡・その他の墓	炉
		56.347 m ²	試掘調査	20231101		228	
R05-39	第1章 第2節 34	ハナモギイセキ 花守遺跡 第10地区1次調査		ハナモギイセキ 富士岡 225-1 外 35° 09' 39.51" 138° 43' 34.05"		散布地	なし
		18.036 m ²	確認調査	20231010		66	
R05-40	第1章 第2節 35	ヒガシダイヤイセキ 東平遺跡 東平第160地区1次調査		ヒガシダイヤイセキ 伝法 2452-1 外 35° 10' 18.28" 138° 40' 26.63"		集落跡	堅穴建物・土坑・ピット
		84.650 m ²	確認調査	20231010 ~ 20231011		42	
R05-41	第1章 第2節 36	キヅノマヨイセキ 祢宜ノ遺跡 第8地区1次調査		キヅノマヨイセキ 比奈 1619 35° 09' 55.16" 138° 43' 34.61"		集落跡	なし
		3.203 m ²	確認調査	20231005		57	

調査番号	所収番号	所収遺跡名 地区名		所在地 北緯 東経		種別 主な時代	遺構 遺物
		調査面積	調査原因	調査期間		市遺跡番号	特記事項
R05-42	第1章 第2節 37	ヒガシモロコシヨセキ 東平遺跡		伝法 2542-3		集落跡	なし
		東平第161地区1次調査		35° 10' 21.67"	138° 40' 16.91"		なし
		15.046 m ²	確認調査	20231106		42	
R05-43	第1章 第2節 38	ヒガシモロコシヨセキ 東下天間古墳群 第1地区1次調査		天間 1408-4 外		古墳	なし
		74.149 m ²	確認調査	35° 12' 04.54"		138° 38' 37.77"	縄文 土器（縄文時代）
		20231107 ~ 20231108		136			
R05-44	第1章 第2節 30	ヒガシモロコシヨセキ 善得寺城跡・トヨタケシイシト 東景院跡 第10地区2次調査		今泉八丁目 1370-6 外		集落跡・城館跡・社寺跡	なし
		7.525 m ²	確認調査	35° 09' 54.67"	138° 41' 19.10"	平安～中世	土器（平安時代～中世）
		20231023 ~ 20231025		102			
R05-46	第1章 第2節 39	カツマチヨセキ 天間沢遺跡		天間 1942-5		集落跡	なし
		第74地区1次調査		35° 12' 54.47"	138° 38' 48.26"		なし
		5.893 m ²	確認調査	20231102		7	
R05-47	第1章 第2節 10	カツマチヨセキ 川窪遺跡		厚原 185-1		集落跡・その他の墓	溝・ピット
		第7地区3次調査		35° 10' 50.09"	138° 39' 05.74"	古墳	土師器（古墳時代）
		10.567 m ²	確認調査	20231121		127	
R05-48	第1章 第2節 40	テンマザリヨセキ 天間沢遺跡		天間 1296-6		集落跡	なし
		第75地区1次調査		35° 12' 15.15"	138° 38' 36.33"		なし
		28.269 m ²	確認調査	20231129 ~ 20231130		7	
R05-49	第1章 第2節 41	サンシンヅヨセキ 三新田遺跡		田中新田 275-15 外		集落跡	なし
		R地区1次調査		35° 08' 16.43"	138° 43' 38.56"		なし
		17.691 m ²	確認調査	20231120		96	
R05-50	第1章 第2節 20	カツマチヨセキ 神谷古墳群		神谷 846-4 外		古墳	なし
		第13地区2次調査		35° 10' 19.79"	138° 44' 38.15"	古墳	須恵器（古墳時代）
		5.512 m ²	確認調査	20231121 ~ 20231122		200	
R05-51	第1章 第2節 42	フジオカヨセキ 富士岡1古墳群		富士岡 1610-1		古墳	なし
		第22地区1次調査		35° 10' 20.84"	138° 43' 42.23"		なし
		10.337 m ²	確認調査	20231225		192	
R05-52	第1章 第2節 43	アツハラヨセキ 厚原遺跡		厚原 741-1、-7		散布地	なし
		第11地区1次調査		35° 11' 15.06"	138° 39' 24.76"		なし
		16.134 m ²	確認調査	20240111		12	
R05-53	第1章 第2節 44	ヒガシモロコシヨセキ 東平遺跡		伝法 3091-1		集落跡	なし
		東平第143地区2次調査		35° 10' 04.50"	138° 40' 18.18"		なし
		10.644 m ²	確認調査	20240111		42	
R05-54	第1章 第2節 45	サガミヨセキ 沢上遺跡		中之郷 4056-13		散布地・その他の墓	なし
		第7次調査地点1次調査		35° 08' 50.46"	138° 36' 57.66"		なし
		4.203 m ²	確認調査	20240214		249	
R05-55	第1章 第2節 46	ヒガシモロコシヨセキ 東平遺跡		伝法 2502-5 外		集落跡	ピット
		東平第162地区1次調査		35° 10' 27.83"	138° 40' 19.29"	奈良・平安	土器（奈良時代・平安時代）
		4.935 m ²	確認調査	20240118		42	
R05-56	第1章 第2節 47	ナカヅヨセキ 中折・中ノ坪遺跡		厚原 429-9		集落跡	なし
		第24地区1次調査		35° 10' 33.67"	138° 39' 36.42"	奈良・平安	土器（奈良時代・平安時代）
		5.469 m ²	確認調査	20240313		128	
R05-57	第1章 第2節 48	ヒガシモロコシヨセキ 東平遺跡		伝法 2736-1 外		集落跡	ピット・溝
		東平第163地区1次調査		35° 10' 17.53"	138° 40' 05.12"	奈良・平安	土器（奈良時代・平安時代）
		18.023 m ²	確認調査	20240304 ~ 20240306		42	
R05-58	第1章 第2節 49	サガミヨセキ 舟久保遺跡		伝法 2502-5 外		集落跡	なし
		第79地区1次調査		35° 10' 09.27"	138° 41' 22.41"		なし
		6.255 m ²	確認調査	20240227		46	
R05-59	第1章 第2節 50	ナカヅヨセキ 中島遺跡		原田 774-4		集落跡	なし
		第17地区1次調査		35° 10' 21.30"	138° 42' 12.55"		なし
		4.365 m ²	確認調査	20240313 ~ 20240315		49	
R05-60	第1章 第2節 51	スイシヨセキ 水神堂遺跡		原田 810		散布地	なし
		第4地区1次調査		35° 10' 28.65"	138° 42' 02.37"	奈良・平安	土器（奈良時代・平安時代）
		16.250 m ²	確認調査	20240313		105	
S58	第2章 第2節	ヒガシモロコシヨセキ 天間沢遺跡		天間 1106-1		集落跡	なし
		Q地区（第17地区）1次調査		35° 12' 21.33"	138° 38' 30.72"		なし
		125 m ²	確認調査	19830418 ~ 19830419		7	
H03	第2章 第2節	ヒガシモロコシヨセキ 天間沢遺跡		天間 1115-1 外		集落跡	なし
		Q地区（第17地区）2次調査		35° 12' 20.09"	138° 38' 31.16"		なし
		m ²	工事立会い	19911219		7	
H14	第2章 第2節	ヒガシモロコシヨセキ 天間沢遺跡		天間 1117-1 外		集落跡	埋甕土坑・ピット・土坑
		Q地区（第17地区）3次調査		35° 12' 20.90"	138° 38' 32.07"	縄文	縄文土器・石器
		365 m ²	確認調査	20020508 ~ 20020520		7	
H14	第2章 第2節	ヒガシモロコシヨセキ 天間沢遺跡		天間 1117-1 外		集落跡	ピット
		Q地区（第17地区）4次調査		35° 12' 21.49"	138° 38' 32.54"	縄文	縄文土器・石器
		683 m ²	記録保存調査	2020527 ~ 202020701		7	

調査番号	所収番号	所収遺跡名		所在地		種別	遺構
		地区名		北緯	東経		
		調査面積	調査原因	調査期間		市遺跡番号	特記事項
H03	第2章 第3節	天間沢遺跡 R地区(第18地区)1次調査		天間 1943-1 35° 12' 52.04" 138° 38' 47.19"		集落跡	なし
		22 m ²	確認調査	19920316 ~ 19920319		7	
		天間沢遺跡 S地区(第19地区)1次調査		天間 1001-4 35° 12' 31.93" 138° 38' 41.50"		集落跡	なし
H04	第2章 第4節	天間沢遺跡 T地区(第20地区)1次調査		天間 1127-1 外 35° 12' 22.20" 138° 38' 37.13"		集落跡	なし
		65 m ²	確認調査	19911013 ~ 19921026		7	
		天間沢遺跡 U地区(第21地区)1次調査		天間 591-1 35° 12' 24.35" 138° 38' 25.11"		集落跡	なし
H04	第2章 第6節	天間沢遺跡 V地区(第22地区)1次調査		天間 1785-21 35° 12' 46.61" 138° 38' 53.86"		集落跡	なし
		40 m ²	確認調査	19930225		7	
		天間沢遺跡 横道下地区(第23地区)2次調査		天間 1001-4 35° 12' 36.60" 138° 38' 41.74"		集落跡 縄文	配石遺構・炉穴・土坑 縄文土器・石器
S62	第2章 第7節	400 m ²	確認調査	19870907 ~ 19870921		7	

富士市埋蔵文化財調査報告 第82集

富士市内遺跡発掘調査報告書
－令和5年度－

発行年月日 令和7年3月28日

編集・発行 富士市教育委員会

〒417-0061 静岡県富士市伝法66番地の2

TEL 0545-30-7850 FAX 0545-30-6210

E-mail:ky-bunkazai@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本 株式会社文光堂

〒417-0041 静岡県富士市御幸町3-18

(富士市行政資料登録番号 R6-53)